

平成 25 年度
原子力災害時における医療対応に関する研修
成果報告書

平成 26 年 3 月

公益財団法人 原子力安全研究協会

本報告書は、原子力規制庁委託事業による委託業務として、公益財団法人原子力安全研究協会が実施した平成 25 年度「原子力災害時における医療対応に関する研修」の成果をとりまとめたものです。

目 次

第1章	はじめに	1
第2章	研修の実施	2
2.1	総合研修 放射線基礎知識	3
2.2	総合研修 被ばく医療関係者の連携	14
2.3	専門研修 スクリーニング・除染	25
2.4	専門研修 搬送	35
2.5	専門研修 原子力災害時医療	46
2.6	専門研修 救護所設置・運営	56
第3章	研修効果の充実を図るための活動	66
3.1	専門家会合	66
3.2	講師連絡会	68
3.3	調査・検討	70
	①e-ラーニング	70
	②ホールボディカウンタ	76
3.4	アンケート調査等の実施	85
第4章	おわりに	87
4.1	今後の課題及び取りまとめ	87
4.2	調査・検討のまとめ	89
4.3	おわりに	90
参考資料		
	参考資料 1:平成 25 年度「総合研修（放射線基礎知識）」アンケート等結果	95
	参考資料 2:平成 25 年度「総合研修（被ばく医療関係者の連携）」アンケート等結果	151
	参考資料 3:平成 25 年度「専門研修（スクリーニング・除染）」アンケート等結果	183
	参考資料 4:平成 25 年度「専門研修（搬送）」アンケート等結果	207
	参考資料 5:平成 25 年度「専門研修（原子力災害時医療）」アンケート等結果	229
	参考資料 6:平成 25 年度「専門研修（救護所設置・運営）」アンケート等結果	251
	参考資料 7:放射線基礎知識に関する既存 e-ラーニングの概要	271
	参考資料 8:学習プロセスを具体化するための e-ラーニング概念設計	275

第 1 章 はじめに

地域の原子力災害時における医療活動の実効性を確保することを目的として、公益財団法人原子力安全研究協会では、平成 25 年度「原子力災害時における医療対応に関する研修」を原子力規制庁より受託し、地方公共団体職員、医療関係者（医師、看護師、診療放射線技師など）、搬送関係者（消防、海上保安庁、自衛隊、警察など）に対して、「原子力災害対策指針」（平成 25 年 9 月 5 日全部改訂）及びその改訂等の状況を踏まえ、緊急被ばく医療の実践に必要となる基本的な放射線医学に関する知識と技術について、初心者を対象とした「総合研修 1.放射線基礎知識（以下「放射線基礎知識」という。）を 24 回、実務に携わる者を対象とした「総合研修 2.被ばく医療関係者の連携（以下「被ばく医療関係者の連携」という。）を 16 回、専門的な知識の習熟を図るための「専門研修 3.スクリーニング・除染」（以下「スクリーニング・除染」という。）を 8 回及び「専門研修 4.搬送」（以下「搬送」という。）を 8 回、「専門研修 5.原子力災害時医療」（以下「原子力災害時医療」という。）を 8 回及び「専門研修 6.救護所設置・運営」（以下「救護所設置・運営」という。）を 8 回実施した。

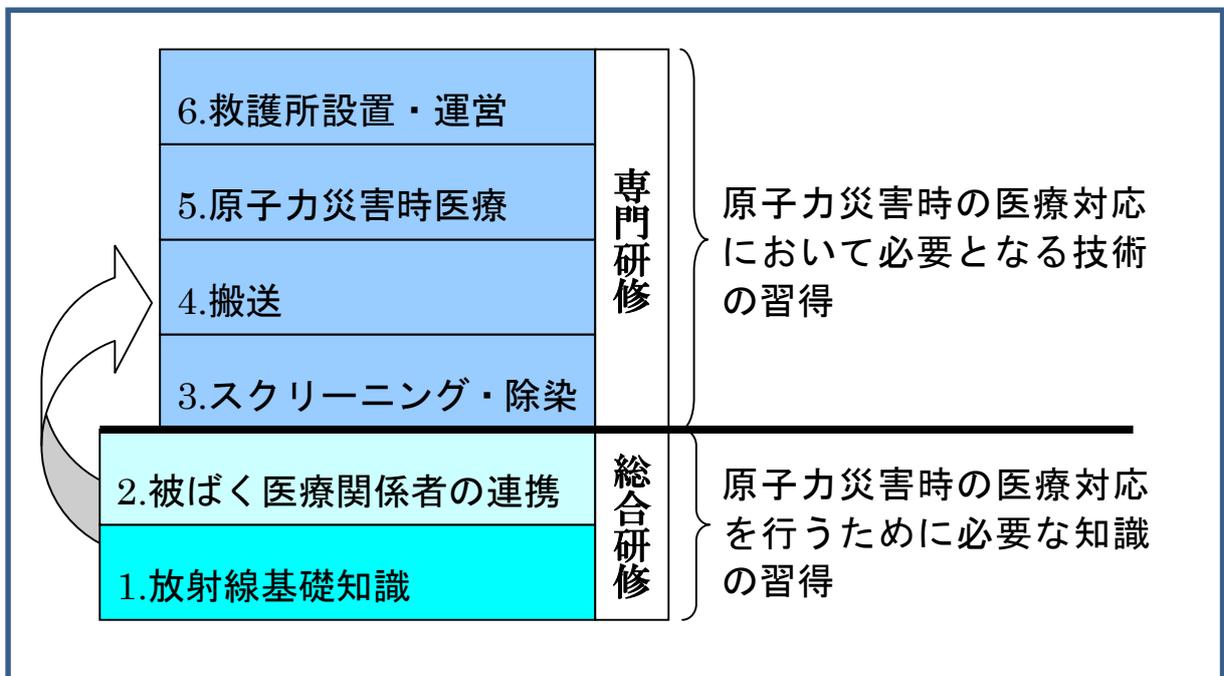
研修の開催にあたっては、関係道府県に実施時期、実施施設についての聞き取りを行うとともに、事前打合せを適宜実施し、地域の要望や地域特有の情報を可能な限り研修へ反映させた。また、原子力災害時に広域の医療機関が連携して対応できることを踏まえ、開催にあたり、開催地域のみならず近隣地域への案内を行った。さらに、次の段階への動機付けとして、全ての研修において、修了した者には修了証を交付した。

緊急被ばく医療は発生頻度の低い事象ではあるが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災に起因する東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故への対応では、その重要性がこれまで以上に強く認識された。原子力災害時において、適切な医療行為が迅速かつ的確に行われるためには、各医療機関等が各々の役割を担うこと、実践にあたり必要となる基本的な放射線医学に関する知識や技術を平時より身に付けておくことが重要である。本研修では、原子力災害時医療対応関係者が限られた時間で知識・技術を効率的に習得できるよう、各研修のテキスト及びカリキュラムの評価・見直し、教授方法の平準化、ホールボディカウンタ等の調査により研修効果の充実を図った。

第2章 研修の実施

地域の緊急被ばく医療関係者を対象に、総合研修として、「放射線基礎知識」を24回、「被ばく医療関係者の連携」を16回、専門研修として、「スクリーニング・除染」、「搬送」、「原子力災害時医療」、「救護所設置・運営」を各8回、合計72回開催し、延べ2,258名の参加を得た。

今年度の研修は、原子力災害時における医療活動の実効性を確保するため、それぞれの研修で獲得すべき目標を明確にした。具体的には、下図に示すとおり、総合研修では、原子力災害時の医療対応に関する知識の獲得と地域の問題点の抽出を目標とした。専門研修では、技術の習得として、実習を通じた活動能力の獲得を目標とした。



研修の体系

2.1 総合研修 放射線基礎知識

本研修は、原子力規制庁との協議の上、各地域の実情に合わせ開催日、開催場所を決定し、次の24道府県において実施した。

開催地域：北海道、青森県、宮城県、福島県、茨城県、新潟県、神奈川県、静岡県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、滋賀県、京都府、大阪府、岡山県、鳥取県、島根県、山口県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県及び鹿児島県

(1)開催実績

	開催日	地域	開催場所	参加人数 (人)
1	平成25年11月16日(土)	福岡県	九州大学	61
2	平成25年11月17日(日)	佐賀県	佐賀市民会館	34
3	平成25年11月20日(水)	京都府	京都府立中丹勤労者福祉会館	41
4	平成25年11月20日(水)	鹿児島県	宝山ホール	34
5	平成25年11月23日(土)	新潟県	長岡市医師会館	58
6	平成25年11月23日(土)	大阪府	大阪医療センター	43
7	平成25年11月30日(土)	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院	68
8	平成25年11月30日(土)	山口県	山口県セミナーパーク	45
9	平成25年12月1日(日)	岡山県	岡山医療センター	58
10	平成25年12月3日(火)	愛媛県	八幡浜市役所	59
11	平成25年12月5日(木)	茨城県	茨城県立市町村会館	59
12	平成25年12月7日(土)	青森県	青森県労働福祉会館	71
13	平成25年12月8日(日)	宮城県	東北大学医学部長陵会館	57
14	平成25年12月8日(日)	富山県	富山県教育文化会館	26
15	平成25年12月9日(月)	石川県	金沢勤労者プラザ	48
16	平成25年12月14日(土)	北海道	北農健保会館	77
17	平成25年12月14日(土)	福島県	南東北総合卸センター	47
18	平成25年12月14日(土)	長崎県	佐世保市民会館	58
19	平成25年12月16日(月)	島根県	松江テルサ	39
20	平成25年12月21日(土)	岐阜県	岐阜大学医学部記念会館	80

21	平成 25 年 12 月 21 日 (土)	鳥取県	鳥取県立倉吉未来中心	30
22	平成 26 年 1 月 18 日 (土)	滋賀県	大津赤十字病院	32
23	平成 26 年 1 月 25 日 (土)	福井県	杉田玄白記念公立小浜病院	23
24	平成 26 年 2 月 11 日 (火)	静岡県	藤枝市立総合病院	66
合計				1,214
1 回あたりの平均参加人数				50.6
定員 (60 名) 充足率				84%

(2)カリキュラム

放射線基礎知識 カリキュラム	
9:30～ 9:50	開会／オリエンテーション
9:50～10:10	イントロダクション
10:10～11:00	講義 1 「放射線の基礎知識」
11:10～12:00	講義 2 「人体への影響と放射線防護」
13:00～13:50	講義 3 「原子力災害時の医療対応」
14:00～15:30	実習 「医療活動に必要な放射線測定」
15:30～16:00	まとめ (質疑応答) ／閉会

(3)実施内容

本研修の講義、実習については、原子力災害対策指針の内容を踏まえ、被ばく医療の実践に必要な知識及び技術という観点から、放射線・放射線影響に関する基本的な知識を習得すること、原子力災害時の防護対策を理解すること及び緊急被ばく医療に必要な放射線測定機器の取扱方法を理解することを目的とした。具体的な実施内容については、以下通り。

なお、講義に入る前にイントロダクションとして、本研修の目標、原子力災害の特殊性、放射線防護の基本的な考え方、放射性物質または放射線の放出形態、原子力災害時の被ばくの経路及び求められる医療対応等の概略の説明を行った。

講義 1：放射線の基礎知識

放射線の基礎知識について、被ばく医療の実践に必要となる放射線、放射性物質、放射能の違い、放射線の種類、「被ばく」と「汚染」の違い、性質及び単位等について、スライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・放射線、放射性物質、放射能
- ・放射線の種類
- ・「被ばく」と「汚染」
- ・放射線や放射能の単位
- ・預託線量
- ・自然放射線

講義 2：人体への影響と放射線防護

被ばく医療の実践に必要となる基本的な放射線医学に関する知識のうち、放射線の人体への影響、急性放射線症候群、被ばく線量限度等について、スライドとテキストを用いて講義を行った。

また、被ばくや汚染への対応に際し、多くの医療関係者が抱えている「自分自身が被ばくするのではないか」（被ばく防護）あるいは「医療対応を行った自分が家族と接触しても家族は大丈夫なのか」（汚染拡大防止）等の不安を解消するため、放射線防護や汚染拡大防止について、身近な例え（被ばく防護→たき火、汚染拡大防止→ペンキ塗りたて）を用いて説明を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・放射線の人体への影響
- ・確定的影響と確率的影響
- ・急性放射線症候群
- ・放射線防護
- ・汚染防止
- ・被ばく・汚染者が対応者に及ぼすリスク
- ・汚染患者からの二次被ばく線量
- ・二次被ばくに関する目安レベル

講義 3：原子力災害時の医療対応

原子力災害時の医療対応の基本となる原子力災害対策指針に基づく、原子力災害対策重点区域、EAL 及び OIL 等の基本的な用語や考え方、安定ヨウ素剤の予防服用を含む原子力災害時の防護措置、被ばく医療活動、スクリーニング等の他、災害現場対応者のストレス発生要因、放射線事故時の健康不安、リスクコミュニケーション等について、スライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・原子力災害対策の基本的考え方
- ・原子力災害対策重点区域
- ・緊急時活動レベル
- ・緊急事態における防護対策実施のフロー
- ・被ばく医療体制の整備
- ・安定ヨウ素剤予防服用（体制、方法及び注意点）
- ・緊急被ばく医療活動
- ・スクリーニング（体表面、甲状腺及び物品）
- ・個人線量評価、健康評価
- ・災害被災者、現場対応者のストレス発生要因
- ・放射線事故と健康不安
- ・リスクコミュニケーション

実習：医療活動に必要な放射線測定

原子力災害時の医療活動に必要な放射線測定の技術について、測定目的に応じた測定器の種類、空間線量率、表面汚染、個人線量の測定等について、スライドとテキストを用いて講義を行った後、実際に、個人線量計、GM 管式サーベイメータを用いて、測定器の取り扱い、測定器を用いた放射線の性質の確認等について、実習を行った。

放射線測定実習の流れは、以下の通り。

- ①個人線量計の取り扱い
- ②サーベイメータの取り扱い
 - ・使用前点検
 - ・自然放射線の測定

- ・マントルの測定

③放射線の性質

- ・垂直方向の距離による変動
- ・遮蔽物による変動

④放射線測定器の特性

- ・検出器と測定物の位置関係
- ・検出器の移動速度による変動



講義



講義



放射線測定実習（サーベイメータの取り扱い）



放射線測定実習（サーベイメータの取り扱い）



放射線測定実習（放射線の性質）



放射線測定実習（放射線の性質）



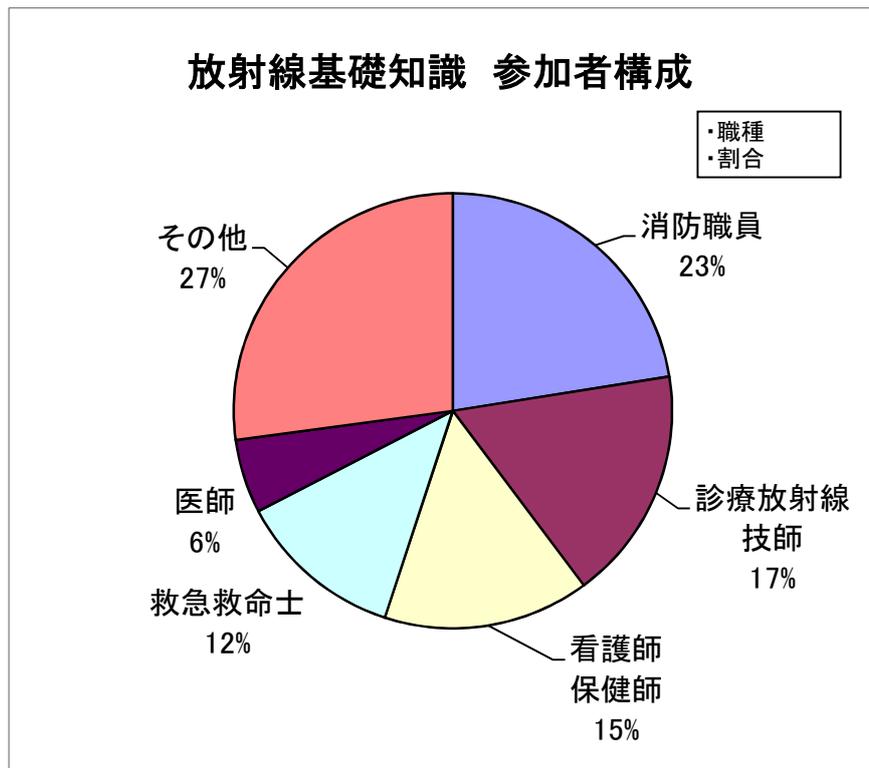
放射線測定実習（測定器の特性）



放射線測定実習（測定器の特性）

(4) 実施結果

開催道府県の担当部署と調整のうえ、被ばく医療機関、救急医療機関・災害拠点病院、搬送機関、行政機関、医師会、薬剤師会等に直接案内をするとともに、HP 等を通じた開催案内の通知を行った結果、放射線基礎知識（全 24 回）の開催を通じ、約 1,200 人の参加があった。参加者の構成比率は、次の通り。



これらの参加者については、受講前と受講後に同じ設問による理解度確認テストを実施するとともに、受講後、満足度等に関するアンケートを実施した。

理解度確認テストの実施結果については、全設問（10 問）の平均値において、受講前の正答率が 65.4%であるのに対し、受講後の正答率が 71.5%であることから、本研

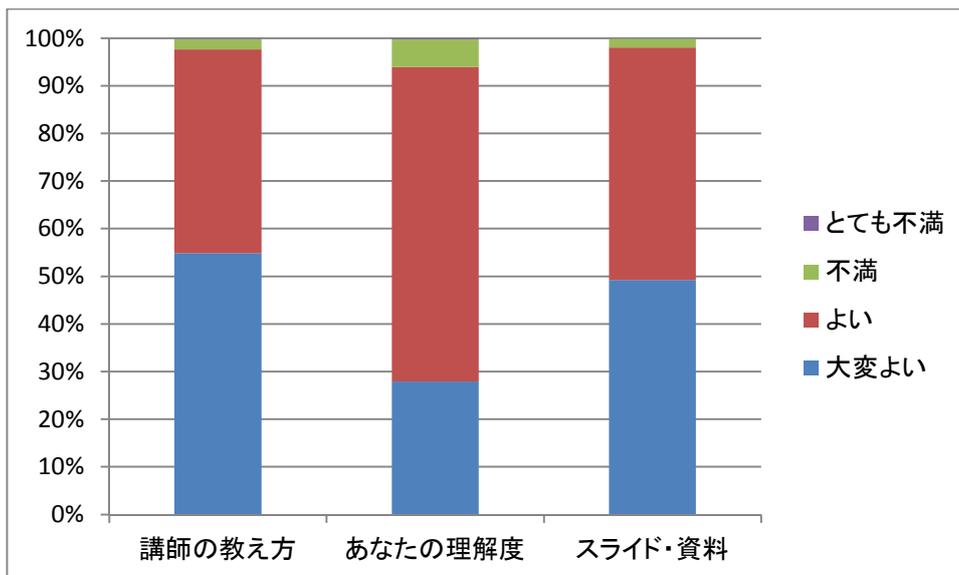
修の受講により、一定の知識の取得が出来たと考えられる。なお、設問のうち、2問について、正答率の低下がみられる。設問の適切性、講義内容等について、次年度以降の検討課題と考えられる。設問ごとの正答率については、次に示す通り。

放射線基礎知識 理解度確認テスト

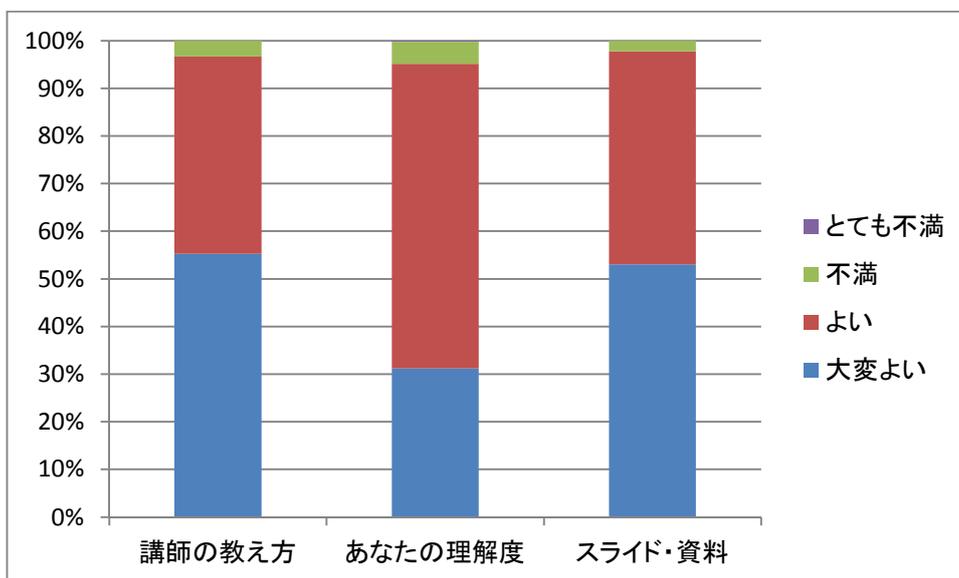
設 問		受講前 正答率 (%)	受講後 正答率 (%)	解答
①	原子力災害対策は、放射性物質の存在のために一般的な防災対策とは全く異なったものとなる。	24	58	×
②	GMサーベイメータがあれば全ての放射線を感度良く測定できる。	95	96	×
③	汚染とは、放射性物質が体や衣服に付着した状態（体表面汚染）、創傷部に付着した状態（創傷汚染）及び体内に入った状態（体内汚染）をいう。	84	93	○
④	体内汚染した場合の放射線の人体への影響は、預託線量（Sv）であらわす。	72	85	○
⑤	自然放射線の値は、どこでも同じである。	99	100	×
⑥	急性放射線症候群は、一度に 1000mGy(1Gy)以上の放射線を全身に浴びた場合に発症する可能性のある多臓器障害である。	70	78	○
⑦	一般公衆の被ばく線量限度（自然放射線と医療被ばくを除いて、1年間で1mSv）は、これを超えると確定的影響が発生する値として設定されたものである。	70	69	×
⑧	地方公共団体は、全面緊急事態において、PAZ 内のすべての住民等の避難等の防護措置を実施しなくてはならない。	19	13	×
⑨	避難住民等に対して行う体表面汚染スクリーニングでは、OIL4 以下でも可能ならば除染を行うことが望まれ、採るべき放射線防護指導を行う。	83	92	○
⑩	放射線災害のリスクコミュニケーションにおいては、放射線を交通事故や喫煙のリスクのようななじみのあるものと比較することは有効である。	38	67	×
平 均		65.4	71.5	

受講後に行ったアンケート調査については、次に示す通り（開催毎の結果については、参考資料1を参照）。

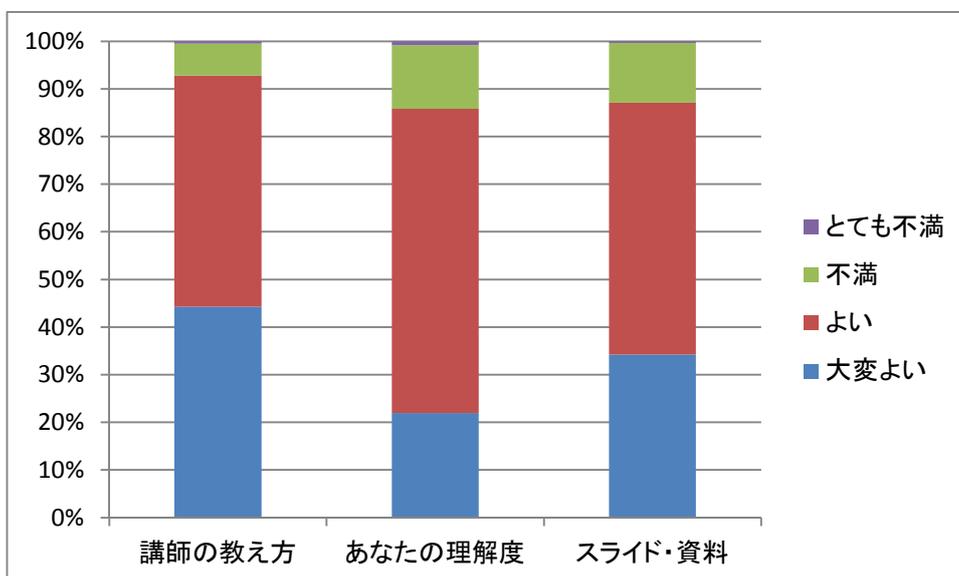
講義 1：放射線の基礎知識



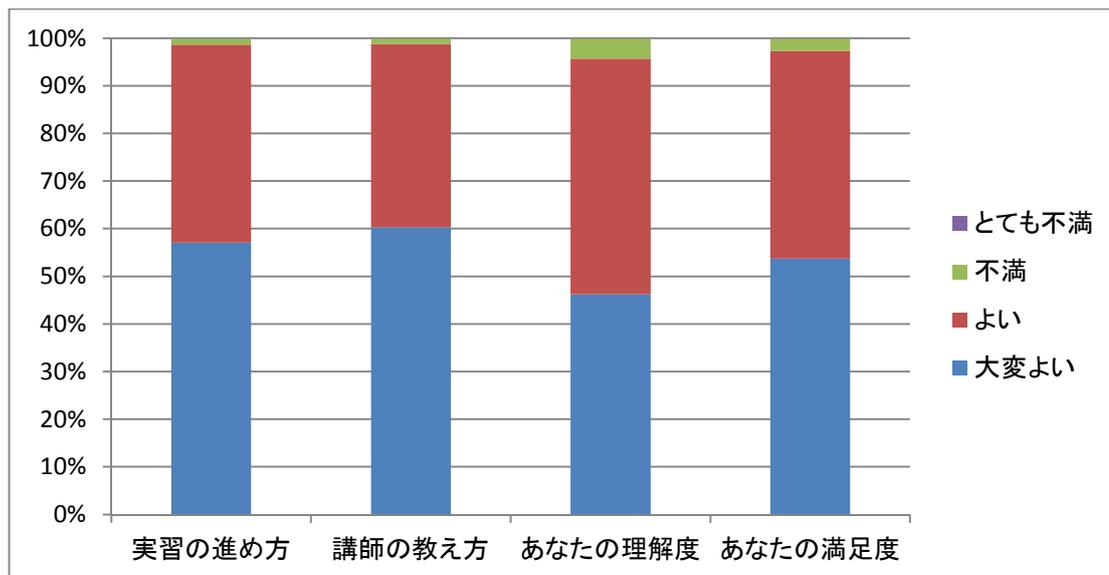
講義 2：人体への影響と放射線防護



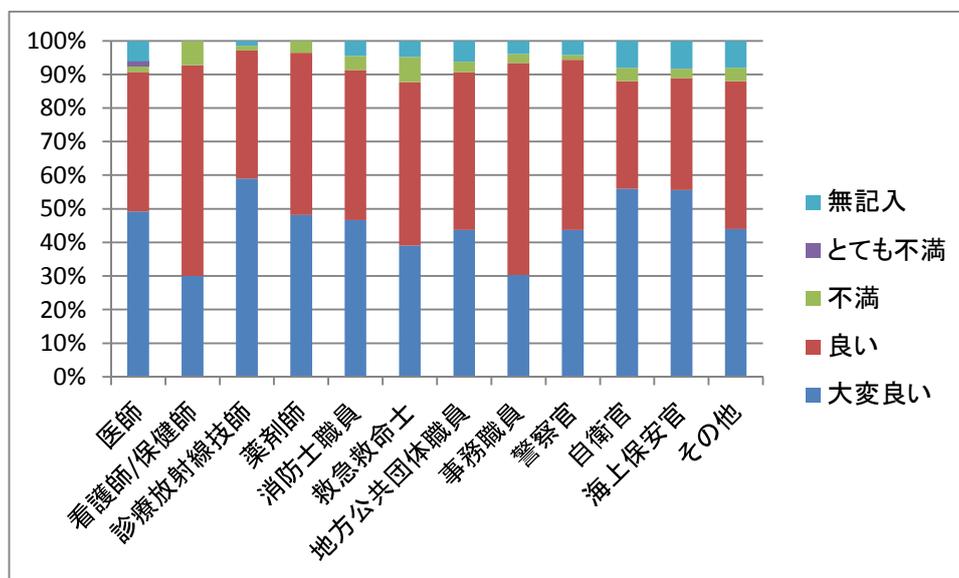
講義 3：原子力災害時の医療対応



実習：医療活動に必要な放射線測定

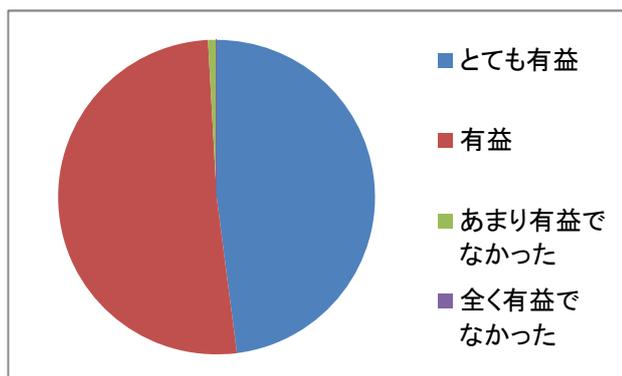


実習については、測定器の取扱等を伴うため、日常的に取扱う可能性のある職種とそうでない職種とで実習の進捗に差がみられた。そのため、上記アンケート結果のうち、「あなたの理解度」について職種別に分析をしたところ、以下の通り、看護師と保健師、救急救命士については、「不満」の割合が他の職種に比べ多いという結果となっている。また、看護師と保健師、事務職員については、「大変良い」の割合が他の職種に比べ少ないという結果となっている。

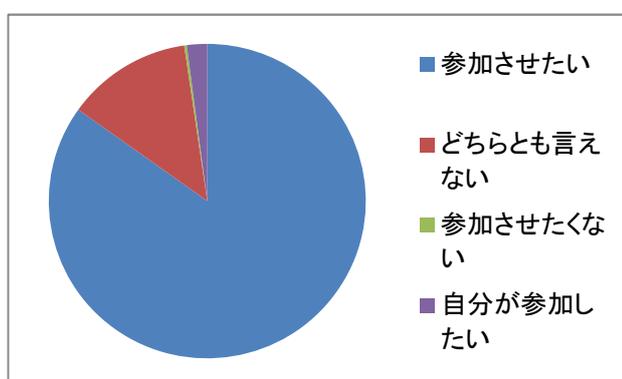


本研修全体について

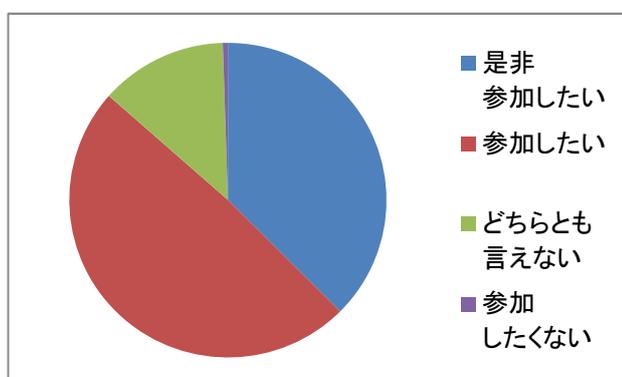
①参加して有益であったと思いますか。



②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。



③研修（専門研修）にも参加したいと思いますか。



【主な意見・要望等】

- ・言葉の意味をもっと詳しく説明、または資料として配布してもらいたい。必要であれば事前学習をカリキュラムに含めても良いと思う。(30代、救急救命士)
- ・放射線はどのくらいあたると、どの程度人体に影響するのかが少し理解できた。(30代、警察官)
- ・理解度確認テストを講義前に行ったことで分からない点に分かり、その後の講義に役立ちました。(30代、消防士)

- ・放射線に関する基礎知識が上がりました。非常にためになりました。(30代、警察官)
- ・初めて放射線・原子力災害関連の研修に参加しました。一度や二度の研修では理解が難しく、実践に生かせないと感じました。今後、基礎レベルの研修を再度受講する機会を持ちたいと思います。(30代、看護師)
- ・講師の方が全て分かりやすく丁寧に説明していただけたのが良かった。講義3は文字が少し多すぎるかもしれない。もう少し図を多く使ってもらえたらよりわかりやすかったように思う。(40代、その他)
- ・原子力施設を持っていない地方自治団体においても、このような研修を行って頂きたい。医学として被ばく医療やリスクコミュニケーションについても必修化した方が良い。(50代、医師)
- ・内容的に非常に充実していたので研修時間をもう少し長くしてもらえれば良いと思います。また、受講許容数の拡大を望みます。(30代、自衛官)
- ・原子力の基礎について理解を深めることができました。こうした機会には積極的に参加させていただきたいと思います。(20代、警察官)
- ・まだ病院の準備が整っていないので、事故が起きた時の病院の対応を考えたい。参考になる資料があればありがたいです。(30代、医師)
- ・今後、NBC 研修を受講したいと考えていたので大変勉強になりました。住んでいる場所は発電所とも近く、災害時は DMAT として出勤することになると思うので知識を得られて良かった。(30代、看護師)
- ・実習のキットがとても工夫されていて良かったです。(40代、医師)
- ・今までぼんやりしていた部分が例えを交え説明されたので解りやすかった。今後の対応の考えの参考としていきたい。火の例えは解りやすかった。避難の受け入れ側として正しい知識が必要と感じた。(20代、事務(市町村))

2.2 総合研修 被ばく医療関係者の連携

本研修は、原子力規制庁との協議の上、各地域の実情に合わせ開催日、開催場所を決定し、次の16道府県において実施した。

開催地域：北海道、青森県、宮城県、福島県、茨城県、新潟県、静岡県、石川県、福井県、京都府、鳥取県、島根県、愛媛県、佐賀県、長崎県及び鹿児島県

(1)開催実績

	開催日	地域	開催場所	参加人数 (人)
1	平成26年2月27日(木)	茨城県	茨城県立青少年会館	22
2	平成26年3月2日(土)	北海道	ホテルポールスター札幌	37
3	平成26年3月5日(水)	福島県	コラッセふくしま	40
4	平成26年3月7日(金)	愛媛県	中予地方局	38
5	平成26年3月9日(日)	宮城県	東北大学医学部良陵会館	42
6	平成26年3月10日(月)	石川県	金沢勤労者プラザ	38
7	平成26年3月12日(水)	佐賀県	佐賀市民会館	18
8	平成26年3月13日(木)	鹿児島県	宝山ホール	27
9	平成26年3月14日(金)	京都府	京都教育文化センター	17
10	平成26年3月15日(土)	長崎県	県央地域広域市町村圏組合消防本部大村消防署	28
11	平成26年3月16日(日)	静岡県	ホテルアソシア静岡	34
12	平成26年3月18日(火)	島根県	松江テルサ	19
13	平成26年3月19日(水)	鳥取県	鳥取県立倉吉未来中心	14
14	平成26年3月20日(木)	福井県	福井市文化会館	28
15	平成26年3月21日(金)	新潟県	朱鷺メッセ	27
16	平成26年3月22日(土)	青森県	ホテル青森	26
合計				455
1回あたりの平均参加人数				28.4
定員(60名)充足率				47.3%

(2)カリキュラム

被ばく医療関係者の連携 カリキュラム

13:00～13:05	開会／オリエンテーション
13:05～13:55	座学 a 災害医療と被ばく医療
14:00～14:30	座学 b 原子力災害医療体制
14:40～16:10	ワークショップ 初動体制の確認
16:15～16:45	ケーススタディ
16:45～17:00	まとめ（質疑応答）／閉会

(3)実施内容

本研修の座学、ワークショップ、ケーススタディについては、原子力災害対策指針の内容を踏まえ、国及び地域の緊急被ばく医療体制と災害医療（原子力災害を含む）体制の概要を知ること、地域における関係機関の具体的な初動時連携方法を知ingことを目的とした。具体的な実施内容については、以下の通り。

座学 a：災害医療と被ばく医療

関係機関の連携を図る上で必要となる救急・災害医療と被ばく医療の関係、事故災害時の体系的なアプローチ、指揮と統制、消防、警察等関連組織の初動、インシデントコマンドシステム、災害医療体制の枠組みについて、スライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・災害・救急医療と被ばく医療の関係
- ・緊急被ばく医療体制の課題
- ・政府（国）における連携
- ・事故・災害規模と想定
- ・事故災害時の体系的なアプローチ
- ・指揮と統制
- ・消防、警察等関係組織の初動を知る
- ・インシデントコマンドシステム
- ・通常の災害医療体制の枠組み

座学 b：原子力災害医療体制

原子力災害時の連携を理解するため災害対応における指揮階層、全面緊急事態の被ばく医療、福島第一原発事故の指揮命令系統、用語の整理について、スライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・既存の体制の有機的統合が鍵
- ・災害医療対応における指揮階層
- ・全面緊急事態の被ばく医療
- ・災害医療
- ・福島第一原発事故の指揮命令系統
- ・用語の整理
- ・EALによる対応、OILによる対応

ワークショップ：初動体制の確認

地域の緊急被ばく医療体制及び原子力災害医療体制の確認を行うため、機関・職域毎のグループに分かれ、設問に対する機関・職域毎の対応について協議、発表、意見交換を行うワークショップを行った。

なお、実施中に気付いたこと、確認が必要な事項については、確認事項記入票に記載することとした。

協議した設問は以下の通り。

- ・Q1「みなさんは、事業所の汚染有りの傷病者発生の際の、事業所のマニュアルをご存知ですか？」
- ・Q2「事業所内で高濃度汚染傷病者が発生しました。どのように対応しますか。」
- ・Q3「それでは、次に、震度6弱の地震がこの地域で起こったとします。それをどのように知り、どのように対応しますか。」

ケーススタディ

地域で労災事故が発生した際の、初動対応手順の確認、情報の収集・伝達・共有・評価を行うため、機関・職域ごとのグループに分かれ、事業所からの連絡（スイッチ）が入った後の各機関の初動対応、情報連絡（情報提供・連絡に加え、欲しい情報を取りに

行くことも実施)に関する連携を実践するケーススタディを行った。

なお、ケーススタディにおけるルールは以下の通り。

- ・ 電話、FAX については、連絡用紙を用いた
- ・ 実施した内容はステータスボードもしくはホワイトボードに記載
- ・ 傷病者の情報は、適宜関係機関に FAX にて提供



座学



座学



ワークショップ



ワークショップ



ケーススタディ (講師のアドバイス)



ケーススタディ (情報の伝達)



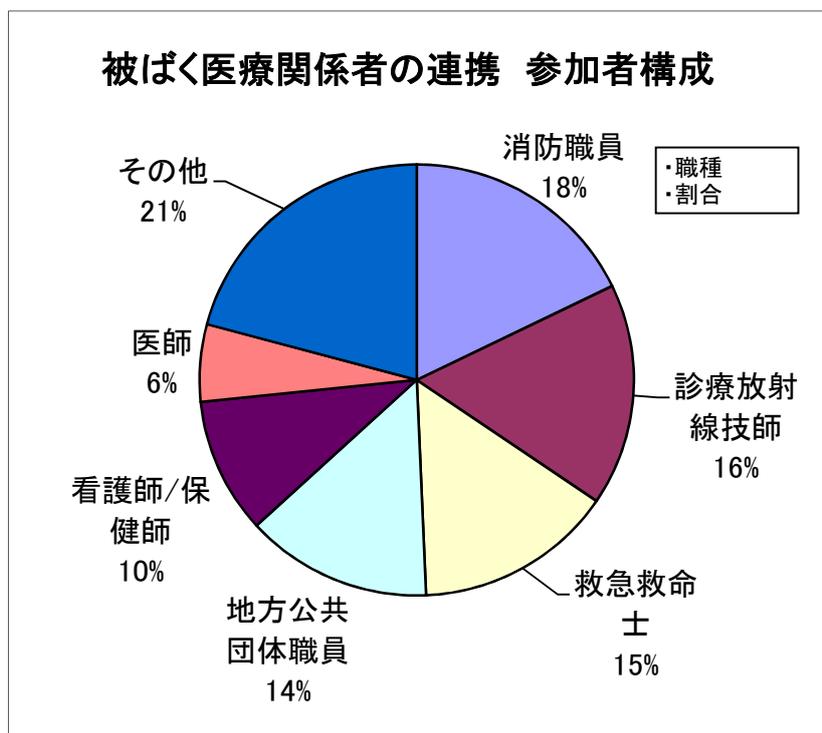
ケーススタディ（情報の整理）



ケーススタディ（班における検討）

(4)実施結果

開催道府県の担当部署と調整のうえ、被ばく医療機関、救急医療機関、災害拠点病院、搬送機関、行政機関、医師会、薬剤師会等に直接案内をするとともに、HP 等を通じた開催案内の通知を行った結果、被ばく医療関係者の連携（全 16 回）の開催を通じ、約 450 人の参加があった。参加者の構成比率は、次の通り。



これらの参加者については、受講前と受講後に同じ設問による理解度確認テストを実施するとともに、受講後、満足度等に関するアンケートを実施した。

理解度確認テストの実施結果については、全設問（5 問）の平均値において、受講前の正答率が 79.8%であるのに対し、受講後の正答率が 87.6%であることから、本研

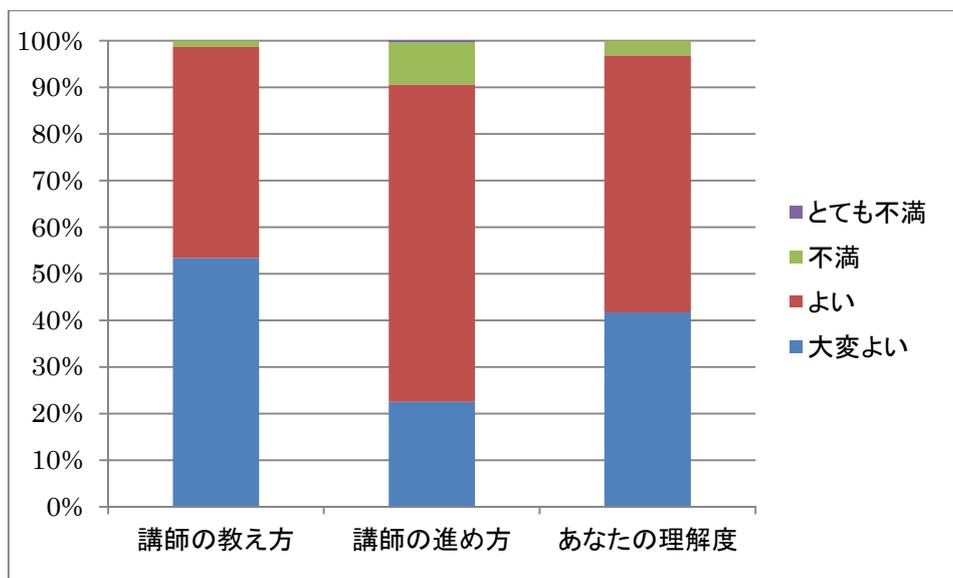
修の受講により、一定の知識の取得が出来たと考えられる。設問ごとの正答率については、次に示す通り。

被ばく医療関係者の連携 理解度確認テスト

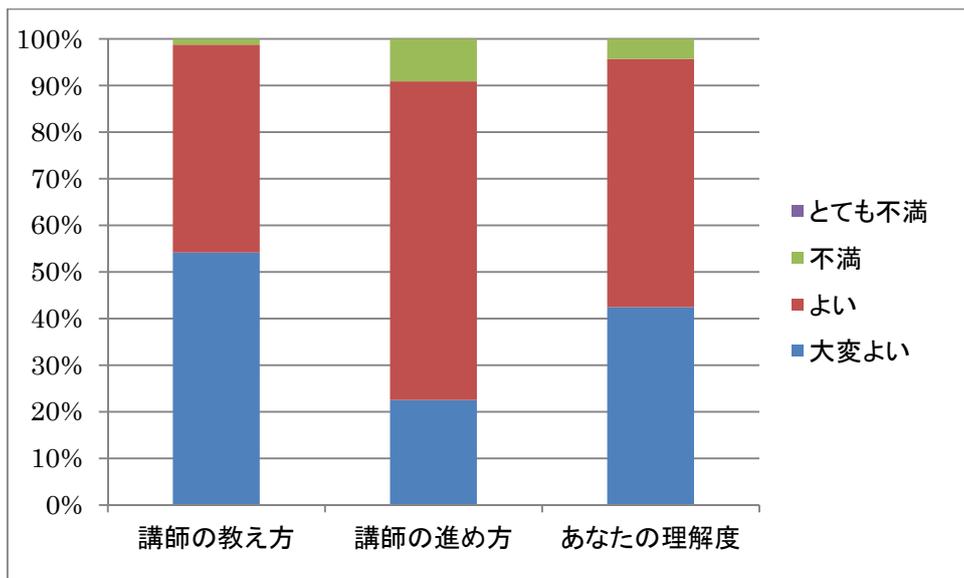
設 問		受講前 正答率 (%)	受講後 正答率 (%)	解答
①	原子力災害医療と緊急被ばく医療とで体制の違いはない。	74	74	×
②	被ばく医療機関は、災害対応が行えるよう、災害拠点病院が担っている。	56	83	×
③	大規模な災害医療対応においては、体系的なアプローチが必要である。	97	99	○
④	災害対応において、迅速かつ的確な情報共有を実践するためには、指揮階層が必要となる。	96	97	○
⑤	災害初動時は、十分に人員の確保をしてから組織を立ち上げる。	76	85	×
平 均		79.8	87.6	

受講後に行ったアンケート調査については、次に示す通り（開催毎の結果については、参考資料 2 を参照）。

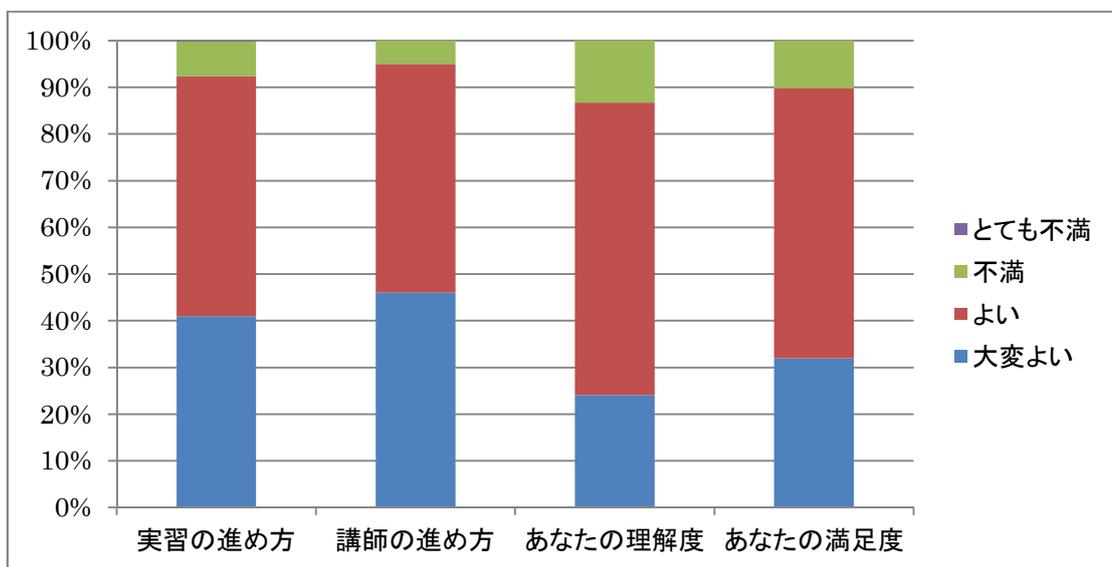
座学 a：災害医療と被ばく医療



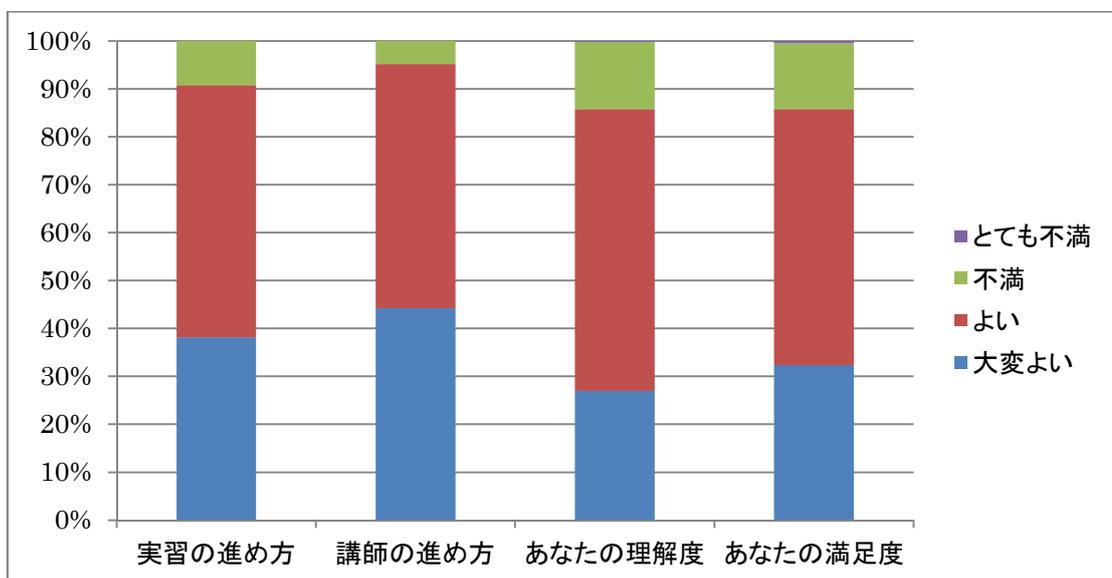
座学 b：原子力災害医療体制



ワークショップ：初動体制の確認

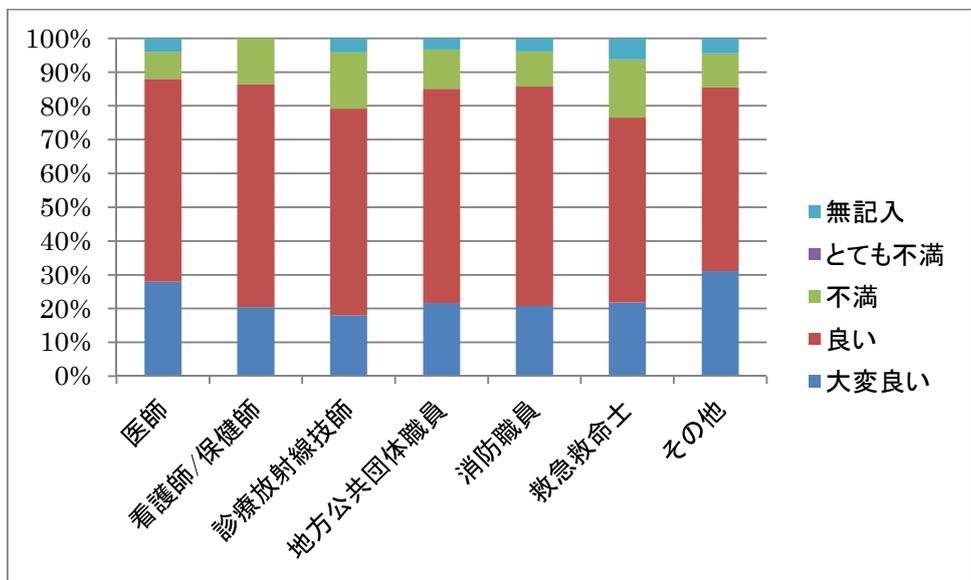


ケーススタディ

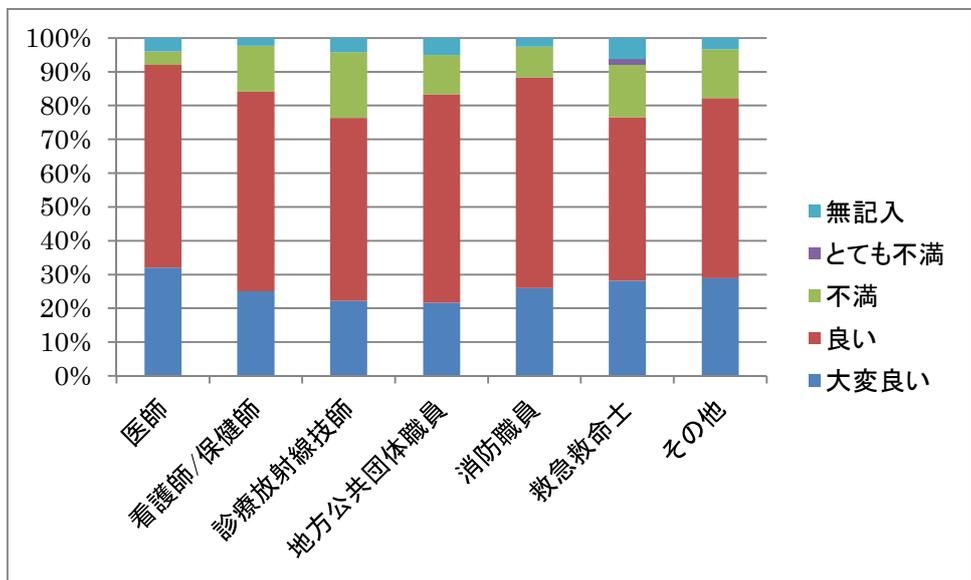


上記アンケート結果のうち、ワークショップ及びケーススタディにおける「あなたの理解度」について職種別に分析をしたところ、診療放射線技師と救急救命士の評価がやや低く出ている。

ワークショップ

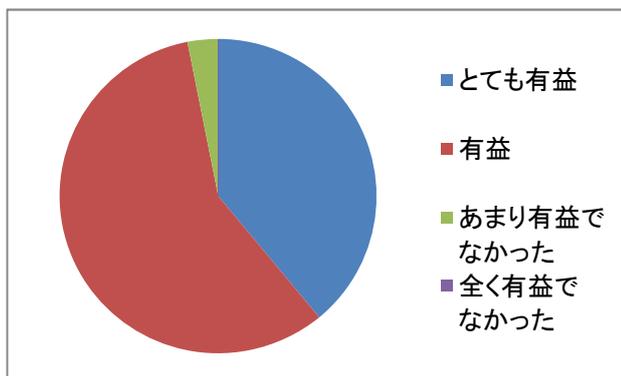


ケーススタディ

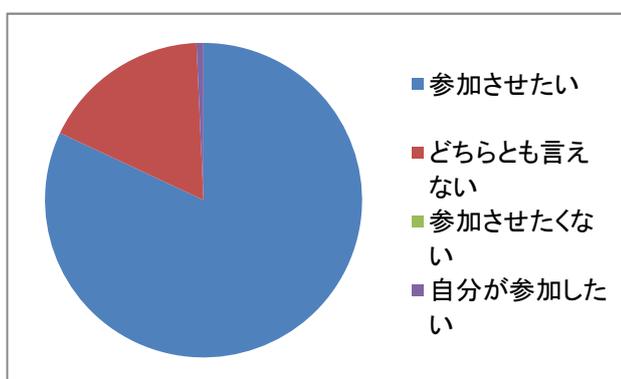


本研修全体について

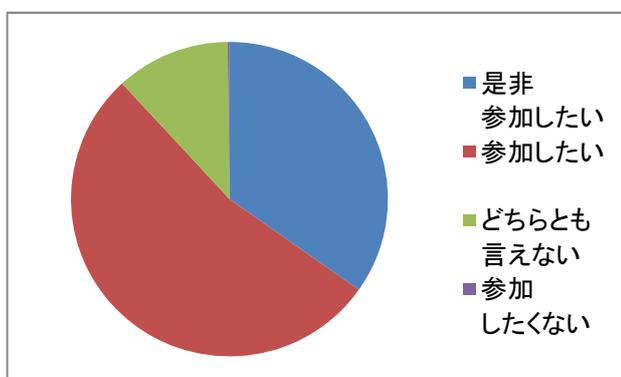
①参加して有益であったと思いますか。



②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。



③研修（専門研修）にも参加したいと思いますか。



【主な意見・要望等】

- ・要旨が資料に記入してあり、あとで振り返る時に分かり易くて良い。
(40代、保健師)
- ・もっと時間をかけて話し合いができればと思いました。(50代、地方公共団体職員)
- ・大変良い演習だったと思うので、もう少し時間を長くしても良かったと思う。(30代、地方公共団体職員)
- ・時間不足、1日コースでPM全て演習でも良い。(30代、救急救命士)

- ・各機関の役割が理解しやすかった。なかなか有意義な方法であると感じました。
(40代、保健師)
- ・とても有意義なプログラムであったと思います。(40代、その他)
- ・1回では十分な理解とは言えないので、また参加し他職種との連携を学習したい。
(40代、看護師)
- ・他県消防本部で原子力施設等ありませんが、自分の消防局のマニュアルの再確認及び不足部分の良く見えた内容となりました。問題点発見のいい機会となりました。
(20代、消防士職員)
- ・施設に来て講演して欲しいくらいです。少数の人間が受けただけでは体制が整いきれない不安がある。(40代、診療放射線技師)
- ・他機関の初動体制が理解できた。自院のマニュアルや地域性を考え見直す必要があると感じました。今回の研修を元に作成したいと思います。(30代、看護師)
- ・ぜひ、各保安部、各船艇単位でこのような研修、訓練を行っていきたい。海保では警備マニュアルは有り、職員目を通してはいるが災害時の対応は全く知らなかった。
(30代、海上保安官)
- ・事前の周知期間を確保し、実際に参加する関係機関すべてがそろえば実効性のある研修となる。(警察、保健所、役場、各被ばく医療機関の参加も必要)(40代、地方公共団体職員)
- ・実践に近い形でのワークショップは大変参考になりました。他職種との連携は大事だと思いました。(40代、薬剤師)
- ・原子力災害を常に身近に考える機会を設けていただきありがとうございます。今後も机上演習を何度も行う必要性を感じました。(40代、看護師)
- ・初動対応の難しさが身に染みてわかった。(40代、薬剤師)
- ・医療対応と名がつく研修のため救急担当の分野と受け取られる感じがします。CSC Aが大切なので、消防本部担当や指導者クラスを積極的に参加させるようアナウンスしてもらいたい。(30代、消防職員)
- ・自施設のマニュアル等を知る良いきっかけとなりました(30代、看護師)
- ・災害対策の連携について考える機会を作ってくださいありがとうございます。所属で多くの者と考え方の共有が必要と思いました。(無記入)
- ・他本部、他の機関がどういう情報を欲しいのかということがわかり有意義なもので

あった。(20代、消防士職員)

- ・スライド、資料がとてもわかりやすかった。ワークショップでの話し合いはとても良かったですが、現実には決まっていないことが多くわかり勉強になりました。各関係機関との連携をもっととるべきと学びました。(30代、消防士職員)
- ・各関係機関の現況を知り、また多くの知識を学び、勉強になりました。改めて連携の大切を知ったことで、所属に戻ってフィードバックしたいと思います。(30代、救急救命士)
- ・各部門の連携が重要であることが再確認できた。(50代、診療放射線技師)
- ・参加する対象を明確にしていただけると、現場に持ち帰るものができたと思いました。(40代、保健師)
- ・勤務先の問題点が抽出できて大変良かったです。(40代、医師)
- ・病院内のマニュアル作成、病院間での分担の仕方など病院管理者(事務職)にも参加していただきたいと思いました。県としてどうするかも考えていただく必要もあると思いました。多職種の人との研修で、知らないことも教えてもらいよかったです。(医療機関の場合、経営管理者、事務などの人の参加も今回の様なテーマでの場合必要だと思いました)(50代、医師)
- ・行政の立場で参加しましたが、防災担当の大変さを垣間見ることができました。自治体内の連携について考える場も必要と感じました。(20代、地方公共団体職員)
- ・机上演習でも連携のとりかたを実戦に近い形で行うことができたこと、課題を明確にできたことが良かった。(30代、看護師)

2.3 専門研修 スクリーニング・除染

本研修は、原子力規制庁との協議の上、各地域の実情に合わせ開催日、開催場所を決定し、次の8道府県において実施した。

開催地域：北海道、茨城県、静岡県、富山県、石川県、大阪府、岡山県及び佐賀県

(1)開催実績

	開催日	地域	開催場所	参加人数 (人)
1	平成25年12月25日(水)	石川県	能登中部保健福祉センター	12
2	平成26年1月10日(金)	茨城県	茨城県立健康プラザ	25
3	平成26年1月11日(土)	北海道	北農健保会館	20
4	平成26年2月1日(土)	佐賀県	佐賀中部保健福祉事務所	24
5	平成26年2月9日(日)	大阪府	大阪医療センター	12
6	平成26年2月20日(木)	富山県	富山県民会館	29
7	平成26年2月22日(土)	岡山県	岡山医療センター	27
8	平成26年3月17日(月)	静岡県	えんてつ浜松駅前貸会議室	13
合計				162
1回あたりの平均参加人数				20.3
定員(20名)充足率				101.5%

(2)カリキュラム

スクリーニング・除染 カリキュラム	
9:30～ 9:50	開会／オリエンテーション
9:50～10:10	イントロダクション
10:10～11:00	講義1 原子力災害時のスクリーニング
11:10～12:40	実習1 スクリーニング実習
13:40～14:30	講義2・実習2 原子力災害時の簡易除染
14:40～15:30	講義3 原子力災害時におけるスクリーニング活動
15:40～16:30	講義4 被検者への対応
16:40～17:00	まとめ(質疑応答)／閉会

(3)実施内容

本研修の講義、実習については、原子力災害対策指針の内容を踏まえ、原子力災害時に救護所等において避難者等に対する効率的なスクリーニングや簡易な除染ができることを目的とした。具体的な実施内容は以下の通り。

なお、講義に入る前のイントロダクションとして、原子力災害時の医療活動におけるスクリーニング及び除染の位置づけ、本研修の目的、研修を受けるにあたり必要となる基礎知識（被ばく・汚染の形態と放射線防護、原子力災害対策重点区域の範囲、緊急時活動レベル、緊急事態における防護対策実施フロー）の説明を行った。

講義 1：原子力災害時のスクリーニング

原子力災害時のスクリーニングについて、スクリーニングの目的と種類、スクリーニングレベルの考え方、資機材の準備、防災関係者の装備、スクリーニングの手順、鼻スミア及び甲状腺スクリーニング、処置等の種類と概要及び記録の重要性についてスライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・スクリーニングの目的・種類
- ・スクリーニングレベルと考え方
- ・体表面汚染スクリーニング
- ・甲状腺スクリーニング
- ・結果の記録・評価と判断

実習 1：スクリーニング実習

原子力災害時に避難をした住民に対して、的確なスクリーニングが実施できるよう、機器の取り扱い及びプローブ（検出器）の移動速度による指針の振れを確認した後、受講者をグループ分けし、役割を被検者 1 名、測定検査員 1～2 名、記録員 1 名と決めて、スクリーニングの模擬実習を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・個人線量計の取り扱い
- ・サーベイメータの取り扱い
- ・スクリーニングのための予備実習

- ・スクリーニング

講義 2・実習 2：原子力災害時の簡易除染

原子力災害時に避難をした住民に対し、スクリーニングを行った結果、身体表面に汚染が確認された場合の対応について、除染の考え方、除染の設備・装備、留意点や手順を説明した後、蛍光ローションを汚染と見立て、ウェットティッシュ等を用いて、汚染を拡げないように拭き取り除染を行った（①自分自身で実施、②ペアになり拭き取り指示により汚染者本人（模擬）に拭き取らせる）。

主な項目は以下の通り。

- ・除染の考え方
- ・除染に必要な設備等、チームの装備
- ・除染時の留意点
- ・除染の手順
- ・除染の記録
- ・除染（拭き取り）実習

講義 3：原子力災害時におけるスクリーニング活動

原子力災害時におけるスクリーニング活動について、国内で過去に行われた事例について紹介した。具体的には、チェルノブイリ事故時に成田空港にて実施、ジェー・シー・オー臨界事故時に茨城県にて実施、福島第一原子力発電所事故時に福島県及び茨城県にて実施したスクリーニングを取り上げた。

主な項目は以下の通り。

- ・チェルノブイリ事故（成田空港で行われたスクリーニング—キエフからの帰国（旅行）者を対象—）
- ・（株）ジェー・シー・オー臨界事故（茨城県内で行われたスクリーニング）
- ・東京電力（株）福島第一原子力発電所事故（福島県内で行われたスクリーニング、茨城県内で行われたスクリーニング）

講義 4：被検者への対応

原子力災害時に救護所に避難してきた住民（被災者）に対して、除染を行った被災者

への問診及び説明の留意点を解説した。その後、問診のデモンストレーションを実施し、具体的な問診の方法について確認を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・被災者への対応
- ・問診の目的と対応者
- ・問診
- ・被災者への説明



講義



講義



スクリーニング実習



スクリーニング実習



原子力災害時の簡易除染（実習）



原子力災害時の簡易除染（実習）



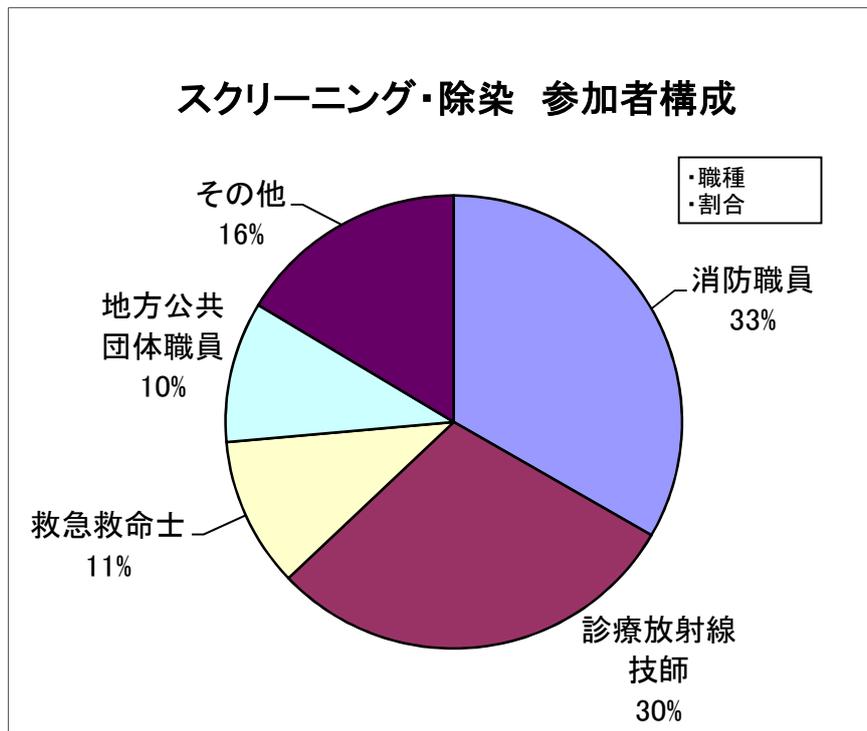
被検者への対応（ロールプレイ部分）



被検者への対応（ロールプレイ部分）

(4)実施結果

開催道府県の担当部署と調整のうえ、被ばく医療機関、救急医療機関、災害拠点病院、搬送機関、行政機関、医師会、放射線技師会等に直接案内をするとともに、HP 等を通じた開催案内の通知を行った結果、スクリーニング・除染（全8回）の開催を通じ、約160人の参加があった。参加者の構成比率は、次の通り。



これらの参加者については、受講前と受講後に同じ設問による理解度確認テストを実施するとともに、受講後、満足度等に関するアンケートを実施した。

理解度確認テストの実施結果については、全設問（10問）の平均値において、受講前の正答率が73.6%であるのに対し、受講後の正答率が89.2%であることから、本研修の受講により、一定の知識の取得が出来たと考えられる。設問ごとの正答率につい

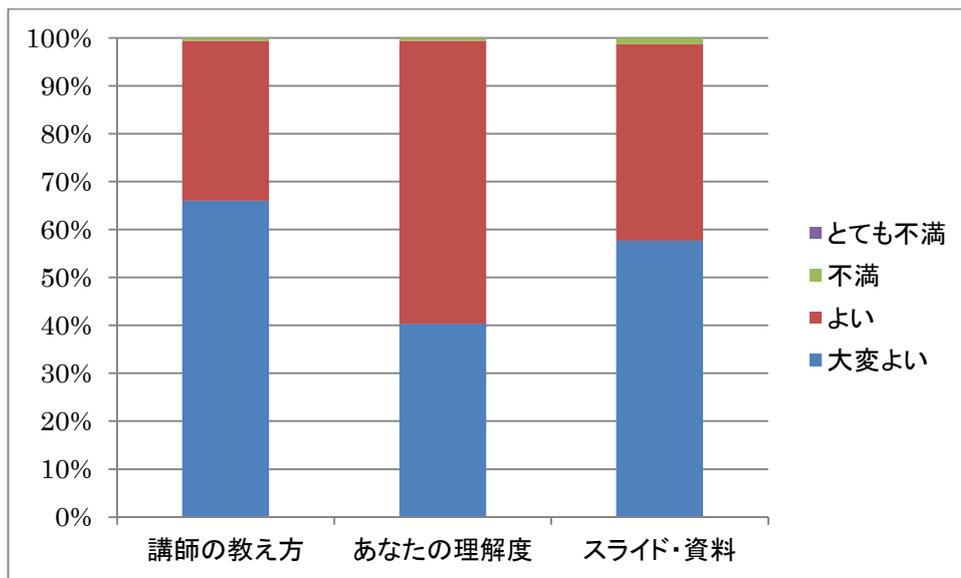
ては、次に示す通り。

専門研修（スクリーニング・除染） 理解度確認テスト

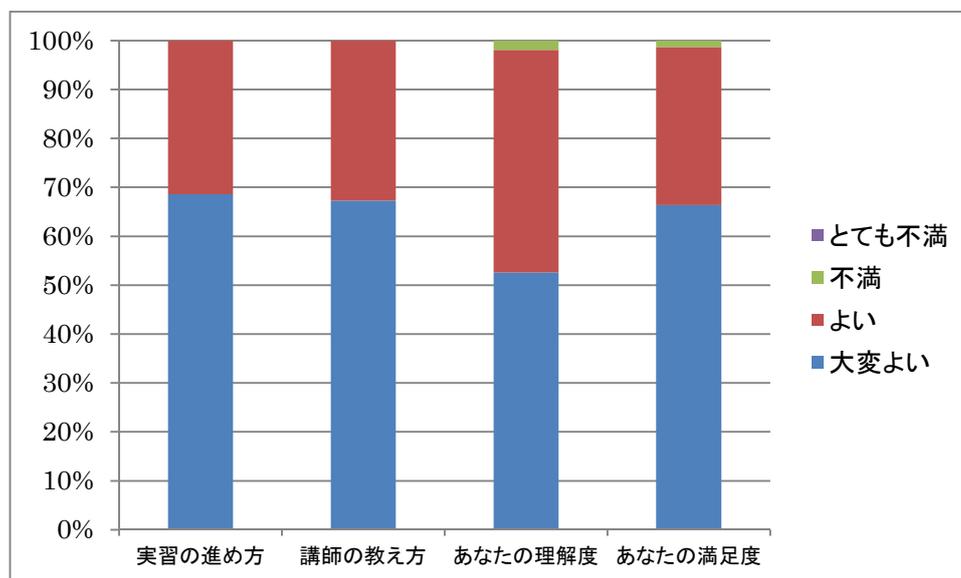
設 問		受講前 正答率 (%)	受講後 正答率 (%)	解答
①	個人線量計は、男女ともに腹部に装着する。	92	100	×
②	放射線測定器を用いて測定した値には、その場の自然放射線が含まれる。	93	99	○
③	スクリーニング会場での混乱を防ぐために、スクリーニングは受付順を厳密に守って行う。	43	59	×
④	原子力災害時に住民のスクリーニングを行う場合、特に頭部、顔面、手、肩、靴底などは汚染の可能性が高いので注意が必要である。	96	98	○
⑤	原子力災害時に住民のスクリーニングを行う場合は、見落としを防ぐため、サーベイメータのスピーカースイッチを入れて検査を行う。	60	100	×
⑥	原子力災害時の住民のスクリーニングにおいて、緊急事態の当初除染を行う基準値は OIL4 に示されている「皮膚から数 cm での計数率で、B 線 40,000cpm」を用いる。	52	99	○
⑦	スクリーニングの結果等から放射性ヨウ素による内部汚染が疑われる場合、詳細な内部被ばくの推定ができる施設で甲状腺モニタやホールボディカウンタ検査を行う。	94	99	○
⑧	救護所においては、手袋やガウン、マスクなどを装備したスタッフが除染の必要な住民に対する脱衣、拭き取りを行う。	27	45	×
⑨	拭き取りによる除染は、濡れたガーゼやスポンジなどで強くこすり取るように行う。	80	93	×
⑩	拭き取りに用いた道具や水などは、汚染拡大の原因とならないようビニール袋やタンクに集める。	99	100	○
平 均		73.6	89.2	

受講後に行ったアンケート調査については、次に示す通り（開催毎の結果については、参考資料 3 を参照）。

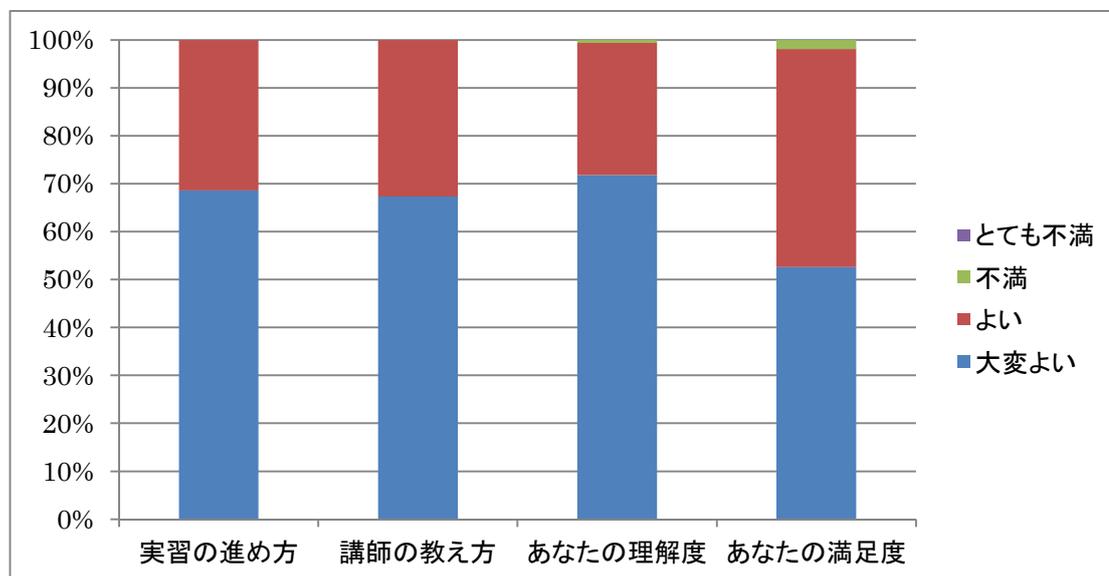
講義 1:原子力災害時のスクリーニング



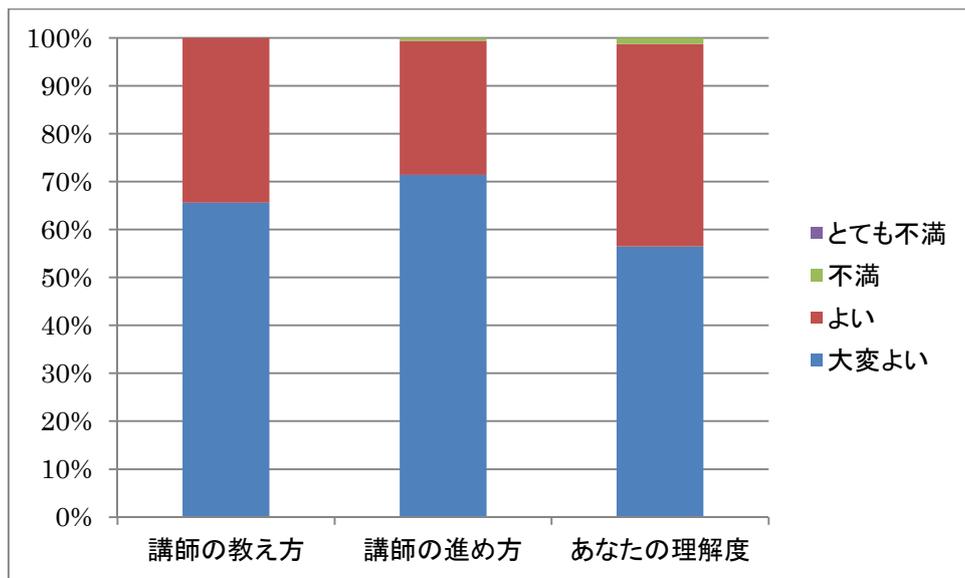
実習 1 : スクリーニング実習



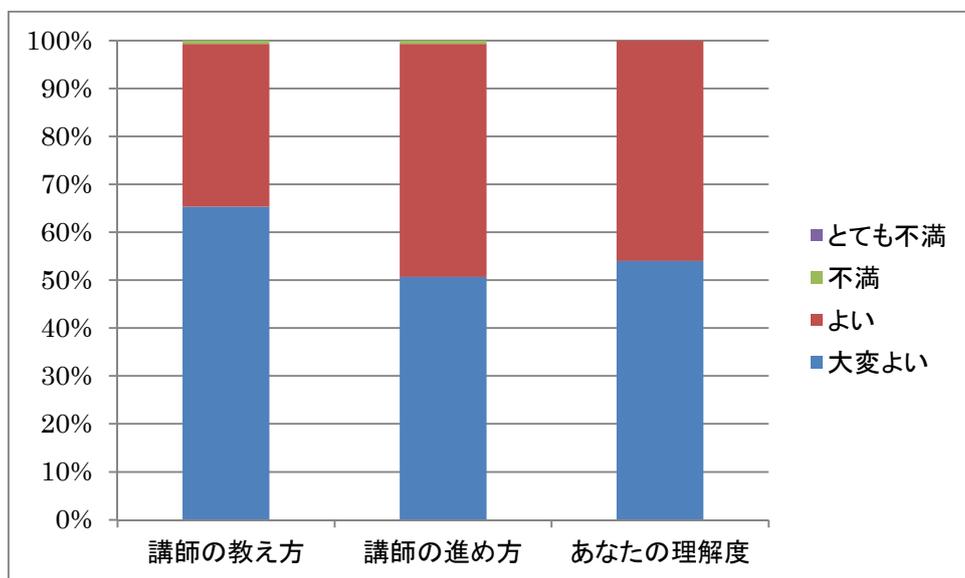
講義 2・実習 2 : 原子力災害時の簡易除染



講義 3：原子力災害時におけるスクリーニング活動

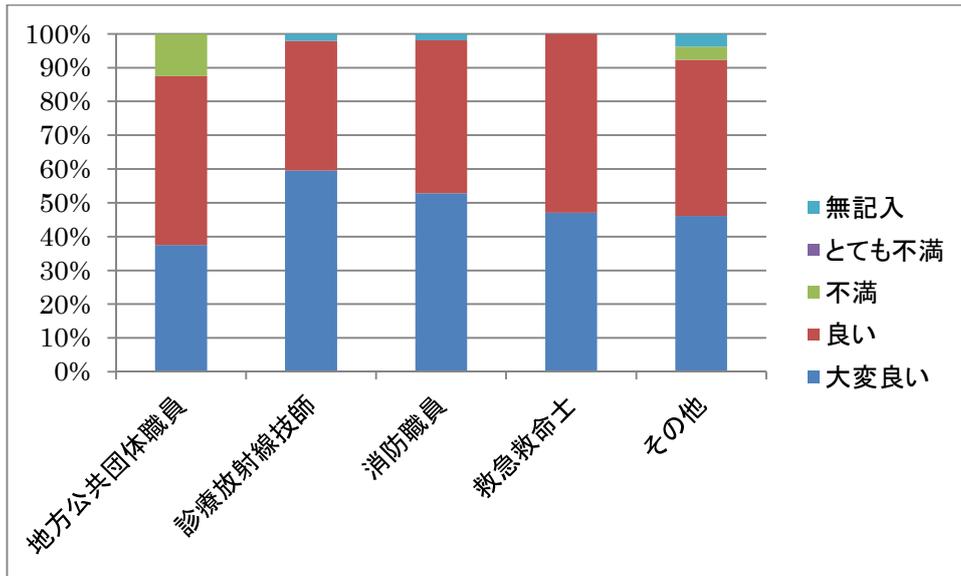


講義 4：被験者への対応

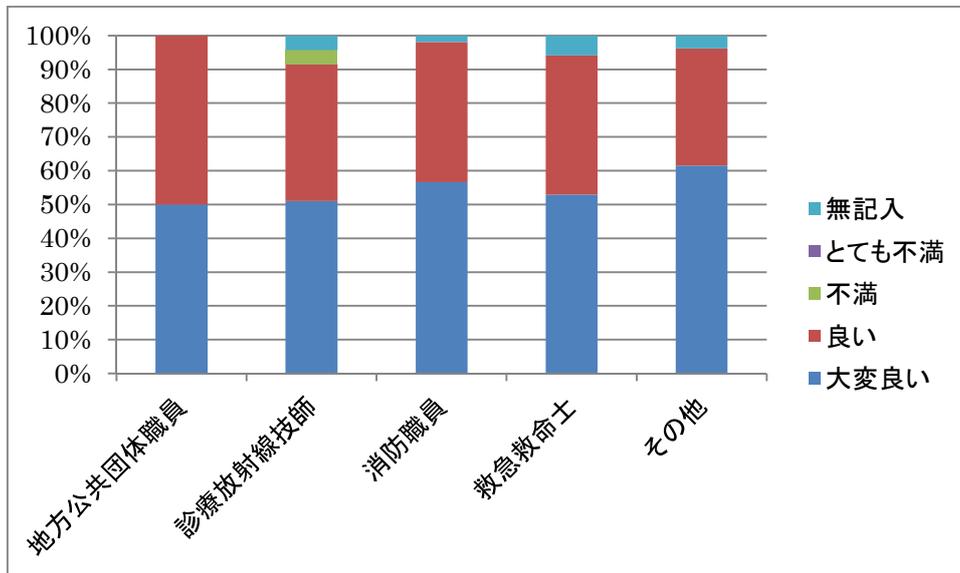


スクリーニング実習については、地方公共団体職員の、簡易除染については、診療放射線技師の「不満」の割合が、他の職種に比べ多いという結果となっている。

実習 1

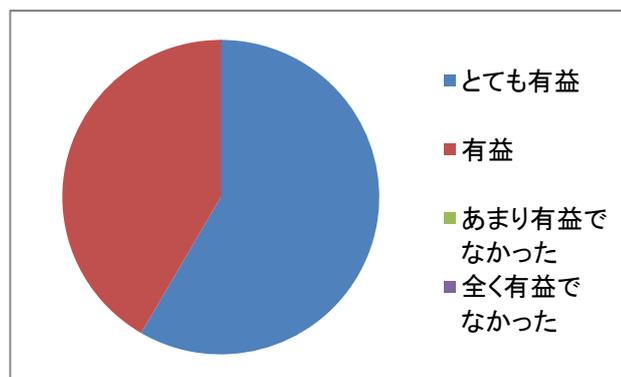


講義 2・実習 2

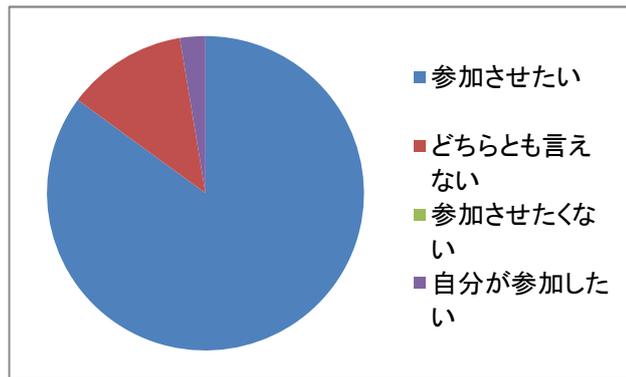


本研修全体について

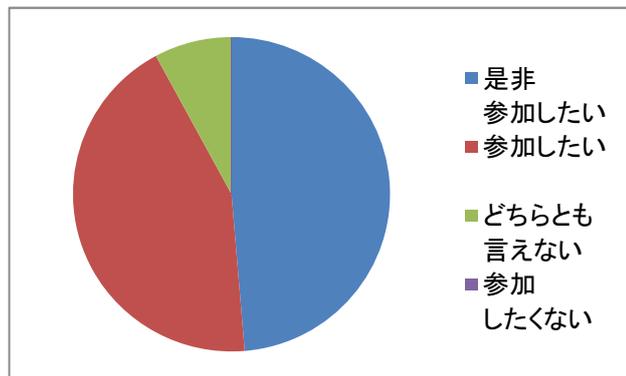
① 参加して有益であったと思いますか。



②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。



③研修（専門研修）にも参加したいと思いませんか。



【主な意見・要望等】

- ・とても楽しくできました。職場に戻って、実際に訓練してみたい。(40代、消防士)
- ・初めての實習であり大変勉強になった。原子力災害だけでなく、他の現場でも活用できるものであった。(30代、警察官)
- ・實習を多く取り入れて頂いたため、最後まで積極的に今回の研修に取り組みました。長時間の研修だったが實習もあったので集中でき、とてもためになった研修でした。(20代、消防士)
- ・行動調査票の様式等、示してもらうことで実際にどのようなことにポイントを置いて問診を行えばいいのか参考になった。(40代、地方公共団体職員)

2.4 専門研修 搬送

本研修は、原子力規制庁との協議の上、各地域の実情に合わせ開催日、開催場所を決定し、次の8県において実施した。

開催地域：青森県、宮城県、新潟県、福井県、島根県、山口県、福岡県及び鹿児島県

(1)開催実績

	開催日	地域	開催場所	参加人数 (人)
1	平成25年12月18日(水)	新潟県	柏崎市消防本部	18
2	平成25年12月20日(金)	福井県	敦賀美方消防組合消防本部	25
3	平成26年1月8日(水)	宮城県	宮城県消防学校	34
4	平成26年1月16日(木)	山口県	柳井地区広域消防組合消防本部	17
5	平成26年1月17日(金)	福岡県	福岡市消防学校	18
6	平成26年1月23日(木)	島根県	松江市消防本部	11
7	平成26年1月29日(水)	青森県	下北地域広域行政事務組合消防本部	17
8	平成26年2月26日(水)	鹿児島県	鹿児島市消防総合訓練研修センター	16
合計				156
1回あたりの平均参加人数				19.5
定員(20名)充足率				97.5%

(2)カリキュラム

搬送 カリキュラム	
9:00～ 9:20	開会／オリエンテーション
9:20～ 9:40	イントロダクション
9:40～10:30	講義1 原子力災害時の搬送
10:40～11:30	講義2 原子力災害時における搬送事例
12:30～13:00	実習1 放射線測定実習
13:10～14:10	搬送実習ガイダンス
14:10～16:00	実習2 搬送実習
16:10～16:40	搬送実習検証 実習の振り返り
16:40～17:00	まとめ(質疑応答)／閉会

(3)実施内容

本研修の講義、実習については、原子力災害対策指針の内容を踏まえ、原子力災害時に汚染の可能性のある傷病者の迅速な搬送ができることを目的とした。具体的な実施内容は以下の通り。

なお、講義に入る前のイントロダクションとして、原子力災害時の医療活動における搬送の位置づけ、本研修の目的、研修を受けるにあたり必要となる基礎知識（被ばく・汚染の形態と放射線防護、原子力災害対策重点区域の範囲、緊急時活動レベル、緊急事態における防護対策実施フロー）の説明を行った。

講義 1：原子力災害時の搬送

汚染を伴う傷病者（原子力施設内における労働災害事故等による。または、原子力災害による原子力施設内及び施設外における傷病者）を搬送する際の流れ、及び対応方法についてスライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・原子力災害時の搬送の流れ
- ・搬送機関と搬送方法
- ・搬送（救急活動）の原則
- ・情報の収集
- ・放射線専門家との連携
- ・汚染防止、汚染拡大防止
- ・医師への引継ぎ、搬送終了
- ・搬送体制の整備

講義 2：原子力災害時における搬送事例

過去の原子力災害時における搬送事例を紹介し、実施に際し生じた問題点についてスライドとテキストを用いて講義を行った。

紹介事例は以下の通り。

- ・(株) ジェー・シー・オー 臨海事故
東海村消防本部（現 ひたちなか・東海広域事務組合消防本部）
- ・東京電力（株）福島第一原子力発電所事故

双葉地方広域市町村圏組合消防本部

実習 1：放射線測定実習

原子力災害時における測定機器の取り扱い及び性質について実習を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・ 個人線量計の取り扱い
- ・ 空間線量計の取り扱い
- ・ 遮蔽実験

実習 2：搬送実習

原子力災害時の傷病者搬送について一連の流れを実習で行った。

主な実習項目は以下の通り。

- ・ ガイダンス（実習の流れ、資機材の確認）
- ・ 情報収集
- ・ 出動準備（車内養生、服装）
- ・ 初期評価と対応
- ・ 傷病者の車内収容
- ・ 搬送中の車内対応
- ・ 医師への引継ぎ、汚染防止措置の解除
- ・ 搬送実習検証（一連の実習について場面ごとに振り返りを行った）



講義



講義



放射線測定実習（空間線量率計の取り扱い）



放射線測定実習（遮蔽実験）



搬送実習（救急車の養生）



搬送実習（救急隊員の着装）



搬送実習（傷病者の脱衣）



搬送実習（傷病者の車内収容）



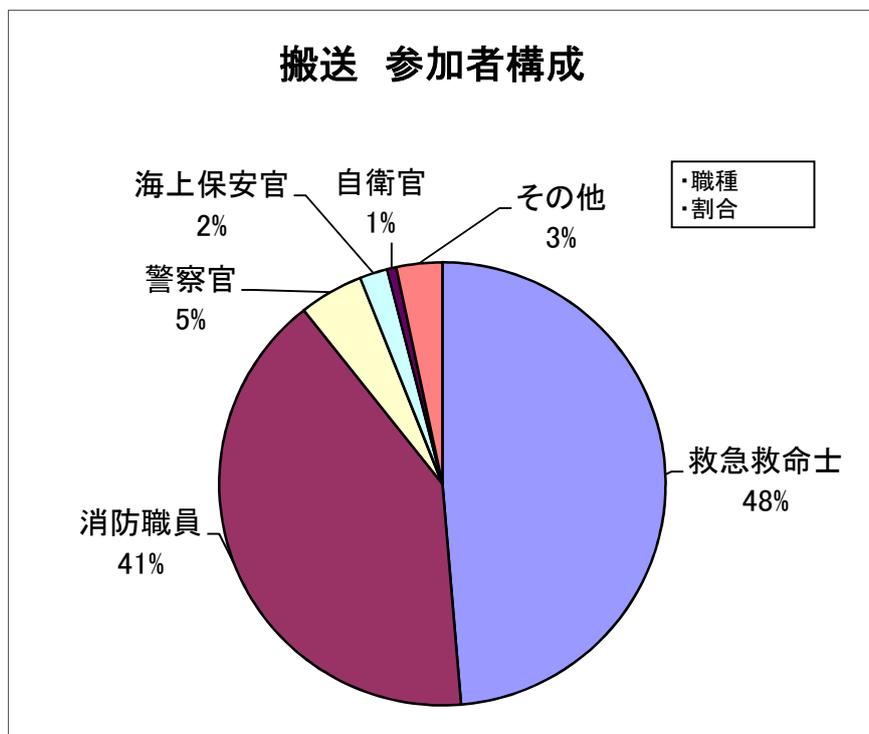
搬送実習（救急隊員の脱装）



搬送実習（救急車等の汚染防止措置の解除）

(4)実施結果

開催道府県の担当部署と調整のうえ、被ばく医療機関、救急医療機関、災害拠点病院、搬送機関、行政機関等に直接案内をするとともに、HP 等を通じた開催案内の通知を行った結果、搬送（全 8 回）の開催を通じ、約 150 人の参加があった。参加者の構成比率は、次の通り。



これらの参加者については、受講前と受講後に同じ設問による理解度確認テストを実施するとともに、受講後、満足度等に関するアンケートを実施した。

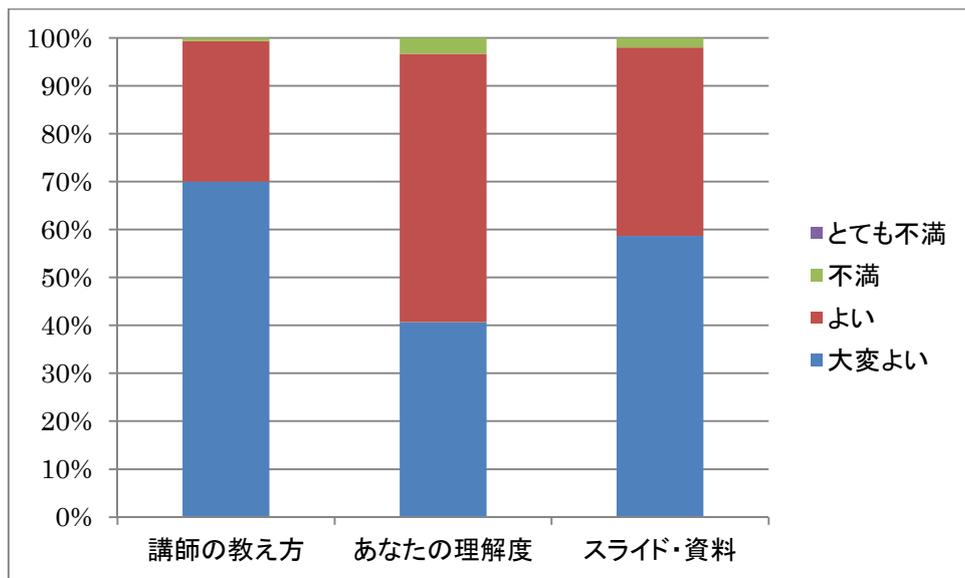
理解度確認テストの実施結果については、全設問（10 問）の平均値において、受講前の正答率が 73.4%であるのに対し、受講後の正答率が 80.3%であることから、本研修の受講により、一定の知識の取得が出来たと考えられる。なお、設問のうち、1 問について、正答率の低下がみられるため、設問の適切性、講義内容等について、次年度以降の検討課題と考えられる。設問ごとの正答率については、次に示す通り。

搬送 理解度確認テスト

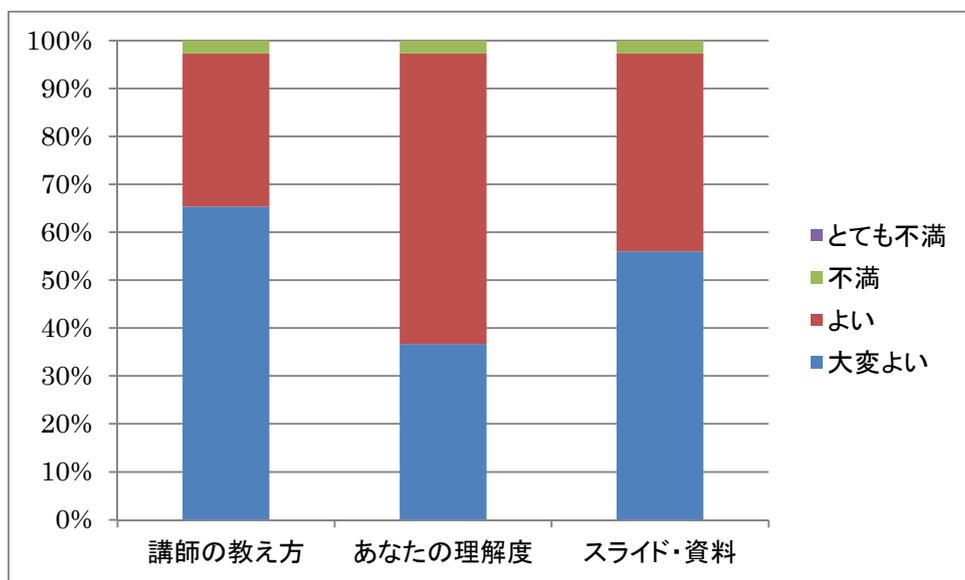
設 問		受講前 正答率 (%)	受講後 正答率 (%)	解答
①	防災業務関係者の線量限度は、実効線量で 100mSv である。	39	52	×
②	原子力災害時に傷病者搬送業務に携わる時は、通常救急搬送時に必要な情報に加えて、傷病者の放射性物質による汚染の有無、活動現場における放射線被ばくや汚染の可能性等を得る。	99	100	○
③	原子力災害時に出場する場合には、現場で測定した空間線量率の数値に基づいて活動を行う。	24	18	×
④	傷病者に接触する際に初めに行うことは、全身の汚染検査である。	62	64	×
⑤	傷病者の全身状態が良く、搬送に時間的猶予がある場合には、脱衣が極めて有効な除染手段となる。	80	99	○
⑥	患者の状態が悪く早急に搬送が必要な場合には、汚染部位をラップフィルム等で覆っただけで搬送することもある。	69	96	○
⑦	搬送中に傷病者が嘔吐した場合、氏名や採取日時を記入したビニール袋に入れて、医療機関に提出する。	86	87	○
⑧	放射性物質による汚染を伴う恐れのある傷病者を医療機関等に搬送した後は、次の業務に備えてすぐに水分補給等を行っても良い。	94	100	×
⑨	作業終了後、個人線量計の数値を確認して、必ずその数値を記録しておく。	99	99	○
⑩	救急車の養生を撤去する際は、まず始めに汚染の可能性の最も高い床面から壁面等の順で撤去を行う。	82	88	×
平 均		73.4	80.3	

受講後に行ったアンケート調査については、次に示す通り（開催毎の結果については、参考資料 4 を参照）。

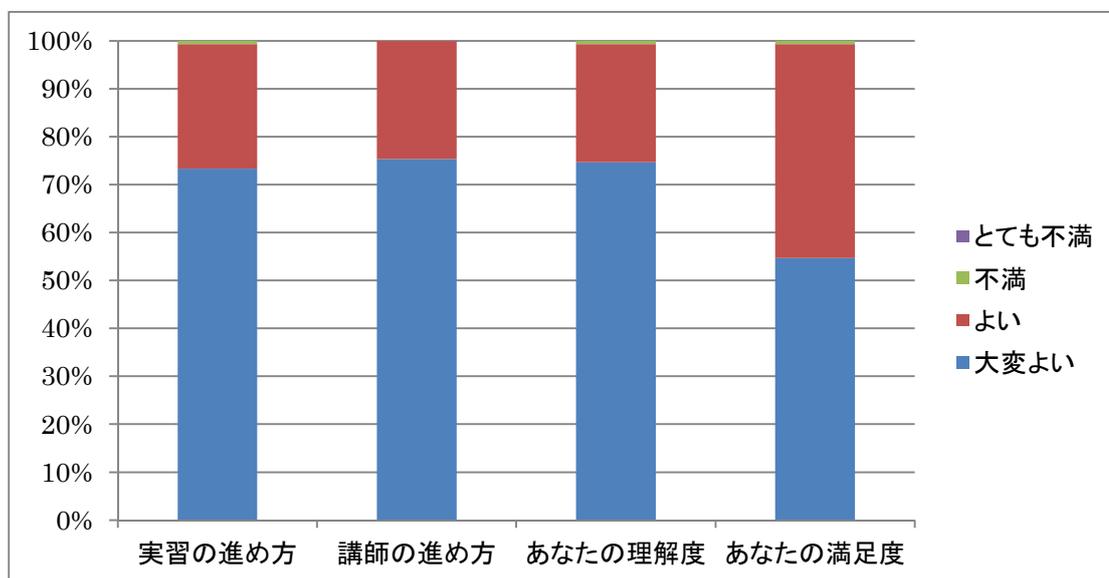
講義 1：原子力災害時の搬送



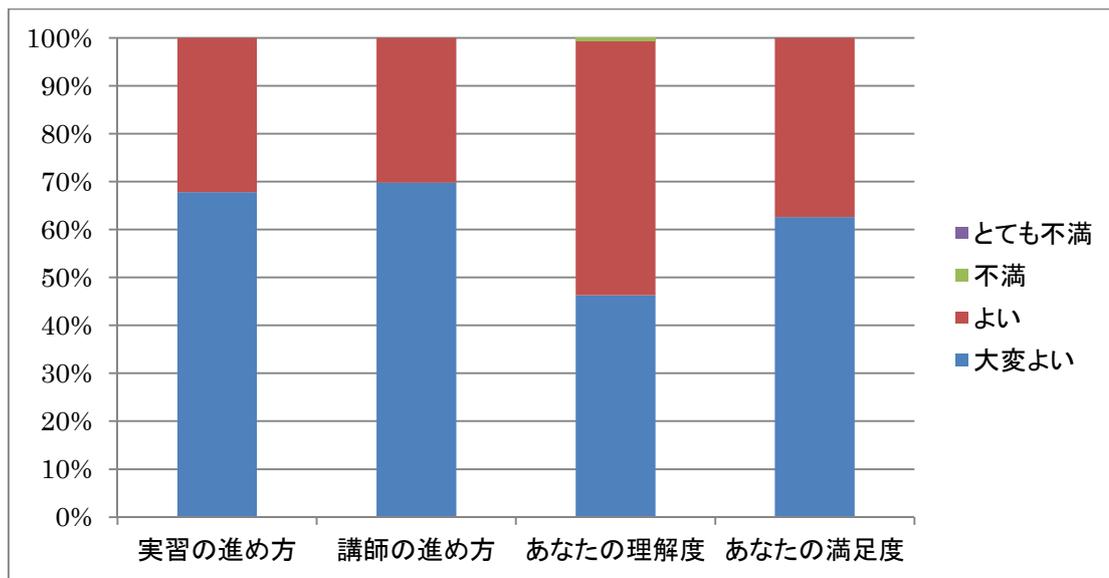
講義 2：原子力災害時（汚染・被ばく者）における搬送事例



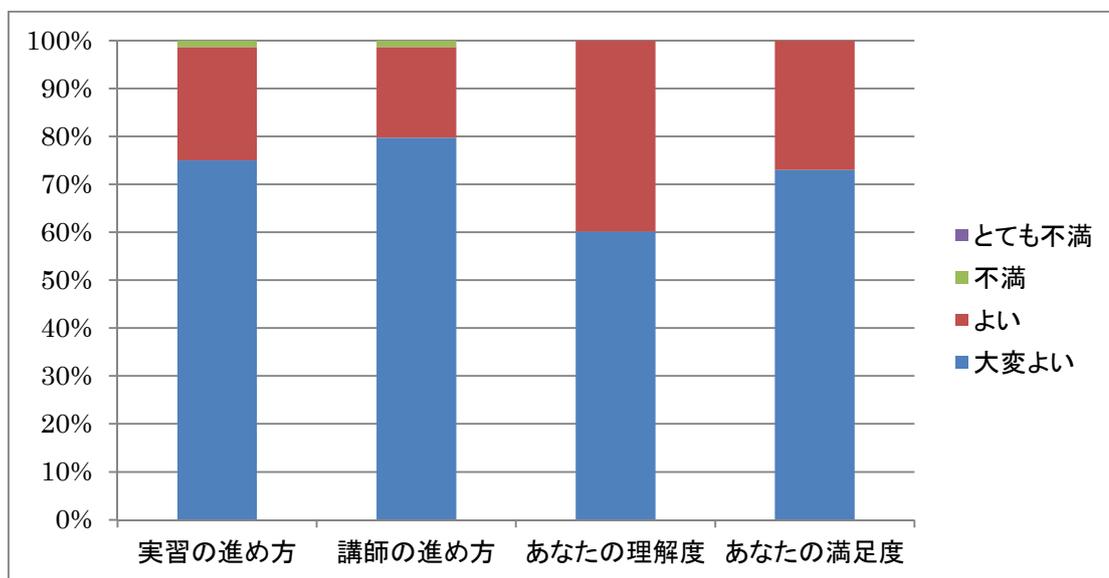
実習 1：放射線測定実習



搬送実習ガイダンス

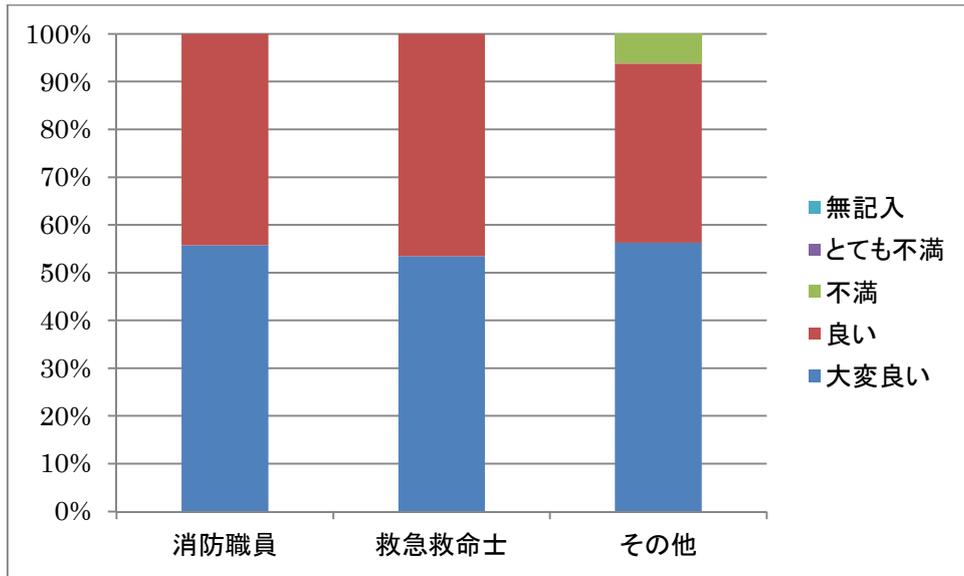


実習 2：搬送実習

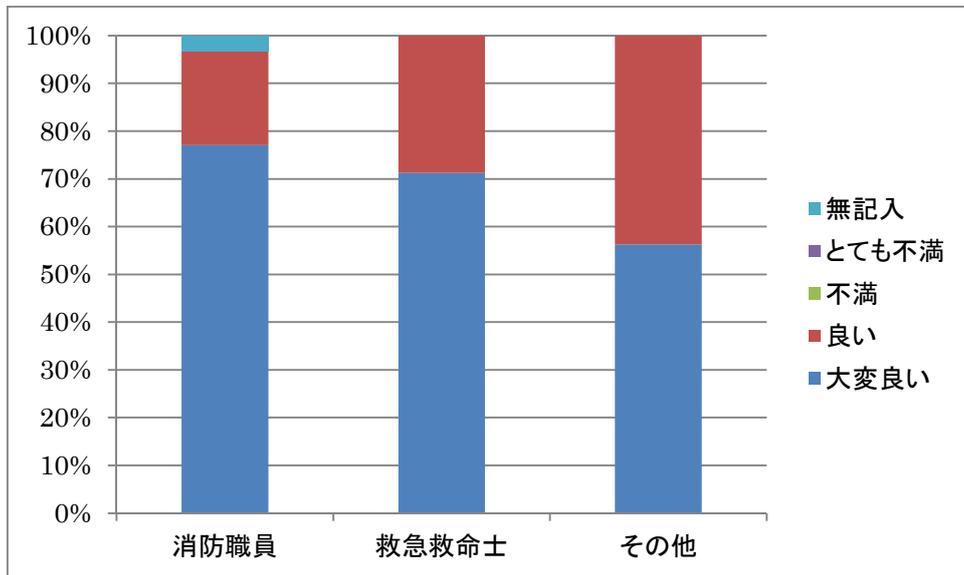


上記アンケート結果のうち、実習について「あなたの理解度」の職種別に分析をしたところ、以下の通り、測定実習においてその他の職種に「不満」があったが、看護師であり、測定器の取り扱いが難しいということであった。搬送は対象が明確な分、受講生の理解度は高いようであった。

実習（測定）

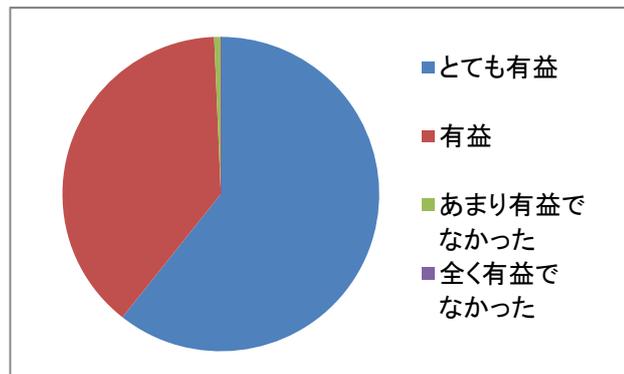


実習（搬送）

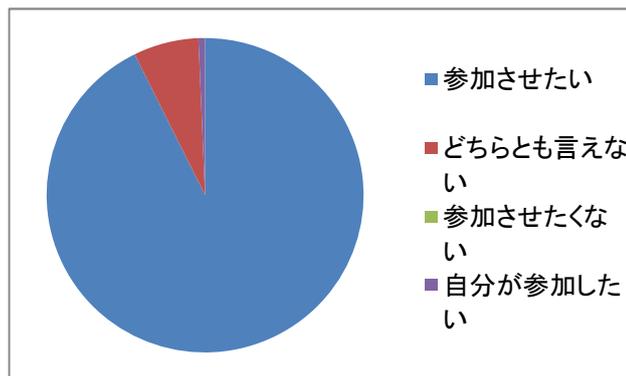


本研修全体について

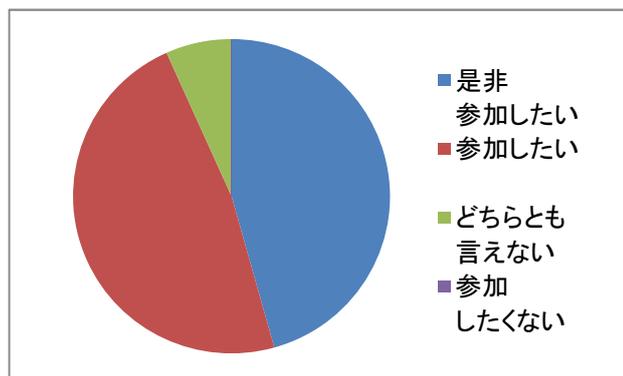
①参加して有益であったと思いますか。



②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。



③研修（専門研修）にも参加したいと思いませんか。



【主な意見・要望等】

- ・放射線事故は自分の中でまだ他人事のような感じがありましたが、今回の研修で、自分を見つめ返すことができました。発生の可能性がゼロでない限り、有事に備え、知識・技術を身に着けたいと思います。(30代、救急救命士)
- ・放管員との連携訓練が必要だと思う。(30代、消防士)
- ・これからさらに必要となる時期がくると思いますので、ほかの職員へも参加を促していきたいです。どうもありがとうございました。(30代、救急救命士)
- ・原子力災害について初めて知ったことが多く、とても有益な研修でした。(20代、消防士)
- ・大変ためになる教養でした。ありがとうございます。基礎講座に続き2回目の受講ですが、いつも勉強になります。所属へのフィードバックに努めます。(40代、救急救命士)
- ・何度か放射線の講座を受講しましたが、今一つ分からない部分がありました。今回大部分のところでクリアになりました。(40代、救急救命士)
- ・放射線事故発生時の現場での対応について、この講習を受けてどのような作業を行え

ばよいか知識がついたので良かったです。(20代、警察官)

- ・過去の事例を踏まえ、今後事案が起こった際の連携方法等を各機関全て交えて検討を行えば、各機関の連携がより緊密となり、今後の活動もより良いものとなると思う。

(20代、警察官)

- ・原子力発電所内で実習等してみたいと思います。放管員と話してみたいです。(40代、救急救命士)

2.5 専門研修 原子力災害時医療

本研修は、原子力規制庁との協議の上、各地域の実情に合わせ開催日、開催場所を決定し、次の8道県において実施した。

開催地域：北海道、福島県、神奈川県、石川県、滋賀県、鳥取県、愛媛県及び長崎県

(1)開催実績

	開催日	地域	開催場所	参加人数 (人)
1	平成26年1月13日(月)	長崎県	長崎大学病院	23
2	平成26年1月18日(土)	福島県	南相馬市立総合病院	23
3	平成26年1月19日(日)	愛媛県	愛媛県立中央病院	26
4	平成26年1月25日(土)	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院	32
5	平成26年1月26日(日)	鳥取県	鳥取県立厚生病院	20
6	平成26年2月9日(日)	石川県	石川県立中央病院	21
7	平成26年2月15日(土)	滋賀県	長浜赤十字病院	16
8	平成26年2月22日(土)	北海道	札幌医科大学	19
合計				180
1回あたりの平均参加人数				22.5
定員(20名)充足率				112.5%

(2)カリキュラム

原子力災害時医療 カリキュラム	
9:30～9:50	開会／オリエンテーション
9:50～10:10	イントロダクション
10:10～11:00	講義1「被ばく医療対応」
11:10～12:00	講義2「原子力災害時(汚染・被ばく者)の対応事例」
13:00～13:30	被ばく医療実習ガイダンス
13:30～15:50	実習「被ばく医療実習」
16:00～16:30	被ばく医療実習検証 実習の振り返り(職種別)
16:40～17:00	質疑応答／閉会

(3)実施内容

本研修の講義、実習については、原子力災害対策指針の内容を踏まえ、原子力災害時に汚染のある傷病者への適切な医療対応ができるを目的とした。具体的な実施内容は以下の通り。

なお、講義に入る前のイントロダクションとして、原子力災害時の医療活動における医療機関等での対応の位置づけ、本研修の目的、研修を受けるにあたり知っておいて欲しい基礎知識（被ばく・汚染の形態と放射線防護、原子力災害対策重点区域の範囲、緊急時活動レベル、緊急事態における防護対策実施フロー）の説明を行った。

講義 1：被ばく医療対応

医療機関における汚染を伴う傷病者受入の流れ、急性放射線症候群、線量評価といった緊急被ばく医療に特異的な事項についてスライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・ 緊急被ばく医療の基本理念
- ・ 緊急被ばく医療の原則
- ・ 急性放射線症候群について
- ・ 過去に発生した放射線事故
- ・ 準備する資機材
- ・ 情報の収集
- ・ 患者受入準備
- ・ 創傷部の除染
- ・ 後始末
- ・ 線量評価
- ・ 高次搬送の判断

講義 2：原子力災害時の対応事例

過去の被ばく医療対応の実例を紹介し、実施に際し生じた問題点についてスライドとテキストを用いて講義を行った。

紹介事例は以下の通り。

- ・ (株) ジェー・シー・オー臨界事故

国立水戸病院（現 国立病院機構水戸医療センター）

- ・東京電力（株）福島第一原子力発電所事故
福島県立医科大学

実習：被ばく医療実習

原子力災害時の医療機関での汚染を伴う傷病者への対応について一連の流れを実習で行った。

主な実習項目は以下の通り。

- ・ガイダンス（医療チームでの役割分担の確認）
- ・情報収集
- ・汚染拡大防護措置（養生）
- ・装備の着装
- ・処置室での医療スタッフの配置、役割及び資機材等の確認
- ・医療対応
- ・対応後の医療スタッフの退出
- ・被ばく医療実習検証（各職種（主に医師、看護師、診療放射線技師）に分かれ、実習の振り返りを行った）



講義



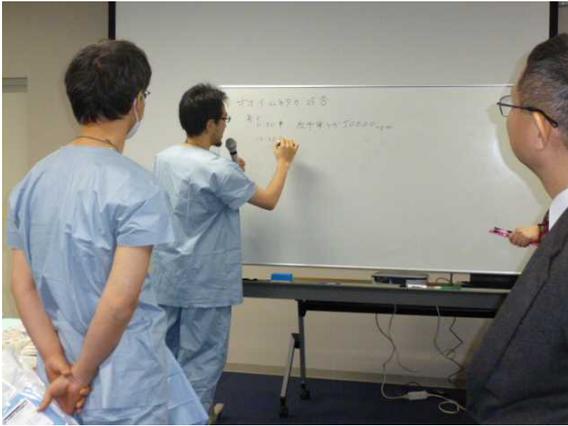
講義



被ばく医療実習 (医療スタッフの配置、役割)



被ばく医療実習 (汚染防止措置)



被ばく医療実習 (情報収集)



被ばく医療実習 (装備の着装)



被ばく医療実習 (資機材、医薬品の確認)



被ばく医療実習 (除染処置)



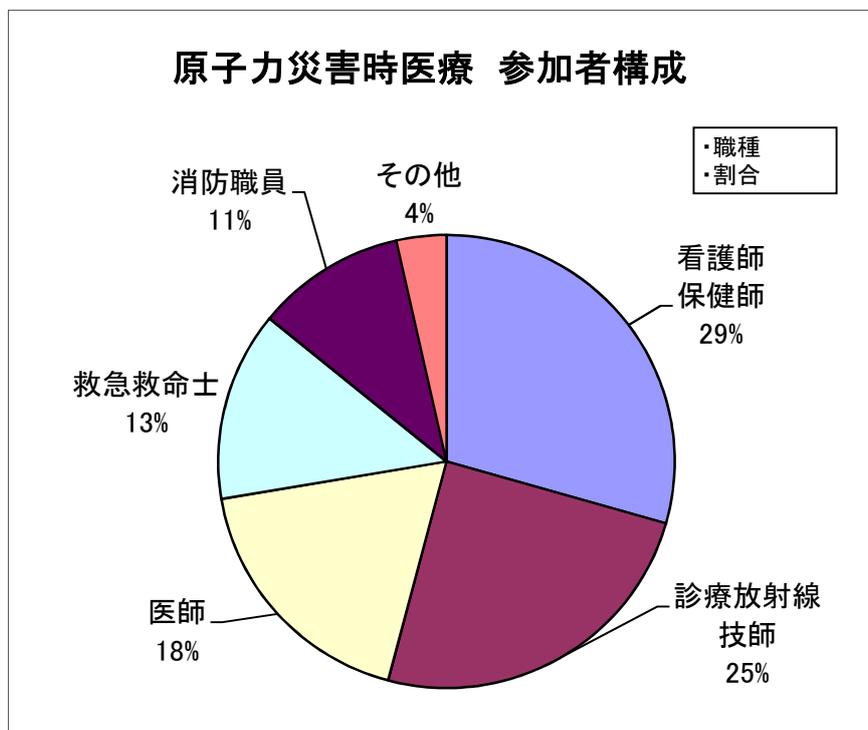
被ばく医療実習 (医療スタッフの脱衣)



被ばく医療実習 (後始末)

(4)実施結果

開催道府県の担当部署と調整のうえ、被ばく医療機関、救急医療機関、災害拠点病院、搬送機関、行政機関等に直接案内をするとともに、HP 等を通じた開催案内の通知を行った結果、原子力災害時医療（全 8 回）の開催を通じ、約 180 人の参加があった。参加者の構成比率は、次の通り。



これらの参加者については、受講前と受講後に同じ設問による理解度確認テストを実施するとともに、受講後、満足度等に関するアンケートを実施した。

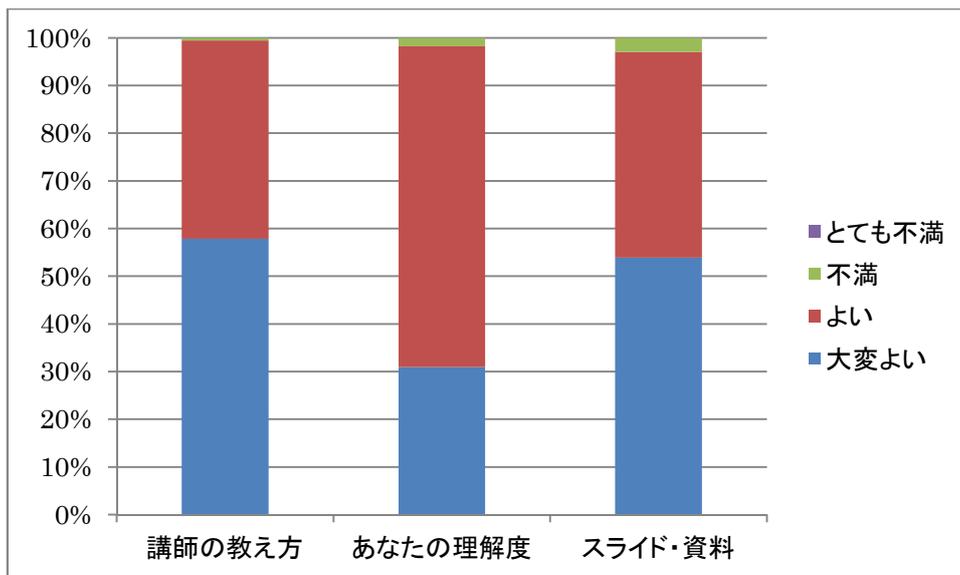
理解度確認テストの実施結果については、全設問（10 問）の平均値において、受講前の正答率が 72.1%であるのに対し、受講後の正答率が 83.8%であることから、本研修の受講により、一定の知識の取得が出来たと考えられる。なお、設問のうち、2 問について、正答率の低下がみられるため、設問の適切性、講義内容等について、次年度以降の検討課題と考えられる。設問ごとの正答率については、次に示す通り。

原子力災害時医療 理解度確認テスト

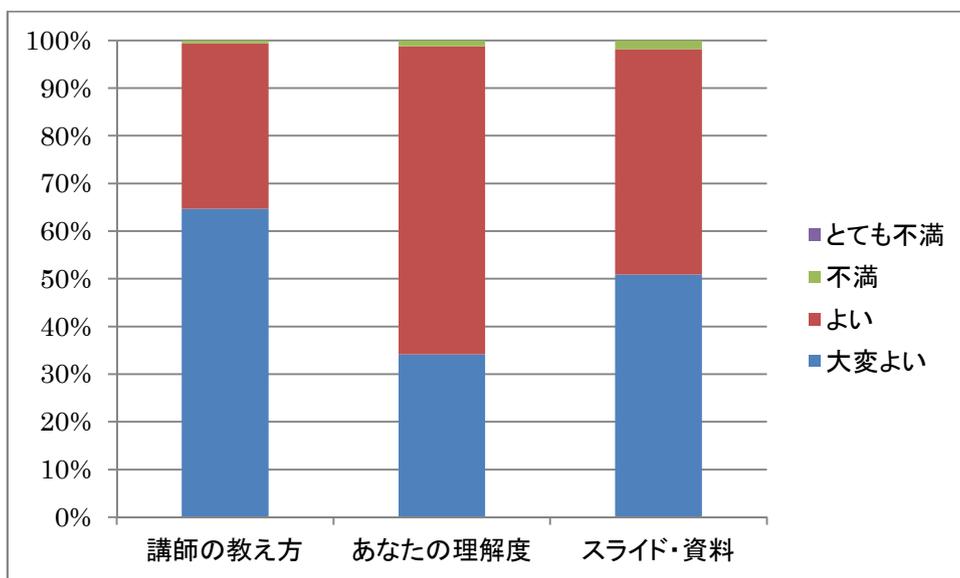
設 問		受講前 正答率 (%)	受講後 正答率 (%)	解答
①	除染の洗浄に用いた水の跳ね返りや漏れへの対応として、汚染区域の床には表面が吸水性、裏面が撥水性のろ紙を敷く。	90	96	○
②	傷病者の処置を行う区域には、緊急事態に備えて、使用する可能性のある資機材を初めから入れておく。	42	42	×
③	原子力災害時の医療対応においても、診断用X線防護用具の鉛エプロンを装着することは外部被ばくの低減に有効である。	65	81	×
④	医療チームに参加する診療放射線技師の役割として、汚染拡大防止のために汚染区域内の物や人の動きの監視や対応を指示することが重要である。	87	86	○
⑤	放射性物質による汚染を伴う傷病者を受け入れた場合、最初に行うのは全身の汚染検査である。	49	84	×
⑥	数回洗浄拭き取りを繰り返しても除染出来ない場合、同部をドレッシングで覆って次の処置等に進んでも良い。	79	95	○
⑦	医療スタッフは、処置終了後に装備を脱ぎ次第、速やかに処置室を離れる。	55	77	×
⑧	除染処置後の患者や内部汚染のある患者の入院治療は、R I 治療室などのように放射線を遮蔽する特別な設備がないとできない。	75	83	×
⑨	放射線被ばくや汚染を伴う患者は、強い不安を抱えている場合が多く、十分なメンタルケアが必要である。	100	99	○
⑩	急性放射線症候群の前駆症状は、被ばく線量が高いほど早期に出現する。	79	95	○
平 均		72.1	83.8	

受講後に行ったアンケート調査については、次に示す通り（開催毎の結果については、参考資料 5 を参照）。

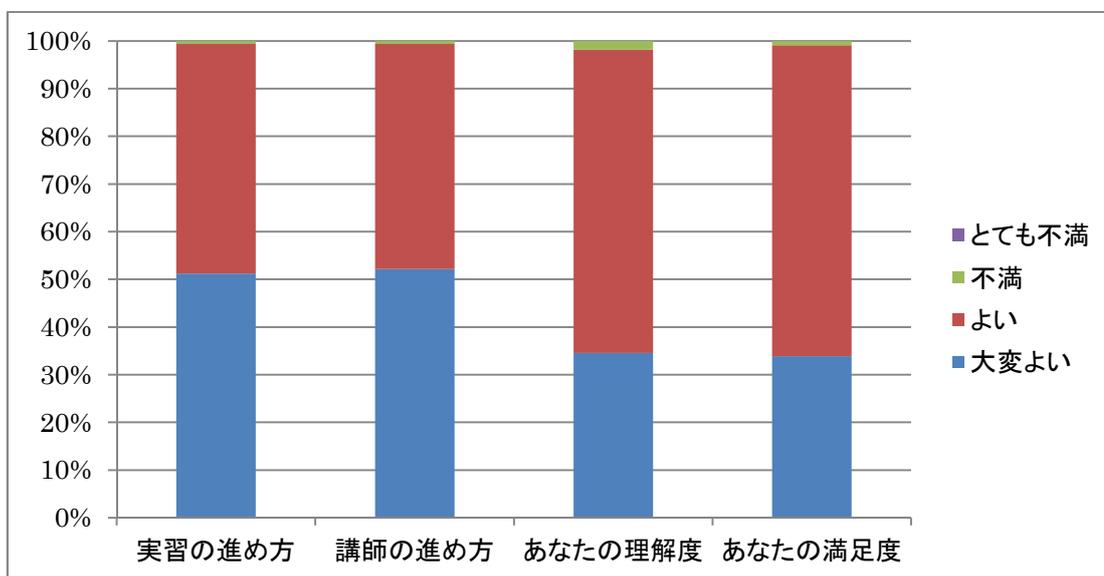
講義 1：被ばく医療対応



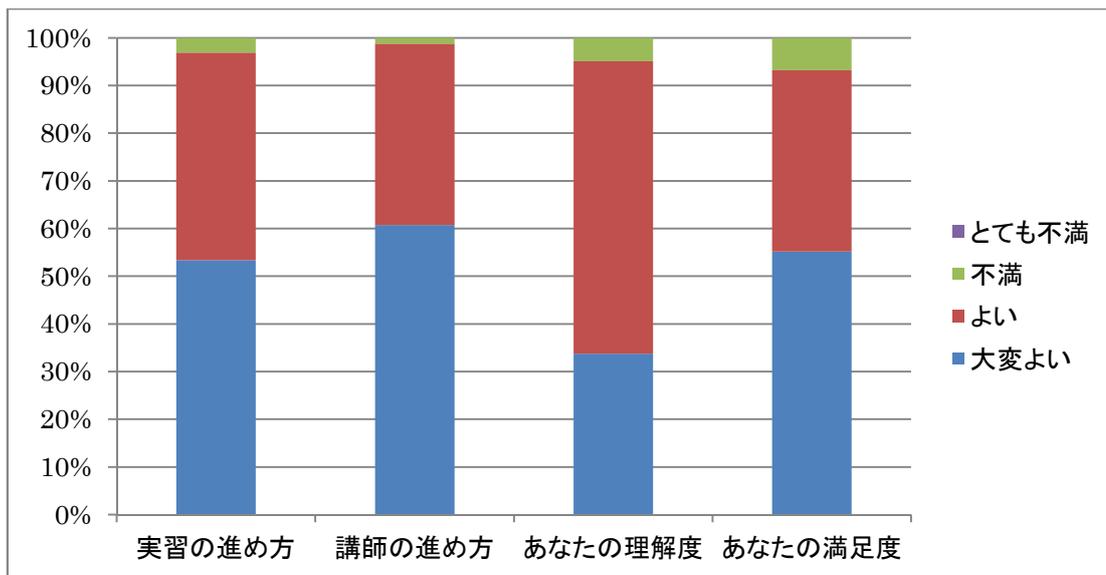
講義 2：原子力災害時（汚染・被ばく者）の対応事例



被ばく医療実習ガイダンス

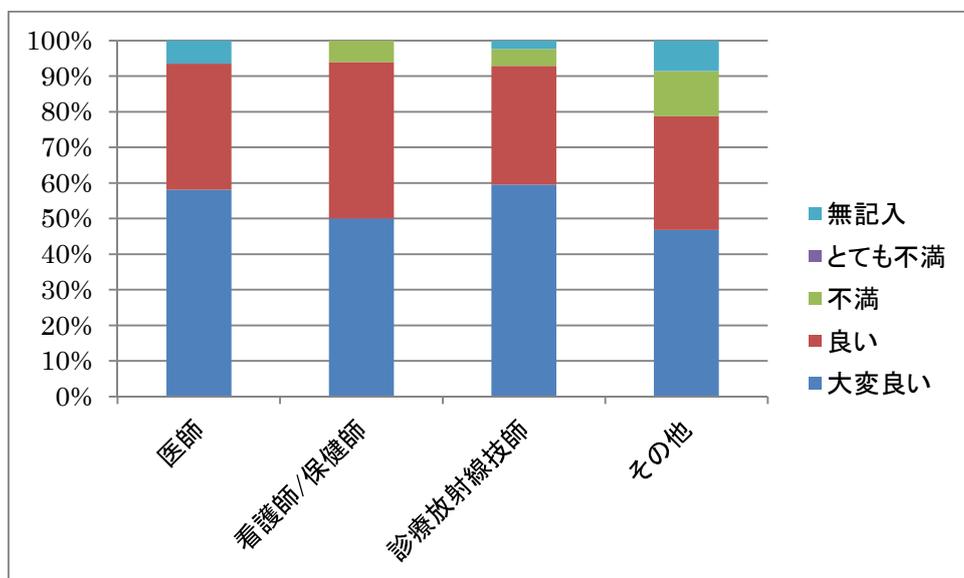


実習：被ばく医療実習



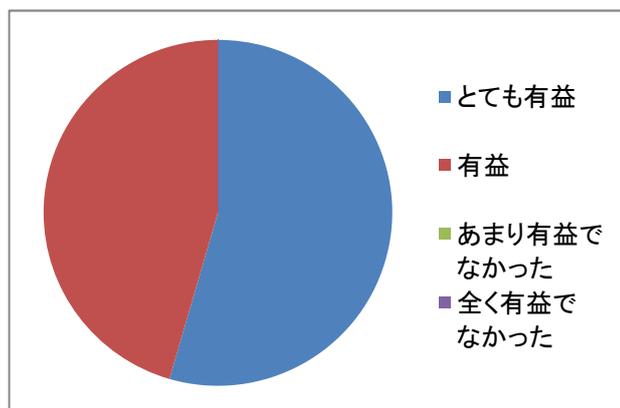
上記アンケート結果のうち、被ばく医療実習の「あなたの理解度」について職種別に分析をしたところ、以下の通り、その他については、「不満」の割合が他の職種に比べ多いという結果となっているが、消防からの受講生が本来業務と異なる内容のため、理解度が低いと判断したと思われる。

実習：被ばく医療実習

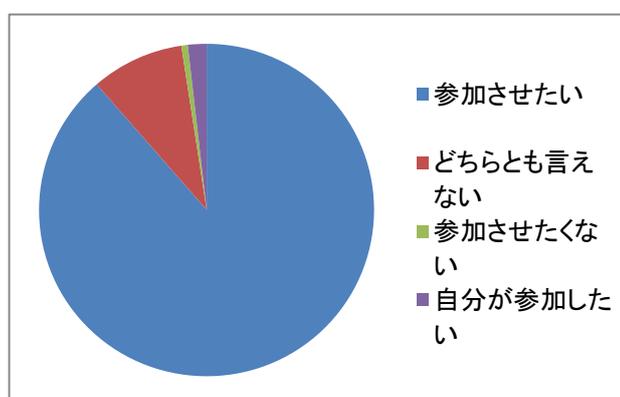


本研修全体について

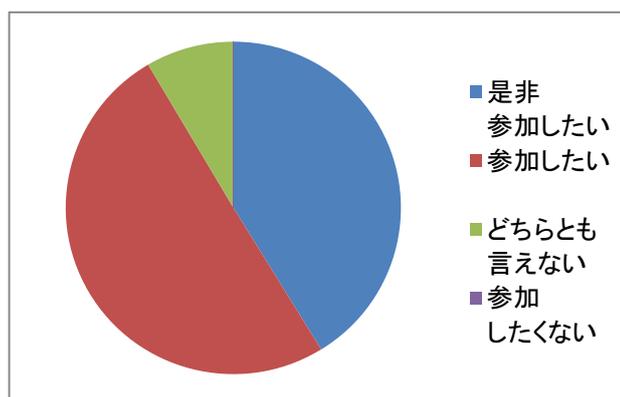
①参加して有益であったと思いますか。



②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。



③研修（専門研修）にも参加したいと思いますか。



【主な意見・要望等】

- ・新しい事実がわかりやすく説明されていて参加して良かった。講義を受けた後に資料を見るとわかりやすくなる。(40代、医師)
- ・情報が錯綜するところがあった。(40代、医師)

- ・記録を担当しましたが、実際は声が聞き取りにくい、周りが見えない状況があると思われる為、声掛け、協力体制が重要であると思いました。(50代、看護師)
- ・時間的制約があるが、リーダーの役目が大きいことから、リーダー作りに取り組むべきである。(30代、救急救命士)
- ・病院事務の参加も必要ではないかと思った。チームとしての研修参加も必要と思う。(30代、医師)
- ・改めて実習することにより、不安だったところが解決し、とてもためになった。また、ディスカッションをすることにより同じ職種の皆さんとわかりあえたので良かったです。機会があればまた参加したいと思います。(40代、診療放射線技師)
- ・同じ研修でも理解を深めるために再度参加したいので研修の回数を増やして欲しいです。(30代、診療放射線技師)

2.6 専門研修 救護所設置・運営

本研修は、原子力規制庁との協議の上、各地域の実情に合わせ開催日、開催場所を決定し、次の8府県において実施した。

開催地域：青森県、宮城県、静岡県、石川県、京都府、島根県、愛媛県及び鹿児島県

(1)開催実績

	開催日	地域	開催場所	参加人数 (人)
1	平成26年3月9日(日)	青森県	青森県労働福祉会館	12
2	平成26年3月10日(月)	愛媛県	中予地方局	11
3	平成26年3月16日(日)	宮城県	石巻赤十字病院	17
4	平成26年3月17日(月)	島根県	島根県原子力防災センター	11
5	平成26年3月21日(金)	静岡県	掛川グランドホテル	8
6	平成26年3月22日(土)	鹿児島県	宝山ホール	13
7	平成26年3月23日(日)	石川県	石川県地場産業振興センター	10
8	平成26年3月25日(火)	京都府	ホテルアマービレ	9
合計				91
1回あたりの平均参加人数				11.4
定員(20名)充足率				57%

(2)カリキュラム

救護所設置・運営 カリキュラム	
9:30～ 9:50	開会／オリエンテーション
9:50～10:10	イントロダクション
10:10～11:00	講義1 原子力災害時の救護所活動
11:10～12:10	講義2 救護所の設置・運営
13:10～14:10	机上演習1 救護所の設置
14:20～15:35	机上演習2 救護所の運営
15:40～16:00	まとめ(質疑応答)／閉会

(3)実施内容

本研修の講義、机上演習については、原子力災害対策指針の内容を踏まえ、原子力災害時において汚染の可能性がある多数の避難者等に係るスクリーニング等を行う救護所のレイアウト及び救護所の運営が適切にできることを目的とした。具体的な実施内容は以下の通り。

なお、講義に入る前のイントロダクションとして、原子力災害時の医療活動における救護所の位置づけ、本研修の目的の説明を行った。

講義 1：原子力災害時の救護所活動

原子力災害対策指針に基づいた原子力防災対策の概要及び救護所の役割についてスライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・原子力災害対策の基本的考え方
- ・原子力災害対策重点区域
- ・原子力災害時の防護措置
- ・原子力災害時における救護所
- ・救護所での活動内容

講義 2：救護所設置・運営

救護所を設営する上で必要な人の構成、部門の配置についてスライドとテキストを用いて講義を行った。

主な項目は以下の通り。

- ・救護所活動構成班
- ・救護所の開設・レイアウト（各エリア設定）
- ・運営（状況の把握、連絡調整、ロジスティック）

机上演習 1：救護所の設置

スライドで提示した避難住民規模に対応する救護所の人員配置、レイアウトについて、グループに分かれてディスカッションを行い、グループ毎に考えたレイアウトを発表し、設置におけるポイントの確認を行った。

レイアウトを検討する際に提供した項目は以下の通り。

- ・事故想定
- ・受入想定
- ・エリア設定
- ・救護所設営時に必要な資機材及び設営例

机上演習 2：救護所の運営

住民避難に対応する機関関係者の初動、及び救護所内での住民の流れ、スタッフの役割について確認した上で、救護所の運営上想定される諸問題を提示し、どのような対応が適切かディスカッションを行い、グループ毎に考えた対応策を発表後、方針の確認を行った。

運営上、考えられる諸問題を以下の通り提示した。

演習 1：受入前確認

- ・救護所の設置が終了し、全面緊急事態となり、住民避難が開始されました。
 - ①受入要請がくるまでに、何を行いますか？
 - ②この連絡をうけ、何を行いますか？

演習 2：受入開始

- ・住民が到着し、受入を開始しました。
 - ①何を行いますか？
 - ②次のような方の対応は、どうしますか？
 - a) 施設敷地緊急事態要避難者（外国人、乳幼児、妊産婦等）
 - b) 避難途中で怪我をした住民
 - c) 住民登録票に記入ができない住民（眼鏡がない、手を怪我している等）
- ・一部の住民について、二次スクリーニングの結果、残存汚染が認められ、被ばく医療機関への搬送が必要です。
 - ③どうしますか？

演習 3：追加受入要請

- ・救護所設置から、現在 20 時間が経過しています。追加の受入要請がきました。
 - ①資機材が足りない状況です。どうしますか？
 - ②スタッフは、開設以来、休憩や食事がとれていない状況です。どうしますか？



講義



講義



机上演習 (レイアウト検討)



机上演習 (レイアウト検討)



机上演習 (レイアウト発表)



机上演習 (レイアウト発表)



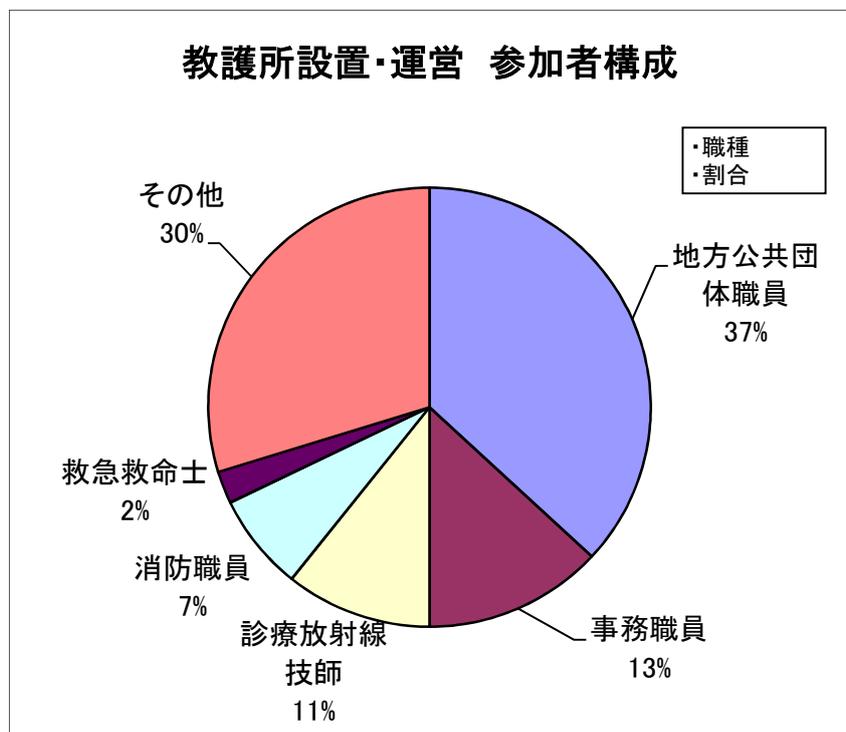
机上演習 (設問に対するグループでの検討)



机上演習 (グループ発表)

(4)実施結果

開催道府県の担当部署と調整のうえ、被ばく医療機関、救急医療機関、災害拠点病院、搬送機関、行政機関等に直接案内をするとともに、HP 等を通じた開催案内の通知を行った結果、救護所設置・運営（全 8 回）の開催を通じ、約 90 人の参加があった。参加者の構成比率は、次の通り。



これらの参加者については、受講前と受講後に同じ設問による理解度確認テストを実施するとともに、受講後、満足度等に関するアンケートを実施した。

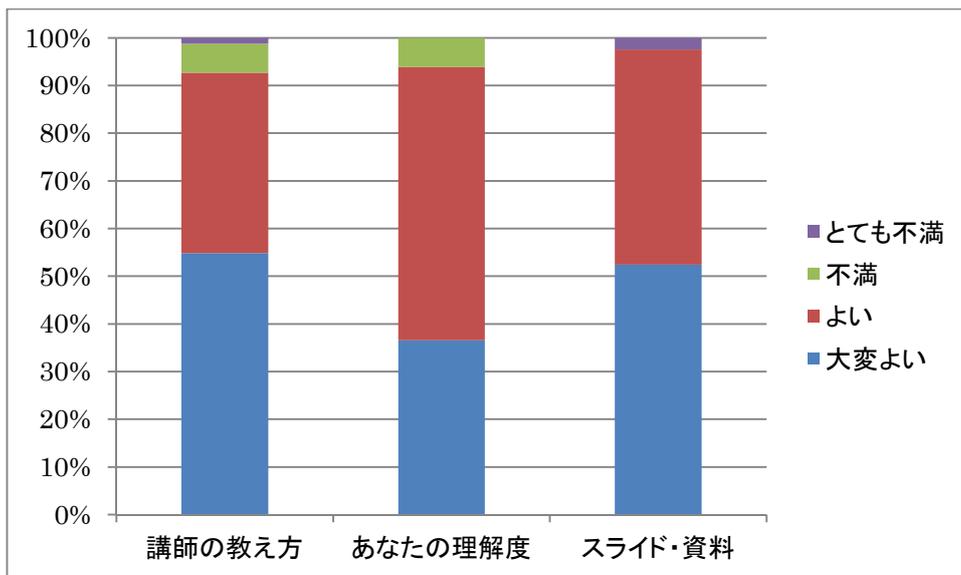
理解度確認テストの実施結果については、全設問（10 問）の平均値において、受講前の正答率が 66.9%であるのに対し、受講後の正答率が 81.7%であることから、本研修の受講により、一定の知識の取得が出来たと考えられる。なお、設問のうち、1 問について、受講前及び受講後ともに正答率が全体的に比較しても低いため、設問の適切性、講義内容等について、次年度以降の検討課題と考えられる。設問ごとの正答率については、次に示す通り。

救護所設置・運営 理解度確認テスト

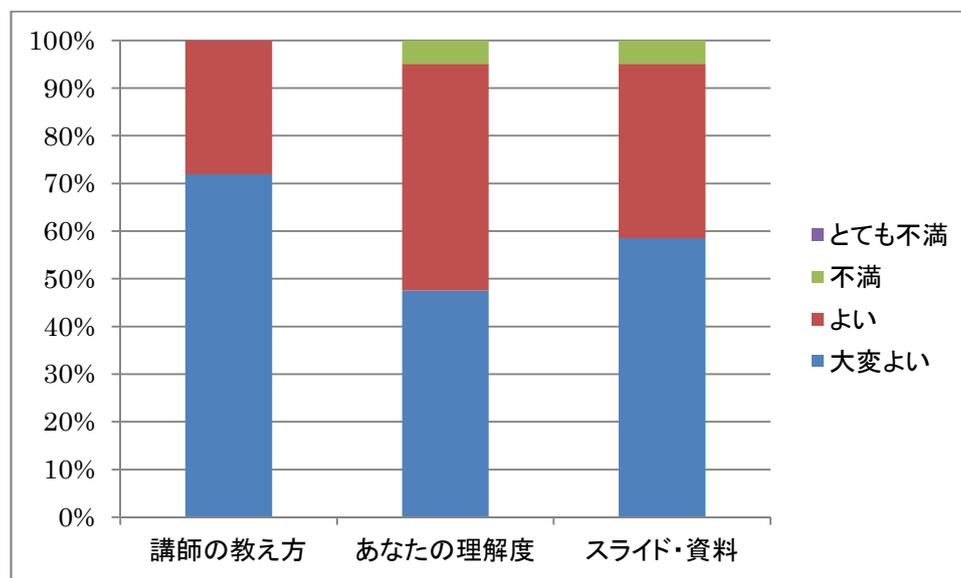
設 問		受講前 正答率 (%)	受講後 正答率 (%)	解答
①	緊急事態は、原子力施設内の状態に応じて警戒事態、施設敷地緊急事態、全面緊急事態の3つに分けられる。	91	99	○
②	放射性物質が放出された後には、放射性物質の放出量や風向・風速、地形等を基にして算出される拡散予測にのみ基づいて防護対策を行ってゆく。	83	88	×
③	UPZにおいては、迅速に緊急時モニタリングを行い、OIL1 (500 μ Sv/h) を超える区域を特定して避難等を実施しないとイケない。	62	78	○
④	病院、介護施設等に在所している等の理由で早期の避難が困難である住民については、避難よりも屋内退避が優先される場合がある。	95	93	○
⑤	我が国では、運用上の介入レベル (OIL) は 1 から 6 の 6 種類が決められている。	35	74	×
⑥	救護所内に応急処置を行うエリアを設定する場合、原則として汚染エリア内に設置する。	37	77	○
⑦	除染エリアは、汚染のある住民が入ってくる汚染エリア側の入口と、除染後の住民が出てゆく非汚染エリアへの出口の二つの連絡口を設けることが合理的である。	3	31	×
⑧	救護所入口の待機場所は住民登録を待つ住民が待機するための場所であり、十分なスペースを設けておけば、特に人員の配置は必要としない。	98	99	×
⑨	放射性ヨウ素の吸入による被ばくが懸念される場合には、甲状腺モニタ等による甲状腺被ばく線量の正確な評価が必要となる。	78	84	○
⑩	救護所の活動は住民の登録、医療救護、汚染検査 (スクリーニング)、診断除染、健康相談、ヨウ素剤配布等であるので、それぞれの担当要員だけそろえば活動は可能である。	87	94	×
平 均		66.9	81.7	

受講後に行ったアンケート調査については、次に示す通り (開催毎の結果については、参考資料 6 を参照)。

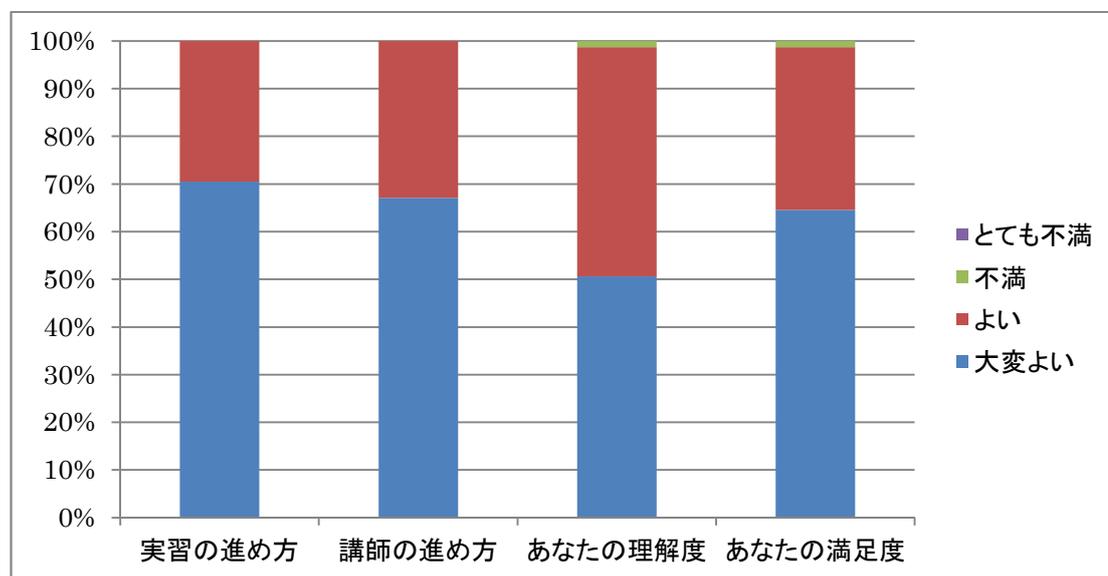
講義 1：原子力災害時の救護所活動



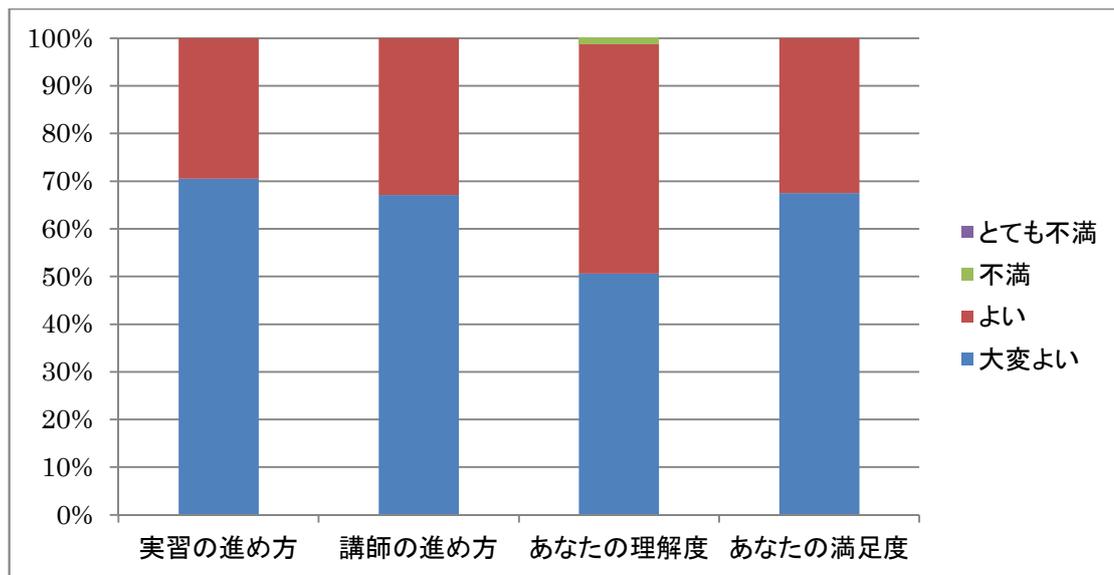
講義 2：救護所の設置・運営



机上演習 1：救護所の設置

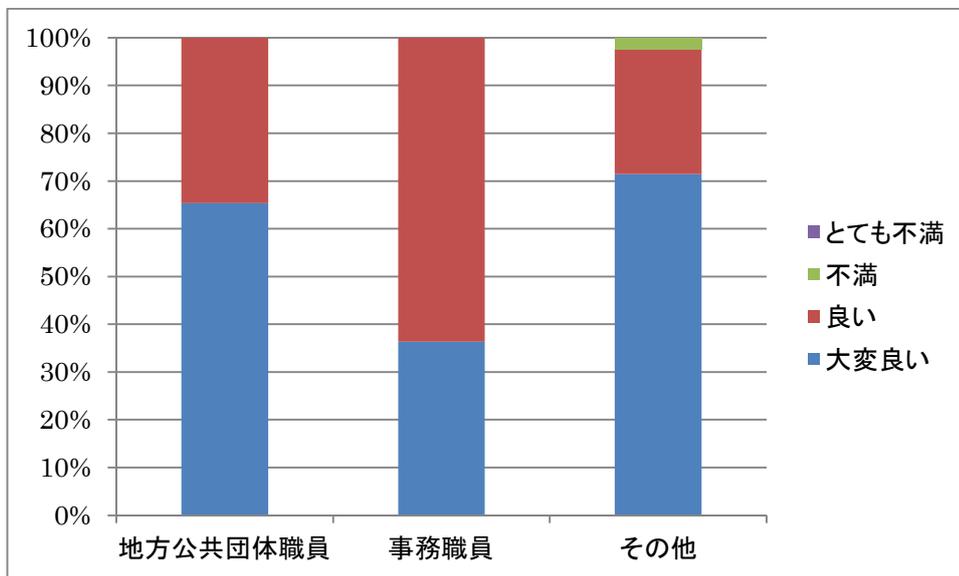


机上演習 2：救護所の運営

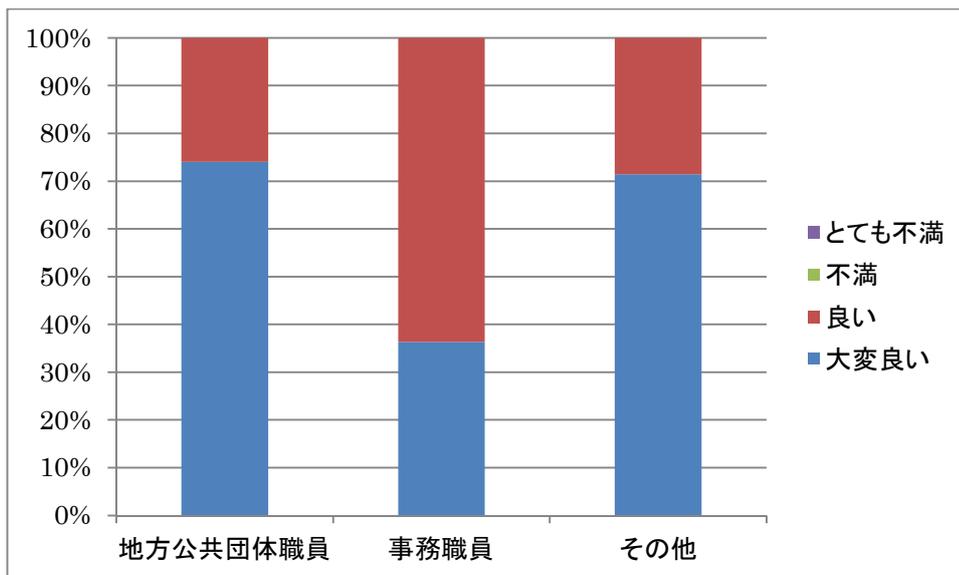


上記アンケート結果のうち、机上演習 1、2 の「あなたの理解度」について職種別に分析をしたところ、以下の通り、地方公共団体職員については、「不満」の割合が他の職種に比べ多いという結果となっている。

机上演習 1：救護所の設置

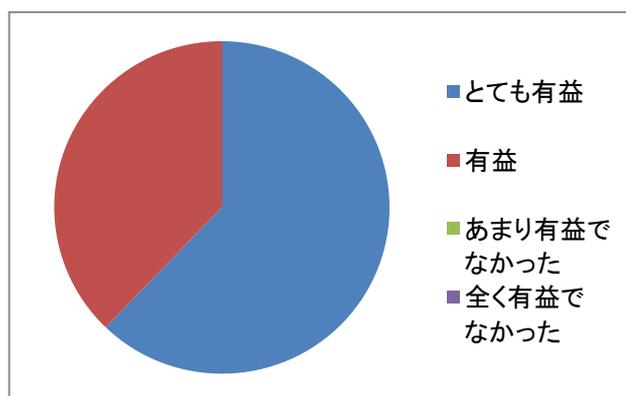


机上演習 2：救護所の運営

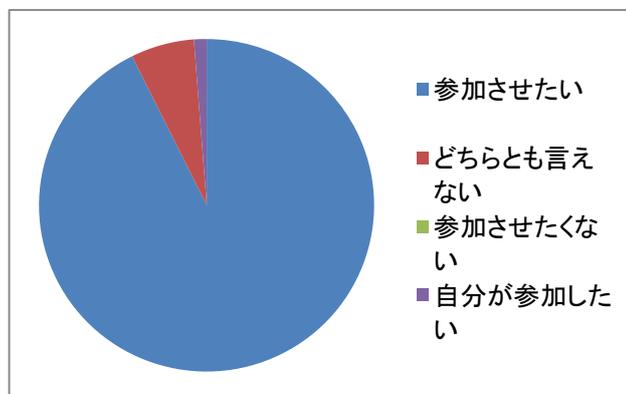


本研修全体について

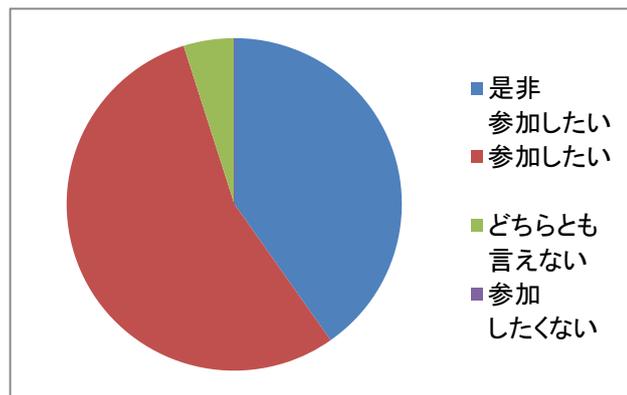
①参加して有益であったと思いますか。



②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。



③研修（専門研修）にも参加したいと思いませんか。



【主な意見・要望等】

- ・救護所のレイアウトが各班や講師の方々から色々と示されて参考になった。（40代、地方公共団体職員）
- ・自分たちの作ったレイアウトだとどうなるか実際に救護所設置も体験したかった。（30代、看護師）
- ・救護所設置・運営のマニュアル作成に参考になった。（50代、地方公共団体職員）
- ・県が原安協と連携して、研修後に実際にもう少し各市町で応用できる研修をしてもらえるとありがたいです。（40代、保健師）
- ・市町でどこまで用意し、県はどこまでやるのか役割が不明に思った。持ち帰るのにイメージが難しく感じました。（40代、保健師）
- ・レイアウトをイメージするために実際に福島で設置された救護所の写真を入れて説明をして欲しかったです。（40代、地方公共団体職員）

第3章 研修効果の充実を図るための活動

3.1 専門家会合

研修内容の企画・改善のため、専門家会合を設置（委員長 山口 芳裕(杏林大学)）し、年2回開催した。会合では、対象とする研修開催前に「原子力災害対策指針（平成25年9月5日改訂）」及びその改訂等を踏まえてテキスト及びカリキュラムの評価・見直しを行うとともに、前年度からの改善事項を反映し、対象となる研修終了後に、課題事項等の抽出を行い、次年度への改善事項をとりまとめた。

また、効果的な研修実施に資する教材作成のため、教材検討ワーキンググループ（被ばく医療関係者の連携）（主査 森村 尚登(横浜市立大学)）及び（スクリーニング・除染、搬送、原子力災害時医療）（主査 浅利 靖(北里大学)）を設置し、「被ばく医療関係者の連携」のワーキングを4回（打合せ会1回を含む）、「スクリーニング・除染」、「搬送」及び「原子力災害時医療」のワーキングを1回開催した。

(1) 専門家会合

① 日時：平成25年10月28日（月） 14:00～16:00

場所：新橋パークサイドビル 6階会議室

議題：平成25年度事業について

内容：6種類ある研修のうち、総合研修（放射線基礎知識）、専門研修（スクリーニング・除染）、専門研修（搬送）及び専門研修（原子力災害時医療）については、基本的な知識や手技手法は指針の改定があっても大きく変わっていないことから、従来の手法で進めながら、適宜改善することとする。

また、新規に作り上げることとした総合研修（被ばく医療関係者の連携）及び専門研修（救護所設置・運営）については、カリキュラム及びテキストの検討を教材検討ワーキンググループに譲ることとした。

テキスト（案）については、委員からのコメントを集め、その結果は委員長と協議して決めることとした。

② 日時：平成26年3月24日（月） 11:30～14:00

場所：原子力安全研究協会 地下会議室

議題：平成25年度事業の実施について

課題事項等の抽出及び改善事項とりまとめ

内容:各研修の実施状況を確認し、教材検討ワーキンググループ及び講師連絡会(合同)のコメントを基に、次年度以降の課題を取りまとめた。

なお、課題については、第4章おわりにで記す。

【打合せ会】

① 日時:平成25年12月2日(月) 19:00~21:00

場所:新橋パークサイドビル 6階会議室

議題:講師連絡会Ⅱの進め方について

内容:講師連絡会Ⅱの開催に先立ち、昨年度の研修にて実施していたスクリーニング、簡易除染、搬送、除染の実習を記録したビデオを確認し、教授ポイント等の確認を行った。

(2)教材検討ワーキンググループ

1)被ばく医療関係者の連携

① 日時:平成25年11月27日(水) 13:00~15:00

場所:新橋パークサイドビル 6階会議室

議題:被ばく医療関係者の連携について

救護所設置・運営について

内容:本ワーキングの在り方及び作業目標を検討したのち、研修の構成について検討を行い、今後の作業(国の決まりを示すスライド、カリキュラム案の作成、JCO及び福島事故の事象整理、演習シナリオの検討)について確認を行った。

② 日時:平成25年12月5日(木) 18:30~20:30

場所:新橋パークサイドビル 6階会議室

議題:被ばく医療関係者の連携について

内容:座学スライドの構成及びワークショップ・机上演習の内容・進め方について考え方の検討を行った。

③ 日時:平成26年1月6日(月) 18:00~20:00

場所:新橋パークサイドビル 6階会議室

議題:被ばく医療関係者の連携について

内容:座学スライド案の内容及びワークショップ・机上演習内容・進め方の確認を行った。座学では、災害医療と被ばく医療の関係と原子力災害医療機関の体制について説明をすることとした。なお、被ばく医療体制については、現在

検討がなされている途中段階のため、現状の体制を説明することとした。また、インシデントコマンドシステム（ICS）の考え方を加えることとした。

【打合せ会】

① 日時：平成 26 年 2 月 26 日（水） 15:30～18:30

場所：新橋パークサイドビル 5 階会議室

議題：被ばく医療関係者の連携について

内容：座学内容及びワークショップ・ケーススタディの講師用シナリオの最終確認を行った。

2)スクリーニング・除染、搬送、原子力災害時医療

① 日時：平成 26 年 3 月 19 日（水） 16:00～18:00

場所：新橋パークサイドビル 6 階会議室

議題：今年度実施研修について

課題及び改善事項について

内容：専門家会合に報告するため、講師を行った委員からのコメントを基に、教材及び研修内容・進め方の改善事項等について取りまとめを行った。

3.2 講師連絡会

各実施地域における研修内容を平準化するため、また、連絡会を効率的に運営するために研修内容の関連性を考慮し、3 つの講師連絡会を設置し、対象研修の開催前に各 1 回開催し教授方法の共有化を図るとともに、研修終了後に実施する専門家会合に先立ち、全体会合を 1 回実施し、課題の抽出及び改善事項のとりまとめを行った。

(1)研修講師連絡会 I（「放射線基礎知識」） ※同内容を 2 日に分けて開催

① 日時：平成 25 年 11 月 12 日（火） 14:00～16:30

① 場所：スター貸会議室 503 号室

② 日時：平成 25 年 11 月 13 日（水） 14:00～16:30

② 場所：原子力安全研究協会 地下会議室

議題：平成 25 年度原子力災害時における医療対応に関する研修について
総合研修（放射線基礎知識）について

内容：総合研修（放射線基礎知識）について、テキストの内容及び講義・実習の指導ポイントを説明し、教授方法が平準化されるよう情報交換を行った。

(2)研修講師連絡会Ⅱ（「スクリーニング・除染」、「搬送」及び「原子力災害時医療」）

① 日時：平成 25 年 12 月 4 日（水） 9:30～12:00

場所：AP 浜松町 会議室 F

議題：平成 25 年度原子力災害時における医療対応に関する研修について

内容：専門研修（スクリーニング・除染、搬送、原子力災害時医療）について、テキストの内容及び講義・実習の指導ポイントを説明し、教授方法が平準化されるよう情報交換を行った。

【看護師打合せ会】

① 日時：平成 25 年 12 月 24 日（火） 14:00～16:30

場所：新橋パークサイドビル 6階会議室

議題：平成 25 年度原子力災害時における医療対応に関する研修について

専門研修（原子力災害時医療）について

内容：専門研修（原子力災害時医療）について、実習・検証における看護師の指導について、指導内容やチェックリスト等について情報交換を行った。

(3)研修講師連絡会Ⅲ（「救護所設置・運営」）

① 日時：平成 26 年 2 月 20 日（木） 16:30～18:30

場所：新橋パークサイドビル 6階会議室

議題：平成 25 年度原子力災害時における医療対応に関する研修について

専門研修（救護所設置・運営）について

内容：専門研修（救護所設置・運営）について、テキストの内容及び講義・実習の指導ポイントを説明し、教授方法が平準化されるよう情報交換を行った。

(4)研修講師連絡会（合同）

① 日時：平成 26 年 3 月 19 日（木） 13:00～15:30

場所：原子力安全研究協会 地下会議室

議題：今年度の実施研修について

課題及び改善事項について

内容：専門家会合に報告するため、講師アンケート及び委員からの感想等を基に、教材及び研修内容・進め方の改善事項等について取りまとめを行った。

3.3 調査・検討

①e-ラーニング

将来的に総合研修（放射線基礎知識）程度の内容が e-ラーニングにより受講できるよう、e-ラーニング用教材、HP の構成等について調査・検討を行うとともに、研修に必要なテキスト等の具体的内容を検討した。

本調査では、被ばく医療関係者（医療関係者、搬送関係者、地方公共団体職員）がそれぞれ使用している既存システム及び HP 構成と学習者としての評価・意見を調査した。調査結果を踏まえ、効果的な研修や学習内容を設計するための要求事項や共通事項（学習目的）、学習者の評価に至るまでの学習プロセスの検討を行うとともに、学習（教材）コンテンツについての概念設計及び指導管理ツールの調査を行った。

(1)既存システム及び HP 構成と学習者としての評価・意見について

1)放射線基礎知識に関する既存 e-ラーニングについて

被ばく医療関係者が使用している既存 e-ラーニングについて、講師連絡会を通じ被ばく医療関係者へのアンケート調査を行ったところ、e-ラーニングを使用したことがあると回答した講師のほとんどが以下の 3 つの教材について利用されていることが明らかになった。

- ・ 診療に役立つ放射線の基礎知識 被ばく医療に関する e-learning
(放射線医学総合研究所：http://www.nirs.go.jp/publication/rs-sci/e_learning/)
- ・ 長崎大学放射線医療科学 e-learning
(長崎大学：<http://www-sdc.med.nagasaki-u.ac.jp/coe/jp/activities/elearning/>)
- ・ 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料
(環境省：<http://www.env.go.jp/chemi/rhm/kisoshiryo-01.html>)

それぞれの目次構成、概要及びアンケート結果を踏まえた学習者の評価・意見は、参考資料を参照。

2)総合研修（放射線基礎知識）と既存 e-ラーニングの相関性について

1)の 3 つの既存 e-ラーニングのうち、総合研修（放射線基礎知識）との内容的な相関が多く見込まれる①診療に役立つ放射線の基礎知識 被ばく医療に関する e-learning と②長崎大学放射線医療科学 e-learning について、総合研修（放射線基礎知識）との相関性については、以下の表 1 の通り。なお、③放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料については、今年度末に見直しを控えていること、百科事典

的な内容であること等から、医療に特化した①及び②についての比較とする。

表1 総合研修（放射線基礎知識）と既存 e-ラーニングとの相関性

総合研修（放射線の基礎知識）の主な項目	①放医研		②長崎大	
	重複の有無	該当目次	重複の有無	該当目次
講義1 放射線の基礎知識				
放射線、放射性物質、放射能	○	2.1.1 2.1.5	○	[1]1)1
放射線の種類	○	2.1.2 2.1.4		[1]1)1
放射線の透過力	○	2.1.6	○	[1]1)1 [1]1)3
放射線核種の壊変、半減期	○	2.1.1 2.1.3	○	[1]1)2
「被ばく」と「汚染」	○	3.2.1 4a.2.5 5.1.3 5.4.1 5.4.2 6.1.4	○	[4]2)
放射線や放射能の単位	○	2.2.2 2.2.3	○	[1]1)1
預託線量				
自然放射線	○	5.2.1		
講義2 人体への影響と放射線防護				
放射線の人体への影響	○	3.1.1 3.1.2 3.1.3	○	[1]2)1 [1]2)2 [4]1)
確定的影響と確率的影響	○	3.1.4		
急性放射線症候群	○	3.2.2	○	[1]2)1
被ばく線量限度	○	5.2.3 5.3.1 5.4.4	○	[4]2)
放射線防護	○	5.1.1 5.1.2 5.4.1		[4]2)
汚染防止				
被ばく・汚染者が対応者に及ぼすリスク				
汚染患者からの二次被ばく線量				
二次被ばくに関する目安レベル				
講義3 原子力災害時の医療対応				
原子力災害対策の基本的考え方	○	6.2.1		
原子力災害対策重点区域				
緊急事態の時間的推移				
緊急時活動レベル				
緊急事態における防護対策実施のフロー				

運用上の介入レベルと防護措置				
原子力災害時の防護措置				
被ばく医療の実施体制の整備	○	6.2.2 6.2.3	○	[5]1)
被ばく医療に関する教育・訓練等			○	[5]1)
安定ヨウ素剤予防服用(体制、方法及び注意点)				
緊急被ばく医療活動	○	6.1.3 6.3.1 6.3.2 6.3.3		
スクリーニング(体表面、甲状腺及び物品)				
個人線量計の推定、健康評価	○	6.1.2		
災害被災者、現場対応者のストレス発生要因				
放射線事故と健康不安	○	6.1.1	○	[4]2) [5]1)
リスクコミュニケーション				
実習 医療活動に必要な放射線測定				
①個人線量計の取り扱い				
②サーベイメータの取り扱い				
使用前点検				
自然放射線の測定				
マントルの測定				
③放射線の性質(垂直距離、遮蔽による変動)				
垂直方向の距離による変動				
遮蔽物による変動				
④放射線測定器の特性				
検出器と測定物の位置関係				
検出器の移動速度による変動				

総合研修(放射線基礎知識)のうち、講義1放射線の基礎知識及び講義2人体への影響と放射線防護の主な項目については、その大部分が①及び②において、取り扱われている。

また、汚染患者からの二次被ばく線量の他、安定ヨウ素剤の予防服用、スクリーニング、リスクコミュニケーション及び原子力災害対策指針の基本的な内容については、いずれにも取り扱いがない(表中、太線で囲まれている部分)。

3)総合研修(放射線基礎知識)のe-ラーニング化について

a. 「講義1放射線の基礎知識」及び「講義2人体影響と放射線防護」について

前項で示したように、総合研修(放射線基礎知識)のうち、「講義1放射線の基礎知

識」及び「講義2人体影響と放射線防護」については、既存e-ラーニング教材の活用により、一定の学習が可能である。

ただし、これらの教材は、医療関係者に必要な放射線に関する知識を広く説明しているために、原子力災害時の医療対応に関わる要員が学ぶ教材としては、直接必要のない部分が多すぎることで、医学知識等を持っている人を対象としているため原子力災害時医療対応に直接関係のない専門的な用語が多く難解であること、各項目が独立して作られており、通読すると重複が多いなど、原子力災害時医療対応の学習教材としてそのまま使うにはそれらが障壁となる可能性がある。

また、研修内容の標準化による知識水準のイコールフットィングや、多忙な医療関係者の時間的制約を考慮するのであれば、一貫して原子力災害時に必要となる放射線医学に関する基礎的な知識を習得できるe-ラーニングが望ましいと考えられる。

b. 「講義3 原子力災害時の医療対応」について

次に、原子力災害対策指針（以下「指針」とする。）に基づき、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故後の原子力防災及び被ばく医療の考え方についてを学ぶための「講義3 原子力災害時の医療対応」については、既存e-ラーニングとの関連性があまりみられない。

しかしながら、講義3は、原子力災害対応の基本となるべき事柄であり、総合研修（被ばく医療関係者の連携）や専門研修の基礎となる重要な部分である。さらに、専門研修では、総合研修との教授内容の重複を避け、より有効なカリキュラムとすべく、指針の内容については、イントロダクションで基本用語の復習をするのみである。

実際に専門研修の受講者からは、次のようなコメントが出ている。

- ・原子力災害について、法律や活動の基本的なことについて詳しく教えて頂ければ理解しやすかったです。
- ・聞きなれない言葉を理解しながら、講義についていくのが大変です。
- ・不満とかではなく、予備知識が乏しいため、難しい。

これらの点を踏まえると、原子力災害時医療における医療対応に関する研修については、指針素養が必須であり、原子力災害時の役割に応じて必要となる知識について、事前に時間をかけ自己学習をしておくことにより、より一層、研修内容の理解が深まると考えられる。そのため、専門研修の内容に合わせて選択受講が可能となるような事前学習用のe-ラーニング教材の導入はとても有用であり、専門研修の受講効果を上

げる相乗効果も期待できると考えられる。

また、原子力災害対策指針は、特に医療関係者にとっては、普段なじみのない文書であり、講義3の受講者からは、次のようなコメントが出ている。

- ・概念的な話で難しかった。
- ・具体的対応や図があると良かった。
- ・法的用語、専門用語は理解しにくい。
- ・行政的な説明が中心であったので、より実践的な内容であった方が良いと思う。
- ・動画や実例を多用してほしい。
- ・被ばくに対する対応について、もっと「組織として何をおこなえばよいのか」に重点をおいてほしかった。国としての方針は分かりましたが、発災時に自分が何を行うべきなのか想像がつかなかった。

そのため、概念を図式化するとともに、特に原子力災害時医療に関する部分について、具体的な対応の様子の写真や動画を入れる等の工夫が必要である。

c. 「実習 医療活動に必要な放射線測定」について

測定器を用いた実習については、原子力災害時には、多数の住民等や物をスクリーニングする必要が生じるため、実際に測定器を用いて取扱い等を学ぶことはとても重要である。

受講者からも次のようなコメントが出ている。

- ・実習を行ったことで、「距離、時間、遮蔽」について理解が深まった。
- ・今回は線源を使った線量測定で様々な実習ができてよかった。
- ・実際に実習をやったので、よかったと思う。

これらを踏まえ、今後も、e-learning教材を通じて得た知識を確認し、測定器の取扱い技術を習得する研修の実施は不可欠であるとする。

(2)原子力災害時医療対応に関するeラーニングに求められる学習プロセスについて

総合研修（放射線の基礎知識）における放射線医学に関する基礎知識や原子力災害対策指針における考え方等をeラーニングで効果的に学習するための学習プロセスとして、総合研修（放射線基礎知識）の内容や実施方式、既存eラーニングに対する学習者の意見・評価等を踏まえ、以下のような案（図1）を考えた。

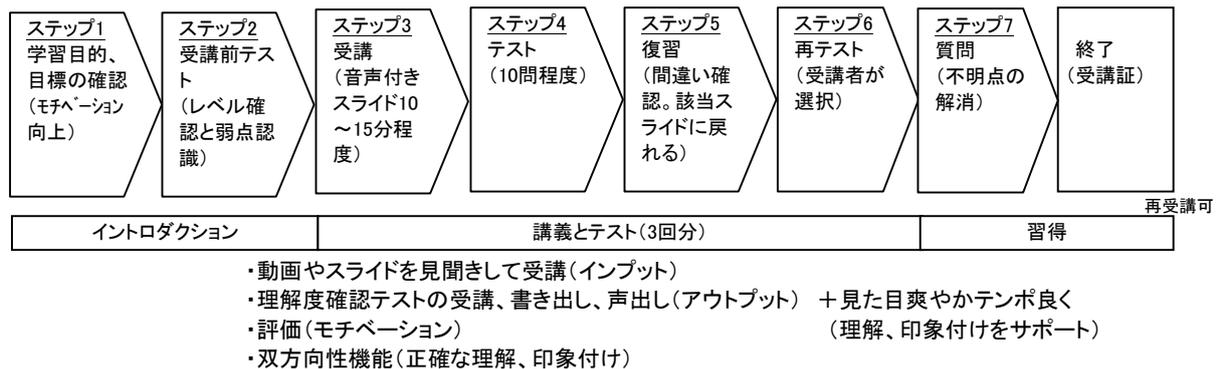


図1 学習プロセスと設計上の工夫

本学習プロセスでは、学習目的を明確にし、事前にテストを受けることで不明な点を明確にし、その上で講義を受講することで、効率的な受講を可能にするとともに、疑問点を意識した効果的な受講を可能にする。また、理解確認の問題を解くことにより習得した知識の定着効果を期待している。

さらに、受講は、登録制とし、知識の習得、定着の度合を自身で確認できるようにするとともに、より上級の研修の案内や一定期間ごとの復習を促すなどを要求項目とすることで、継続的かつ段階的な受講を促進させる効果が期待できる。

また、習得した知識の定着度については、訓練等の実践の場における受講者の行動の変化を計測することで、受講内容の実際の役立ち度合を測り、受講内容のリマインド効果を期待するとともに、学習内容の実践度について検証を行うことが重要である。ただし、そのような測定は、受講前後による行動の変化や受講者と非受講者の行動差を計測することになるため、実施の方策は、今後検討する必要がある。

(3)原子力災害時医療対応に関する e-ラーニング学習(教材)コンテンツ概念設計、指導管理ツールについて

本e-ラーニングについては、前述の学習プロセスに基づく概念設計の具体案を参考資料に示すとともに、基本画面に関するイメージ図を図2に示す。

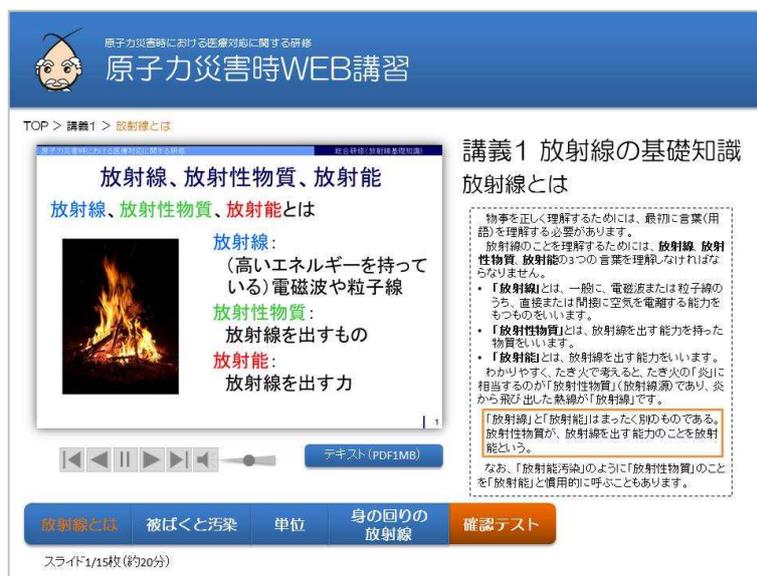


図2 「総合研修（放射線の基礎知識）」e-ラーニング基本画面イメージ

次に、指導管理ツールについては、学習者のコメントにも出ているようにe-ラーニングに双方向性があると、受講者の即時の疑問解消等が期待でき、受講効果の向上も期待できる。これについては、ビデオチャットのようなツールを組み込み、学習をフォローする方式があり、指導者の常時対応が可能であれば、チャット（テキスト型、音声型、テレビ型、1対1型、会議室型等）によるリアルタイム指導も可能である。ただし、総合研修（放射線基礎知識）の受講者が1,200人規模（今年度実績）と仮定し、専門研修開催前等は学習者が増えることを想定すると、実際の運営は困難が予想される。こうした場合は、即時対応ではないが、掲示板や電子メールを活用する方法もある。よくある質問についてはFAQとしてまとめると良いと考える。

②ホールボディカウンタ

全国のホールボディカウンタの台数及び操作可能な人数を調査し、ホールボディカウンタ研修のニーズについて調査・検討を行った。

原子力施設の立地・隣接道府県においては、地方公共団体、被ばく医療機関ならびに原子力発電所等に対し、設置状況の照会を行った。また、全国においては、製造・販売業者（代理店を含む）にホールボディカウンタの設置状況について照会を行った。その後、調査対象機関に対し、台数、操作可能な人数、研修ニーズの他に、型式（形状）、設置状況、メンテナンス状況等についてアンケート調査を行った。また、今年度新たにホールボディカウンタの設置を行った機関、原子力施設の立地・隣接ではない県に対する

聞き取り調査を行った。

なお、本調査・検討にあたっては、調査項目の詳細内容の検討ならびに結果とりまとめのためホールボディカウンタ調査検討会（委員長 占部 逸正(福山大学)）を設置した。

(1)ホールボディカウンタ調査検討会

① 日時：平成 26 年 2 月 2 日（日） 14:00～16:00

場所：新橋パークサイドビル 6 階会議室

議題：調査の進め方について

内容：調査対象機関に送付するアンケートの項目について検討を行った。

② 日時：平成 26 年 3 月 13 日（木） 14:00～16:00

場所：新橋パークサイドビル 6 階会議室

議題：調査結果等について

内容：アンケートの調査結果について確認すると共に、実地調査機関について検討を行った。

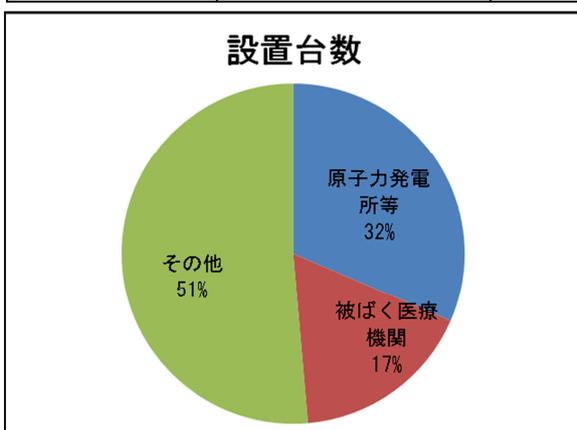
(2)アンケート調査

ホールボディカウンタの設置状況について照会を行った 98 の機関に対し、台数、操作可能な人数、研修ニーズの他に、型式（形状）、設置状況、メンテナンス状況等についてアンケート調査を行った。

アンケート調査の結果については、以下の通りである。

①アンケートの回収状況について

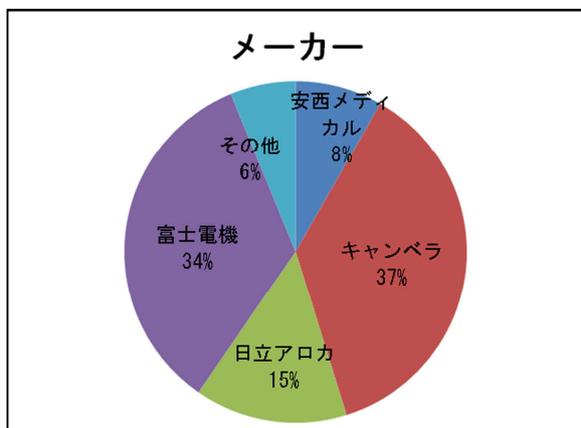
	原子力発電所等等	被ばく医療機関	その他※	計
対象機関	18	25	55(37)	98
回答機関数	16	22	46(24)	84
設置台数	46	25	75(39)	146



※（ ）内は福島県内の数値

②メーカーについて

	安西メディカル	キャンベラ	日立アロカ	富士電機	その他	計
原子力発電所等	0	4	4	38	0	46
被ばく医療機関	4	5	11	4	1	25
その他	8	45	6	8	8	75
合計	12	54	21	50	9	146

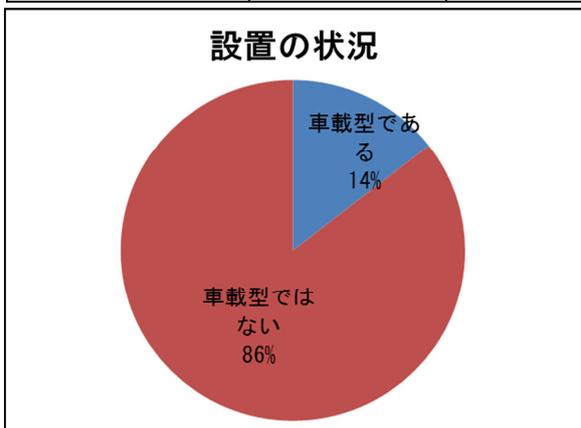


・原子力発電所等は富士電機、被ばく医療機関は日立アロカ、その他はキャンベラが多く導入されている。

・福島県内では、導入されたうちの86.1%がキャンベラのスタンディング型（FASTSCAN）であった。

③車載型かどうか

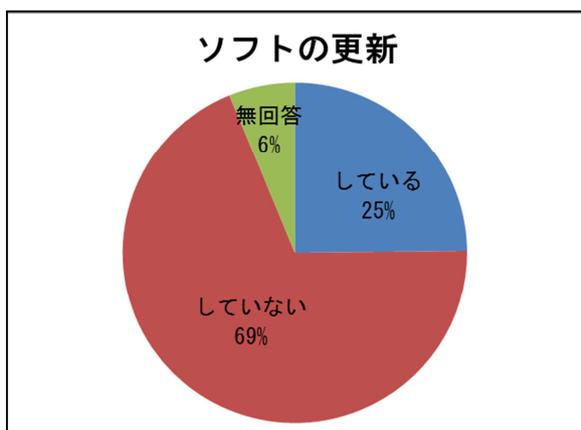
	はい	いいえ	総計
原子力発電所等	1	45	46
被ばく医療機関	0	25	25
その他	20	55	75
合計	21	125	146



・車載型20台のうち、半数の10台が福島県内に導入されたものであった。

④ソフトのメンテナンス

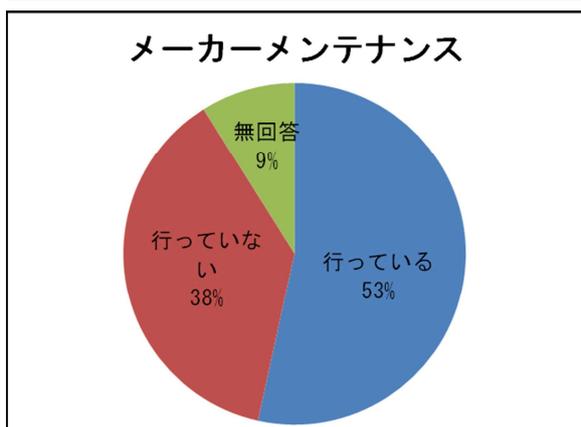
	している	していない	無回答	総計
原子力発電所等	12	33	1	46
被ばく医療機関	4	17	4	25
その他	20	51	4	75
合計	36	101	9	146



・ソフトの更新をしていない機器が全体の69.1%にあたる101台あったが、そのうち68台が福島事故後に導入した新しいものであった。

⑤メーカーのメンテナンス

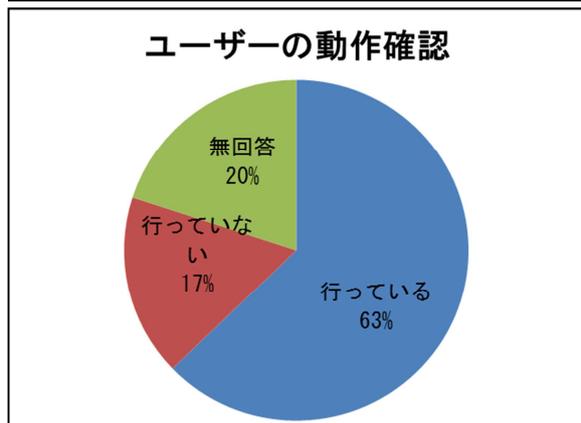
	行っている	行っていない	無回答	総計
原子力発電所等	23	21	2	46
被ばく医療機関	20	2	3	25
その他	35	32	8	75
合計	78	55	13	146



・メーカーによるメンテナンスは、全体の53.4%にあたる78台で実施しており、そのうち被ばく医療機関では、80.0%の20台がメンテナンスを実施している。

⑥ユーザーによる動作確認

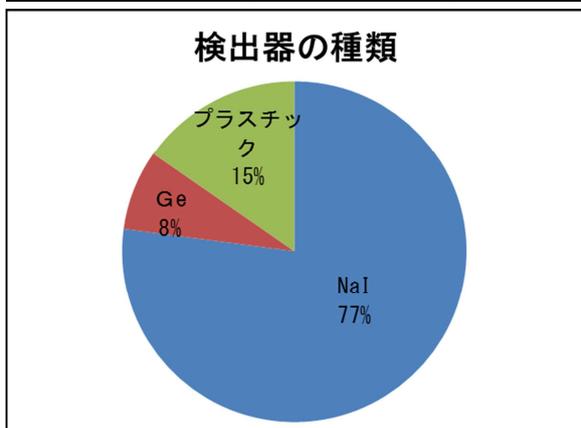
	行っている	行っていない	無回答	総計
原子力発電所等	27	2	17	46
被ばく医療機関	20	1	4	25
その他	45	22	8	75
合計	92	25	29	146



・ユーザーの動作確認として、原子力発電所等及び被ばく医療機関については、年1回以上の動作確認を行っている。簡易な確認は毎日実施しているケースもあった。

⑦検出器の種類

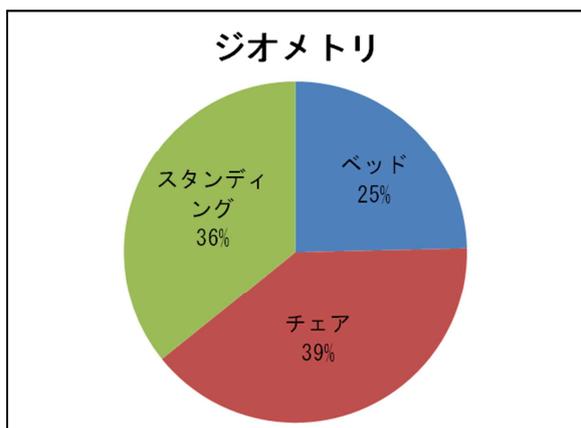
	NaI	Ge	プラスチック
原子力発電所等	18	5	15
被ばく医療機関	20	1	0
その他	63	4	5
合計	101	10	20



・検出器の多くが NaI を用いており、一部の機器で複数の測定器（NaI とプラスチックなど）を用いているものがあった。

⑧ジオメトリについて

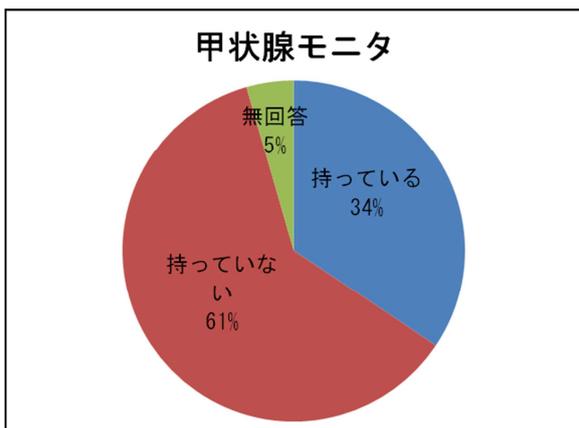
	ベッド	チェア	スタンディング
原子力発電所等	19	17	3
被ばく医療機関	2	17	3
その他	12	19	42
合計	33	53	48



・ジオメトリについては、チェア型(53台)、スタンディング型(48台)、ベッド型(33台)の順であり、原子力発電所等ではベッド型が、被ばく医療機関ではチェア型が、その他ではスタンディング型の割合が高かった。

⑨甲状腺モニタ

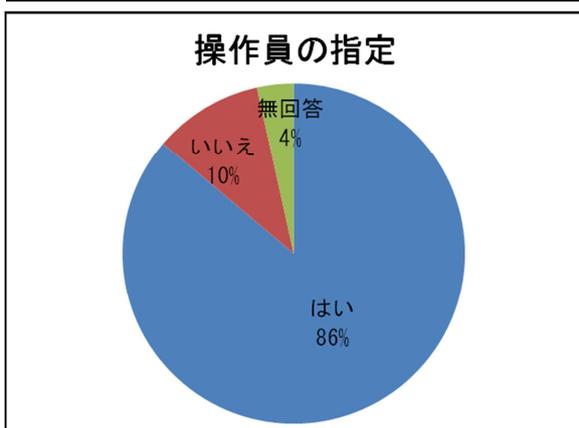
	持っている	持っていない	無回答	総計
原子力発電所等	2	15	0	17
被ばく医療機関	14	8	1	23
その他	15	32	3	50
合計	31	55	4	90



・甲状腺モニタについて、31 機関が所持していたが、55 機関では所持していなかった。

⑩操作員の指定

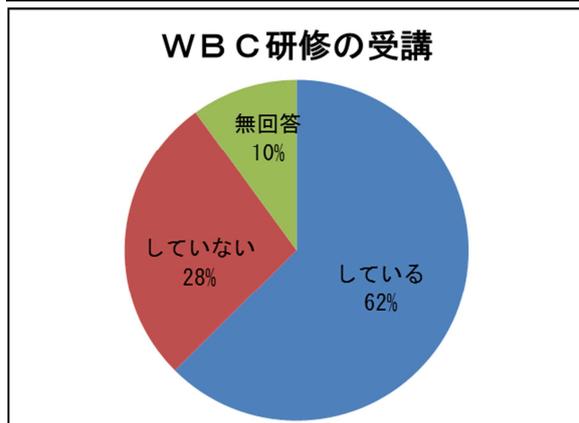
	はい	いいえ	無回答	総計
原子力発電所等	16	1	0	17
被ばく医療機関	20	2	0	22
その他	39	6	3	48
合計	75	9	3	87



・機器を操作する担当を決めているかについて、86.2%の 75 機関では決まっていた。また、原子力発電所等では、94.1%の 16 機関、被ばく医療機関では、90.9%の 20 機関、その他では 81.2%の 39 機関において、操作する担当が決まっていた。

⑪ホールボディカウンタ研修の受講

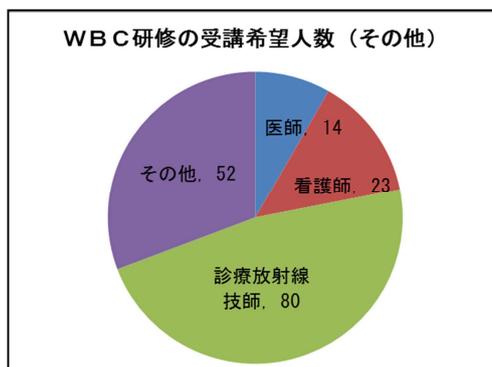
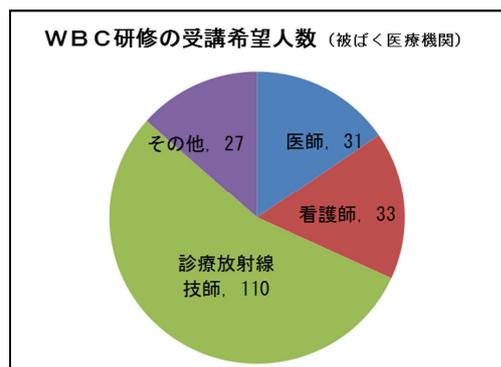
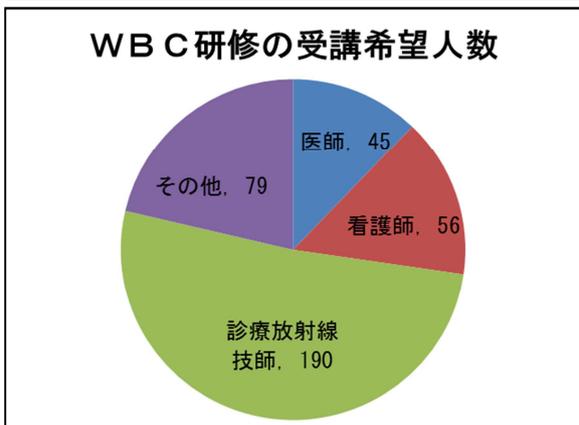
	している	していない	無回答	総計
原子力発電所等	4	9	4	17
被ばく医療機関	20	2	0	22
その他	26	11	4	41
合計	50	22	8	80



・ホールボディカウンタに関する研修は、62.5%の 50 機関で受講があり、原子力発電所等では、23.5%の 4 機関で、被ばく医療機関では、90.9%の 20 機関で、その他では、63.4%の 26 機関で受講歴があった。

⑫研修希望

	医師	看護師	診療放射線技師	その他	総計
原子力発電所等	0	0	0	0	0
被ばく医療機関	31	33	110	27	201
その他	14	23	80	52	169
合計	45	56	190	79	370



- ・被ばく医療機関、その他機関共にホールボディカウンタ研修の受講経験のある機関から、研修希望があることから、繰り返しの受講を希望していることが伺える。

（被ばく医療機関については、回答のあった全ての機関で受講履歴があった）

(3)実地調査

①愛媛大学医学部附属病院（立地・新規）

【背景】

愛媛県では、愛媛県オフサイトセンターにホールボディカウンタが設置（医療機関ではないため、常勤の操作員はいない）されているが、伊方原子力発電所より直線で約4.5kmの距離にあることから、全面緊急事態（EAL3）においては、避難区域になってしまう。また、二次被ばく医療機関（松山市）に搬送後、内部被ばくの評価が必要となった際に、発電所に近い伊方町まで戻ることは患者への負担となる。これらを受け、平成26年2月に愛媛大学医学部附属病院（二次被ばく医療機関）に新たにホ

ールボディカウンタが設置されたものである。

【調査内容】

- ・キャンベラの FASTSCAN（スタンディング型）を導入し、放射線部で管理。
- ・ファントムはないが、校正用線源（Cs-137）により月 1 回のユーザーによる動作確認を実施。
- ・平成 26 年 3 月 24 日現在、対象者の測定の実績はなく、具体的な使用予定も示されていない。
- ・操作員として 5 名の診療放射線技師が指定されているが、導入時にメーカーによる操作指導を受けたのみで、ホールボディカウンタの研修受講はなし。
- ・以前より、愛媛大学医学部附属病院の診療放射線技師は、就職後の研修の一環として愛媛県オフサイトセンターに設置されているホールボディカウンタにて研修を実施しているが、メーカーやジオメトリ（安西メディカル、チェア型）が異なることから、研修の受講を希望している。

②大津赤十字病院（隣接・新規）

【背景】

滋賀県が、関西電力株式会社大飯発電所及び高浜発電所の UPZ（30km）圏として隣接県に加わったことにより、平成 26 年 2 月に大津赤十字病院（初期被ばく医療機関）に新たにホールボディカウンタが設置されたものである。

【調査内容】

- ・キャンベラの FASTSCAN（スタンディング型）を導入し、放射線部で管理。
- ・点検については、次年度以降メーカーによる点検を予定している。
- ・平成 26 年度 5 月から、福島県からの避難住民のうち希望する者を対象として、週 2 日（4 人／日）の枠を設けて測定を行う予定。測定結果の説明も診療放射線技師が行う予定としている。
- ・操作員として、3 名の診療放射線技師が指定されており、原子力機構の協力による 3 日間の研修を受講している。
- ・今後操作員をさらに増員する必要があることからホールボディカウンタの研修の受講を希望している。加えて、平成 25 年度に被ばく医療機関に指定され原子力災害時対応の枠組みに組み込まれたため、ホールボディカウンタ以外の被ばく医療に関わる研修の受講も希望している。

③那須町保健センター（その他・新規）

【背景】

那須町では、福島第一原子力発電所事故後に空間線量の上昇を示したため、町民の内部被ばく検査を行うため、町の予算（ふるさと那須町応援寄付金[ふるさと納税]）で平成 24 年 7 月に那須町保健センターに新たにホールボディカウンタが設置されたものである。併せて同保健センターでは母乳や尿の分析、子供の甲状腺エコー検診も実施している。

【調査内容】

- ・ ATOMTEX（ベラルーシ）のチェア型を導入。
- ・ 年に一度メーカー（代理店）による点検が行われているほか、使用時にユーザーによる動作点検（Cs-137 線源を用いた）を行っている。
- ・ 平成 24 年 7 月から町内希望者を対象に検査を開始し、同年 9 月からは町外の希望者にも対象を拡大した。
- ・ 操作員は看護師 1 名が指定されている。操作員は導入時にメーカー指導により操作を習得し、外部研修等には参加していない。
- ・ 結果説明（測定値のみで、預託線量評価は行っていない）も操作を行う看護師が行っている。健康相談に関する質問も多いことから、看護師の経験が役立っている。
- ・ 操作員が放射線に関する専門知識を有していないために、一通りの研修を希望しているが、中でもホールボディカウンタの概要と測定に関する研修が望まれている。

(4)まとめ

アンケート調査及び実地調査の取りまとめは以下の通りである。

- ・ 原子力災害対策指針（平成 24 年 10 月 31 日作成、平成 25 年 9 月 5 日全部改正）44 ページ①被ばく医療の実施体制の 5 番目「甲状腺スクリーニングの詳細な測定には、核種に応じて甲状腺モニターやホールボディカウンター等を用いた計測を行うこととなるが、専門知識や危機管理等を必要とするため、詳細な測定が可能な施設などをあらかじめ特定し、当該施設との連携体制を整備しておくこと。また長期の健康管理に備え、測定結果を蓄積し、管理できる体制を整備しておくこと。」と記されていることから、

- 1)ホールボディカウンタは、福島事故以降に被ばく医療機関や保健所や研究機関以外の機関に多数設置されてきている。そのため、地域の内部被ばく評価体制におけるホールボディカウンタ設置医療機関の果たすべき機能を明確にし、その能力に応じた役割が担えるような連携体制が整備されることが望まれる。
- 2)多くの被ばく医療機関では、操作員の指定がなされており、また、ホールボディカウンタの研修を受講していることが伺える。このことより、地域において被ばく医療の拠点となりうる医療機関において、高度人材育成の一環として研修を実施し、ホールボディカウンタを用いた高度な診断（測定結果から内部被ばくを正しく評価し、被検者に内部被ばくについて正しく説明）ができる専門家を育成する必要があると考えられる。
- 3)被ばく医療機関では多くの機関において、メーカーメンテナンスやユーザーによる動作確認がなされていることから、今後拠点となりうる医療機関のホールボディカウンタ運転員は、メーカーによるメンテナンスや自身による動作確認を通じて機器の操作に習熟していくことが望ましい。

3.4 アンケート調査等の実施

研修効果の向上を図るため、受講者へのアンケート調査等として、以下を実施し、研修効果の向上を図った。

(1)受講者へのアンケート調査

研修開催に際して受講者へのアンケート調査を実施し、集計結果は担当講師に送付して教授方法改善のための参考とすると共に、専門家会合の資料として課題抽出の材料とした。

また、本報告書において、各研修の実施結果に取り上げると共に、参考資料として掲載を行っている。

(2)受講者の理解度確認テスト

研修開催に際して受講者への理解度確認テストを実施した。理解度確認テストは、受講の前と後に同じ設問に回答をし、理解度の推移を調査することを目的として実施した。受講前については、回収後に当日の講師が確認を行い、講義等において強調する部分の把握などに利用した。受講後も含めた結果は、受講者アンケートの結果と共に担当講師に送付している。

また、本報告書において、各研修の実施結果に取り上げると共に、参考資料として掲載を行っている。

(3)受講後 Web テスト

研修毎（6種類）に5問の設問を設定し、受講後の復習に資するための Web テストを設置した。

(4)講師へのアンケート調査

研修毎に講師へのアンケート調査を実施し、講師連絡会（合同）等の資料として課題抽出の材料とした。

第4章 おわりに

4.1 今後の課題及び取りまとめ

講師連絡会、教材検討ワーキングの検討を受け、専門家会合において、研修毎のカリキュラム、テキスト及び講師の教授方法の改善、提案事項を取りまとめた。

(1)総合研修（放射線基礎知識）

- ・講義 3「原子力災害時の医療対応」は文字が多いため、見やすさについて見直しが必要である。
- ・実習「医療活動に必要な放射線測定」は、職種によって知識の程度に違いがあるため、どの職種に合わせた内容とするかが課題である。
- ・実習「医療活動に必要な放射線測定」において、基礎としてどこまで教えるべきかを見直し、適宜専門研修（スクリーニング・除染）のスクリーニング実習へ移すなど検討が必要である。

(2)総合研修（被ばく医療関係者の連携）

- ・受講対象者（現場で対応する者なのか、指揮本部で対応する者なのか）を明確にするとともに、総合研修の位置づけが良いのか、募集人員が適切か等について、検討する必要がある。
- ・事業者のマニュアル（初動）がないと検討が始められないため、事業者の参画は必須であり、また情報を提供してもらうためには事前に十分な調整を行う必要がある。
- ・座学で示す被ばく医療の概念図は、総合研修において被ばく医療関係者全体を対象として広く示すにはもう少し検討が必要である。
- ・スライド 15「政府（国）における連携」は抽象的な図であるため、国により新たな体制が示されたら具体的なものへと変更する。
- ・原子力施設の立地と隣接では、想定している事象が異なるため、今年度同様に立地・隣接の混在した 16 地域で開催をする場合には、地域性を考慮してある程度分類をし、臨場感を出せるようなシナリオの検討が必要である。
- ・ケーススタディは労働災害の想定で情報共有を体感してもらったが、今後は原子力災害をテーマとすることを検討する。なおその際には、道府県からの参加が必須となる。

(3) 専門研修（スクリーニング・除染）

- ・受講対象者の見直しが必要である（医師、看護師が対象に含まれていない）。
- ・スクリーニングレベル（OIL4）は、皮膚から数 cm の距離として設定されているが、汚染を見つけたあとの詳細な測定をどの距離で行うかの確認が必要である。
- ・除染を行っても汚染が落ちなかった場合の対応をどのように伝えるかを確認する必要がある。
- ・被検者の対応について、問診内容をどこまでとするか（Q&A とすると解答が必要となるが、答えが一つではないケースが多々あるため）は検討が必要である。
- ・外部被ばくと内部被ばくの違いを説明しているが、スクリーニングを行うこととどう結びついているかを伝える必要がある。

(4) 専門研修（搬送）

- ・搬送事例の紹介は、実際に事例への対応を経験していない講師が行う場合でも、ポイントが適切に伝えられるよう、整理をしておく必要がある。
- ・地域で情報連絡票が定められていても、実際に使用したことがないケースが多いため、実習時に使用し、地域での統一した様式としての妥当性等を考えてもらう一助としてはどうか。
- ・装備の着脱の手順が統一されると良いが、所属している組織によってルールが異なるため、どのように教えていくかを検討する必要がある。
- ・救急車内は狭いため養生を行うのは 3 名程度までである。交代をさせながら対応しているが、借用する車両を増やす（実際に借用可能な車両は予備車となるため、複数台を借用することが難しいことも含め）などを検討することが必要である。

(5) 専門研修（原子力災害時医療）

- ・搬送同様、対応事例の紹介は、実際に事例への対応を経験していない講師が行う場合でも、ポイントが適切に伝えられるよう、整理をしておく必要がある。また文字が多いため、細かな情報は減らすことも検討が必要である。
- ・DMAT 研修などで行われているように、機関からチームとして参加ができると実効性が上がると思われるため、検討してはどうか。
- ・IAEA が示している装備着脱の手順などと今一度整理する必要がある。

(6) 専門研修（救護所設置・運営）

- ・対象職種である地方公共団体職員の受講が少ないケースがあるため、地方公共団体

職員には防災を担っている認識を持ってもらえるような募集が必要である。

(7) 共通事項

- ・研修毎に対象となる職種を明確にし、受けるべき職種が受けるように見直しが必要である。
- ・各研修の講義時間が 50 分となっているが、スライド枚数も異なるため、講義時間もしくはスライド枚数を見直す必要がある。
- ・受講後暫くしてテキストを見直した際に、最新の情報かを確認できるよう、データについては出典を、参考文献については出版社や発行年などを載せることも検討するとよい。
- ・テキスト内に、関連情報先のアドレスなどを紹介しておくことも復習の手助けとなるのではないか。

4.2 調査・検討のまとめ

調査・検討を行った以下の項目については、3 章に調査内容及び結果を記載している。調査結果の概要は、以下の通りである。

(1) e-ラーニング

将来的に総合研修（放射線基礎知識）程度の内容が e-ラーニングにより受講できるよう調査・検討を実施し、以下の調査結果をとりまとめた。

- ・総合研修（放射線基礎知識）の講義 1「放射線の基礎知識」及び講義 2「人体影響と放射線防護」については、研修内容の標準化による知識水準のイコールフットィングや、多忙な医療関係者の時間的制約を考慮するのであれば、一貫して原子力災害時に必要となる放射線医学に関する基礎的な知識を習得できる e-ラーニングが望ましいと考えられる。
- ・「講義 3 原子力災害時の医療対応」については、原子力災害時医療における医療対応に関する研修については、指針についての素養が必須であり、原子力災害時の役割に応じて必要となる知識について、専門研修の内容に応じ事前に自己学習をしておくことにより、より一層、研修内容の理解及び研修効果の増進につながると考えられる。
- ・測定器を用いた実習については、原子力災害時には、多数の住民等や物をスクリーニングする必要が生じるため、今後も e-ラーニング教材を通じて得た知識を確認し、測定器の取扱い技術を習得する研修の実施は不可欠であると考えられる。

- ・eラーニングでは、学習目的の明確化、事前及び事後のテストの導入などにより、効率的かつ効果的な受講を可能にする学習プロセスが必要となる。
- ・受講は、登録制とし、知識の習得、定着の度合を自身で確認できるようにするとともに、より上級の研修の案内や一定期間ごとの復習を促すなどを要求項目とすることで、継続的かつ段階的な受講を促進させる効果が期待できる。
- ・習得した知識の定着度については、訓練等の実践の場においての受講者の行動の変化を計測することで、受講内容の実際の役立ち度合を測り、受講内容のリマインド効果を期待するとともに、学習内容の実践度について検証を行うことが重要である。

(2)ホールボディカウンタ

全国のホールボディカウンタの台数及び操作可能な人数を調査し、ホールボディカウンタ研修のニーズについて調査・検討を実施し、以下の結果をとりまとめた。

原子力災害対策指針（平成24年10月31日作成、平成25年9月5日全部改正）44ページ①被ばく医療の実施体制の記載に基づき以下のように考えられる。

- ・ホールボディカウンタは、福島事故以降に被ばく医療機関や研究機関以外に多数設置されてきており、地域の内部被ばく評価体制における各機関の果たすべき機能を明確にし、役割に応じた連携体制が整備されることが望まれる。
- ・地域の拠点となりうる医療機関において、ホールボディカウンタを用いた測定結果から内部被ばくを正しく評価でき、被検者に測定結果と内部被ばくについて正しく説明できるということを含めた高度な診断ができる専門家を育成する研修を実施する必要がある。
- ・拠点となりうる医療機関のホールボディカウンタ運転員は、メーカー点検や自身による動作確認を通じて機器の操作に習熟していくことが望ましい。

4.3 おわりに

福島事故では、原子力災害時における医療は、傷病者に加え災害時要援護者を含む多数の住民を対象とするため、様々な職種の関係者の協力が必要となることが明らかになった。指針では、原子力災害時の医療対応には、通常の救急医療、災害医療に加えて被ばく医療の考え方が必要であること、原子力施設が立地する地域のみならず、周辺地方公共団体の医療機関も含めた広域の医療機関の連携が必要であることが明記されている。

本研修では、そのような関係者の連携に着目した総合研修(被ばく医療関係者の連携)

を新たに立ち上げるとともに、放射線医学に関する知識及び技術を正確に習得し、様々な機関の対応者が原子力災害や放射線に対する知識不足から過度に混乱し、不適切な対応を取ることのないよう 6 種類 72 回の研修を実施した。

今後も新たな情報や指針の改訂にあわせた研修内容の継続的な見直しを行うとともに、地域の原子力災害時における医療活動の実効性を確保するために継続的な人材育成が必要であり、このような研修を継続して実施していくことが重要である。

参考資料

参考資料 1：平成 25 年度「総合研修（放射線基礎知識）」アンケート等結果

参考資料 2：平成 25 年度「総合研修（被ばく医療関係者の連携）」アンケート等結果

参考資料 3：平成 25 年度「専門研修（スクリーニング・除染）」アンケート等結果

参考資料 4：平成 25 年度「専門研修（搬送）」アンケート等結果

参考資料 5：平成 25 年度「専門研修（原子力災害時医療）」アンケート等結果

参考資料 6：平成 25 年度「専門研修（救護所設置・運営）」アンケート等結果

参考資料 7：放射線基礎知識に関する既存 e-ラーニングの概要

参考資料 8：学習プロセスを具体化するための e-ラーニング概念設計

平成25年度原子力災害医療対応/総合研修(放射線基礎知識)

アンケート取り纏め

	開催日	地域	開催場所	受講者数	アンケート回収数
1	11月16日(土)	福岡県	九州大学	61	61
2	11月17日(日)	佐賀県	佐賀市民会館	34	34
3	11月20日(水)	京都府	京都府立中丹勤労者福祉会館	41	38
4	11月20日(水)	鹿児島県	宝山ホール	34	32
5	11月23日(土)	新潟県	長岡市医師会	58	57
6	11月23日(土)	大阪府	大阪医療センター	43	41
7	11月30日(土)	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院	68	63
8	11月30日(土)	山口県	山口県セミナーパーク	45	44
9	12月1日(日)	岡山県	岡山医療センター	58	55
10	12月3日(火)	愛媛県	八幡浜市役所	59	59
11	12月5日(木)	茨城県	茨城県市町村会館	59	58
12	12月7日(土)	青森県	青森県労働福祉会館	71	69
13	12月8日(日)	宮城県	東北大学医学部良陵会館	57	56
14	12月8日(日)	富山県	富山県教育文化会館	26	26
15	12月9日(月)	石川県	金沢勤労者プラザ	48	46
16	12月14日(土)	北海道	北農健保会館	77	73
17	12月14日(土)	福島県	南東北総合卸センター	47	47
18	12月14日(土)	長崎県	佐世保市民会館	58	56
19	12月16日(月)	島根県	松江テルサ	39	38
20	12月21日(土)	岐阜県	岐阜大学医学部記念会館	80	80
21	12月21日(土)	鳥取県	鳥取県倉吉未来中心	30	30
22	1月18日(土)	滋賀県	大津赤十字病院	32	31
23	1月25日(土)	福井県	杉田玄白記念公立小浜病院	23	23
24	2月11日(火)	静岡県	藤枝市立総合病院	66	66
			合計	1214	1183
				75.88	97.4%
				253%	

1.所属

	病院	保健所	医師会	放射線技師会	消防	警察	自衛隊	海上保安庁	国	道府県	市町村	大学	その他	無記入	合計
1	福岡県	8	11	2	0	18	11	0	0	6	4	0	1	0	61
2	佐賀県	18	2	0	2	5	1	0	0	3	3	0	0	0	34
3	京都府	8	3	0	0	11	0	2	0	8	6	0	0	0	38
4	鹿児島県	2	4	1	1	7	1	0	1	1	10	0	4	0	32
5	新潟県	15	2	0	0	7	28	0	0	0	5	0	0	0	57
6	大阪府	3	0	0	1	28	0	3	2	0	0	0	0	0	41
7	神奈川県	20	0	2	2	28	0	5	0	3	2	0	0	1	63
8	山口県	13	2	0	5	11	0	4	0	6	0	2	1	0	44
9	岡山県	21	0	1	2	28	2	0	0	0	0	0	1	0	55
10	愛媛県	19	4	0	0	26	1	0	1	5	2	0	1	0	59
11	茨城県	16	3	0	0	27	9	0	0	0	2	0	0	1	58
12	青森県	27	1	0	2	31	2	3	0	1	0	0	0	0	69
13	宮城県	17	1	0	0	27	0	1	3	2	3	0	2	0	56
14	富山県	11	1	1	1	11	0	0	0	1	0	0	0	0	26
15	石川県	12	1	0	2	18	0	1	4	3	5	0	0	0	46
16	北海道	21	0	0	2	24	2	6	9	6	0	0	3	0	73
17	福島県	11	6	0	1	20	0	2	0	0	2	1	4	0	47
18	長崎県	24	3	0	0	13	9	1	2	0	2	1	0	1	56
19	島根県	14	1	0	0	5	5	2	0	3	4	0	3	1	38
20	岐阜県	22	4	1	1	34	4	7	0	2	5	0	0	0	80
21	鳥取県	16	1	0	0	2	0	2	4	1	3	0	1	0	30
22	滋賀県	21	1	0	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	31
23	福井県	9	0	0	1	7	0	0	0	1	5	0	0	0	23
24	静岡県	26	4	0	0	20	0	1	3	5	6	0	1	0	66
	合計	374	55	8	23	411	75	37	36	60	72	4	22	4	1183
		31.7%	4.7%	0.7%	2.0%	34.9%	6.4%	3.1%	3.1%	5.1%	6.1%	0.3%	1.9%		

2.職種

		医師	看護師 保健師	薬剤師	診療放射 線技師	臨床検査 技師	地方公共 団体職員	海上保安 庁	自衛官	警察官	消防職員	救急救命 士	事務職員	その他	無記入	合計
1	福岡県	11月16日(土)	9	1	5	13	0	2	0	11	16	2	2	0	0	61
2	佐賀県	11月17日(日)	3	7	1	13	0	2	0	1	3	2	2	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	0	8	2	3	1	5	0	0	7	4	6	2	0	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	2	11	1	2	0	1	0	1	4	3	3	3	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	4	9	2	3	0	0	0	28	3	5	3	0	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	1	0	1	2	0	1	3	0	15	11	1	1	1	41
7	神奈川県	11月30日(土)	2	4	1	13	0	2	5	0	25	3	6	1	1	63
8	山口県	11月30日(土)	1	3	2	17	0	4	3	0	4	7	3	0	0	44
9	岡山県	12月1日(日)	3	4	3	15	0	0	0	2	16	12	0	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	1	11	2	4	0	5	0	1	16	10	4	4	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	3	10	0	5	0	0	0	9	22	5	2	1	1	58
12	青森県	12月7日(土)	5	9	1	16	0	0	1	2	20	11	0	1	0	69
13	宮城県	12月8日(日)	2	12	5	3	0	1	1	0	14	13	2	0	0	56
14	富山県	12月8日(日)	3	3	2	6	0	0	0	0	6	5	1	0	0	26
15	石川県	12月9日(月)	1	7	1	6	0	2	1	0	8	10	4	2	0	46
16	北海道	12月14日(土)	3	11	7	12	2	1	0	2	21	3	2	0	0	73
17	福島県	12月14日(土)	0	9	9	7	0	0	0	0	13	7	0	0	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	5	9	4	6	0	0	0	8	6	7	7	1	1	56
19	島根県	12月16日(月)	4	7	0	6	0	1	1	5	1	4	8	0	1	38
20	岐阜県	12月21日(土)	7	8	1	18	0	2	7	1	23	11	2	0	0	80
21	鳥取県	12月21日(土)	2	8	0	9	0	1	2	0	1	1	2	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	1	7	2	9	0	2	0	0	0	3	6	1	0	31
23	福井県	1月25日(土)	1	8	0	4	0	0	0	0	5	2	3	0	0	23
24	静岡県	2月11日(火)	2	14	4	13	0	0	1	0	17	5	7	0	0	66
	合計		65	180	56	205	3	32	25	71	266	146	76	17	5	1183
			5.5%	15.3%	4.8%	17.4%	0.3%	2.7%	2.1%	6.0%	22.6%	12.4%	6.5%	1.4%		

3.年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
1	福岡県	0	17	23	17	4	0	0	61
2	佐賀県	0	12	12	3	6	0	1	34
3	京都府	1	6	8	15	8	0	0	38
4	鹿児島県	0	4	8	13	7	0	0	32
5	新潟県	1	27	13	8	8	0	0	57
6	大阪府	1	9	16	10	4	1	0	41
7	神奈川県	0	16	22	17	5	2	1	63
8	山口県	0	15	15	6	7	1	0	44
9	岡山県	0	13	21	11	9	1	0	55
10	愛媛県	0	17	15	15	11	1	0	59
11	茨城県	0	15	24	7	11	0	1	58
12	青森県	0	22	24	12	9	2	0	69
13	宮城県	0	13	24	12	7	0	0	56
14	富山県	0	3	3	13	6	1	0	26
15	石川県	0	15	17	6	8	0	0	46
16	北海道	0	23	18	24	8	0	0	73
17	福島県	0	6	20	10	9	2	0	47
18	長崎県	0	16	16	12	10	1	1	56
19	島根県	0	7	14	8	7	1	1	38
20	岐阜県	0	15	21	20	21	3	0	80
21	鳥取県	0	8	6	8	8	0	0	30
22	滋賀県	0	5	10	10	6	0	0	31
23	福井県	0	7	5	3	7	1	0	23
24	静岡県	0	12	34	12	8	0	0	66
	合計	3	303	389	272	194	17	5	1183
		0.3%	25.7%	33.0%	23.1%	16.5%	1.4%		

4.参加回数

① 当協会主催「旧緊急被ばく医療研修」への参加

		あり	なし	その他	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	7	52	0	2	61
2	佐賀県	11月17日(日)	5	25	4	0	34
3	京都府	11月20日(水)	1	36	1	0	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	5	26	1	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	5	52	0	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	8	28	5	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	3	58	1	1	63
8	山口県	11月30日(土)	7	37	0	0	44
9	岡山県	12月1日(日)	13	40	1	1	55
10	愛媛県	12月3日(火)	8	50	1	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	0	54	3	1	58
12	青森県	12月7日(土)	15	51	2	1	69
13	宮城県	12月8日(日)	4	49	3	0	56
14	富山県	12月8日(日)	3	21	1	1	26
15	石川県	12月9日(月)	9	36	1	0	46
16	北海道	12月14日(土)	5	66	2	0	73
17	福島県	12月14日(土)	10	35	2	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	9	43	3	1	56
19	島根県	12月16日(月)	9	26	2	1	38
20	岐阜県	12月21日(土)	6	71	3	0	80
21	鳥取県	12月21日(土)	5	24	1	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	2	28	1	0	31
23	福井県	1月25日(土)	5	17	1	0	23
24	静岡県	2月11日(火)	6	60	0	0	66
合計			150	985	39	9	1183
			12.8%	83.3%	3.3%		

今後取り上げてほしいテーマ

1	福岡県	現場の対応(30代、消防士)
2	福岡県	災害時の対応(20代、消防士)
3	福岡県	除染、被ばく地での活動について(30代、警察官)
4	福岡県	広域避難のあり方(要援護者のため)(40代、診療放射線技師)
5	佐賀県	①福島での災害後の状態について ②福島での災害後、入院患者様への対応について風評被害にあった病院があったが、その時の予防策、また最善の対応について(30代、医師)
6	佐賀県	原子力発電所で使用する放射性物質の質量とエネルギー量(30代、診療放射線技師)
7	佐賀県	福島の現状 or 事故当時の様子(30代、診療放射線技師)
8	鹿児島県	除染手技(人体)、養生(避難所の設営含む)動線を考えるところから実習訓練できればいいなと思います(20代、保健師)
9	新潟県	メンタルヘルス(20代、警察官)
10	新潟県	放射線、原発の仕組み(30代、警察官)

11	大阪府	災害発生時の初動体制について(30代、消防士職員)
12	大阪府	実活動を映像であれば(30代、消防士職員)
13	大阪府	搬送(30代、救急救命士)
14	大阪府	被ばく者の病態(20代、海上保安官)
15	神奈川県	内部被ばく患者のその後(実例集)(40代、診療放射線技師)
16	神奈川県	地方公共団体職員(原発立地県以外)向けの自治体にかかる役割(40代、地方公共団体職員)
17	神奈川県	スクリーニング、除染(40代、救急救命士)
18	神奈川県	専門研修(20代、自衛官)
19	神奈川県	専門研修(30代、自衛官)
20	山口県	自治体、消防、警察、医療施設の連携(50代、診療放射線技師)
21	山口県	スクリーニング、除染(50代、診療放射線技師)
22	山口県	原子力発電所や核燃料施設について(30代、診療放射線技師)
23	山口県	メンタルケア(30代、診療放射線技師)
24	山口県	災害現場活動、ゾーニング(20代、消防士)
25	山口県	救護所設置(40代、看護師、救急救命士)
26	山口県	人体の除染(特に創傷部位)、搬送(救急車)の防護、除染(30代、自衛官)
27	岡山県	職員の放射線被ばく(50代、看護師)
28	岡山県	WBCについて、スクリーニングについて(20代、診療放射線技師)
29	岡山県	国内外で発生した原子力災害事例と活動内容等(20代、消防士)
30	岡山県	消防活動、救急搬送時の注意事項について(40代、救急救命士)
31	岡山県	原子力災害発生時における現場活動(消防、警察、自衛隊対象)(30代、警察官)
32	愛媛県	放射線と被ばくの患者の初期対応(演習)(30代、看護師)
33	愛媛県	ホールボディカウンタの研修(30代、地方公共団体職員)
34	愛媛県	原子力災害対応に関する、規定などの説明(40代、薬剤師)
35	茨城県	除染方法の安全なやり方、個人保護の重要性について(40代、消防士)
36	茨城県	放射線基礎知識(対処方法)(40代、消防士)
37	茨城県	除染、スクリーニングについて(20代、消防士)
38	青森県	実際の施設(原発)見学(50代、医師)
39	青森県	現在の福島における健康被害についてや除染の妥当性について、データに基づいた講座を聞きたいです(30代、その他)
40	青森県	スクリーニング、除染(40代、警察官)
41	宮城県	リスクコミュニケーション(40代、看護師)
42	宮城県	被ばく時の心のケア、リスクコミュニケーション(50代、看護師)
43	宮城県	救急搬送法(実習)(30代、消防士)
44	宮城県	搬送、救護所設置・運営(30代、消防士)
45	宮城県	急性放射性症候群について(40代、救急救命士)
46	宮城県	この研修を続けていただきたい(40代、救急救命士)
47	宮城県	専門研修(40代、自衛隊)
48	富山県	原子力災害時の看護師としての役割行動(20代、看護師)
49	富山県	消防職員の専門コースを作ってほしい(30代、消防士職員)
50	富山県	スクリーニング、除染、消防活動上の防護措置(20代、消防士職員)
51	石川県	内部被ばくと外部被ばくの影響とその対策(50代、医師)

52	石川県	現場の養生の仕方等(20代、地方公共団体職員)
53	石川県	福島原発事故の実態とその対策について、放射線が食品に与える影響(30代、獣医師)
54	石川県	UPZ外での防災対策について(30代、事務(市町村))
55	北海道	看護師も除染を学ぼう(20代、看護師)
56	北海道	放射線生物学に関する講座テーマ(20代、診療放射線技師)
57	北海道	原発事故への対応の演習(40代、診療放射線技師)
58	北海道	汚染時の養生方法等について、ほか救急医療(30代、消防士)
59	北海道	汚染スクリーニングの実際(40代、医師)
60	北海道	救護所(スクリーニング会場)の運営(40代、事務職員(道府県))
61	北海道	災害時の各職種連携について(40代、薬剤師)
62	長崎県	災害医療に従事する職員へのメンタルケアと従事する職員向け被災者へのメンタルケア(30代、事務(病院))
63	長崎県	除染や養生など救急隊に必要な活動をメインとしたものを行ってほしい(30代、救急救命士)
64	長崎県	原子力災害の初期対応等(医療側)(30代、救急救命士)
65	長崎県	(スクリーニング、除染、搬送、情報伝達)関係機関との連携(30代、救急救命士)
66	長崎県	被災者に対する直接対応(接する場合の措置)(50代、警察官)
67	長崎県	原子力災害を想定した図上訓練(30代、警察官)
68	長崎県	地域限定計画(佐世保市について)(50代、事務(大学))
69	福島県	内部被ばく検査について(50代、薬剤師)
70	福島県	消防活動(40代、消防士)
71	福島県	今後予想されるリスクに対する対応(50代、救急救命士)
72	福島県	海域における放射線の影響または魚介類への影響について(50代、海上保安官)
73	福島県	原子力災害の社会科学(40代、看護師)
74	福島県	データ情報と解析(60代以上、薬剤師)
75	島根県	原発事故の時、留意する点(60代以上、医師)
76	島根県	放射線の人体への影響(50代、事務(原子力事業者))
77	鳥取県	実際の現場での役割、実例、各職種別の実例を通して他職種のことも知りたい(40代、診療放射線技師)
78	岐阜県	県内における原発以外の放射線障害事故が起こる可能性がある研究機関等の実際
79	岐阜県	NBCの災害訓練(N訓練)のプランニングについての講習(50代、医師)
80	岐阜県	被ばくレベルに応じた症状等の内容(60歳以上、診療放射線技師(臨床検査技師))
81	岐阜県	ゾーニング、除染とその手法(20代、事務(病院))
82	岐阜県	集団災害の医療体制について(30代、消防士)
83	岐阜県	放射線基礎知識(50代、消防士)
84	岐阜県	除染要領、スクリーニング(40代、消防士)
85	岐阜県	患者搬送(40代、救急救命士)
86	岐阜県	搬送等(30代、救急救命士)
87	岐阜県	中長期的な健康評価の在り方(40代、自衛官)
88	岐阜県	中長期における健康対策(50代、保健師)

89	滋賀県	汚染された人や物への扱い方。排泄物をどうするか、専門の業者はどのように処理されるのか(40代、看護師)
90	滋賀県	患者さんへの説明について、早くてわかりやすい方法を教えてほしいです(20代、診療放射線技師)
91	滋賀県	タイベックの脱着など(脱衣と除染)(50代、事務(病院))
92	福井県	ホールボディカウンタ(50代、診療放射線技師)
93	福井県	家庭でできる原子力災害対応(20代、救急救命士)
94	静岡県	画像診断中の被ばくの影響と防護(30代、医師)
95	静岡県	初期被ばく医療機関の対応(30代、事務(病院))
96	静岡県	除染(30代、消防士職員)
97	静岡県	搬送業務に特化したもの(30代、救急救命士)
98	静岡県	スクリーニングポイントの業務(40代、保健師)

今後取り上げてほしい講座

1	福岡県	専門研修(40代、医師)
2	福岡県	過去の事例対応(30代、消防士)
3	福岡県	安全管理(20代、消防士)
4	福岡県	放射線に関する講座(30代、警察官)
5	佐賀県	専門研修すべて(30代、救急救命士)
6	鹿児島県	基礎講座をもう少しゆっくり時間をかけて受講できるもの(30代、保健師)
7	新潟県	県内での事故発生時の対応について(40代、救急救命士)
8	大阪府	放射線事故でのトリアージ優先順位について。トリートメント全般(30代、救急救命士)
9	大阪府	搬送(50代、救急救命士)
10	神奈川県	・事後の状況から予測できる内部被ばくの積算量について ・放射性核種の体内機序について(どこに集積するのか) ・事故における存在する核種の種類について(40代、診療放射線技師)
11	神奈川県	専門研修(40代、救急救命士)
12	神奈川県	福島原発関連(30代、消防士)
13	神奈川県	搬送(20代、自衛官)
14	神奈川県	搬送、救護所設置・運営、医療関係者の連携(30代、自衛官)
15	山口県	原子力発電所それぞれの事故時の対応、対策(30代、診療放射線技師)
16	山口県	除染実習(30代、診療放射線技師)
17	山口県	搬送(20代、消防士)
18	山口県	搬送(30代、救急救命士)
19	山口県	スクリーニング、除染、救護所設置、運営(20代、自衛官)
20	山口県	専門研修(スクリーニング、除染)(搬送)総合研修(被ばく医療関係者の連携)(30代、自衛官)
21	岡山県	テーマに同じ、現場活動治の留意事項等(30代、警察官)
22	青森県	専門研修、救護所設置、運営(40代、消防士)
23	宮城県	放射線災害における、リスクコミュニケーション(演習を含めて)(40代、看護師)
24	宮城県	各専門講座(30代、診療放射線技師)
25	宮城県	搬送(40代、自衛隊)
26	宮城県	搬送(50代、海上保安官)
27	石川県	ミニレクチャー形式で良い(50代、医師)
28	北海道	原子力災害時、対応、除染の実習(20代、看護師)

29	長崎県	テーマに則した内容で(30代、救急救命士)
30	福島県	ホールボディカウンタ、食品検査(50代、薬剤師)
31	福島県	専門研修(搬送)(40代、救急救命士)
32	福島県	情報化社会における原子力災害(40代、看護師)
33	福島県	これまでの検査結果から見えてくること(60代以上、薬剤師)
34	島根県	しきい値、プラス効果など(50代、事務(原子力事業者))
35	鳥取県	救護所設置・運営やスクリーニング・除染の専門研修の受講も希望(40代、看護師)
36	鳥取県	搬送コース(基礎講座Ⅰ)(30代、海上保安官)
37	岐阜県	サーベイメータに特化した実習(50代、医師)
38	岐阜県	原子力災害対応(1日ではなく複数日開催を希望します)(50代、消防士)
39	滋賀県	原子力災害医療、除染スクリーニング、救護所、搬送(30代、医師)
40	静岡県	原子力発電所での現地研修(30代、救急救命士)
41	静岡県	スクリーニング+除染+医療orトリアージ+ヨウ素剤配布などそれぞれのブースでの様式も知りたい。(40代、保健師)

講義1:放射線の基礎知識

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	33	26	0	0	2	61
2	佐賀県	11月17日(日)	25	9	0	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	15	19	1	0	3	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	12	20	0	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	34	22	1	0	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	18	20	3	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	43	19	0	0	1	63
8	山口県	11月30日(土)	26	16	1	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	19	34	2	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	35	24	0	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	22	32	3	1	0	58
12	青森県	12月7日(土)	42	27	0	0	0	69
13	宮城県	12月8日(日)	28	25	2	0	1	56
14	富山県	12月8日(日)	11	15	0	0	0	26
15	石川県	12月9日(月)	27	19	0	0	0	46
16	北海道	12月14日(土)	59	12	0	0	2	73
17	福島県	12月14日(土)	23	22	1	1	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	37	18	0	0	1	56
19	島根県	12月16日(月)	23	14	1	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	31	43	5	0	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	22	8	0	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	18	12	1	0	0	31
23	福井県	1月25日(土)	12	8	2	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	27	36	3	0	0	66
合 計			642	500	26	2	13	1183
			54.9%	42.7%	2.2%	0.2%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	福岡県 11月16日(土)	19	38	2	0	2	61
2	佐賀県 11月17日(日)	13	21	0	0	0	34
3	京都府 11月20日(水)	9	24	2	0	3	38
4	鹿児島県 11月20日(水)	6	24	2	0	0	32
5	新潟県 11月23日(土)	12	42	3	0	0	57
6	大阪府 11月23日(土)	9	29	3	0	0	41
7	神奈川県 11月30日(土)	29	29	4	0	1	63
8	山口県 11月30日(土)	7	35	1	0	1	44
9	岡山県 12月1日(日)	9	42	4	0	0	55
10	愛媛県 12月3日(火)	13	45	0	1	0	59
11	茨城県 12月5日(木)	9	37	10	1	1	58
12	青森県 12月7日(土)	25	43	1	0	0	69
13	宮城県 12月8日(日)	12	38	5	0	1	56
14	富山県 12月8日(日)	6	19	1	0	0	26
15	石川県 12月9日(月)	13	28	5	0	0	46
16	北海道 12月14日(土)	40	28	3	0	2	73
17	福島県 12月14日(土)	14	28	4	0	1	47
18	長崎県 12月14日(土)	11	43	1	0	1	56
19	島根県 12月16日(月)	10	26	2	0	0	38
20	岐阜県 12月21日(土)	22	49	7	1	1	80
21	鳥取県 12月21日(土)	8	20	2	0	0	30
22	滋賀県 1月18日(土)	7	23	1	0	0	31
23	福井県 1月9日(月)	9	12	1	0	1	23
24	静岡県 1月14日(土)	14	48	4	0	0	66
合 計		326	771	68	3	15	1183
		27.9%	66.0%	5.8%	0.3%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	34	25	0	0	2	61
2	佐賀県	11月17日(日)	18	16	0	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	18	17	0	0	3	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	13	18	1	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	35	22	0	0	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	17	22	2	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	37	22	3	0	1	63
8	山口県	11月30日(土)	20	23	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	25	29	1	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	28	30	1	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	22	34	1	1	0	58
12	青森県	12月7日(土)	34	33	2	0	0	69
13	宮城県	12月8日(日)	25	29	0	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	11	15	0	0	0	26
15	石川県	12月9日(月)	20	24	2	0	0	46
16	北海道	12月14日(土)	52	19	0	0	2	73
17	福島県	12月14日(土)	20	23	3	0	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	27	28	0	0	1	56
19	島根県	12月16日(月)	18	19	1	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	31	46	2	0	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	17	13	0	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	14	17	0	0	0	31
23	福井県	1月25日(土)	13	9	0	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	26	37	3	0	0	66
合計			575	570	22	1	15	1183
			49.2%	48.8%	1.9%	0.1%		

意見・要望

1	福岡県	やや長い(30代、医師)
2	福岡県	個人的には生物学的半減期の話をもう少し時間をかけて説明してほしかった(40代、診療放射線技師)
3	佐賀県	わかりやすく、勉強になりました(20代、診療放射線技師)
4	佐賀県	とてもわかりやすい(50代、診療放射線技師)
5	佐賀県	いつも、山本先生の説明の仕方、喋り方を勉強(参考)にさせて頂いております。ありがとうございました(50代、診療放射線技師)
6	鹿児島県	具体例の話もあり話が聞きやすかったがもう少し、ゆっくり話を聞きたかった(30代、保健師)
7	鹿児島県	声が素敵で、とても聞きやすいでした。人に上手に説明するのは難しいですが、なんとなくわかったような気がします(30代、看護師)
8	鹿児島県	自分自身の理解が追いつきません(40代、看護師)
9	新潟県	できれば、資料もスライドと同じカラーだと良い(50代、事務(病院))

10	新潟県	内容が難しく感じた。講義のスピードが速く感じた(20代、救急救命士)
11	新潟県	授業の途中、専門機関の話が出たが新潟県においてはそれほどなのか明示してほしかった(20代、警察官)
12	新潟県	わかりやすい説明でしたが、少し早いと感じました(30代、警察官)
13	大阪府	スライドが難しかった。(20代、海上保安官)
14	山口県	専門研修となると、理解度の低下があるかも(たまに、ついていけなかったです)(30代、救急救命士)
15	岡山県	放射線の透過性のスライドが分かりやすかったので、テキストにも載せてほしい(30代、薬剤師)
16	愛媛県	分かったようで、すぐ忘れたような複雑!?です(50代、看護師)
17	茨城県	ベクレル、シーベルトあたりはマスコミ等で住民も知っており、質問も多く、かつ誤解や流言もおきやすいのもう少し平易でじっくりとやっていただけるとありがたかった(30代、消防士)
18	茨城県	講義のスピードに自分の理解度がおいついていかない(30代、消防士)
19	茨城県	講師の説明も分かりやすかった(40代、警察官)
20	青森県	例えがとても分かりやすかった(20代、診療放射線技師)
21	青森県	講師に問題はない、自分自身の理解力が問題です(50代、消防士)
22	宮城県	2回目の受講なので、どうにか理解できたが初めての場合は早口に理解がついていけない(50代、看護師)
23	宮城県	例え話がとてもわかりやすかったが、もう少しゆっくり話してほしい(30代、消防士)
24	宮城県	スライドに理解しやすい図を入れてほしい(40代、自衛官)
25	宮城県	難しかった(30代、看護師)
26	富山県	整理されていてわかりやすかったです(40代、看護師)
27	富山県	二次被ばくについて計算式などを示してほしい(40代、看護師)
28	富山県	内容の中に分からない言葉が多くあった状態で講義が進行していった(20代、消防士職員)
29	石川県	言葉が難しいです。Gyなどはなじみがありますが(40代、看護師)
30	石川県	自分としてはおさらい的な内容ですが、講師の話が聞きやすくてよかった(30代、診療放射線技師)
31	石川県	聞いている側がアウトプットできないので理解度は下がると思います(20代、消防士)
32	石川県	自分の勉強不足(30代、消防士)
33	石川県	横文字がわからないものが多かった。プルーム等(30代、救急救命士)
34	石川県	講師の方もおっしゃっていたが用語が難しく理解できない箇所があった。のちに確認したい(30代、事務(市町村))
35	北海道	質疑応答含め、山本先生のお話が非常に分かり易かったです。山本先生の担当時間をもっと長くしてほしいです。(30代、医師)
36	北海道	理解するレベルが高い(40代、地方公共団体職員)
37	北海道	もう少し詳しく聞きたい(40代、薬剤師)
38	長崎県	非常にわかりやすく説明いただきました(40代、薬剤師)
39	福島県	時間が少ないためか早口だったので、理解するのが難しかった(30代、看護師)
40	福島県	とても分かりやすかったです、話がとても上手ですごく良かったです(30代、診療放射線技師)
41	福島県	講演時間をもっと長くしてほしい(40代、救急救命士)
42	島根県	自分自身の基礎知識が乏しく、反省致しております(30代、事務(病院))
43	島根県	言葉の意味をもっと詳しく説明、または資料として配布してもらいたい。必要であれば事前学習をカリキュラムに含めては?(30代、救急救命士)

44	岐阜県	Bq→Gy→Svの具体的な計算例があった方がよい(50代、医師)
45	岐阜県	動画や実例を多用してほしい(40代、医師)
46	岐阜県	要点を決め、その点にもう少し時間をかけても良い(30代、消防士)
47	滋賀県	最新の資料があれば良かった(50代、診療放射線技師)
48	福井県	スライドと資料に沿っての講義なので分かり易かった(20代、消防士)
49	福井県	赤文字を多用してほしい(20代、救急救命士)
50	静岡県	内容が難しかった。(30代、看護師)
51	静岡県	難しく、わかりにくいと思う。放射線核種が難しい。(30代、消防士職員)
52	静岡県	言葉がわかりにくい、広い意味でお話ししてもらいたい(30代、救急救命士)
53	静岡県	とてもわかりやすかったです。実例も交えてくださっていたので身近に感じられました。放射線のエネルギーがどのくらいの強さなのかはよくわからなかったです(20代、薬剤師)

講義2: 人体への影響と放射線防護

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	19	38	2	0	2	61
2	佐賀県	11月17日(日)	8	19	7	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	23	13	0	0	2	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	9	20	3	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	45	11	1	0	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	23	17	1	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	33	22	6	0	2	63
8	山口県	11月30日(土)	27	16	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	26	28	1	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	25	34	0	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	30	24	4	0	0	58
12	青森県	12月7日(土)	35	34	0	0	0	69
13	宮城県	12月8日(日)	28	26	0	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	11	15	0	0	0	26
15	石川県	12月9日(月)	31	14	1	0	0	46
16	北海道	12月14日(土)	46	23	2	0	2	73
17	福島県	12月14日(土)	26	19	2	0	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	20	28	7	0	1	56
19	島根県	12月16日(月)	21	17	0	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	61	18	0	0	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	21	9	0	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	22	9	0	0	0	31
23	福井県	1月25日(土)	12	9	1	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	44	21	1	0	0	66
合 計			646	484	39	0	14	1183
			55.3%	41.4%	3.3%	0.0%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	福岡県 11月16日(土)	29	30	0	0	2	61
2	佐賀県 11月17日(日)	4	26	4	0	0	34
3	京都府 11月20日(水)	13	22	1	0	2	38
4	鹿児島県 11月20日(水)	6	22	4	0	0	32
5	新潟県 11月23日(土)	16	37	4	0	0	57
6	大阪府 11月23日(土)	14	26	1	0	0	41
7	神奈川県 11月30日(土)	19	37	6	0	1	63
8	山口県 11月30日(土)	8	35	0	0	1	44
9	岡山県 12月1日(日)	9	44	2	0	0	55
10	愛媛県 12月3日(火)	11	44	3	1	0	59
11	茨城県 12月5日(木)	15	37	5	1	0	58
12	青森県 12月7日(土)	20	48	1	0	0	69
13	宮城県 12月8日(日)	17	34	4	0	1	56
14	富山県 12月8日(日)	8	17	1	0	0	26
15	石川県 12月9日(月)	12	30	3	0	1	46
16	北海道 12月14日(土)	32	38	0	1	2	73
17	福島県 12月14日(土)	17	26	4	0	0	47
18	長崎県 12月14日(土)	9	45	1	0	1	56
19	島根県 12月16日(月)	11	26	1	0	0	38
20	岐阜県 12月21日(土)	45	33	1	0	1	80
21	鳥取県 12月21日(土)	9	19	2	0	0	30
22	滋賀県 1月18日(土)	10	20	1	0	0	31
23	福井県 1月25日(土)	7	15	0	0	1	23
24	静岡県 2月11日(火)	24	37	5	0	0	66
合 計		365	748	54	3	13	1183
		31.2%	63.9%	4.6%	0.3%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	40	19	0	0	2	61
2	佐賀県	11月17日(日)	11	21	2	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	24	12	0	0	2	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	14	17	1	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	38	19	0	0	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	19	20	2	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	35	24	3	0	1	63
8	山口県	11月30日(土)	21	22	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	28	25	2	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	27	32	0	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	25	29	3	0	1	58
12	青森県	12月7日(土)	32	34	3	0	0	69
13	宮城県	12月8日(日)	27	27	0	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	11	14	1	0	0	26
15	石川県	12月9日(月)	20	24	1	0	1	46
16	北海道	12月14日(土)	45	25	1	0	2	73
17	福島県	12月14日(土)	20	25	2	0	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	26	28	1	0	1	56
19	島根県	12月16日(月)	21	17	0	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	46	32	1	0	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	17	13	0	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	18	13	0	0	0	31
23	福井県	1月25日(土)	14	8	0	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	41	22	3	0	0	66
合計			620	522	26	0	15	1183
			53.1%	44.7%	2.2%	0.0%		

意見・要望

1	佐賀県	とてもわかりやすかった(50代、診療放射線技師)
2	佐賀県	講義を聞いていて、興味が持てなかった(20代、診療放射線技師)
3	佐賀県	もう少し分かりやすくお願いします(30代、救急救命士)
4	鹿児島県	内容が難しかった。数回このような研修を受ける機会をもてば理解できそうに感じた(30代、保健師)
5	鹿児島県	「床面等の養生」とはどういうことを言うのでしょうか。言葉を理解するのがちょっと大変でした(30、看護師)
6	新潟県	確率的影響と確定的影響「がん、白血病」が確定的影響で生じることはあるのか(50代、医師)
7	新潟県	文字が多い(30代、看護師)
8	新潟県	放射線はどのくらいあたると、どの程度人体に影響するのかが少し理解できた(30代、警察官)
9	大阪府	一枚のスライドに時間をかなり要し、分かりにくい。(30代、救急救命士)

10	大阪府	人体への影響部分のスライドを傷病者の写真等にして、実際の被ばく状況を学びたい。(20代、海上保安官)
11	大阪府	教える内容も難しいとは思いますが、もう少しゆっくりと理解したかった。(30代、海上保安官)
12	神奈川県	2次被ばくに対する内容が短く、理解しきれなかった(30代、看護師)
13	神奈川県	概念の説明はよくわかったが後半の具体的な話は速すぎて理解が不十分なところがあった(20代、薬剤師)
14	山口県	専門研修となると、理解度の低下があるかも(たまに、ついていけなかったです)(30代、救急救命士)
15	山口県	Bq、Gy、Sv単位がありますが、結局どこで「危険である」と判断すべきなのか、測定方法、計算方法等を具体的、実践的に学びたいと思いました(30代、地方公共団体職員)
16	岡山県	写真等があれば分かりやすかったです(20代、消防士)
17	愛媛県	とても分かりやすいのですが、頭の中が混雑しています(50代、看護師)
18	茨城県	50minがあっというまでした。分かりやすかったです(20代、救急救命士)
19	青森県	内容が難しかった。テンポがよくて聞きやすかったです(20代、診療放射線技師)
20	青森県	講師に問題はない、自分自身の理解力が問題です(50代、消防士)
21	石川県	安全性と自己責任で自分の身を守ることはとても重要なメッセージである(50代、医師)
22	石川県	実際のご経験等もっとお話しいただけたら良かったです(50代、看護師)
23	石川県	講義①を十分に分かっていない状態で受けているので先の資料を何度も見直さないと分かりませんでした(40代、看護師)
24	石川県	自分としてはおさらい的な内容ですが、講師の話が聞きやすくてよかった(30代、診療放射線技師)
25	石川県	自分の勉強不足(30代、消防士)
26	石川県	単位が色々あって難しいです。SvとGyは基本は比例すると思いますが(30代、獣医師)
27	北海道	難しい分野なのでもう少し時間が長くても良いと思います。(30代、診療放射線技師)
28	北海道	複雑で理解困難(40代、地方公共団体職員)
29	北海道	もう少し詳しく聞きたい(40代、薬剤師)
30	長崎県	説明がわかりづらい(40代、薬剤師)
31	福島県	理解するのが難しかった(30代、看護師)
32	福島県	確定的影響と確率的影响が分かりやすかった(40代、救急救命士)
33	福島県	データをもう少し出していただけたら、もっと良かったと思いました(60代以上、薬剤師)
34	島根県	被ばくと汚染の解釈がなかなか難しいと感じました(30代、事務(病院))
35	鳥取県	時間が短いので、もっと長くした方が良い(30代、診療放射線技師)
36	岐阜県	スライドの内容は全部説明してほしい(50代、医師)
37	岐阜県	動画や実例を多用してほしい(40代、医師)
38	岐阜県	要点を決め、その点にもう少し時間をかけても良い(30代、消防士)
39	岐阜県	声の抑揚があり、アイスブレイキングを取り入れた笑いもちょこちょこ入っていたので時間が短く感じました。(50代、救急救命士)
40	滋賀県	放射線を火に例えるとは良いと思った(40代、診療放射線技師)
41	福井県	もう少しここが重要というふうに強調してほしい(20代、救急救命士)
42	静岡県	わかりやすい(30代、診療放射線技師)
43	静岡県	身近なものでわかりやすく教えていただけて良かったです。(20代、薬剤師)

44	静岡県	講義のスピードが速く、スライド・資料を見て理解しにくい(30代、消防士職員)
45	静岡県	先生の話が分かり易く入ってきやすい(30代、保健師)

講義3: 原子力災害時の医療対応

①講師の教え方

			大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	福岡県	11月16日(土)	34	25	0	0	2	61
2	佐賀県	11月17日(日)	19	15	0	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	12	19	5	2	0	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	12	20	0	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	29	25	1	1	1	57
6	大阪府	11月23日(土)	17	19	5	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	25	29	8	0	1	63
8	山口県	11月30日(土)	19	23	2	0	0	44
9	岡山県	12月1日(日)	6	30	17	2	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	26	32	1	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	18	28	11	1	0	58
12	青森県	12月7日(土)	22	44	3	0	0	69
13	宮城県	12月8日(日)	26	26	3	0	1	56
14	富山県	12月8日(日)	14	11	0	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	16	26	4	0	0	46
16	北海道	12月14日(土)	49	18	1	0	5	73
17	福島県	12月14日(土)	30	16	0	0	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	33	20	1	0	2	56
19	島根県	12月16日(月)	17	17	4	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	25	50	5	0	0	80
21	鳥取県	12月21日(土)	9	17	4	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	23	8	0	0	0	31
23	福井県	1月25日(土)	15	7	0	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	21	41	3	0	1	66
合 計			517	566	78	6	16	1183
			44.3%	48.5%	6.7%	0.5%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	8	42	8	0	3	61
2	佐賀県	11月17日(日)	9	20	5	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	8	22	7	1	0	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	7	21	3	0	1	32
5	新潟県	11月23日(土)	13	35	8	0	1	57
6	大阪府	11月23日(土)	10	24	7	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	15	35	12	0	1	63
8	山口県	11月30日(土)	6	36	2	0	0	44
9	岡山県	12月1日(日)	3	36	14	2	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	10	43	6	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	6	31	19	2	0	58
12	青森県	12月7日(土)	13	46	10	0	0	69
13	宮城県	12月8日(日)	13	37	4	1	1	56
14	富山県	12月8日(日)	7	17	1	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	10	30	6	0	0	46
16	北海道	12月14日(土)	30	33	5	0	5	73
17	福島県	12月14日(土)	16	27	3	0	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	13	39	2	0	2	56
19	島根県	12月16日(月)	7	26	5	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	18	48	12	2	0	80
21	鳥取県	12月21日(土)	4	18	7	1	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	10	20	1	0	0	31
23	福井県	1月25日(土)	9	13	0	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	11	45	8	1	1	66
合 計			256	744	155	10	18	1183
			22.0%	63.9%	13.3%	0.9%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	16	33	9	0	3	61
2	佐賀県	11月17日(日)	10	21	3	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	12	18	8	0	0	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	11	17	4	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	14	39	3	0	1	57
6	大阪府	11月23日(土)	16	21	4	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	26	28	8	0	1	63
8	山口県	11月30日(土)	17	24	2	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	7	32	16	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	23	34	2	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	15	25	15	2	1	58
12	青森県	12月7日(土)	16	44	9	0	0	69
13	宮城県	12月8日(日)	28	24	2	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	8	16	1	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	10	29	6	0	1	46
16	北海道	12月14日(土)	42	22	4	0	5	73
17	福島県	12月14日(土)	19	24	2	1	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	25	28	1	0	2	56
19	島根県	12月16日(月)	13	18	7	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	23	41	16	0	0	80
21	鳥取県	12月21日(土)	10	16	3	1	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	9	18	3	0	1	31
23	福井県	1月25日(土)	9	11	2	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	18	31	16	0	1	66
合 計			397	614	146	4	22	1183
			34.2%	52.9%	12.6%	0.3%		

意見・要望

1	福岡県	内容に対して時間が短いと思います(50代、薬剤師)
2	福岡県	スライドの量が多く、少し早口だった(30代、診療放射線技師)
3	福岡県	内容が多く、時間が足りない(30代、警察官)
4	福岡県	時間が短すぎる(40代、診療放射線技師)
5	福岡県	スライドが無理ならば、資料だけでも文字を大きくしていただきたいと思います(40代、診療放射線技師)
6	佐賀県	文章が多く、時間が短い(30代、診療放射線技師)
7	佐賀県	先生は悪くないが、内容が文のみのため、理解が追い付かない(20代、診療放射線技師)
8	佐賀県	内容をもう一度見直したいと思います(50代、診療放射線技師)
9	佐賀県	内容が難しかった(20代、診療放射線技師)
10	佐賀県	3-9ページが見えづらかったです(40代、地方公共団体職員)
11	鹿児島県	もう少し時間をかけて一つ一つ説明してもらいたかった(30代、保健師)
12	鹿児島県	簡易な方法でも、除染が自分達でもできることが学べてよかったです(30代、看護師)
13	鹿児島県	福島での事例など分かりやすかったです(40代、看護師)
14	鹿児島県	内容の割に時間が短かったため、理解しづらいところがあった(50代、看護師)
15	鹿児島県	図の方が分かりやすいです(30代、事務(市町村))
16	鹿児島県	福島での経験談をもう少し聞きたかったです(40代、看護師)
17	新潟県	もう少し長く聞きたかった(40代、診療放射線技師)
18	新潟県	時間的にももう少し必要かと思う。 スライドが文字のみで難しい(40代、診療放射線技師)
19	新潟県	もう少し詳しく聞きたかった(50代、事務(病院))
20	大阪府	現段階では十分な対応はできないという解釈だと感じました。たくさんの災害対応者に研修することを要望いたします。(30代、消防士職員)
21	大阪府	文章での説明がメインであったため、少し余談を含めた休憩が欲しかった。(30代、救急救命士)
22	大阪府	時間不足(50代、無回答)
23	神奈川県	文章の羅列が多く、密度も高いためポイントを絞ることが困難に感じた(30代、看護師)
24	神奈川県	説明が速かった、スライド全体をフォローしていただきたい(40代、地方公共団体職員)
25	神奈川県	せっかくですので、もう少し時間をかけて説明したほうが良いと思いました(30代、地方公共団体職員)
26	神奈川県	難しい言葉が時に入っていたので、理解できにくかった(20代、消防士)
27	山口県	専門研修となると、理解度の低下があるかも(たまに、ついていけなかったです)(30代、救急救命士)
28	岡山県	文字が多い(40代、医師)
29	岡山県	概念的な話で難しかった(30代、薬剤師)
30	岡山県	イラストがあると良かった(30代、消防士)
31	岡山県	重要ポイントをわかりやすくしていただきたい(30代、消防士)
32	岡山県	次の実習に向けて席を移動させたことにより、説明が見にくくなった。説明も多く詰め込みの感があった(30代、警察官)
33	愛媛県	被ばくと汚染の違いが少しわかった気がします(50代、看護師)
34	茨城県	用語の理解に苦労した。 説明が速すぎる(30代、消防士)

35	茨城県	専門的で、かなり早いペースだったので理解できなかった(20代、消防士)
36	茨城県	具体的対応や図があると良かった(30代、消防士)
37	茨城県	専門用語や文章だけのスライドで理解しにくい(30代、消防士)
38	茨城県	正直、内容が深いものでしたが時間が少ないという印象があり、理解が難しかったです(30代、救急救命士)
39	茨城県	スライドに表示されたもののうち、添付されていない資料があった(30代、警察官)
40	青森県	少し早かった気がします(20代、診療放射線技師)
41	青森県	内容が不十分では?(50代、診療放射線技師)
42	青森県	文字ばかりだったので疲れた(20代、診療放射線技師)
43	青森県	講師に問題はない、自分自身の理解力が問題です(50代、消防士)
44	宮城県	内容と時間数が不一致(駆け足だった)(50代、救急救命士)
45	宮城県	もっと時間が欲しい(40代、地方公共団体職員)
46	富山県	時間が少ない(60代、医師)
47	石川県	もう少しゆっくり事例等を話して下さると良かったように思います(50代、看護師)
48	石川県	文字数がちょっと多い。途中で意見してくださった3班の男の人の方が講師より上級の人なのか?と思った。(指針を作ったと言っていたので)講師はやりにくかったと思う(30代、診療放射線技師)
49	石川県	聞いている側がアウトプットできないので理解度は下がると思います(20代、消防士)
50	石川県	自分の勉強不足(30代、消防士)
51	北海道	ページを合わせるとより分かりやすいと思います。(20代、看護師)
52	北海道	時間より内容多すぎ、分けるべきと思う。(30代、看護師)
53	北海道	資料と講義の順序がバラバラで分かりづらい。具体的な説明が少なくわかりづらい。(40代、看護師)
54	北海道	スライドと資料の順がバラバラだったところがあった。(30代、診療放射線技師)
55	北海道	行政的な説明が中心であったので、より実践的な内容であった方が良いと思う。(30代、医師)
56	福島県	スライドは先生のおっしゃるとおり文字は多かったが、講義は分かりやすかったです(30代、診療放射線技師)
57	福島県	とてもわかりやすかった(40代、救急救命士)
58	福島県	時間をかけてもっと、じっくり拝聴したかったです(60代以上、薬剤師)
59	島根県	文字が多くて見えづらい(30代、医師)
60	島根県	文字が多く、総論的な内容が多い為、図で抽象的に説明してほしい(30代、救急救命士)
61	島根県	スライドに活字が多く、スピードに差がある。総論過ぎて各論がもう少し欲しい(40代、救急救命士)
62	島根県	具体的な事例が欲しい。一般論の羅列で内容が頭に入らない(20代、事務(市町村))
63	島根県	説明が速い、対策の考え方をもう少し詳しく説明してもらいたい(50代、事務(原子力事業者))
64	鳥取県	情報が多すぎる(40代、診療放射線技師)
65	鳥取県	文字が多すぎ、疲れてしまう(40代、事務(病院))
66	鳥取県	文字を追う程度で「理解」には至らなかった(40代、看護師)
67	鳥取県	聞いたことのない用語が出てきたので難しかった(20代、消防士)
68	鳥取県	難しかった(30代、看護師)

69	岐阜県	文字が多すぎる。(50代、医師)
70	岐阜県	動画や実例を多用してほしい(40代、医師)
71	岐阜県	スライドに文字が多く、見にくい(50代、薬剤師)
72	岐阜県	内容と比べて時間が短かった(40代、診療放射線技師)
73	岐阜県	要点を決め、その点にもう少し時間をかけても良い(30代、消防士)
74	岐阜県	机の移動によりスライドが見にくかった。実習の前の休憩時に班分けしていただく方が良いと思いました(40代、消防士)
75	岐阜県	内容が専門的すぎた(40代、救急救命士)
76	岐阜県	イメージしやすく具体的な内容を期待していたが、分かりづらかった(30代、保健師)
77	滋賀県	もっと知りたいと思う内容であった(20代、看護師)
78	滋賀県	理解度を上げるなら、簡単なスライドの方が良いのでは(40代、診療放射線技師)
79	滋賀県	文字が多すぎて、読んでいると講義が聞けない(50代、診療放射線技師)
80	静岡県	講義はGW形式の座席でない方がスライドが見やすい(50代、看護師)
81	静岡県	文字がいっぱいだったので、ややわかりにくい(30代、看護師)
82	静岡県	法的用語、専門用語は理解しにくい(40代、薬剤師)
83	静岡県	字は多かったけど、飽きない講義でした(30代、診療放射線技師)
84	静岡県	専門用語が多い為、難しい(30代、消防士職員)
85	静岡県	市町としては県、国、市町の立ち位置など分かればうれしかったです。もう少し分→図にしてもらいたかったです (30代、看護師)

実習：医療活動に必要な放射線測定

①実習の進め方

			大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	福岡県	11月16日(土)	30	25	0	0	6	61
2	佐賀県	11月17日(日)	23	11	0	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	24	13	0	0	1	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	19	12	0	0	1	32
5	新潟県	11月23日(土)	30	20	2	1	4	57
6	大阪府	11月23日(土)	24	16	0	0	1	41
7	神奈川県	11月30日(土)	35	25	0	0	3	63
8	山口県	11月30日(土)	28	15	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	25	28	1	0	1	55
10	愛媛県	12月3日(火)	26	32	1	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	36	18	0	0	4	58
12	青森県	12月7日(土)	45	23	0	0	1	69
13	宮城県	12月8日(日)	30	24	0	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	13	12	0	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	21	24	0	0	1	46
16	北海道	12月14日(土)	42	25	0	0	6	73
17	福島県	12月14日(土)	24	19	3	0	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	26	26	2	0	2	56
19	島根県	12月16日(月)	21	15	1	0	1	38
20	岐阜県	12月21日(土)	46	30	1	0	3	80
21	鳥取県	12月21日(土)	15	12	2	0	1	30
22	滋賀県	1月18日(土)	16	14	0	0	1	31
23	福井県	1月25日(土)	15	6	0	0	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	36	28	2	0	0	66
合 計			650	473	15	1	44	1183
			57.1%	41.5%	1.3%	0.1%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	26	29	0	0	6	61
2	佐賀県	11月17日(日)	24	10	0	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	28	9	0	0	1	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	24	8	0	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	35	17	0	1	4	57
6	大阪府	11月23日(土)	26	14	0	0	1	41
7	神奈川県	11月30日(土)	36	23	1	0	3	63
8	山口県	11月30日(土)	29	14	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	27	28	0	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	22	35	2	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	43	11	0	0	4	58
12	青森県	12月7日(土)	46	22	0	0	1	69
13	宮城県	12月8日(日)	34	20	0	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	13	12	0	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	21	23	1	0	1	46
16	北海道	12月14日(土)	42	25	0	0	6	73
17	福島県	12月14日(土)	24	20	2	0	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	29	24	1	0	2	56
19	島根県	12月16日(月)	19	18	0	0	1	38
20	岐阜県	12月21日(土)	50	25	2	0	3	80
21	鳥取県	12月21日(土)	17	11	1	0	1	30
22	滋賀県	1月18日(土)	19	9	2	0	1	31
23	福井県	1月25日(土)	17	4	0	0	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	37	28	1	0	0	66
合 計			688	439	13	1	42	1183
			60.3%	38.5%	1.1%	0.1%		

③班の人数

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	32	23	0	0	6	61
2	佐賀県	11月17日(日)	23	11	0	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	27	9	1	0	1	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	23	9	0	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	33	20	1	0	3	57
6	大阪府	11月23日(土)	22	17	1	0	1	41
7	神奈川県	11月30日(土)	36	21	3	0	3	63
8	山口県	11月30日(土)	29	14	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	27	25	2	0	1	55
10	愛媛県	12月3日(火)	25	30	3	0	1	59
11	茨城県	12月5日(木)	35	17	2	0	4	58
12	青森県	12月7日(土)	40	27	1	0	1	69
13	宮城県	12月8日(日)	28	26	0	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	15	10	0	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	24	19	2	0	1	46
16	北海道	12月14日(土)	44	21	2	0	6	73
17	福島県	12月14日(土)	18	27	1	0	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	26	27	0	0	3	56
19	島根県	12月16日(月)	23	14	0	0	1	38
20	岐阜県	12月21日(土)	47	27	3	0	3	80
21	鳥取県	12月21日(土)	19	9	1	0	1	30
22	滋賀県	1月18日(土)	18	12	0	0	1	31
23	福井県	1月25日(土)	11	10	0	0	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	36	28	2	0	0	66
合 計			661	453	25	0	44	1183
			58.0%	39.8%	2.2%	0.0%		

④あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	32	23	0	0	6	61
2	佐賀県	11月17日(日)	18	16	0	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	20	16	1	0	1	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	20	11	1	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	22	29	2	1	3	57
6	大阪府	11月23日(土)	18	22	0	0	1	41
7	神奈川県	11月30日(土)	35	22	3	0	3	63
8	山口県	11月30日(土)	17	24	2	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	20	30	5	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	13	40	6	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	26	27	1	0	4	58
12	青森県	12月7日(土)	36	30	2	0	1	69
13	宮城県	12月8日(日)	26	25	3	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	11	13	1	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	18	25	2	0	1	46
16	北海道	12月14日(土)	35	32	1	0	5	73
17	福島県	12月14日(土)	22	21	3	0	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	20	28	5	0	3	56
19	島根県	12月16日(月)	18	18	1	0	1	38
20	岐阜県	12月21日(土)	39	36	2	0	3	80
21	鳥取県	12月21日(土)	11	14	4	0	1	30
22	滋賀県	1月18日(土)	13	16	1	0	1	31
23	福井県	1月25日(土)	7	14	0	0	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	31	33	2	0	0	66
合 計			528	565	48	1	41	1183
			46.4%	49.6%	4.2%	0.1%		

⑤あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	34	20	1	0	6	61
2	佐賀県	11月17日(日)	21	13	0	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	26	11	0	0	1	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	19	12	1	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	29	24	0	1	3	57
6	大阪府	11月23日(土)	22	18	0	0	1	41
7	神奈川県	11月30日(土)	36	23	1	0	3	63
8	山口県	11月30日(土)	24	19	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	23	29	3	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	21	33	5	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	30	24	0	0	4	58
12	青森県	12月7日(土)	37	29	2	0	1	69
13	宮城県	12月8日(日)	30	22	2	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	12	13	0	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	20	24	1	0	1	46
16	北海道	12月14日(土)	42	25	1	0	5	73
17	福島県	12月14日(土)	23	20	3	0	1	47
18	長崎県	12月14日(土)	25	27	2	0	2	56
19	島根県	12月16日(月)	24	12	1	0	1	38
20	岐阜県	12月21日(土)	45	30	2	0	3	80
21	鳥取県	12月21日(土)	12	16	1	0	1	30
22	滋賀県	1月18日(土)	16	13	1	0	1	31
23	福井県	1月25日(土)	13	8	0	0	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	30	33	3	0	0	66
	合計		614	498	30	1	40	1183
			53.9%	43.7%	2.6%	0.1%		

意見・要望

1	福岡県	もう少しゆっくり実習したかった(40代、診療放射線技師)
2	佐賀県	サーベイメータを初めて使用したけど、なかなか楽しく実習できました(50代、診療放射線技師)
3	鹿児島県	測定のやり方によって、値が変化することが実習を通してよく理解できました。ただ、測るだけではダメなんだなと感じました。実習はとても楽しかったです(30代、看護師)
4	鹿児島県	機器の性質を理解するには、いい方法だと思います(30代、事務(市町村))
5	鹿児島県	横について説明がありわかりやすかった(40代、事務(市町村))
6	鹿児島県	班の人数が4人が更に良いと思いました。サーベイが扱える人、扱えない人がいた(40代、看護師)
7	新潟県	多すぎる(50代、医師)
8	新潟県	もう少し時間がほしい(40代、診療放射線技師)
9	新潟県	実際に機器に触れることでかなり理解できたと思う(50代、事務(病院))
10	新潟県	3~4名がよい(40代、消防士)

11	大阪府	少しゆっくりと話していただけたらありがたいです。(40代、消防士職員)
12	神奈川県	理科の実験みたいで楽しくできました。実際にテキストに記入するのに必死でした。グループメンバーが面白かったです(40代、看護師)
13	神奈川県	もっと細かくものの説明が欲しかった。基礎のさらに基礎レベルが必要。技師などとのレベルが違うため(30代、看護師)
14	山口県	伝えたいことは理解できましたが、実は何をしているのかよく分かっていませんでした(30代、救急救命士)
15	岡山県	4人ぐらい(40代、医師)
16	岡山県	もっと長く時間を取ってほしい(30代、消防士)
17	愛媛県	各設問(測定)の目的が明らかでない状況で行った。→講師先生の最後の説明で明らかとなった(40代、事務(病院))
18	愛媛県	専門的すぎる部分、単位、記号がありましたので、もう一度復習し知識として習得したいと思います(50代、看護師)
19	茨城県	班の人数を少し減らした方が機材をより触れるのでは?(30代、消防士)
20	茨城県	測定方法はよくわかりました(20代、救急救命士)
21	青森県	難しかった(40代、看護師)
22	青森県	数値を読むのが難しかった(20代、診療放射線技師)
23	宮城県	COUNT RATEの読み方わからなかった。資料にも詳しく書いてほしかった(30代、看護師)
24	宮城県	実際に測定する機材が職場にもあり、今まであやふやであった知識を深めることができとても良かった(20代、消防士)
25	石川県	手作りの測定ツールが素晴らしい。講師の説明は人によってかなり難しく感じたのではと思う(蛍光作用とか飛程とか言っていたので)(30代、診療放射線技師)
26	石川県	測定方法は難しかったけど、距離と時間の関係がわかりました(30代、救急救命士)
27	石川県	班の人数が多い(20代、事務(市町村))
28	北海道	1分でいいので挨拶する時間を入れるといいのではと思います。(20代、看護師)
29	北海道	シンプルですごく分かり易かったです。(40代、診療放射線技師)
30	北海道	測定器の特性の実習については実習項目を実施する目的を明確にして研修生が共通認識をもった方がよいと思う。(40代、海上保安官)
31	北海道	演習前に自己紹介した方がよいと思いました。(50代、保健師)
32	長崎県	全般的に自分の知識不足を感じました。サーベイメータの見方が十分に理解できていなかった。今後の学びを深めていきたいと思います(40代、看護師)
33	長崎県	測定器については、設定のところとか読み取りは私たちでは難しいかなと思いました(50代、保健師)
34	福島県	とても楽しかった(40代、救急救命士)
35	島根県	講義とのリンクが少なく感じた(30代、救急救命士)
36	鳥取県	サーベイメータは取扱いに慣れないと難しいと感じました(20代、消防士)
37	鳥取県	各班に先生がついてくださったので分かり易かったです(20代、保健師)
38	鳥取県	ローテーションを試してみなさんが測定してみるとはよかったです、数値の読み方がいまいちわかりにくかった(30代、看護師)
39	岐阜県	甲状腺スクリーニング、全身スクリーニングの実際の方法がデモされると良い(50代、医師)
40	岐阜県	少しスピードが速く、一つ一つの作業を理解する前に次の作業にとりかからなければならなかった(30代、消防士)
41	岐阜県	わかりやすかった(30代、消防士)
42	岐阜県	分かりやすい実習でした(50代、救急救命士)
43	岐阜県	班人数は4名程度がよかった(40代、救急救命士)

44	滋賀県	計算の理屈がよくわかりませんでした。(10KのときはX1000とか)(30代、理学療法士)
45	静岡県	復習になりよかった。キットの使い方の説明がもう少しあるとよりよいです(30代、診療放射線技師)
46	静岡県	スクリーニングについての注意点がとても理解しやすかった(30代、消防士職員)
47	静岡県	ペースが早く難しかった。もう少し少人数の方が良い(30代、看護師)
48	静岡県	ひとつひとつの実験の時間が短すぎてついていけない。メータの見方など資料が欲しかった。 各班にスタッフの方についていただいてご指導いただくか、もう少し時間をかけてやりたかった(40代、看護師)

本日の研修について

①参加して有益であったと思いますか。

			とても有益	有益	あまり有益で なかった	全く有益で なかった	無記入	合計
1	福岡県	11月16日(土)	36	22	0	0	3	61
2	佐賀県	11月17日(日)	18	15	0	0	1	34
3	京都府	11月20日(水)	15	23	0	0	0	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	13	18	1	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	34	23	0	0	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	19	22	0	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	38	21	2	0	2	63
8	山口県	11月30日(土)	20	23	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	19	32	4	0	0	55
10	愛媛県	12月3日(火)	24	34	0	0	1	59
11	茨城県	12月5日(木)	22	35	0	0	1	58
12	青森県	12月7日(土)	31	37	0	0	1	69
13	宮城県	12月8日(日)	26	28	0	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	13	12	0	0	1	26
15	石川県	12月9日(月)	17	28	1	0	0	46
16	北海道	12月14日(土)	40	30	1	0	2	73
17	福島県	12月14日(土)	21	26	0	0	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	24	30	0	0	2	56
19	島根県	12月16日(月)	15	23	0	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	35	44	0	0	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	14	15	1	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	18	13	0	0	0	31
23	福井県	1月25日(土)	12	10	0	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	34	32	0	0	0	66
合 計			558	596	10	0	19	1183
			47.9%	51.2%	0.9%	0.0%		

②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。

		参加させたい	どちらとも言えない	参加させたくない	自分が参加したい	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	49	7	0	2	3	61
2	佐賀県	11月17日(日)	23	7	0	4	0	34
3	京都府	11月20日(水)	31	5	0	2	0	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	27	3	0	2	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	51	5	1	0	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	33	7	0	0	1	41
7	神奈川県	11月30日(土)	52	8	1	1	1	63
8	山口県	11月30日(土)	37	6	0	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	35	17	0	2	1	55
10	愛媛県	12月3日(火)	53	5	0	0	1	59
11	茨城県	12月5日(木)	53	2	0	1	2	58
12	青森県	12月7日(土)	55	10	0	3	1	69
13	宮城県	12月8日(日)	47	7	0	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	24	2	0	0	0	26
15	石川県	12月9日(月)	36	7	1	2	0	46
16	北海道	12月14日(土)	61	9	0	1	2	73
17	福島県	12月14日(土)	41	4	0	2	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	47	6	0	1	2	56
19	島根県	12月16日(月)	34	4	0	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	69	10	0	0	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	27	3	0	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	26	4	0	1	0	31
23	福井県	1月25日(土)	20	2	0	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	57	9	0	0	0	66
合計			988	149	3	24	19	1183
			84.9%	12.8%	0.3%	2.1%		

③研修(専門研修)にも参加したいと思いますか。

		是非 参加したい	参加したい	どちらとも 言えない	参加 したくない	無記入	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	23	32	3	0	3	61
2	佐賀県	11月17日(日)	14	16	4	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	11	21	6	0	0	38
4	鹿児島県	11月20日(水)	9	18	5	0	0	32
5	新潟県	11月23日(土)	23	21	11	2	0	57
6	大阪府	11月23日(土)	22	15	4	0	0	41
7	神奈川県	11月30日(土)	34	23	5	0	1	63
8	山口県	11月30日(土)	15	23	5	0	1	44
9	岡山県	12月1日(日)	15	24	14	1	1	55
10	愛媛県	12月3日(火)	16	31	11	0	1	59
11	茨城県	12月5日(木)	25	28	3	0	2	58
12	青森県	12月7日(土)	23	35	9	0	2	69
13	宮城県	12月8日(日)	25	20	9	0	2	56
14	富山県	12月8日(日)	11	11	4	0	0	26
15	石川県	12月9日(月)	15	25	5	1	0	46
16	北海道	12月14日(土)	34	27	10	0	2	73
17	福島県	12月14日(土)	14	24	9	0	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	20	28	5	0	3	56
19	島根県	12月16日(月)	13	19	6	0	0	38
20	岐阜県	12月21日(土)	26	49	4	0	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	9	19	2	0	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	11	14	6	0	0	31
23	福井県	1月25日(土)	6	14	2	0	1	23
24	静岡県	2月11日(火)	22	33	9	2	0	66
合計			436	570	151	6	20	1183
			37.5%	49.0%	13.0%	0.5%		

意見・要望

1	福岡県	専門研修を福岡県で行ってください(30代、診療放射線技師)
2	福岡県	原子力災害対策業務が少し身近に感じられました。サーベイメータを実際に操作することができてよかったです(40代、医師)
3	福岡県	実習がとても参考になりました。ありがとうございました(40代、診療放射線技師)
4	福岡県	大変有益な講習でした。ぜひ専門研修にも参加したいと思います(30代、消防士)
5	福岡県	汚染検査同様、空間線量の実習も行っていきたい(30代、消防士)
6	福岡県	このような機会を増やしてほしい(20代、消防士)
7	福岡県	理解度確認テストを講義前に行ったことで分からない点が分かり、その後の講義に役立ちました(30代、消防士)
8	福岡県	専門用語が多く、事前勉強をしていけばより判り易くなると思う(40代、救急救命士)

9	福岡県	・放射性物質を車両で搬送時、その車両が横転事故等をおこした場合の注意事項はどうなっているのでしょうか？ ・そのような車両は物質を搬送する旨、どこかの機関へ報告義務はあるのでしょうか？(40代、消防士)
10	福岡県	基礎的な部分から丁寧に講義をしていただいたので、大変有意義な研修でした(20代、消防士)
11	福岡県	実習は1班に1人の講師が付いていたため、とてもスムーズに実施することができました。とても有意義でした。ありがとうございました(30代、警察官)
12	福岡県	年に何回に分けて、研修を行ってほしい(30代、警察官)
13	福岡県	事案を想定した実践的な実習を行いたい(20代、警察官)
14	福岡県	放射線、放射能の単位について理解が十分にできなかった。個別に質問したが、それでも理解できず(私の理解不足です)ネット等で、再度勉強します(30代、警察官)
15	福岡県	大変参考になりました。職場でも再度、練習し習熟したいです(40代、薬剤師)
16	福岡県	ほぼ知識のない状態での参加で、不安に思っていましたが大変わかりやすい講義・実習を行っていただき、理解が上がりました。ありがとうございました(20代、事務(市町村))
17	佐賀県	その地域での現状などを少し盛り込んで話してほしい。ちゃんとヨウ素があるのか、それとも事故が起こった時どこから持ってくるのか、備蓄してあるのか？Etc(30代、医師)
18	佐賀県	事故が起こったときに、一般的にどうするかは理解できました。ありがとうございます。ただ、事故後の混乱時、情報は寸断され人や物もない場合にどう対応するか。重症患者の搬送、寒暖の影響の中、水もなくトイレも使えない状況で何をすべきなのか。対策・対応方針を決めておいてもらいたいと思いました。 例：緊急連絡先使えるネットワーク、非常用品の倉庫など(30代、医師)
19	佐賀県	楽しく学ぶことができました。ありがとうございました(30代、看護師)
20	佐賀県	1日という時間では、短いくらいでした。勉強になりました。どうもありがとうございました(30代、診療放射線技師)
21	佐賀県	山本先生の講義分かりやすかったです(20代、診療放射線技師)
22	佐賀県	私自身、大変勉強になりました。有意義な講習会でした。ありがとうございました(50代、診療放射線技師)
23	佐賀県	JCO事故の話をするなら、放医研で実際に治療をおこなった人の体験も聞きたかった(20代、薬剤師)
24	佐賀県	今後は何等かの形でお手伝いできたらと思います。お声掛けくださいませ。ありがとうございました(50代、診療放射線技師)
25	佐賀県	実習がとてもよかった(20代、消防士)
26	佐賀県	測定器を実際に使用したことがなかったので良い経験ができました。今後も専門研修等に参加させて頂きたいです(30代、救急救命士)
27	佐賀県	研修を受けさせていただきありがとうございました(20代、救急救命士)
28	佐賀県	放射線に関する基礎知識が上がりました。非常にためになりました(30代、警察官)
29	佐賀県	大変勉強になりました。普段、自己の関連する業務に追われていることから、資料全体を読み返すという機会が少ないので改めて学習できました(30代、事務(道府県))
30	佐賀県	テストを複数行われるのは大変良い。放射能の焚火の例はわかりやすい(20代、地方公共団体職員)
31	佐賀県	放射線の基礎等がよく分かるDVDを探していますがなかなか見当たりません。また子供にも分かるようなDVDを作成していただきたい(40代、地方公共団体職員)
32	佐賀県	大変勉強になりました。ありがとうございました(40代、保健師)

33	佐賀県	単位の違いや、被ばくと汚染の違いがよく分かりました(50代、保健師)
34	鹿児島県	初めて放射線・原子力災害関連研修会に参加しました。一度や二度の研修では理解が難しく、実践に生かせないと感じました。今後基礎レベルの研修を再度受講する機会を持ちたいと思います(30代、看護師)
35	鹿児島県	スクリーニング方法や注意点など(30代、診療放射線技師)
36	鹿児島県	3講義ともスライドの読み上げで終了した。もう少し事例や具体例などに及んでほしかった。基礎研修ではあるが、皆それなりの知識はおよそ(一般常識として)持ち合わせているので、もう少し期待していたのだが・・・実習は数値で表せるのでよくわかり良かったです。 JCO事故について 生存のC氏が「回復され、平常生活に復帰」とのことでしたが、急性症状の回復はあっても、その後の人体への影響、メンタル面などについては終わりでしょうか？その後の長期にわたるフォローについてが気になります(50代、看護師)
37	鹿児島県	放射線について全く知らないことの方が、被害を拡げてしまうのではないかと思います。今日は本当に基礎的なものでしたけど学べてよかったです。また、施設があるところの話ではなく避難してくる自治体にも影響があるので、早速、庁内等で対応を検討していきたいと思いました(30代、看護師)
38	鹿児島県	安定ヨウ素剤の配備をするようにとのことで、配置してあるが保管や必要時にどのような指示に基づいて行うのかわかりません。 県でも原子力防災訓練が行われますが、講話の中でもあった、住民への不安に対する説明ができる専門家との連携という点で、本県の体制はどうなのか知りたいです(40代、看護師)
39	鹿児島県	市町村担当として訓練の時に、県、市町村はその他役割があるのでどこまで研修を受けるべきかわかりにくい(50代、看護師)
40	鹿児島県	機器取扱い時、時間を増加するかまたは現時点の場合は二人に1台程度の配分を検討していただきたいと思います(50代、地方公共団体職員)
41	鹿児島県	資料を載せていると聞きました。大変良い対応だと思います(30代、事務(市町村))
42	鹿児島県	今回受講した研修内容を職場内でも精通していきたい(40代、その他(放射線管理))
43	鹿児島県	講師の方が全て分かりやすく丁寧に説明していただけたのがよかった。講義3は文字が少し多すぎるかもしれない。もう少し図を多く使ってもらえたらよりわかりやすかったように思う(40代、その他)
44	新潟県	原子力施設を持っていない地方自治団体においても、このような研修を行って頂きたい。被ばく医療やリスクコミュニケーションについても必修化したほうが良い(50代、医師)
45	新潟県	もっとゆっくりと時間をかけて勉強したい(40代、看護師)
46	新潟県	基礎知識はもっと多くの人が講習を工夫してほしい。(回数、会場設定など)(50代、事務(病院))
47	新潟県	除染スクリーニング、除染の実習、今回の福島事故の測定データ等についても問題のないあたりで情報提供があれば、より緊張感のある研修となったように思います(50代、医師)
48	新潟県	学べば学ぶほど疑問が増えてよくわからなくなるので、もっと勉強しないといけないなと思いました。できればグループを周って講師が疑問に答えてくれる時間があると良いと思いました(30代、看護師)
49	新潟県	大変勉強になりました(20代、救急救命士)
50	新潟県	もう少し深く学んでいきたいと思います(40代、救急救命士)
51	新潟県	大変ありがとうございました。以前放医研での研修において応用的な勉強を受けましたが、今回は基本的な面を勉強できて良かったです(20代、警察官)
52	新潟県	測定器の具体的数値が不明な点があった(30代、警察官)

53	新潟県	仕事で放射線に関わったりするため、今回の教養で放射線の基礎を知ることができました。今回学んだことをこれからの仕事で活かしていきたいと思います(20代、警察官)
54	新潟県	実習は時によく分かりやすかった(20代、警察官)
55	新潟県	放射線についての基本的な知識や予防策等を知ることができ、今後避難区域内で活動する際に、今日学んだことを活かしていきたいと思った(20代、警察官)
56	新潟県	とても勉強になりました(20代、警察官)
57	新潟県	職種に分けての講義をしてもらえると、尚良いと思う(30代、警察官)
58	大阪府	もう少しゆっくり話を聞ける時間配分にしてほしい。(30代、地方公共団体職員)
59	大阪府	講義1については予習がなかったためとても聞いていて難しかった。事前にこれだけは読んでくるという宿題(課題)というようなものがあれば、もっと充実した講習になると考える。(20代、消防士職員)
60	大阪府	非常に有益な研修でした。ありがとうございます。(30代、消防士職員)
61	大阪府	大規模災害の事例を多く紹介してもらいましたが、もっと規模の小さい病院や研究での災害時の事例や対応も取り入れてほしいです。本日は勉強させて頂きありがとうございました。(30代、消防士職員)
62	大阪府	改めて原子力災害時の対応を考えなければならぬと実感した。(20代、救急救命士)
63	大阪府	実際の事件事例を交えて、具体例をあげて講義をしていただけるとより実感がわくのではないかと思った。(30代、救急救命士)
64	大阪府	本日はありがとうございました。(20代、海上保安官)
65	大阪府	この分野は疎いので積極的に参加したい。(30代、海上保安官)
66	神奈川県	理解テスト1日かかって理解できたと思うが、正解しているか家に帰って調べてみます(40代、看護師)
67	神奈川県	放射線についてだけの基礎講座が欲しい(30代、看護師)
68	神奈川県	施設の案内が親切ではなかった。病院4階と教えてもらっても行き方がわからない。案内表示などもない(30代、診療放射線技師)
69	神奈川県	とても良く基礎をを理解できました。ありがとうございました(30代、事務(病院))
70	神奈川県	放射線基礎知識について広範囲に復習ができ有効であった。次回は内部被ばくの積算量の指針と人体への影響の統計学的資料に基づいた今後の被ばく被害の予想と対策について講習してほしい(40代、診療放射線技師)
71	神奈川県	自治体職員も無料で参加させていただきありがとうございました。立地県ではないため情報が不足しており苦労しています。今後も情報提供いただければ幸いです(40代、地方公共団体職員)
72	神奈川県	全体的に駆け足な感じの日程でした。もう少しじっくりお話を伺いたかったです(30代、地方公共団体職員)
73	神奈川県	非常にわかりやすい講義で大変参考になりました(40代、消防士)
74	神奈川県	勉強になりました(20代、消防士)
75	神奈川県	実習では普段、使用することが少ないので良い研修になった(20代、消防士)
76	神奈川県	大変勉強になりました。ありがとうございました(20代、自衛官)
77	山口県	実習はとても身になりました(20代、診療放射線技師)
78	山口県	実習のグループ分けについて、自治体、消防、自衛隊、医療施設担当者が同一グループに含まれるようにすると良い。グループワーク内容も各職種の特性を生かせるテーマを与えるディスカッション等があると良い。 実際に災害時に対応された各職種の担当者からの講演は説得力があると思います。 一般的な放射線の基礎教育は各施設で終了できるようにするべきではないでしょうか？DVDを受講者に配布するなど伝達講習を推進できるようにしてください(50代、診療放射線技師)

79	山口県	最初に自己紹介しそびれて1日おっかなびっくりでした。実習形式のときによくお話しできる感じになったのですが、できたら最初に自己紹介タイムを設けていただくと助かるかもしれないと思いました。(いい歳した大人なんだから、自己紹介くらい自分でしろというご指摘はごもっともなのですが)(20代、診療放射線技師)
80	山口県	他研修も受講したいので近県での開催の旨も教えてください(50代、診療放射線技師)
81	山口県	役職、職種によっては何度も聞いていたりして内容を知っているため講義1~3を2つのものにするなど、職種によっては短縮もしくは免除しても良かったのではないのでしょうか?(30代、診療放射線技師)
82	山口県	実習にもう少し時間と各個人に測定器があればもっと良い(50代、診療放射線技師)
83	山口県	実際に除染作業や線量率測定などを行った人の体験談など聞いてみたかったです。講義、実習ともに非常に有意義でした(20代、診療放射線技師)
84	山口県	スタッフのサポートもすばらしかったです。福島の実況やDMATの活動スライドなども見たかったです(30代、診療放射線技師)
85	山口県	消防機関の者です。消防で使用している資機材も実際に使用してみたいと思うので今後ご教示いただければ幸いです(30代、消防士)
86	山口県	もう少し時間を取り、ゆっくりとした講義を聞きたいと思いました。講師の先生方はお忙しいと思いますが、もう少しゆったりとした講義だと理解度も深まると思います(20代、救急救命士)
87	山口県	ありがとうございました。参加できるものはまた参加したいと思います(40代、救急救命士)
88	山口県	講義の内容は分かりやすく、とても勉強になりました。もう少し時間があると良いと思います。本日はありがとうございました。また参加させていただければと思います(20代、自衛官)
89	山口県	内容的には非常に充実しており感謝しております。しかし全ての講義が駆け足だったと思いますので、もう少し長く時間をとっていただければよいかと思います。また、受講許容数の拡大を望みます。(難しいかと思いますが)(30代、自衛官)
90	山口県	臨界事故のように、本当に深刻な事故が原発事故で発生する可能性があるのか、原発事故がどれだけ本当に深刻な事故なのかが知りたい。自然界以外の放射線は検出するが、距離がある程度あれば人体に影響はないのではないかと(30代、地方公共団体職員)
91	山口県	実際に数値を測ることができて興味深かったです(30代、事務(大学))
92	岡山県	今後も引き続き、よろしく願います(50代、診療放射線技師)
93	岡山県	座学も含め、内容が正確につたわった(20代、診療放射線技師)
94	岡山県	資料がカラーだともっと見やすかったです(30代、消防士)
95	岡山県	放射線をわかりやすいように、火の熱に例えて表現していただいたことにより、理解することができました。ありがとうございました(40代、救急救命士)
96	岡山県	実習の放射線単位が理解しずらく(不慣れなため)実際の現場では機能しないと思います。タイツで作業している方は不安ではないのかと私が不安になりました(40代、救急救命士)
97	岡山県	実習も含めてよかった。3つ目の講義も机の向きが前向きの方が良かった(30代、救急救命士)
98	岡山県	せつかくの機会なので、県内で起こり得る事態も想定した説明があればイメージしやすいと思いました。休日ではなく、平日に開催していただきたい。(同種の研修はほとんど平日に実施している。)また、消防、警察、自衛隊、DMAT等実動機関のみ対象の講座を開催してもらいたい(30代、警察官)
99	愛媛県	新しい知識を得ることができた、今後起こるであろう南海トラフ地震において伊方原発のある私たちの地域ではこのような学習会を今後も取り入れていく必要があると感じた(40代、看護師)

100	愛媛県	興味深く受講させていただきました。初めてなのでとても参考になりました(40代、看護師)
101	愛媛県	放射線基礎知識ということでしたが、知らない内容やきちんと理解できていなかった内容を確認することができ、とても良い機会となりました(20代、薬剤師)
102	愛媛県	もう少しスライドが欲しい(50代、診療放射線技師)
103	愛媛県	大変お世話になりました。知らないことで不安を大きくするよりもこのような機会を得て少しでも知識として得ることで、次につながる行動になればと考えました。ありがとうございました(40代、管理栄養士)
104	愛媛県	本日は大変勉強になりました。講義3の段階で席替えを行って、少し話が聞きづらくなりました(20代、消防士)
105	愛媛県	資料と説明の内容をゆっくりと行ってほしい。特に実際に放射線測定の際は時間をかけてほしい(20代、消防士)
106	愛媛県	実習の時に職場が同じ人が多いと私語が多くなると思う(40代、海上保安官)
107	愛媛県	学生時代に少し習った、いや長い年月が経つにつれ放射線についてだけでも良かったと思います。これから放射能等知識を増やして、視野を広げていきたいと思いました(50代、看護師)
108	茨城県	専門研修に是非参加したいので応募方法等を病院等へ周知させてほしいです。参加方法をホームページ等で公開していただけると幸いです(30代、医師)
109	茨城県	とても内容が難しく理解しにくい為、事前の学習やある程度の知識を得てからの講義の方がより理解しやすいと思った(40代、看護師)
110	茨城県	基礎を学んだことで、放射線に対する過度の不安が軽減しました。今後もより学びを深めていければと思います。ありがとうございました(30代、看護師)
111	茨城県	とても良い勉強ができました。原子力災害の分野がもっとわかりやすければいいなと感じました(20代、診療放射線技師)
112	茨城県	テキストが充実していて助かります(50代、その他)
113	茨城県	ぜひ消防本部でやってください(30代、消防士)
114	茨城県	測定、除染等の実技をメインで講習会を実施していただきたい。※現場を想定した訓練(30代、消防士)
115	茨城県	放射線については知識がないと理解できないので、最低基準の知識をもっとやってもらいたい(40代、消防士)
116	茨城県	独学では誤解や不理解になりやすい部分を、平易に教えていただき勉強になりました(30代、消防士)
117	茨城県	難しい部分もありましたが、放射線のことについて知れる有意義な時間であったことは間違いありません(20代、消防士)
118	茨城県	自分が放射線知識がとても不足しています。これを機会に勉強したいと思います(40代、救急救命士)
119	茨城県	被ばくに対しての対応について、もっと「組織として何をおこなえばよいのか」に重点をおいてほしかったです。国としての方針は分かりましたが、発災時に自分が何を行うべきなのか想像がつかないです。ありがとうございました(20代、救急救命士)
120	茨城県	原子力の基礎について理解を深めることができました。こうした機会には積極的に参加させていただきたいと思います(20代、警察官)
121	茨城県	測定器の取扱い方法は、これまでも経験していたが実際に計測できたのでとても良かった(30代、警察官)
122	茨城県	アンケートは〇×だけでなく「わからない」も加えた方がよい(50代、警察官)
123	青森県	すべての講義で内容と比較して、時間がたりないように感じた。最後になるにつれていつも駆け足となり、理解が浅くなった(40代、看護師)
124	青森県	福島での実際の状況を踏まえた現状を盛り込んでいただけたら、実に理解が深まったかなと思いました(50代、看護師)

125	青森県	Svの説明:リスクを含んだ等価線量等の説明では不十分。測定器のSvは1cm線量当量を示しているので誤解する可能性がある。詳しく説明したほうがよい(テキストにはあるが)(50代、診療放射線技師)
126	青森県	放射線技師として普段なかなか携わる機会のない体験をさせていただきました(20代、診療放射線技師)
127	青森県	国としての考え方がよくわかった。実際のデータなど実地でいかせる知識や技術をもっと知りたいです(30代、その他)
128	青森県	これまで基礎講座や専門講座を受講してきましたが、定期的に様々なコースに参加し続けることの重要性を感じました。基礎知識を頭にいれながら、国や県のルールに基づき訓練や実動で活動できるようにしていきたいです。ありがとうございました(30代、救急救命士)
129	青森県	福島での実体験などの話を聞きたかったです(40代、消防士)
130	青森県	今後も定期的に受講したいと思います(40代、救急救命士)
131	青森県	実際に測定器を使用できたのでとても勉強になりました。やはり自分で実際に触れる事が大事なことなんだとわかりました。所属に帰っても定期的に訓練をして忘れないようにしたいです(20代、消防士)
132	青森県	座学のみならず実習を含めた講義で大変ためになった(30代、救急救命士)
133	青森県	とても分かりやすく勉強になりました。またこのような研修があれば参加したいと思います。ありがとうございました(20代、救急救命士)
134	青森県	専門研修(スクリーニング、除染)を青森県でも開催してほしい(40代、警察官)
135	青森県	過去の国民保護訓練の成果及び国民保護訓練実施計画作成時の思考内容についての講習があれば聞いてみたい。(参加する立場として訓練の内容の動を知りたいため)(20代、自衛官)
136	宮城県	難しい部分を省いているようなので、話は聞きやすかったです。本質の理解には程遠いですが、大筋が学習できたという意味では目標が達成できたのではないかと思います(20代、医師)
137	宮城県	机上シュミレーション等があれば、尚いいと思いました(40代、看護師)
138	宮城県	貴重な研修ありがとうございました。ぜひ専門研修にも参加させていただきたいと思います。よろしく願います(40代、看護師)
139	宮城県	資料がとてもわかりやすく詳細でありがたかったです。実習もあり、楽しく学ぶことができました(20代、保健師)
140	宮城県	自組織で所有しているサーベイメータを持ち込んで取扱いを教えてください(30代、消防士)
141	宮城県	数値の単位が色々出てきましたが、どれを基準として活動すればよいか(Svを基準にすればわかりやすい)もっと詳しく知りたかった(30代、消防士)
142	宮城県	放射線・放射能は五感では感じられないため、イメージがよく分からない。ていねいに教えていただきましたが、もう少し映像を利用してイメージを得ればと思います(40代、救急救命士)
143	宮城県	放射線の基礎知識を知るために良い研修であった(20代、海上保安官)
144	富山県	公的病院の医師の参加が必用だと思いました(50代、医師)
145	富山県	OILが分かりにくかったです。レベル別の違いが分かりにくいです(40代、看護師)
146	富山県	カウント数とSvとの変換などの計算実習があれば良いと思います(50代、薬剤師)
147	富山県	スクリーニング、除染コースをもっと開催して欲しい(40代、診療放射線技師)
148	富山県	専門研修を増やしてほしいです(30代、消防士職員)
149	富山県	とても有意義な時間を送ることができました(20代、消防士職員)

150	富山県	数々の原子力災害関連の研修を受講しましたが、分かり易かったです。回数を経たこともあると思いますが、理解が深まりました。研修の密度が濃い。限られた時間内で仕方ないでしょうが、初回受講者には大変かもしれません(50代、救急救命士)
151	石川県	今後のカリキュラム作成の参考にするための研修をレビューさせていただきました(50代、医師)
152	石川県	日本看護協会の災害看護支援ナースの認定を持っています。原発事故について支援ナース研修で学んだことはありません。今後も継続して学習できればと思います(40代、看護師)
153	石川県	基礎知識レベルの研修の時は、業種関係ない班分けでもいいと思う(30代、診療放射線技師)
154	石川県	放射線に関する基礎的な知識を勉強することが出来て良かった。今回の講義は専門的な研修のためのイントロダクションのような内容であったので、専門的研修もぜひ参加したいと思います。グループワークもあり、分かりやすかったです(20代、看護師)
155	石川県	もう少し専門知識を学んでから講義を聞くべきでした(30代、消防士)
156	石川県	ありがとうございました(30代、救急救命士)
157	石川県	先生方の知識も大変豊富でとても分かりやすい内容でした。準備も行き届いてご努力に感謝します。強いて言えば研修と研修の間が短いのでもう少し間隔をあげてほしい(30代、獣医師)
158	石川県	測定器の取扱いが難しい(50代、地方公共団体職員)
159	石川県	ありがとうございました。早足で進められたため少し追い付けないところがありました。用語の解説まとめなどあるとうれしく思います(30代、事務(市町村))
160	北海道	まだ病院の準備がととのっていないので、事故が起きた時の病院の対応を考えたい。参考になる資料があればありがたいです。(30代、医師)
161	北海道	今後、NBC研修を受講したいと考えていたので大変勉強になりました。住んでいる室蘭は泊とも近く、災害時はDMATとして出勤することになると思うので知識を得られてよかった。(30代、看護師)
162	北海道	説明がわかりやすく理解しやすかったです。今後院内での訓練に生かしていきたいと思います。(40代、看護師)
163	北海道	もう少しステップアップした講座も受講したいと思います。(20代、診療放射線技師)
164	北海道	大変参考になる研修ありがとうございました。(30代、消防士)
165	北海道	ホールボディカウンター、フィットハンドモニターなど写真でしか見たことがないので実物を見てみたい。(30代、消防士)
166	北海道	大変有意義な研修でした。消防職員として正しい知識を今後も身につけていきたいと思います。(20代、消防士)
167	北海道	北海道の札幌での開催だけではなく、せめて主要都市(函館、旭川、釧路、帯広、北見等)で年1回程度は実施していただきたいです。地方の方ですとなかなか札幌へ出る機会も無い為です。(40代、薬剤師)
168	長崎県	地域の人間にも広めたい内容と思った(医療、行政など)(50代、医師)
169	長崎県	体内に入った場合の対応を聞ければよかったかな(20代、薬剤師)
170	長崎県	知識を高めるのに大いに役立ちました。機会があればまた参加したいと思います(40代、事務(病院))
171	長崎県	専門知識のレベル別に(40代、事務(病院))
172	長崎県	最後の福島の現場の活動状況ももう少し聞きたいと思いました(40代、事務(病院))
173	長崎県	特に最後の福島においてスクリーニングされた方の話については興味深いものであった。実体験された方の話は特に興味深い。今後取り入れていただきたい(20代、消防士)

174	長崎県	大変勉強になりました。機会があれば別の研修にも参加したいと思います(20代、消防士)
175	長崎県	日程が調整されれば、ぜひ専門研修に参加したいです(30代、救急救命士)
176	長崎県	放射線の種類により、性格が違うことがよく分かり基本的なことがわかって仕事をしていく必要を感じた(50代、警察官)
177	長崎県	福島第一原子力発電所の事故発生時の様子と実際に行われた対応を映像を交えて講義してみてもいいでしょうか(30代、警察官)
178	長崎県	放射線のことについてだいたい理解することができました。今後、放射線のことについて今までとは違った見方ができると思います(20代、技術職員(警察))
179	長崎県	アンケートについては専門用語でわかりにくかった(それが理解力を問うためでしょうか?)市町村としては、防災関係の人にもしっかり聞いてもらい体制整備が必要と考えます(50代、保健師)
180	福島県	原子力災害が起きてしまっている現在、今後どのとうな所を注意すればよいか、子供たちのセシウム摂取等含め指導についても話を聞きたいと思います。本日は大変勉強になりました(50代、看護師)
181	福島県	いわき市内での研修をお願い致します。また、できれば夏期で開いてほしいです。(雪等の影響もある為)(30代、診療放射線技師)
182	福島県	職場でも過去の事故(としたい)との雰囲気がありますが、継続して職員の研修が必要と感じました。ありがとうございました(50代、看護師)
183	福島県	座学だけでなく実習もあったので今までの講習会より身についたと思います。できれば開催は冬は避けてほしいです。雪が降ると移動がづらいです(30代、薬剤師)
184	福島県	①資料のPDFの文字が小さく見づらいので文字を大きくしてほしいと思います。 ②実習が時間に追われるようになっていたように感じました。初めて機器にさわる参加者には理解までは難しいと思います(40代、消防士)
185	福島県	貴重な資料、講義ありがとうございました。今後も積極的に開催され、みんなでリスクから守りましょう(30代、救急救命士)
186	福島県	大変勉強になりました。ぜひ別の研修にも参加したいと思います(30代、救急救命士)
187	福島県	講義3の内容が多すぎではないでしょうか。的を絞って講義してはいかがか(40代、救急救命士)
188	島根県	小児のヨウ素剤の配布服用の現実的な見通しが、まだ一定していませんのでよろしく願います(60歳以上、医師)
189	島根県	実習道具がとても工夫されていてよかったです(40代、医師)
190	島根県	放射線について勉強するのは高校以来でしたが「なんとなく怖いもの」と思っており、正しい知識を知っておくことの重要性を知ることが出来ました。その他の研修も受けてみたいです(30代、医師)
191	島根県	除染や院内での対応と実習を中心に行っていただけたら…と思います(30代、看護師)
192	島根県	ゆっくり理解していきたいと思っています(50代、事務(病院))
193	島根県	次のステップでは各論的なものがあると考えますので、ぜひそちらへ参加したいと思います。 確認テストの部分をもう少し強調して教えていただきたいと思っています。 自分には有益な研修となりました。ありがとうございました(40代、救急救命士)
194	島根県	全体をとおしてわかりやすい研修でした。目標を達成できて良かったです(30代、救急救命士)
195	島根県	原子力災害について、様々な機関が講習を行っているが、横断的に分かりやすい講習にしてほしい。総合的な講習というものがあるのでしょうか(50代、警察官)
196	島根県	事前に資料をいただけたら予習してきたのですが(40代、自衛官)

197	島根県	とても参考になる講義、実習ありがとうございました。今後汚染された患者に対する突然の行動と一緒に訓練できたらと思いました(20代、診療放射線技師(自衛官))
198	島根県	実技等でき、有益であったと思います(30代、事務(道府県))
199	島根県	時間設定はとても良かったです。長すぎず、短すぎず集中力を切らさず受講できました。実習で学んだ内容はとてもわかりやすく、頭に残りました。素晴らしい講義だと思います。講義3の内容は改善の余地があると思います(20代、事務(市町村))
200	島根県	放射線測定の正しいやり方を習得できてよかった。できれば身体(汚染した状態)を測定してみたかった(50代、事務(原子力事業者))
201	島根県	大変有意義な研修を受講させていただきありがとうございました。又の機会がございましたら、その際もよろしくお願いいたします(無記入)
202	鳥取県	学生の授業をする機会があるので、今日の内容を使わせてもらおうと思います(30代、医師)
203	鳥取県	昨年から原子力防災訓練に参加していますが知識がなく戸惑うこともあり、今回の研修に参加しました。今後同様の研修に未参加の隊員を参加させたいと思います(40代、自衛官)
204	鳥取県	実習で応用として、人体で測定してみたい(20代、海上保安官)
205	鳥取県	旧緊急被ばく医療研修に参加していたこともあり、理解が出来た(20代、海上保安官)
206	鳥取県	全国で研修を実施されていると思います。今後は段階的に基礎から専門研修へとステップアップしていく研修のカリキュラムや研修の日程調整及び研修が実施する期間(1つの分野が約半年程度)等の開催希望があります(30代、海上保安官)
207	鳥取県	原子力の基礎的なところを説明していただけたので良かったです。ややこしい語句について、例えて説明されたので(焚火など)分かり易かったです。ありがとうございました(20代、保健師)
208	岐阜県	実習は非常に实际的で勉強になった(50代、診療放射線技師)
209	岐阜県	地域町内会レベルのセミナーを開催してほしい。班の人数、4人くらいが望み(60歳以上、診療放射線技師(臨床検査技師))
210	岐阜県	放射線測定の実態をすることができて良かった。今後の当院NBC災害対策へ反映させて頂きたい。実際の除染手法やゾーニング、東日本時のスクリーニング例についても知りたい(20代、事務(病院))
211	岐阜県	サーベイメータの使い方を復習できて良かったです(20代、診療放射線技師)
212	岐阜県	①ほかの都道府県の好事例(体制、ネットワーク)を知りたい。 ②労安法の観点から、従事者の安全衛生管理体制(従事者もヨウ素剤服用)の好事例を知りたい。(原発存在県は県等自治体職員の安全衛生管理体制整備済なのか)(40代、医師)
213	岐阜県	今回の研修内容、複数の日にち開催していただきたい(50代、消防士)
214	岐阜県	思っていた疑問が解決できました。ありがとうございました(30代、消防士)
215	岐阜県	実習を行ったことで、「距離、時間、遮蔽」について理解が深まった(30代、消防士)
216	岐阜県	良い研修でした。今回研修で学んだことを活かせるようにします(30代、消防士)
217	岐阜県	徳永先生の講義はとても理解しやすかったです。今回のような基礎知識だと理解できます(50代、救急救命士)
218	岐阜県	内容が難しい事だったが、非常に分かりやすい講義であった。放射能に対する正しい知識が得られ大変勉強になりました(30代、救急救命士)
219	岐阜県	災害時医療対応について難しく感じました。現場対応の具体的なものを学びたかった(40代、救急救命士)
220	岐阜県	今回は理解できたが、反復してやないと忘れてしまうので開催日数を増やしてほしいです(30代、救急救命士)

221	岐阜県	放射線について難しいものというイメージが強く苦手意識があったが、少しは自分の中で改善できた気がする(20代、保健師(警察))
222	岐阜県	テキスト(資料)が準備され、プログラムに応じて理解が容易でした。本研修に参加して大変有益でした。ありがとうございました(40代、自衛官)
223	岐阜県	非常に参考になりました。単位の違い特に勉強になりました(20代、自衛官)
224	岐阜県	放射線測定で使用したダンボールのキットがすごく良いものでした(20代、自衛官)
225	岐阜県	原子力医療対応について基礎から教えてもらい6時間という短い時間であったが、放射線について理解することができた(40代、自衛官)
226	岐阜県	被災住民の健康管理(初、中、長期的)対策で、中長期的な健康管理の中では健康評価をどのように考えていけばよいでしょうか。大変学ぶことがたくさんあり、職場に持ち帰り復命を通して伝えていきます(50代、保健師)
227	滋賀県	滋賀県における取組を知りたいです(50代、看護師)
228	滋賀県	例がとても理解しやすかった(20代、看護師)
229	滋賀県	自分の知識のあいまいな所が再認識できるとても有意義な研修でした。このような研修に参加させて頂き、ありがとうございました(20代、診療放射線技師)
230	滋賀県	講師の先生方、多数参画されていて感謝します。ありがとうございました(50代、事務(病院))
231	滋賀県	放射線被害に対する知識は医療者といえど十分でないと思いますので、このような講義はとても有効だと思います(30代、理学療法士)
232	滋賀県	今までぼんやりしていた部分が例えを交え説明されたので解りやすかった。今後の対応の考えの参考としていきたい。火の例えは解りやすかった。避難の受け入れ側として正しい知識が必要と感じた(20代、事務(市長村))
233	福井県	去年参加した時よりも、内容が増え勉強になりました(30代、看護師)
234	福井県	もう少し頭の整理が必要です。スピードになかなか追いつきません(60歳以上、看護師)
235	福井県	初参加でしたが、放射線についての基礎知識を深めるために良い機会であり、改めて認識をさせて頂きました。ありがとうございました(50代、診療放射線技師)
236	福井県	今まであいまいであった事を理解することができた。原子力発電所を所有する組合職員として原子力(放射線)について今後も勉強していきたいと思います(20代、救急救命士)
237	福井県	福井県における研修は嶺北地区と嶺南地区の各1回の開催を希望します(30代、保健師)
238	静岡県	講義で理解できたと思っていたが、プレテストで確認すると理解不足が明らかになった。プレテストは大切だと思う(40代、看護師)
239	静岡県	単位、言葉、基本的なところからつまづきます。実働(医療班)シミュレーションをした方がいい(次のステップとして)(30代、看護師)
240	静岡県	今回は線源を使った線量測定で様々な実習ができてよかったです。今後はサーベイメータを持って実際に人の線量測定を行ってみたいと思いました(30代、診療放射線技師)
241	静岡県	大変有益な研修が出来ました。ありがとうございました(30代、診療放射線技師)
242	静岡県	今回の講義資料はとても分かり易かったです(30代、診療放射線技師)
243	静岡県	分かり易くて、もっと詳しいことも知りたいと思いました(30代、診療放射線技師)
244	静岡県	東日本の時の活動などすることができればよかったですと思います。実際にやったスクリーニングの方法など知りたい(30代、消防士職員)
245	静岡県	実習も入れていただいたので、実のある研修になったと思います。ありがとうございました(30代、消防士職員)

246	静岡県	実習の時間が最後の方が駆け足気味だったのでもう少しゆとりがあれば良いと思いました。内容はとても勉強になりました(20代、消防士職員)
247	静岡県	とても勉強になりました。他の研修への参加もしていきたいと思います。(30代、消防士職員)
248	静岡県	実際に実習をやったの講習だったので、よかったですと思います(30代、消防士職員)
249	静岡県	全くの白紙状態で参加しましたが、少しだけでも理解を深めることが出来ました。ありがとうございます(30代、消防士職員)
250	静岡県	様々な職種の方がいるため、知識等に差があり講義も大変だったかと思いますが説明が丁寧で良かった(20代、消防士職員)
251	静岡県	講義・実習とも大変勉強になりました。進行が早く、全てを理解することはできませんでしたが、大変良い講義となりました(30代、救急救命士)
252	静岡県	貴重な研修会ありがとうございました。放射線にイメージが無かったですが、少しイメージをもてるようになりました。今後は専門研修を受けたいと感じています(30代、救急救命士)
253	静岡県	貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。今後の活動に活かしていきたいと思います(30代、救急救命士)
254	静岡県	医療機関でよりスムーズに治療開始するために、現場で特に収集すべき情報があれば知りたいと感じました(30代、救急救命士)
255	静岡県	放射線防護研修は受けたことがありましたが、医療対応に関する研修を受けた事がなかったので大変ためになりました。ありがとうございました(20代、海上保安官)
256	静岡県	テキストがカラーであればもっと見やすかった(30代、消防士職員)
257	静岡県	実習は良かったと思う。距離、角度などを変えて体験できた。(40代、保健師)
258	静岡県	講義1および2の内容については住民の方に幅広く知っていただきたい内容だともいえました(30代、事務(市町村))
259	静岡県	大変勉強になりました。初心者なので理解できるか不安に思いましたがとてもわかりやすかったです。参加させていただき、本当にありがとうございました(30代、事務(指定公共機関))

平成25年度原子力災害医療対応/総合研修(放射線基礎知識)
理解度確認テスト取り纏め

- ① 原子力災害対策は、放射性物質の存在のために一般的な防災対策とは全く異なったものとなる。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	38	23	0	61	22	38	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	25	9	0	34	13	21	0	34
3	京都府	11月20日(水)	31	7	3	41	14	25	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	21	13	0	34	5	29	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	43	15	0	58	34	24	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	32	10	0	42	14	27	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	52	13	1	66	46	15	5	66
8	山口県	11月30日(土)	34	9	2	45	7	35	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	42	15	0	57	22	35	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	42	17	0	59	28	31	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	36	23	0	59	24	35	0	59
12	青森県	12月7日(土)	53	17	1	71	57	13	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	43	14	0	57	7	50	0	57
14	富山県	12月8日(日)	22	4	0	26	9	15	2	26
15	石川県	12月9日(月)	38	10	0	48	16	31	1	48
16	北海道	12月14日(土)	51	20	2	73	47	24	2	73
17	福島県	12月14日(土)	41	6	0	47	2	45	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	48	10	0	58	41	17	0	58
19	島根県	12月16日(月)	27	12	0	39	11	25	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	63	14	3	80	16	64	0	80
21	鳥取県	12月21日(土)	27	2	1	30	10	20	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	22	9	0	31	23	8	0	31
23	福井県	1月25日(土)	17	6	0	23	7	14	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	54	12	0	66	26	40	0	66
合 計			902	290	13	1205	501	681	23	1205
			75.7%	24.3%			42.4%	57.6%		

② GMサーベイメータがあれば全ての放射線を感度良く測定できる。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	1	60	0	61	2	58	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	2	32	0	34	1	33	0	34
3	京都府	11月20日(水)	2	36	3	41	1	38	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	0	34	0	34	4	30	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	3	55	0	58	3	55	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	2	40	0	42	2	39	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	1	64	1	66	1	60	5	66
8	山口県	11月30日(土)	2	41	2	45	1	41	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	2	55	0	57	2	55	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	4	55	0	59	3	56	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	5	54	0	59	1	58	0	59
12	青森県	12月7日(土)	3	68	0	71	0	70	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	3	54	0	57	1	56	0	57
14	富山県	12月8日(日)	3	23	0	26	1	23	2	26
15	石川県	12月9日(月)	3	44	1	48	1	46	1	48
16	北海道	12月14日(土)	5	66	2	73	5	66	2	73
17	福島県	12月14日(土)	1	46	0	47	2	45	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	3	55	0	58	1	57	0	58
19	島根県	12月16日(月)	2	37	0	39	2	34	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	4	73	3	80	4	75	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	3	26	1	30	0	30	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	1	30	0	31	2	29	0	31
23	福井県	1月25日(土)	1	22	0	23	2	19	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	5	61	0	66	2	64	0	66
合計			61	1131	13	1205	44	1137	24	1205
			5.1%	94.9%			3.7%	96.2%		

- ③ 汚染とは、放射性物質が体や衣服に付着した状態(体表面汚染)、創傷部に付着した状態(創傷汚染)および体内に入った状態(体内汚染)をいう。

正解:○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	47	14	0	61	55	5	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	34	0	0	34	34	0	0	34
3	京都府	11月20日(水)	33	5	3	41	35	4	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	26	8	0	34	33	1	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	50	8	0	58	57	1	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	32	10	0	42	40	1	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	52	13	1	66	46	15	5	66
8	山口県	11月30日(土)	39	4	2	45	39	3	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	44	13	0	57	52	5	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	54	5	0	59	59	0	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	49	10	0	59	51	8	0	59
12	青森県	12月7日(土)	60	11	0	71	66	4	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	46	10	1	57	50	7	0	57
14	富山県	12月8日(日)	21	5	0	26	22	2	2	26
15	石川県	12月9日(月)	41	7	0	48	46	1	1	48
16	北海道	12月14日(土)	57	14	2	73	65	6	2	73
17	福島県	12月14日(土)	43	4	0	47	45	2	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	43	14	1	58	53	5	0	58
19	島根県	12月16日(月)	34	5	0	39	35	1	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	69	8	3	80	77	2	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	24	5	1	30	28	2	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	28	3	0	31	29	2	0	31
23	福井県	1月25日(土)	19	4	0	23	21	0	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	53	13	0	66	60	6	0	66
合計			998	193	14	1205	1098	83	24	1205
			84.1%	16.3%			93.0%	7.0%		

④ 体内汚染した場合の放射線の人体への影響は、預託線量(Sv)であらわす。

正解:○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	40	21	0	61	54	6	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	27	7	0	34	31	3	0	34
3	京都府	11月20日(水)	31	7	3	41	30	9	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	26	8	0	34	29	5	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	36	22	0	58	37	21	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	30	12	0	42	37	4	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	46	19	1	66	59	2	5	66
8	山口県	11月30日(土)	35	8	2	45	41	1	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	39	18	0	57	47	10	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	37	21	1	59	51	8	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	44	15	0	59	44	15	0	59
12	青森県	12月7日(土)	51	19	1	71	64	6	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	40	16	1	57	51	6	0	57
14	富山県	12月8日(日)	22	4	0	26	19	5	2	26
15	石川県	12月9日(月)	36	11	1	48	34	13	1	48
16	北海道	12月14日(土)	46	25	2	73	64	7	2	73
17	福島県	12月14日(土)	35	12	0	47	41	6	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	33	24	1	58	44	14	0	58
19	島根県	12月16日(月)	29	10	0	39	32	4	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	62	14	4	80	69	10	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	22	6	2	30	25	5	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	25	6	0	31	23	8	0	31
23	福井県	1月25日(土)	18	5	0	23	18	3	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	46	20	0	66	55	11	0	66
合 計			856	330	19	1205	999	182	24	1205
			72.2%	27.8%			84.6%	15.4%		

⑤ 自然放射線の値は、どこでも同じである。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	0	61	0	61	0	60	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	0	34	0	34	0	34	0	34
3	京都府	11月20日(水)	0	38	3	41	0	39	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	0	34	0	34	0	34	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	0	58	0	58	0	58	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	0	42	0	42	0	41	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	1	64	1	66	2	59	5	66
8	山口県	11月30日(土)	0	43	2	45	0	42	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	1	56	0	57	0	57	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	3	56	0	59	0	59	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	1	58	0	59	0	59	0	59
12	青森県	12月7日(土)	0	71	0	71	0	70	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	3	53	1	57	0	57	0	57
14	富山県	12月8日(日)	0	26	0	26	2	22	2	26
15	石川県	12月9日(月)	1	47	0	48	0	47	1	48
16	北海道	12月14日(土)	2	69	2	73	0	71	2	73
17	福島県	12月14日(土)	0	47	0	47	0	47	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	0	57	1	58	0	58	0	58
19	島根県	12月16日(月)	0	39	0	39	0	36	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	1	76	3	80	1	78	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	1	28	1	30	0	30	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	1	30	0	31	0	31	0	31
23	福井県	1月25日(土)	0	23	0	23	0	21	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	1	65	0	66	0	66	0	66
合 計			16	1175	14	1205	5	1176	24	1205
			1.3%	98.7%			0.4%	99.6%		

- ⑥ 急性放射線症候群は、一度に1000mGy(1Gy)以上の放射線を全身に浴びた場合に発症する可能性のある多臓器障害である。

正解:○

			受講前				受講後			
			○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	福岡県	11月16日(土)	37	24	0	61	52	8	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	22	12	0	34	31	3	0	34
3	京都府	11月20日(水)	27	11	3	41	33	6	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	24	10	0	34	27	7	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	41	17	0	58	43	15	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	31	11	0	42	32	9	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	45	20	1	66	56	5	5	66
8	山口県	11月30日(土)	28	15	2	45	29	13	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	32	25	0	57	43	14	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	42	16	1	59	54	5	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	40	19	0	59	47	12	0	59
12	青森県	12月7日(土)	46	25	0	71	0	70	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	39	17	1	57	38	19	0	57
14	富山県	12月8日(日)	18	7	1	26	22	2	2	26
15	石川県	12月9日(月)	35	13	0	48	43	4	1	48
16	北海道	12月14日(土)	52	19	2	73	54	17	2	73
17	福島県	12月14日(土)	35	12	0	47	33	14	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	40	17	1	58	48	10	0	58
19	島根県	12月16日(月)	35	4	0	39	35	1	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	56	21	3	80	64	15	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	14	15	1	30	27	3	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	24	7	0	31	29	2	0	31
23	福井県	1月25日(土)	18	5	0	23	19	2	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	48	18	0	66	58	8	0	66
合計			829	360	16	1205	917	264	24	1205
			69.7%	30.3%			77.6%	22.4%		

- ⑦ 一般公衆の被ばく線量限度(自然放射線と医療被ばくを除いて、1年間で1mSv)は、これを超えると確定的影響が発生する値として設定されたものである。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	17	44	0	61	8	51	2	61
2	佐賀県	11月17日(日)	5	29	0	34	6	28	0	34
3	京都府	11月20日(水)	9	29	3	41	15	24	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	8	26	0	34	13	21	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	15	43	0	58	22	36	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	17	25	0	42	16	25	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	20	45	1	66	56	5	5	66
8	山口県	11月30日(土)	13	30	2	45	12	30	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	21	36	0	57	22	35	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	20	38	1	59	18	41	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	22	37	0	59	18	41	0	59
12	青森県	12月7日(土)	16	55	0	71	18	52	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	23	33	1	57	15	42	0	57
14	富山県	12月8日(日)	10	16	0	26	5	19	2	26
15	石川県	12月9日(月)	15	33	0	48	13	34	1	48
16	北海道	12月14日(土)	24	47	2	73	26	45	2	73
17	福島県	12月14日(土)	10	37	0	47	6	41	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	14	43	1	58	15	43	0	58
19	島根県	12月16日(月)	12	27	0	39	4	32	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	23	54	3	80	19	60	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	10	19	1	30	9	21	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	11	20	0	31	7	24	0	31
23	福井県	1月25日(土)	9	14	0	23	10	11	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	18	47	1	66	11	55	0	66
合計			362	827	16	1205	364	816	25	1205
			30.6%	70.0%			30.8%	69.1%		

⑧ 地方公共団体は、全面緊急事態において、PAZ内のすべての住民等の避難等の防護措置を実施しなくてはならない。

正解：×

			受講前				受講後			
			○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	福岡県	11月16日(土)	49	12	0	61	51	9	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	29	5	0	34	29	5	0	34
3	京都府	11月20日(水)	30	7	4	41	34	5	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	24	10	0	34	32	2	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	52	6	0	58	52	6	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	33	8	1	42	40	1	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	54	10	2	66	60	1	5	66
8	山口県	11月30日(土)	32	11	2	45	36	6	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	46	11	0	57	53	4	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	46	12	1	59	52	7	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	45	14	0	59	54	5	0	59
12	青森県	12月7日(土)	53	18	0	71	62	8	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	44	10	3	57	49	8	0	57
14	富山県	12月8日(日)	25	1	0	26	24	0	2	26
15	石川県	12月9日(月)	38	10	0	48	40	7	1	48
16	北海道	12月14日(土)	57	13	3	73	67	4	2	73
17	福島県	12月14日(土)	40	7	0	47	8	39	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	47	9	2	58	46	12	0	58
19	島根県	12月16日(月)	33	6	0	39	32	4	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	62	15	3	80	72	7	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	22	6	2	30	27	3	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	26	5	0	31	28	3	0	31
23	福井県	1月25日(土)	21	2	0	23	14	7	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	54	12	0	66	61	5	0	66
合 計			962	220	23	1205	1023	158	24	1205
			81.4%	18.6%			86.6%	13.4%		

- ⑨ 避難住民等に対して行う体表面汚染スクリーニングでは、OIL4以下でも可能ならば除染を行うことが望まれ、採るべき放射線防護指導を行う。

正解:○

			受講前				受講後			
			○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	福岡県	11月16日(土)	46	15	0	61	54	6	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	28	6	0	34	29	5	0	34
3	京都府	11月20日(水)	30	7	4	41	36	3	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	28	6	0	34	32	2	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	48	10	0	58	52	6	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	31	10	1	42	39	2	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	52	12	2	66	60	0	6	66
8	山口県	11月30日(土)	39	4	2	45	37	5	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	51	6	0	57	50	7	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	53	5	1	59	55	4	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	54	5	0	59	56	3	0	59
12	青森県	12月7日(土)	57	14	0	71	68	2	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	39	14	4	57	50	7	0	57
14	富山県	12月8日(日)	24	2	0	26	21	3	2	26
15	石川県	12月9日(月)	42	6	0	48	45	2	1	48
16	北海道	12月14日(土)	56	14	3	73	66	5	2	73
17	福島県	12月14日(土)	40	7	0	47	45	2	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	43	11	4	58	41	17	0	58
19	島根県	12月16日(月)	32	7	0	39	32	4	3	39
20	岐阜県	12月21日(土)	66	10	4	80	78	1	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	28	1	1	30	28	2	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	27	4	0	31	28	3	0	31
23	福井県	1月25日(土)	19	4	0	23	21	0	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	52	13	1	66	61	5	0	66
合計			985	193	27	1205	1084	96	25	1205
			82.8%	16.2%			91.8%	8.1%		

⑩ 放射線災害のリスクコミュニケーションにおいては、放射線を交通事故や喫煙のリスクのようななじみのあるものと比較することは有効である。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	福岡県	11月16日(土)	34	27	0	61	23	37	1	61
2	佐賀県	11月17日(日)	18	16	0	34	6	28	0	34
3	京都府	11月20日(水)	23	15	3	41	16	23	2	41
4	鹿児島県	11月20日(水)	16	17	1	34	5	29	0	34
5	新潟県	11月23日(土)	42	16	0	58	21	37	0	58
6	大阪府	11月23日(土)	30	11	1	42	20	21	1	42
7	神奈川県	11月30日(土)	42	22	2	66	37	24	5	66
8	山口県	11月30日(土)	24	19	2	45	9	33	3	45
9	岡山県	12月1日(日)	37	20	0	57	20	37	0	57
10	愛媛県	12月3日(火)	35	24	0	59	9	50	0	59
11	茨城県	12月5日(木)	36	23	0	59	21	38	0	59
12	青森県	12月7日(土)	43	27	1	71	9	61	1	71
13	宮城県	12月8日(日)	32	22	3	57	17	40	0	57
14	富山県	12月8日(日)	20	6	0	26	14	10	2	26
15	石川県	12月9日(月)	30	18	0	48	11	36	1	48
16	北海道	12月14日(土)	37	34	2	73	14	57	2	73
17	福島県	12月14日(土)	29	18	0	47	22	25	0	47
18	長崎県	12月14日(土)	39	17	2	58	37	21	0	58
19	島根県	12月16日(月)	24	15	0	39	7	30	2	39
20	岐阜県	12月21日(土)	50	27	3	80	39	40	1	80
21	鳥取県	12月21日(土)	22	7	1	30	4	26	0	30
22	滋賀県	1月18日(土)	18	13	0	31	16	15	0	31
23	福井県	1月25日(土)	12	11	0	23	4	17	2	23
24	静岡県	2月11日(火)	43	23	0	66	11	55	0	66
合計			736	448	21	1205	392	790	23	1205
			62.3%	37.9%			33.2%	66.9%		

平成25年度原子力災害医療対応/総合研修(被ばく医療関係者の連携)

アンケート取り纏め

	開催日	地域	開催場所	受講者数	アンケート 回収数
1	2月27日(木)	茨城県	茨城県青少年会館	23	20
2	3月2日(日)	北海道	札幌ポールスター	42	42
3	3月5日(水)	福島県	コラッセふくしま	39	35
4	3月7日(金)	愛媛県	中予地方局	38	35
5	3月9日(日)	宮城県	東北大学医学部長陵会館	40	40
6	3月10日(月)	石川県	金沢勤労者プラザ	35	35
7	3月12日(水)	佐賀県	佐賀市文化会館	19	19
8	3月13日(木)	鹿児島県	宝山ホール	24	24
9	3月14日(金)	京都府	京都市教育文化センター	15	12
10	3月15日(土)	長崎県	長崎医療センター	28	28
11	3月16日(日)	静岡県	ホテルアソシア静岡	34	34
12	3月18日(火)	島根県	松江テルサ	18	18
13	3月19日(水)	鳥取県	倉吉未来中心	13	12
14	3月20日(木)	福井県	福井市文化会館	28	28
15	3月21日(金)	新潟県	朱鷺メッセ	28	28
16	3月22日(土)	青森県	ホテル青森	23	22
			合計	447	432

96.6%

1.所属

		病院	保健所	医師会	放射線 技師会	消防	警察	自衛隊	海上 保安庁	国	道府県	市町村	大学	事業所	その他	無記入	合計
1	茨城県 2月27日(木)	5	4	0	0	9	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	20
2	北海道 3月2日(日)	16	0	0	3	3	0	4	8	0	4	0	1	0	3	0	42
3	福島県 3月5日(水)	8	0	0	2	18	0	0	2	0	0	0	0	0	5	0	35
4	愛媛県 3月7日(金)	9	4	0	0	11	1	0	0	0	4	4	0	0	2	0	35
5	宮城県 3月9日(日)	14	0	0	2	20	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	40
6	石川県 3月10日(月)	18	4	0	0	2	1	2	3	0	3	1	0	1	0	0	35
7	佐賀県 3月12日(水)	5	1	0	0	5	0	0	0	0	3	3	1	0	0	1	19
8	鹿児島県 3月13日(木)	4	2	0	1	5	0	0	0	0	4	6	0	2	0	0	24
9	京都府 3月14日(金)	6	1	0	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	12
10	長崎県 3月15日(土)	8	1	0	1	13	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	28
11	静岡県 3月16日(日)	13	3	0	0	11	0	1	2	0	1	3	0	0	0	0	34
12	島根県 3月18日(火)	3	0	0	0	6	2	0	2	0	3	2	0	0	0	0	18
13	鳥取県 3月19日(水)	5	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	12
14	福井県 3月20日(木)	14	1	0	0	11	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	28
15	新潟県 3月21日(金)	15	1	0	0	10	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	28
16	青森県 3月22日(土)	3	0	0	1	12	2	0	0	0	0	0	4	0	0	0	22
	合計	146	22	1	12	139	7	7	18	0	27	27	7	4	13	2	432
		34.0%	5.1%	0.2%	2.8%	32.3%	1.6%	1.6%	4.2%	0.0%	6.3%	6.3%	1.6%	0.9%	3.0%		

2.職種

		地方公共 団体職員	海上保 安官	自衛官	警察官	診療放射 線技師	消防職 員	救急救 命士	事務職 員	その他	無記入	合計
1	茨城県 2月27日(木)	3	0	0	0	3	9	0	2	3	0	20
2	北海道 3月2日(日)	4	8	4	0	11	3	0	1	11	0	42
3	福島県 3月5日(水)	0	2	0	0	6	12	6	2	7	0	35
4	愛媛県 3月7日(金)	11	0	0	1	5	5	6	3	4	0	35
5	宮城県 3月9日(日)	2	0	0	0	4	9	11	1	12	1	40
6	石川県 3月10日(月)	9	3	2	1	6	0	2	2	9	1	35
7	佐賀県 3月12日(水)	5	0	0	0	4	2	3	1	3	1	19
8	鹿児島県 3月13日(木)	7	0	0	0	3	3	2	2	7	0	24
9	京都府 3月14日(金)	2	0	0	1	2	1	2	2	2	0	12
10	長崎県 3月15日(土)	5	1	0	0	2	8	5	1	6	0	28
11	静岡県 3月16日(日)	6	2	1	0	7	9	2	1	6	0	34
12	島根県 3月18日(火)	2	2	0	2	3	1	5	1	2	0	18
13	鳥取県 3月19日(水)	1	0	0	0	4	1	1	1	4	0	12
14	福井県 3月20日(木)	2	0	0	0	3	9	2	0	9	3	28
15	新潟県 3月21日(金)	1	0	0	0	7	2	8	2	8	0	28
16	青森県 3月22日(土)	0	0	0	2	2	3	9	1	5	0	22
	合計	60 14.1%	18 4.2%	7 1.6%	7 1.6%	72 16.9%	77 18.1%	64 15.0%	23 5.4%	98 23.0%	6	432

3.年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
1	茨城県 2月27日(木)	0	8	7	3	2	0	0	20
2	北海道 3月2日(日)	0	12	12	10	8	0	0	42
3	福島県 3月5日(水)	0	7	8	11	9	0	0	35
4	愛媛県 3月7日(金)	0	4	4	15	11	1	0	35
5	宮城県 3月9日(日)	0	4	13	12	9	1	1	40
6	石川県 3月10日(月)	0	8	9	9	7	2	0	35
7	佐賀県 3月12日(水)	0	5	6	2	5	0	1	19
8	鹿児島県 3月13日(木)	0	1	5	11	7	0	0	24
9	京都府 3月14日(金)	0	0	4	4	4	0	0	12
10	長崎県 3月15日(土)	0	7	9	9	3	0	0	28
11	静岡県 3月16日(日)	0	8	8	8	9	1	0	34
12	島根県 3月18日(火)	0	4	8	4	2	0	0	18
13	鳥取県 3月19日(水)	0	1	2	3	5	1	0	12
14	福井県 3月20日(木)	0	5	7	10	6	0	0	28
15	新潟県 3月21日(金)	0	6	12	4	6	0	0	28
16	青森県 3月22日(土)	0	6	7	7	2	0	0	22
	合計	0	86	121	122	95	6	2	432
		0.0%	20.0%	28.1%	28.4%	22.1%	1.4%		

4.参加回数

① 当協会主催「旧緊急被ばく医療研修」への参加

		あり	なし	その他	無記入	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	3	17	0	0	20
2	北海道	3月2日(日)	16	23	3	0	42
3	福島県	3月5日(水)	13	21	1	0	35
4	愛媛県	3月7日(金)	19	16	0	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	13	26	0	1	40
6	石川県	3月10日(月)	20	15	0	0	35
7	佐賀県	3月12日(水)	9	9	0	1	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	12	12	0	0	24
9	京都府	3月14日(金)	1	10	0	1	12
10	長崎県	3月15日(土)	10	18	0	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	9	25	0	0	34
12	島根県	3月18日(火)	7	11	0	0	18
13	鳥取県	3月19日(水)	4	8	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	12	16	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	6	22	0	0	28
16	青森県	3月22日(土)	8	14	0	0	22
合 計		162	263	4	3	432	
		37.8%	60.9%	0.9%			

5.原子力防災訓練への参加について

		あり	なし	その他	無記入	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	3	17	0	0	20
2	北海道	3月2日(日)	14	27	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	10	24	0	1	35
4	愛媛県	3月7日(金)	19	16	0	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	13	26	0	1	40
6	石川県	3月10日(月)	20	15	0	0	35
7	佐賀県	3月12日(水)	9	9	0	1	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	12	12	0	0	24
9	京都府	3月14日(金)	1	10	0	1	12
10	長崎県	3月15日(土)	10	18	0	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	9	25	0	0	34
12	島根県	3月18日(火)	7	11	0	0	18
13	鳥取県	3月19日(水)	4	8	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	12	16	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	6	22	0	0	28
16	青森県	3月22日(土)	8	14	0	0	22
合 計		157	270	0	5	432	
		36.8%	62.5%	0.0%			

5.原子力防災訓練への参加が「あり」の場合

		事故前	事故後	両方	毎年	無記入	合計
1	茨城県	2月27日(木)	2	1	0	0	3
2	北海道	3月2日(日)	2	7	4	1	14
3	福島県	3月5日(水)	6	2	2	0	10
4	愛媛県	3月7日(金)	1	12	6	0	19
5	宮城県	3月9日(日)	6	4	1	1	13
6	石川県	3月10日(月)	2	14	3	0	20
7	佐賀県	3月12日(水)	2	3	4	0	9
8	鹿児島県	3月13日(木)	0	8	2	1	12
9	京都府	3月14日(金)	0	1	0	0	1
10	長崎県	3月15日(土)	0	6	2	1	10
11	静岡県	3月16日(日)	5	4	0	0	9
12	島根県	3月18日(火)	0	5	2	0	7
13	鳥取県	3月19日(水)	0	4	0	0	4
14	福井県	3月20日(木)	3	4	5	0	12
15	新潟県	3月21日(金)	2	2	1	0	6
16	青森県	3月22日(土)	1	4	1	0	8
合計			32	81	33	4	157
			20.9%	51.6%	21.0%	2.5%	

今後取り上げてほしいテーマ

1	茨城県	初期医療について(40代、看護師)
2	茨城県	除染方法を決定するトリアージについて(20代、消防職員)
3	北海道	簡易除染について(20代、看護師)
4	北海道	同様のものを来年度もお願いします(40代、自衛官)
5	北海道	救護所の設置・運営(スクリーニング)(40代、地方公共団体職員)
6	福島県	WBCのデータからわかること、WBC受講者へのフォロー(30代、診療放射線技師)
7	福島県	搬送(30代、救急救命士)
8	愛媛県	要救助者の広域避難(60歳以上、地方公共団体職員)
9	愛媛県	しばらく同様の形式で良いと思います(40代、救急救命士)
10	愛媛県	被ばく時の現場対応(30代、救急救命士)
11	宮城県	放射線汚染の実際(50代、医師)
12	宮城県	原子力の学習をしたい(60歳以上、看護師)
13	宮城県	サーベイの方法(30代、診療放射線技師)
14	石川県	連絡会議(60歳以上、医師)
15	石川県	線量計の使用方法、サーベーターの使用方法などの器具の説明と実習(50歳、薬剤師)
16	石川県	汚染された患者さんの処置(30代、自衛官)
17	佐賀県	救護所の設置、マニュアル策定、安定ヨウ素剤緊急配備時の対応(50代、事務(道府県))
18	京都府	リスクコミュニケーション(40代、地方公共団体職員)
19	長崎県	被ばく医療従事職員へのメンタルケアについて(30代、事務(病院))

20	長崎県	今回の研修の継続をお願いしたい(40代、消防職員)
21	静岡県	放射線被ばく医療(30代、看護師)
22	静岡県	シュミレーション訓練の実施(50代、消防職員)
23	静岡県	放射線測定器の詳細な取り扱い方法(メーカー・機種は事前に希望を聴取)(40代、消防職員)
24	静岡県	基本的な事項についての講座(30代、海上保安官)
25	静岡県	放射線、原子力の基礎知識(40代、事務(市町村))
26	島根県	地震発生に伴う原発事故対応の机上演習(20代、事務(病院))
27	新潟県	内部被ばくの有無、外部被ばくの場合。被ばく線量の推定方法について、通常の医療機関が有する設備でどのようにすればわかるのか具体的に教えていただきたいです。(50代、医師)
28	新潟県	外部被ばく者への対応(高次機能搬送の要否)(30代、医師)
29	新潟県	除染、院内収容時の注意(40代、看護師)
30	新潟県	傷病者の搬送と他機関と共有すべき情報について(20代、消防職員)
31	新潟県	本日と同じWSを伴うもの、まえは放射線被散予測をふまえたWS(40代、その他)
32	青森県	過去の災害時の実態と反省点、現在の考え方(40代、事務職員)
33	青森県	メンタルケア、アクションカード(40代、看護師)

今後取り上げてほしい講座

1	茨城県	除染方法を決定するトリアージについて(20代、消防職員)
2	茨城県	消防職員をメインとした原子力講座(30代、消防職員)
3	北海道	より実践的な除染方法～身近なもので除染しよう～(誰でもできる)知識がある人で(20代、看護師)
4	愛媛県	ワークショップ形式の講座(50代、地方公共団体職員)
5	石川県	最終マニュアルが(規制委員会)決まってから(60歳以上、医師)
6	静岡県	除染の実際 シミュレーション(30代、看護師)
7	青森県	職種混合の訓練(30代、診療放射線技師)
8	青森県	過去の大災害での対応から教訓となって、どのよう改善されたか(40代、事務職員)

座学a: 災害医療と被ばく医療

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	茨城県	2月27日(木)	15	5	0	0	20
2	北海道	3月2日(日)	25	16	0	0	42
3	福島県	3月5日(水)	12	20	1	0	35
4	愛媛県	3月7日(金)	14	21	0	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	11	25	2	0	40
6	石川県	3月10日(月)	17	15	0	0	32
7	佐賀県	3月12日(水)	14	5	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	13	9	1	0	24
9	京都府	3月14日(金)	8	4	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	20	6	1	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	17	17	0	0	34
12	島根県	3月18日(火)	7	9	0	0	18
13	鳥取県	3月19日(水)	6	6	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	14	13	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	13	14	0	0	28
16	青森県	3月22日(土)	17	5	0	0	22
合 計			223	190	5	0	429
			53.3%	45.5%	1.2%	0.0%	

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	茨城県	2月27日(木)	5	13	2	0	20
2	北海道	3月2日(日)	14	23	4	0	42
3	福島県	3月5日(水)	9	15	9	0	35
4	愛媛県	3月7日(金)	5	27	3	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	5	31	2	0	40
6	石川県	3月10日(月)	5	27	0	0	35
7	佐賀県	3月12日(水)	3	15	1	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	4	17	1	1	24
9	京都府	3月14日(金)	4	8	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	10	15	1	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	5	27	2	0	34
12	島根県	3月18日(火)	3	10	3	0	18
13	鳥取県	3月19日(水)	2	8	2	0	12
14	福井県	3月20日(木)	4	20	4	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	5	20	2	0	28
16	青森県	3月22日(土)	11	9	2	0	22
合 計			94	285	38	1	432
			22.5%	68.2%	9.1%	0.2%	

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	茨城県 2月27日(木)	11	9	0	0	0	20
2	北海道 3月2日(日)	22	19	0	0	1	42
3	福島県 3月5日(水)	10	22	1	0	2	35
4	愛媛県 3月7日(金)	10	23	2	0	0	35
5	宮城県 3月9日(日)	9	28	1	0	2	40
6	石川県 3月10日(月)	15	16	1	0	3	35
7	佐賀県 3月12日(水)	10	9	0	0	0	19
8	鹿児島県 3月13日(木)	7	15	1	0	1	24
9	京都府 3月14日(金)	5	7	0	0	0	12
10	長崎県 3月15日(土)	19	5	2	0	2	28
11	静岡県 3月16日(日)	10	21	3	0	0	34
12	島根県 3月18日(火)	6	10	0	0	2	18
13	鳥取県 3月19日(水)	6	6	0	0	0	12
14	福井県 3月20日(木)	9	18	0	0	1	28
15	新潟県 3月21日(金)	11	15	1	0	1	28
16	青森県 3月22日(土)	14	7	1	0	0	22
合 計		174	230	13	0	15	432
		41.7%	55.2%	3.1%	0.0%		

意見・要望

1	北海道	時間の割に内容が濃い(40代、診療放射線技師)
2	愛媛県	1頁4枚スライド(配布用紙)で充分です(40代、医師)
3	愛媛県	福島事故の際、第20FGとなったのは県庁であり、Jヴィレッジではない(50代、地方公共団体職員)
4	石川県	わかりやすかったです(50代、地方公共団体職員)
5	鹿児島県	スライドや話の内容も分かり易かった(30代、看護師)
6	鹿児島県	大変専門的内容であったが、講師の方の熱意があり、素晴らしかった(40代、地方公共団体職員)
7	鹿児島県	内容に対して時間がたりないのではないかと、資料をもう少し絞った方がいい(40代、事務(事業所))
8	長崎県	基本的な部分をもう少し入れてほしかった。看護師側としても少し難しかった(30代、看護師)
9	長崎県	スライドおよび資料の文字が小さく見えにくかった(50代、消防職員)
10	静岡県	一部見えませんでした(50代、診療放射線技師)
11	静岡県	駆け足で進んで行かれるので資料にもう少し話して下さる内容を記入してほしい(20代、消防職員)
12	静岡県	とてもわかりやすかったです(30代、消防職員)
13	島根県	要旨が資料に記入してあり、あとで振り返る時に分かり易くて良い(40代、保健師)
14	鳥取県	初めて知る内容が多く、勉強になった(30代、診療放射線技師)
15	青森県	P16.2スクリーニングカウンセリングとなっているが、カウンセリングをする時間はないので、リスクコミュニケーションや不安や心配への配慮としてもよいのかと感じました。(40代、その他)

座学b:原子力災害医療体制

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	茨城県	2月27日(木)	16	3	1	0	20
2	北海道	3月2日(日)	23	18	0	0	42
3	福島県	3月5日(水)	19	13	1	0	35
4	愛媛県	3月7日(金)	13	21	1	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	12	24	2	0	40
6	石川県	3月10日(月)	18	14	0	0	35
7	佐賀県	3月12日(水)	13	6	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	12	11	0	0	24
9	京都府	3月14日(金)	8	4	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	18	9	0	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	17	17	0	0	34
12	島根県	3月18日(火)	7	10	0	0	18
13	鳥取県	3月19日(水)	8	4	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	14	13	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	12	15	0	0	28
16	青森県	3月22日(土)	17	5	0	0	22
合 計			227	187	5	0	432
			54.2%	44.6%	1.2%	0.0%	

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	茨城県	2月27日(木)	4	13	2	0	20
2	北海道	3月2日(日)	14	23	4	0	42
3	福島県	3月5日(水)	9	18	6	0	35
4	愛媛県	3月7日(金)	6	26	3	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	8	25	5	0	40
6	石川県	3月10日(月)	5	27	0	0	35
7	佐賀県	3月12日(水)	4	14	1	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	5	17	1	0	24
9	京都府	3月14日(金)	3	9	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	10	16	0	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	3	27	4	0	34
12	島根県	3月18日(火)	4	10	3	0	18
13	鳥取県	3月19日(水)	2	9	1	0	12
14	福井県	3月20日(木)	4	22	2	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	3	20	4	0	28
16	青森県	3月22日(土)	10	10	2	0	22
合 計			94	286	38	0	432
			22.5%	68.4%	9.1%	0.0%	

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	茨城県 2月27日(木)	11	9	0	0	0	20
2	北海道 3月2日(日)	21	20	0	0	1	42
3	福島県 3月5日(水)	12	17	4	0	2	35
4	愛媛県 3月7日(金)	9	23	3	0	0	35
5	宮城県 3月9日(日)	11	24	3	0	2	40
6	石川県 3月10日(月)	15	16	1	0	3	35
7	佐賀県 3月12日(水)	10	9	0	0	0	19
8	鹿児島県 3月13日(木)	7	16	0	0	1	24
9	京都府 3月14日(金)	6	6	0	0	0	12
10	長崎県 3月15日(土)	18	6	2	0	2	28
11	静岡県 3月16日(日)	10	22	2	0	0	34
12	島根県 3月18日(火)	5	12	0	0	1	18
13	鳥取県 3月19日(水)	6	5	0	0	1	12
14	福井県 3月20日(木)	12	15	0	0	1	28
15	新潟県 3月21日(金)	10	15	2	0	1	28
16	青森県 3月22日(土)	14	7	1	0	0	22
合 計		177	222	18	0	15	432
		42.4%	53.2%	4.3%	0.0%		

意見・要望

1	福島県	スライドの説明が早く、わかりづらい部分があった。(40代、看護師)
2	愛媛県	1頁4枚スライド(配布用紙)で充分です。 語句のスライドはもっと細かくても(40代、医師)
3	石川県	わかりやすかったです(50代、地方公共団体職員)
4	鹿児島県	簡潔でわかりやすかったです(40代、地方公共団体職員)
5	長崎県	スライドおよび資料の文字が小さく見えにくかった(50代、消防職員)
6	静岡県	とてもわかりやすかったです(30代、消防職員)
7	静岡県	OIL、EALの理解が・・・(40代、地方公共団体職員)
8	島根県	EALで、要援護者避難と記載がありましたが、今は違います。H25.10.16原子力規制委 資料3参照(30代、地方公共団体職員)
9	島根県	ややこしい言葉の覚え方を教わり、会議等で共通理解ができ正しい理解ができると思いました(40代、保健師)
10	新潟県	EALとOILの考え方、分け方がよくわかりませんでした(50代、医師)
11	青森県	スライドが細かいので大きく投影を(40代、看護師)
12	青森県	OILの詳細がもう少し知りたかった。(40代、その他)

ワークショップ:初動体制の確認

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	9	8	3	0	0	20
2	北海道	3月2日(日)	15	25	1	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	11	20	2	0	2	35
4	愛媛県	3月7日(金)	17	14	3	0	1	35
5	宮城県	3月9日(日)	6	18	14	0	2	40
6	石川県	3月10日(月)	15	18	0	0	2	35
7	佐賀県	3月12日(水)	10	9	0	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	11	11	1	0	1	24
9	京都府	3月14日(金)	6	5	1	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	17	9	1	0	1	28
11	静岡県	3月16日(日)	6	25	2	1	0	34
12	島根県	3月18日(火)	8	8	1	0	1	18
13	鳥取県	3月19日(水)	6	6	0	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	10	16	1	0	1	28
15	新潟県	3月21日(金)	14	12	1	0	1	28
16	青森県	3月22日(土)	10	10	0	0	2	22
合 計		171	214	31	1	15	432	
		41.0%	51.3%	7.4%	0.2%			

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	11	6	3	0	0	20
2	北海道	3月2日(日)	16	25	0	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	18	14	1	0	2	35
4	愛媛県	3月7日(金)	16	17	1	0	1	35
5	宮城県	3月9日(日)	7	21	10	0	2	40
6	石川県	3月10日(月)	15	17	1	0	2	35
7	佐賀県	3月12日(水)	12	7	0	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	13	10	0	0	1	24
9	京都府	3月14日(金)	6	5	1	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	15	11	0	0	2	28
11	静岡県	3月16日(日)	9	25	0	0	0	34
12	島根県	3月18日(火)	7	10	0	0	1	18
13	鳥取県	3月19日(水)	6	6	0	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	14	12	2	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	14	11	2	0	1	28
16	青森県	3月22日(土)	13	7	0	0	2	22
合 計		192	204	21	0	15	432	
		46.0%	48.9%	5.0%	0.0%			

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	2	13	4	0	1	20
2	北海道	3月2日(日)	13	25	3	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	9	16	8	0	2	35
4	愛媛県	3月7日(金)	7	25	2	0	1	35
5	宮城県	3月9日(日)	1	29	8	0	2	40
6	石川県	3月10日(月)	7	24	2	0	2	35
7	佐賀県	3月12日(水)	6	7	6	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	8	14	1	0	1	24
9	京都府	3月14日(金)	3	7	2	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	8	17	1	0	2	28
11	静岡県	3月16日(日)	8	19	7	0	0	34
12	島根県	3月18日(火)	4	12	1	0	1	18
13	鳥取県	3月19日(水)	3	8	1	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	8	16	3	0	1	28
15	新潟県	3月21日(金)	6	15	6	0	1	28
16	青森県	3月22日(土)	7	13	0	0	2	22
合 計		100	260	55	0	17	432	
		24.1%	62.7%	13.3%	0.0%			

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	7	10	2	0	1	20
2	北海道	3月2日(日)	17	22	2	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	10	20	3	0	2	35
4	愛媛県	3月7日(金)	12	19	3	0	1	35
5	宮城県	3月9日(日)	4	24	9	0	3	40
6	石川県	3月10日(月)	9	22	2	0	2	35
7	佐賀県	3月12日(水)	6	11	2	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	9	12	0	0	3	24
9	京都府	3月14日(金)	4	6	2	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	10	14	1	0	3	28
11	静岡県	3月16日(日)	7	22	5	0	0	34
12	島根県	3月18日(火)	3	11	3	0	1	18
13	鳥取県	3月19日(水)	6	5	1	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	7	18	2	0	1	28
15	新潟県	3月21日(金)	11	13	3	0	1	28
16	青森県	3月22日(土)	9	9	2	0	2	22
合 計		131	238	42	0	21	432	
		31.6%	57.3%	10.1%	0.0%			

意見・要望

1	茨城県	検討課題を明確に提示して欲しい(50代、保健師)
2	北海道	目的がちょっと伝わりづらかったです。初めて参加されている方などは多分理解できないようでした。分かっている方にはすごく良いと思います(30代、診療放射線技師)
3	北海道	用語や体制など、日常とかけ離れすぎていたため理解できなかった(20代、診療放射線技師)
4	北海道	グループ内で意見がまとまらないまま発表となってしまった。グループ内で十分に意見の交換が行えていない。病院がどのような医療機関でどんな専門性をもっているのか等の設定を詳しくしてほしい(20代、看護師)
5	福島県	別の班の内容が分からなかった。(40代、救急救命士)
6	福島県	ケーススタディの時間をもう少しとってもらえると(30代、薬剤師)
7	愛媛県	もう少し短くても(2題=90分なので)(40代、医師)
8	愛媛県	震度6弱だけの設定だと、原子力災害まで考えがいくのに時間がかかると思います(20代、地方公共団体職員)
9	愛媛県	団体としての参加が出来ない部分があった、仕方のないことだと思うが勉強になった(40代、薬剤師)
10	宮城県	思いは分かりますが、宮城県内の連携についての情報を知っている人が必要だったと思います(40代、看護師)
11	宮城県	各県での被ばく医療のとりにくみ状況を確認し、組み立てていくとよいと思うし、参加者の背景等少し配慮して(50代、看護師)
12	宮城県	質問の前提がわからなかった面があった(50代、地方公共団体職員)
13	宮城県	災害本部に入る職員、災害担当者が参加できるともっと有意義だったのではと感じた(40代、臨床工学技士)
14	宮城県	想定をもっとわかりやすく(40代、救急救命士)
15	宮城県	質問の内容に理解するのが難しいところがあった。講師のいいたい事は理解できた(40代、救急救命士)
16	石川県	何をどう話合えばよいかわかった(50代、地方公共団体職員)
17	佐賀県	もっと時間をかけて話し合いができればと思いました(50代、地方公共団体職員)
18	佐賀県	情報の入手等について、もう少し詳細な(30代、地方公共団体職員)
19	佐賀県	災害対策等のことをよく知らなかった(30代、診療放射線技師)
20	鹿児島県	他病院の方々と交流ができたのでよかった(30代、看護師)
21	鹿児島県	もう少し時間がほしかった(50代、薬剤師)
22	鹿児島県	非常に勉強になりました(40代、地方公共団体職員)
23	鹿児島県	放管員がいた方がより関係者の理解が深まったと思う。自由参加ではなく要請してもう方が良かった(40代、事務(事業所))
24	長崎県	参加している関係機関が少なくあまり具体的ではなかったと感じました(30代、消防職員)
25	静岡県	講師に振られても答えが出なかった人がいたのでもう少し改善してほしい(30代、消防職員)

26	静岡県	とてもわかりやすかった。勉強になった(30代、消防職員)
27	静岡県	自分のところの計画、マニュアルを持ってくるとよかったです(40代、地方公共団体職員)
28	島根県	求められた議論ができなかった(20代、事務(病院))
29	鳥取県	班のメンバーの立場が異なるので、なかなか話をまとめる方向性を統一することが難しかったです。実際もこんな感じになるのかもしれませんが(30代、地方公共団体職員)
30	新潟県	初動体制の大まかなことは理解できたが、実際災害が起きた場合にこの程度 of 理解では不十分だと感じた。(20代、診療放射線技師)
31	新潟県	知識不足だったので後日確認したい。(30代、診療放射線技師)

机上演習

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	9	8	2	0	1	20
2	北海道	3月2日(日)	17	22	2	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	14	17	3	0	1	35
4	愛媛県	3月7日(金)	14	17	3	0	1	35
5	宮城県	3月9日(日)	5	23	10	0	2	40
6	石川県	3月10日(月)	12	16	5	0	2	35
7	佐賀県	3月12日(水)	8	9	1	0	1	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	10	12	1	0	1	24
9	京都府	3月14日(金)	7	4	1	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	13	11	1	0	3	28
11	静岡県	3月16日(日)	4	24	5	0	1	34
12	島根県	3月18日(火)	4	11	2	0	1	18
13	鳥取県	3月19日(水)	6	6	0	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	11	16	0	0	1	28
15	新潟県	3月21日(金)	14	12	1	0	1	28
16	青森県	3月22日(土)	10	10	1	0	1	22
合 計		158	218	38	0	18	432	
		38.2%	52.7%	9.2%	0.0%			

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	9	9	1	0	1	20
2	北海道	3月2日(日)	20	21	0	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	19	15	0	0	1	35
4	愛媛県	3月7日(金)	14	17	3	0	1	35
5	宮城県	3月9日(日)	6	22	9	0	3	40
6	石川県	3月10日(月)	12	19	2	0	2	35
7	佐賀県	3月12日(水)	12	7	0	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	11	12	0	0	1	24
9	京都府	3月14日(金)	7	4	1	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	14	10	0	0	4	28
11	静岡県	3月16日(日)	6	26	1	0	1	34
12	島根県	3月18日(火)	6	11	0	0	1	18
13	鳥取県	3月19日(水)	6	6	0	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	13	14	1	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	15	10	2	0	1	28
16	青森県	3月22日(土)	13	8	0	0	1	22
合 計		183	211	20	0	18	432	
		44.2%	51.0%	4.8%	0.0%			

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	茨城県 2月27日(木)	5	11	3	0	1	20
2	北海道 3月2日(日)	17	21	3	0	1	42
3	福島県 3月5日(水)	12	13	9	0	1	35
4	愛媛県 3月7日(金)	8	24	2	0	1	35
5	宮城県 3月9日(日)	4	24	9	1	2	40
6	石川県 3月10日(月)	6	21	6	0	2	35
7	佐賀県 3月12日(水)	5	9	5	0	0	19
8	鹿児島県 3月13日(木)	8	14	1	0	1	24
9	京都府 3月14日(金)	4	7	1	0	0	12
10	長崎県 3月15日(土)	8	15	1	0	4	28
11	静岡県 3月16日(日)	6	18	9	0	1	34
12	島根県 3月18日(火)	3	12	2	0	1	18
13	鳥取県 3月19日(水)	4	8	0	0	0	12
14	福井県 3月20日(木)	7	19	2	0	0	28
15	新潟県 3月21日(金)	9	14	4	0	1	28
16	青森県 3月22日(土)	6	14	1	0	1	22
合 計		112	244	58	1	17	432
		27.0%	58.8%	14.0%	0.2%		

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	茨城県 2月27日(木)	8	8	3	0	1	20
2	北海道 3月2日(日)	19	18	4	0	1	42
3	福島県 3月5日(水)	13	13	8	0	1	35
4	愛媛県 3月7日(金)	12	20	2	0	1	35
5	宮城県 3月9日(日)	5	22	10	1	2	40
6	石川県 3月10日(月)	8	16	9	0	2	35
7	佐賀県 3月12日(水)	6	10	3	0	0	19
8	鹿児島県 3月13日(木)	8	15	0	0	1	24
9	京都府 3月14日(金)	6	5	1	0	0	12
10	長崎県 3月15日(土)	7	16	1	0	4	28
11	静岡県 3月16日(日)	6	20	7	0	1	34
12	島根県 3月18日(火)	1	13	2	1	1	18
13	鳥取県 3月19日(水)	6	6	0	0	0	12
14	福井県 3月20日(木)	8	17	2	0	1	28
15	新潟県 3月21日(金)	13	12	2	0	1	28
16	青森県	8	10	3	0	1	22
合 計		134	221	57	2	18	432
		32.3%	53.3%	13.7%	0.5%		

意見・要望

1	北海道	結局、関連機関の情報のやりとりについて十分にわからなかった。グループ内で役割分担が十分でなく数人の意見で進んでしまった。わからないまま進めても理解につながらないため、ファシリテーターの役割がほしかった(20代、看護師)
2	北海道	短時間すぎて考える時間がなかった(30代、消防士)
3	北海道	中途半端に終わった感じ。もう少し長く時間をとってみっちりやれば効果ある。※参加機関ももっときちんとそろえてやればよい(40代、地方公共団体職員)
4	北海道	もっと時間が長くても良いと思います(30代、地方公共団体職員)
5	福島県	やったことのない事を想定するのが難しかった。(30代、診療放射線技師)
6	福島県	ある程度、想定シナリオを付与しておかないと時間ばかりかかる。(50代海上保安官)
7	愛媛県	ワークショップを短くし、こちらを長くはいかがでしょうか？(90分くらいやっても良いかも)(40代、医師)
8	愛媛県	県のグループに参加したが、防災部門、医療部門、保健所(現地対応)で役割が異なるので少し動きづらかった(30代、地方公共団体職員)
9	愛媛県	想定をもう少し具体的に(50代、地方公共団体職員)
10	愛媛県	進め方の、より詳細な説明が必要だと感じました(40代、警察官)
11	愛媛県	知識がほとんどなかったなので、理解度については今ひとつかと思われる(50代、診療放射線技師)
12	宮城県	時間が短く消化不良(50代、事務(病院))
13	宮城県	用紙の使い方がわからなかったです(40代、看護師)
14	宮城県	中途半端なまま終わってしまった。結局どのような役割を担えばよいかわからなかった。院内で生かす(30代、看護師)
15	宮城県	用紙の使用方法をくわしく説明してほしい(30代、看護師)
16	宮城県	行政でも県市町村でも立場が違ふとケーススタディの事例での動きも違い、難しいと感じた(40代、地方公共団体職員)
17	宮城県	時間不足(40代、臨床工学技士)
18	宮城県	全く情報が無く、何をしているか不明だった(50代、救急救命士)
19	石川県	実際行動レベルでわかりやすかった(50代、地方公共団体職員)
20	石川県	時間不足(50代、診療放射線技師)
21	石川県	隣県ということで送信(情報提供依頼)でしたが、返信がなく先に進まなかった。(FAXしますとの回答があったため待っていた。)また、被害は県内にもあるはずだが、問い合わせ先も県内であり、やり取りができなかった(60歳以上、地方公共団体職員)
22	石川県	隣接県であったため、今回の設定では、連絡先が少なく演習ができなかった(40代、地方公共団体職員)
23	佐賀県	もっと時間をかけて話し合いができればと思いました(50代、地方公共団体職員)
24	佐賀県	ワークショップと机上演習を双方やるのであれば、もう少し時間が欲しい(30代、地方公共団体職員)
25	鹿児島県	大変良い演習だったと思うので、もう少し時間を長くしてもよかったと思う(30代、地方公共団体職員)
26	鹿児島県	もう少し時間がほしかった(50代、薬剤師)
27	鹿児島県	もう少し発電所内の状況を厳しいものにしては(40代、地方公共団体職員)
28	鹿児島県	非常に勉強になりました(40代、地方公共団体職員)
29	京都府	もう少し時間があつた方がよい(30代、事務(病院))

30	京都府	メンバーの構成とテーマの設定に難しさを感じました。有意義な議論になりづらかったです(30代、救急救命士)
31	長崎県	参加している関係機関が少なくあまり具体的ではなかったと感じました。もっと大規模な演習が必要と思います。時間ももっと取るべきです(30代、消防職員)
32	長崎県	災害状況等の想定があると、やりやすかったです。少人数の本部では、想定次第で、対応が大きく変わるため、回答しづらいところがありました(30代、消防職員)
33	長崎県	時間不足でした(40代、消防職員)
34	長崎県	時間が足りなかった(40代、海上保安官)
35	静岡県	時間配分が悪かったと(30代、診療放射線技師)
36	静岡県	状況の把握がわかりにくかった(30代、診療放射線技師)
37	静岡県	もう少し時間が取れたらよかった(30代、看護師)
38	静岡県	全体が参加できるようにしてくれた方が各機関の動きがわかる(30代、消防職員)
39	静岡県	とてもわかりやすかった。勉強になった(30代、消防職員)
40	静岡県	時間が短い(20代、消防職員)
41	静岡県	時間が足りず、残念でした(40代、地方公共団体職員)
42	静岡県	もう少し、時間がほしかった(50代、地方公共団体職員)
43	島根県	時間が短かった、もっと負荷があってもよかった(20代、事務(病院))
44	島根県	時間不足、1日コースでPM全て演習でもよい(30代、救急救命士)
45	島根県	各機関の役割が理解しやすかった。なかなか有意義な方法であると感じました(40代、保健師)
46	福井県	災害時の基本と行政の役割を良く理解した上で、ケーススタディにのぞめば、もっと有益なものになったと思う(30代、地方公共団体職員)
47	新潟県	ルール設定の説明をもう少し欲しかった。(20代、消防職員)
48	青森県	もう少し時間があっても良かったと思う。(20代、消防職員)
49	青森県	もう少し長くしてほしい。(30代、救急救命士)
50	青森県	とても有意義なプログラムであったと思います。(40代、その他)
51	青森県	1回では十分な理解とは言えないので、また参加し他職種との連携を学習したい。(40代、看護師)

本日の研修について

①参加して有益であったと思いますか。

			とても有益	有益	あまり有益で なかった	全く有益で なかった	無記入	合計
1	茨城県	2月27日(木)	13	7	0	0	0	20
2	北海道	3月2日(日)	17	23	1	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	12	22	0	0	1	35
4	愛媛県	3月7日(金)	12	20	3	0	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	4	30	4	0	2	40
6	石川県	3月10日(月)	9	24	0	0	2	35
7	佐賀県	3月12日(水)	12	7	0	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	15	8	0	0	1	24
9	京都府	3月14日(金)	5	6	1	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	14	14	0	0	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	9	24	1	0	0	34
12	島根県	3月18日(火)	2	14	1	0	1	18
13	鳥取県	3月19日(水)	6	6	0	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	7	20	1	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	13	13	1	0	1	28
16	青森県	3月22日(土)	15	7	0	0	0	22
合 計			165	245	13	0	9	432
			39.0%	57.9%	3.1%	0.0%		

②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。

			参加させ たい	どちらとも 言えない	参加させ たくない	自分が参 加したい	無記入	合計
1	茨城県	2月27日(木)	17	2	0	1	0	20
2	北海道	3月2日(日)	31	10	0	0	1	42
3	福島県	3月5日(水)	26	7	0	1	1	35
4	愛媛県	3月7日(金)	26	9	0	0	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	20	17	0	0	3	40
6	石川県	3月10日(月)	30	3	0	0	2	35
7	佐賀県	3月12日(水)	18	1	0	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	22	1	0	0	1	24
9	京都府	3月14日(金)	9	3	0	0	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	26	2	0	0	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	26	7	0	1	0	34
12	島根県	3月18日(火)	14	3	0	0	1	18
13	鳥取県	3月19日(水)	11	1	0	0	0	12
14	福井県	3月20日(木)	23	5	0	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	26	1	0	0	1	28
16	青森県	3月22日(土)	21	1	0	0	0	22
合 計			346	73	0	3	10	432
			82.0%	17.3%	0.0%	0.7%		

③研修(専門研修)にも参加したいと思いますか。

		是非 参加したい	参加したい	どちらとも 言えない	参加 したくない	無記入	合計
1	茨城県	2月27日(木)	11	8	1	0	20
2	北海道	3月2日(日)	17	16	7	0	42
3	福島県	3月5日(水)	13	17	4	0	35
4	愛媛県	3月7日(金)	8	21	6	0	35
5	宮城県	3月9日(日)	7	22	8	0	40
6	石川県	3月10日(月)	11	19	3	0	35
7	佐賀県	3月12日(水)	8	8	3	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	10	9	4	0	24
9	京都府	3月14日(金)	2	8	2	0	12
10	長崎県	3月15日(土)	12	16	0	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	10	19	3	1	34
12	島根県	3月18日(火)	5	10	2	0	18
13	鳥取県	3月19日(水)	2	9	1	0	12
14	福井県	3月20日(木)	9	16	3	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	6	19	2	0	28
16	青森県	3月22日(土)	15	7	0	0	22
合 計			146	224	49	1	432
			34.6%	53.1%	11.6%	0.2%	

意見・要望

1	茨城県	茨城県の原子力安全対策課や保健予防課と共催で開催するとさらによいのではないのでしょうか。自分の果たす役割、初動等について、理解を再度しなければと思いました(50代、保健師)
2	茨城県	他県消防本部で原子力施設等ありませんが、自分の消防局のマニュアルの再確認及び不足部分の良く見えた内容となりました。問題点発見のいい機会となりました(20代、消防職員)
3	茨城県	県外からの参加でしたが、県内の参加者が少ないのに驚きました。この研修が多くの方に参加してもらえる事を希望します。原子力安全研究協会による出張での講義は可能なのか?(40代、消防職員)
4	茨城県	大変勉強になり満足しています(30代、消防職員)
5	茨城県	ワークショップと机上演習をもう少し長時間かけてできれば、より身に付くと思います(30代、消防職員)
6	茨城県	医療機関、地方公共団体の職員が消防や警察に対してどのような現場活動を望んでいるのかを聞いてみたい→搬送されるまでに必ず欲しい情報など…(20代、消防職員)
7	北海道	このような内容を受講するにはまだ早かったかと思います。災害拠点病院ではあるものの、まだ2年と浅い経験のため理解が難しかったです(20代、診療放射線技師)
8	北海道	施設に来て講演してほしいくらいです。少数の人間が受けただけでは体制が整いきれない不安がある(40代、診療放射線技師)
9	北海道	企画して頂いてありがとうございました(20代、看護師)
10	北海道	臨床工学士としての参加だったがとても興味深い内容だった。次も参加したい(20代、臨床工学技士)
11	北海道	他機関の初動体制が理解できた。自院のマニュアルや地域性を考え見直す必要があると感じました。今回の研修を元に作成したいと思います(30代、看護師)

12	北海道	どうして警察の参加がないのか(50代、診療放射線技師)
13	北海道	希望受講ではなく、防災関係者等を集めて実施した方が効果的である(30代、消防職員)
14	北海道	ワークショップ方式は大変良かったです。道と連携して実施してもらおうと良い(40代、自衛官)
15	北海道	机上演習への参加はあまりないため、もう少し時間を取ってもらえたらと思う。とても参考になりました(20代、海上保安官)
16	北海道	ぜひ、各保安部、各船艇単位でこのような研修、訓練を行っていきたい。海保では警備マニュアルは有り、職員目を通してはいるが災害時の対応は全く知らなかった(30代、海上保安官)
17	北海道	机上演習の時間を多くしてほしい(40代、海上保安官)
18	北海道	事前の周知期間を確保し、実際に参加する関係機関すべてがそろえば実効性のある研修となる。(警察、保健所、役場、各被ばく医療機関の参加も必要)(40代、地方公共団体職員)
19	北海道	開催時間をお昼の関係上、13時~とかAM10時~とか食事がとれるようにしてほしい(50代、薬剤師)
20	北海道	実践に近い形でのワークショップは大変参考になりました。他職種との連携は大事だと思いました(40代、薬剤師)
21	福島県	気づきが色々ありました。ありがとうございます(30代、診療放射線技師)
22	福島県	原子力災害を常に身近に考える機会を設けていただきありがとうございます。今後も机上演習を何度も行う必要性を感じました。(40代、看護師)
23	福島県	いわき市医療、共立HP労災HPの実際の被ばく医療を紹介してほしい(50代、看護師)
24	福島県	時間く内容、もう少しゆったりとできればよかった。(50代、消防職員)
25	福島県	お疲れ様でした、各関係機関の役割が確認できました。(40代、消防職員)
26	福島県	時間厳守、終わりの時間を守ってください。参加者は遠方から来ています。講師の方が話をまとめていければいいと思います。(40代、消防職員)
27	福島県	机上演習は消防でも実施している指揮隊訓練ですが、多数機関が参加する上で円滑に進める難しさを共有出来たことが良かったと思います。円滑に進まないことを常と考えていただければOKかと。(50代、消防職員)
28	愛媛県	・防災との連携をもっと緊密にしてほしい。 ・医療コーディネーターの地位の確立を(50代、医師)
29	愛媛県	これ以上の人数では、この研修は難しいかもしれません。(40代、医師)
30	愛媛県	答えが見えなかった。どのようにしたらベストなのか、そこまで詰めた講義になればよかったと思う(20代、消防職員)
31	愛媛県	初動対応の難しさが身に染みてわかった(40代、薬剤師)
32	宮城県	宮城県の対応、東北電力さんの対応、大震災時の教訓、各所がどう対応したのか具体的に知りたかった(40代、医師)
33	宮城県	医療対応と名がつく研修のため救急担当の分野と受け取られる感じがします。CSCAが大切なので、消防本部担当や指導者クラスを積極的に参加させるようアナウンスしてもらいたい(30代、消防職員)

34	宮城県	福島原発後の福島県での原発対応の連絡体制や改善されたことの事例を聞きたい。ある程度のフローを周知すべきだと思う。悪いところをあげるだけで改善されるにはもっと上の組織の参加も必要だと思った(現場レベルの参加では良くならない)(30代、消防職員)
35	宮城県	屋内退避及び安定ヨウ素剤の服用について、共有化したい。即時避難の被ばく危険性が大きい(50代、地方公共団体職員)
36	宮城県	自院は女川から60kmはなれており、直接の対応というより、周辺の対応に応じて、それらに対して対することになると思うが、そのような枠組みについてもう少し話をききたかった(40代、医師)
37	宮城県	参加する対象と役職のない、もしくは係員レベルの職員が受講するべきではない。勤務年数や、係長職以上の人を対象にするべき。担当部署も適切に選択すべき。勉強にはなったが、推測でしかわからないことが多々あった(30代、消防職員)
38	宮城県	自施設のマニュアル等を知る良いきっかけとなりました(30代、看護師)
39	宮城県	開催案内で地方公共団体職員とあるが、その中でも、どの部門などあれば記載して頂くともっと有意義になるかと思いました(40代、地方公共団体職員)
40	宮城県	研修内容を明確にして(募集時に)。特にワークショップでは、末端の救急隊レベルでは組織のシステム等に回答できない。有事の各々組織のシステムの再認識させたいならば、消防課なり対策課の職員を対象になる方が適当(50代、消防職員)
41	宮城県	もう少し関係省庁が多く参加すればよいと思った(30代、看護師)
42	宮城県	もっと多くの機関に参加してほしい(40代、救急救命士)
43	宮城県	机上訓練は片寄りのある訓練になったようだ。全体が確認できるような進捗があればよかった(40代、救急救命士)
44	石川県	わかりやすく、イメージしやすかったです。写真など搬送されるイメージになるものがあると助かります(40代、地方公共団体職員)
45	石川県	各病院でのロールプレイ(連携機関とともに)ダミーでよい(60歳以上、医師)
46	石川県	自院でもやってほしい。できたらシリーズ的に(20代、看護師)
47	石川県	富山県で机上演習をやってほしい。防災担当や市(UPZの水目だけでなく避難者受け入れ市も含めて)医療機関も参加した形でやってみたい(60歳以上、地方公共団体職員)
48	石川県	海上保安庁の業務につき(災害時)今後窓口となる自治体が理解いただいていたが少し疑問がありましたが、とても有益な研修でした(30代、海上保安官)
49	佐賀県	時間をもっと取った方がよい(40代、診療放射線技師)
50	佐賀県	自分の知識があまりない状態で参加したので、用語や自分の病院のマニュアル対応についてわからないことばかりでした。今後知識を増やした上でまた参加させていただきたいと思います(20代、薬剤師)
51	佐賀県	机上演習について時間が短く感じました(30代、消防職員)
52	佐賀県	各機関が災害時における情報共有をどうしているのか知りたいと思いました(20代、救急救命士)
53	佐賀県	組織の責任者等が受けても良いと思いました(30代、診療放射線技師)
54	佐賀県	災害対策の連携について考える機会を作っていただきありがとうございます。所属で多くの者と考え方の共有が必要と思いました(無記入)
55	鹿児島県	机上演習はとても良いが、もう少し流がスムーズであり、時間をとってもらえるとよかったと思う(40代、看護師)

56	鹿児島県	3.11震災を踏まえて、災害(原子力)対応マニュアルを見直した機関も多いと思うので類型化されたひな形を紹介してもらいたい(50代、地方公共団体職員)
57	鹿児島県	関係機関、特に消防の具体の動きがよくわかった。その上で、今の立ち位置で何ができるのか「平時にすべきこと」を考えていけたら…と感じた(40代、その他)
58	鹿児島県	開始時刻変更の連絡がきていなかったなので、座学aはよくわからなかった(40代、救急救命士)
59	鹿児島県	リアルタイムな研修でした。ありがとうございます(50代、救急救命士)
60	鹿児島県	縦割りといわれる中、色々な方の顔が見れてよかった。(多くの職種のつながりが大切だということがわかった。)(40代、薬剤師)
61	鹿児島県	1回だけでなく、2回3回と研修を重ねるともっと身に付くと思う。連携の重要性を学ぶことができた。ありがとうございます(50代、薬剤師)
62	鹿児島県	数年受けた中で、一番良かった気がします。ぜひ、座学と演習を組み合わせてください。また半日程度がいいと思います(40代、地方公共団体職員)
63	鹿児島県	原子力を考える良い、機会であった(50代、事務(市町村))
64	鹿児島県	こういう訓練をするというイメージが事前の案内から想定しづらい。有効性を高めるための方法を今一度検討してもらいたい。机上演習についてはブラインドにより臨場感があったと思う。前田講師の実体験をより詳しく伺いたかった。ありがとうございます(40代、事務(事業所))
65	京都府	施設での訓練をしていかなければ…と思います(30代、診療放射線技師)
66	京都府	普段なかなか意識できない想定について、考える良い機会となりました(40代、事務(病院))
67	京都府	スクリーニング研修にも参加したいです(30代、診療放射線技師)
68	長崎県	教材の貸出等を検討して頂きたいです。初期被ばく医療機関ですが、職員への教育に手こずっています(30代、事務(病院))
69	長崎県	災害時のうごきがなかなかわかりにくいものですが、かなりわかった気がします(20代、薬剤師)
70	長崎県	情報共有のシミュレーションが日ごろから必要ですね(50代、医師)
71	長崎県	ワークショップを長めにもっとしてみたいと感じました(30代、看護師)
72	長崎県	ケーススタディでの情報共有の重要性 今必要な情報、次の準備のために必要な情報。どこがどこにどのタイミングで取りに行くのか、非常に難しいのもっと経験を重ねる必要を感じた(50代、地方公共団体職員(診療放射線技師))
73	長崎県	他本部、他の機関がどういう情報を欲しいのかということがわかり有意義なものであった(20代、消防職員)
74	長崎県	今回は有意義な研修に参加させて頂き、職場に戻って生かせるように励んでいきます(20代、消防職員)
75	長崎県	関係機関との連携の大切さや、各機関の初動体勢がわかりよかった(30代、消防職員)
76	長崎県	今回は貴重な研修ありがとうございました。今後大いに活かしていきたいと思います(20代、救急救命士)
77	長崎県	情報共有の重要さがよくわかりました。今後もこのような研修があればぜひ参加したいと思います(30代、救急救命士)
78	長崎県	本研修に多くの方が参加いただくよう訓練前に開催願いたい(40代、地方公共団体職員)
79	長崎県	ワークショップ、机上演習がとても有意義であったと思います。高山先生の説明がとてもわかりやすかった(20代、地方公共団体職員)
80	静岡県	原子力防災訓練への参加について:準備の参考となりました(60歳以上、地方公共団体職員)

81	静岡県	災害の話と労災の話は別々の方がわかりやすいと思う(40代、診療放射線技師)
82	静岡県	今回のような内容の場合は、事務職、管理職がターゲットだと思います(30代、診療放射線技師)
83	静岡県	もう少し具体的な内容をあらかじめ知りたい(30代、診療放射線技師)
84	静岡県	スライド、資料がとてもわかりやすかった。ワークショップでの話し合いはとても良かったですが、現実には決まっていなくて多くわかり勉強になりました。各関係機関との連携をもっととるべきとまなびました(30代、消防職員)
85	静岡県	静岡県の場合はどのような連絡体制になっているのかを混ぜて話していただければ尚よかった(20代、消防職員)
86	静岡県	各機関ともう少し連携を取った机上訓練を実施したかった(40代、消防職員)
87	静岡県	各関係機関の現況を知り、また多くの知識を学び、勉強になりました。改めて連携の大切を知ったことで、所属に戻ってフィードバックしたいと思います(30代、救急救命士)
88	静岡県	本当のネットワークづくりのために、県で主催した研修会が必要、県で調整会議が必要、いろいろな課題がわかりました(40代、地方公共団体職員)
89	静岡県	ワークショップで各部署の動きがわかってよかった(40代、保健師)
90	島根県	著名な山口先生のお話を伺えたことを大変光栄に思えます。ありがとうございました(40代、救急救命士)
91	島根県	他部署との意見交換の場ができてよかった(30代、救急救命士)
92	島根県	ケーススタディについては非常に面白かったが、もう少し事前に細かい約束事あれば良かった(40代、救急救命士)
93	島根県	ケーススタディが有意義なものであった、今後ケースをもう少し詳細にブラッシュアップされると良いと思います(30代、地方公共団体職員)
94	島根県	各部門の連携が重要であることが再確認できた(50代、診療放射線技師)
95	島根県	保健師として原子力に対する基礎知識がなかったため、ワークショップに机上演習と場違いだったかなと思いました(40代、保健師)
96	島根県	とても良いテーマであると思います。今日のみなさんの意見、要望を聞いてももっとブラッシュアップしていただければ、本当に有意義になると思います(30代、地方公共団体職員)
97	島根県	参加する対象を明確にしていただけると、現場に持ち帰るものができると思いました(40代、保健師)
98	鳥取県	日頃あまり意識したことがない分野であったため、参考になりました(30代、地方公共団体職員)
99	福井県	ケーススタディがとても良かった。シミュレーションをすることによって、実際に災害が起こった時に役に立つと思う(30代、診療放射線技師)
100	福井県	ぜひ、敦賀でもやってください(40代、医師)
101	福井県	勤務先の問題点が抽出できて大変良かったです(40代、医師)
102	福井県	福井の病院に勤務しているため、(災害拠点HP)研修をしに来ていただきたいです(40代、看護師)
103	福井県	多職種間での連携は必要になると思うが、実際に連携する内容が事務職と現場職で異なるので現時点では災害医療と原子力災害医療の違いを周知する程度から始めるべきだと思う(30代、救急救命士)

104	新潟県	参加のない職種や病院もあったので、1人でも施設から参加があるように調整してもよいのでは？(30代、診療放射線技師)
105	新潟県	医療職の人しかいなかったため、事務職の人も参加してほしい。(20代、診療放射線技師)
106	新潟県	演習について、医療班として職種が偏っていたためか、役割分担など演習がスムーズにやりにくかった。(30代、診療放射線技師)
107	新潟県	病院内のマニュアル作成、病院間での分担の仕方など病院管理者(事務職)にも参加していただきたいと思いました。県としてどうするかも考えていただく必要もありと思いました。多職種の人との研修で、知らないことも教えてもらいよかったです。(医療機関の場合、管理経営者、事務などの人の参加も今回の様なテーマでの場合必要だと思いました)(50代、医師)
108	新潟県	行政の立場で参加しましたが、防災担当の大変さを垣間見ることができました。自治体内の連携について考える場も必要と感じました。(20代、地方公共団体職員)
109	新潟県	ワークショップ研修がとてユニークで理解がすすめやすかった。(40代、救急救命士)
110	新潟県	机上演習ではもう少し負荷があってもよかった。(30代、救急救命士)
111	新潟県	ワークショップ、ケーススタディはとて勉強になりました。(20代、救急救命士)
112	新潟県	祝日ではなく平日開催が参加しやすい。県(行政)の参加がないのが残念。(40代、その他)
113	青森県	結局、他職種と連携できるかは不明(30代、診療放射線技師)
114	青森県	マニュアル(県、院内など)の熟読が痛感された。すぐに復習します。(40代、看護師)
115	青森県	県庁職員の参加が不可欠です。(50代、診療放射線技師)
116	青森県	コマンドの重要性を再認識しました。ありがとうございました。(30代、救急救命士)
117	青森県	初めての受講が総合研修であったため、段階的に受講しなければならないと感じた。(40代、救急救命士)
118	青森県	各テーブルに医療関係者、消防、警察、行政が入ってWSを行えばよいと思う(MCLSを受講した際に、そのようなWSを行った為(40代、救急救命士)
119	青森県	多職種が参加していて、貴重な意見・情報収集ができました。とても良かったです。もう少し時間をかけてグループを変えて演習などできればもっと良かったかもしれません。(50代、教員・医師)
120	青森県	机上演習でも連携のとりかたを実戦に近い形で行うことができたこと、課題を明確にできたことが良かった。(30代、看護師)
121	青森県	コマンド、連携等学ぶことが多かったのも、またこのような機会には参加したい。(40代、看護師)

平成25年度原子力災害医療対応/総合研修(被ばく医療関係者の連携)
理解度確認テスト取り纏め

① 原子力災害医療と緊急被ばく医療とで体制の違いはない。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	6	15	0	21	6	14	1	21
2	北海道	3月2日(日)	12	30	0	42	6	36	0	42
3	福島県	3月5日(水)	16	20	2	38	22	16	0	38
4	愛媛県	3月7日(金)	7	30	0	37	6	29	2	37
5	宮城県	3月9日(日)	14	25	0	39	10	29	0	39
6	石川県	3月10日(月)	12	22	2	36	9	25	2	36
7	佐賀県	3月12日(水)	4	15	0	19	9	10	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	5	15	5	25	3	20	2	25
9	京都府	3月14日(金)	2	13	0	15	1	14	0	15
10	長崎県	3月15日(土)	3	25	0	28	5	23	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	7	26	1	34	11	22	1	34
12	島根県	3月18日(火)	2	15	1	18	4	12	2	18
13	鳥取県	3月19日(水)	2	11	0	13	2	11	0	13
14	福井県	3月20日(木)	7	20	1	28	3	25	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	6	22	0	28	9	19	0	28
16	青森県	3月22日(土)	9	14	0	23	5	18	0	23
合計			114	318	12	444	111	323	10	444
			26.4%	73.6%			25.6%	74.4%		

② 被ばく医療機関は、災害対応が行えるよう、災害拠点病院が担っている。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	11	10	0	21	3	17	1	21
2	北海道	3月2日(日)	18	24	0	42	2	40	0	42
3	福島県	3月5日(水)	15	21	2	38	9	29	0	38
4	愛媛県	3月7日(金)	16	21	0	37	8	27	2	37
5	宮城県	3月9日(日)	17	22	0	39	2	37	0	39
6	石川県	3月10日(月)	14	20	2	36	7	27	2	36
7	佐賀県	3月12日(水)	7	12	0	19	3	16	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	7	13	5	25	4	19	2	25
9	京都府	3月14日(金)	6	9	0	15	1	14	0	15
10	長崎県	3月15日(土)	11	17	0	28	1	27	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	12	21	1	34	6	27	1	34
12	島根県	3月18日(火)	11	6	1	18	5	11	2	18
13	鳥取県	3月19日(水)	7	6	0	13	4	9	0	13
14	福井県	3月20日(木)	14	13	1	28	3	25	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	12	16	0	28	10	18	0	28
16	青森県	3月22日(土)	12	11	0	23	4	19	0	23
合計			190	242	12	444	72	362	10	444
			44.0%	56.0%			16.6%	83.4%		

③ 大規模な災害医療対応においては、体系的なアプローチが必要である。

正解:○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	19	2	0	21	20	0	1	21
2	北海道	3月2日(日)	42	0	0	42	41	1	0	42
3	福島県	3月5日(水)	36	0	2	38	38	0	0	38
4	愛媛県	3月7日(金)	36	1	0	37	34	1	2	37
5	宮城県	3月9日(日)	37	2	0	39	39	0	0	39
6	石川県	3月10日(月)	32	2	2	36	33	1	2	36
7	佐賀県	3月12日(水)	19	0	0	19	19	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	20	0	5	25	23	0	2	25
9	京都府	3月14日(金)	15	0	0	15	15	0	0	15
10	長崎県	3月15日(土)	28	0	0	28	28	0	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	30	3	1	34	33	0	1	34
12	島根県	3月18日(火)	17	0	1	18	16	0	2	18
13	鳥取県	3月19日(水)	13	0	0	13	13	0	0	13
14	福井県	3月20日(木)	26	1	1	28	28	0	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	26	2	0	28	27	1	0	28
16	青森県	3月22日(土)	21	2	0	23	23	0	0	23
合計			417	15	12	444	430	4	10	444
			96.5%	3.5%			99.1%	0.9%		

④ 災害対応において、迅速かつ的確な情報共有を実践するためには、指揮階層が必要となる。

正解:○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	21	0	0	21	20	0	1	21
2	北海道	3月2日(日)	40	2	0	42	42	0	0	42
3	福島県	3月5日(水)	36	0	2	38	37	1	0	38
4	愛媛県	3月7日(金)	35	2	0	37	35	0	2	37
5	宮城県	3月9日(日)	34	5	0	39	37	2	0	39
6	石川県	3月10日(月)	34	0	2	36	34	0	2	36
7	佐賀県	3月12日(水)	19	0	0	19	19	0	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	19	1	5	25	23	0	2	25
9	京都府	3月14日(金)	15	0	0	15	15	0	0	15
10	長崎県	3月15日(土)	26	2	0	28	25	3	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	30	3	1	34	32	1	1	34
12	島根県	3月18日(火)	17	0	1	18	15	1	2	18
13	鳥取県	3月19日(水)	12	1	0	13	13	0	0	13
14	福井県	3月20日(木)	26	1	1	28	27	1	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	26	2	0	28	25	3	0	28
16	青森県	3月22日(土)	23	0	0	23	22	1	0	23
合計			413	19	12	444	421	13	10	444
			95.6%	4.4%			97.0%	3.0%		

⑤ 災害初動時は、十分に人員の確保をしてから組織を立ち上げる。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	茨城県	2月27日(木)	9	12	0	21	4	16	1	21
2	北海道	3月2日(日)	9	33	0	42	1	41	0	42
3	福島県	3月5日(水)	10	26	2	38	14	24	0	38
4	愛媛県	3月7日(金)	5	32	0	37	5	30	2	37
5	宮城県	3月9日(日)	11	28	0	39	4	35	0	39
6	石川県	3月10日(月)	7	27	2	36	4	29	3	36
7	佐賀県	3月12日(水)	5	14	0	19	4	15	0	19
8	鹿児島県	3月13日(木)	3	17	5	25	0	23	2	25
9	京都府	3月14日(金)	1	14	0	15	0	15	0	15
10	長崎県	3月15日(土)	6	22	0	28	3	25	0	28
11	静岡県	3月16日(日)	6	27	1	34	2	31	1	34
12	島根県	3月18日(火)	4	13	1	18	2	14	2	18
13	鳥取県	3月19日(水)	4	9	0	13	3	10	0	13
14	福井県	3月20日(木)	11	16	1	28	11	17	0	28
15	新潟県	3月21日(金)	8	20	0	28	1	27	0	28
16	青森県	3月22日(土)	6	17	0	23	6	17	0	23
合計			105	327	12	444	64	369	11	444
			24.3%	75.7%			14.8%	85.2%		

平成25年度原子力災害医療対応/専門研修(スクリーニング・除染)
アンケート取り纏め

	開催日	地域	開催場所	受講者数	アンケート 回収数
1	12月25日(水)	石川県	能登中部保健福祉センター	12	12
2	1月10日(金)	茨城県	茨城県立健康プラザ	25	25
3	1月11日(土)	北海道	北農健保会館	20	19
4	2月1日(土)	佐賀県	佐賀県中部保健福祉事務所	24	23
5	2月9日(日)	大阪府	大阪医療センター	12	12
6	2月20日(木)	富山県	富山県民会館	29	28
7	2月22日(土)	岡山県	岡山医療センター	28	27
8	3月17日(月)	静岡県	えんてつ浜松駅前貸会議室	13	13
			合計	163	159

97.5%

1.所属

		病院	保健所	放射線技師会	消防	警察	自衛隊	海上保安庁	国	道府県	市町村	大学	事業所	その他	無記入	合計
1	石川県	8	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	12
2	茨城県	6	1	0	14	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	25
3	北海道	4	0	0	10	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	19
4	佐賀県	3	2	2	7	3	2	0	0	2	2	0	0	0	0	23
5	大阪府	2	0	0	6	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	12
6	富山県	6	4	0	13	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	28
7	岡山県	11	0	0	11	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	27
8	静岡県	3	2	0	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	13
	合計	43	10	2	69	7	6	1	1	12	7	0	0	1	0	159
		27.0%	6.3%	1.3%	43.4%	4.4%	3.8%	0.6%	0.6%	7.5%	4.4%	0.0%	0.0%	0.6%	0	

2.職種

		地方公共 団体職員	海上保安 庁	自衛官	警察官	診療放射 線技師	消防職員	救急救命 士	事務職員	その他	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	1	0	0	0	8	0	1	1	1	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	3	0	0	0	6	13	1	1	1	0	25
3	北海道 1月11日(土)	3	0	0	0	3	9	2	1	1	0	19
4	佐賀県 2月1日(土)	2	0	2	3	7	6	1	1	1	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	0	0	3	0	2	5	1	0	1	0	12
6	富山県 2月20日(木)	5	0	0	1	9	8	5	0	0	0	28
7	岡山県 2月22日(土)	0	1	1	3	10	9	2	0	1	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	2	0	0	0	2	3	4	1	1	0	13
	合計	16	1	6	7	47	53	17	5	7	0	159
		10.1%	0.6%	3.8%	4.4%	29.6%	33.3%	10.7%	3.1%	4.4%		

3.年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	0	4	2	6	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	0	13	5	5	2	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	0	4	9	4	2	0	0	19
4	佐賀県 2月1日(土)	0	4	8	8	3	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	0	2	5	4	1	0	0	12
6	富山県 2月20日(木)	0	3	7	10	8	0	0	28
7	岡山県 2月22日(土)	0	7	10	6	4	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	0	3	4	2	4	0	0	13
	合計	0	40	50	45	24	0	0	159
		0.0%	25.2%	31.4%	28.3%	15.1%	0.0%		

4.参加回数

① 当協会主催「旧緊急被ばく医療研修」への参加

		あり	なし	その他	無記入	合計	
1	石川県	12月25日(水)	2	9	0	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	5	19	1	0	25
3	北海道	1月11日(土)	6	12	1	0	19
4	佐賀県	2月1日(土)	7	16	0	0	23
5	大阪府	2月9日(日)	4	7	1	0	12
6	富山県	2月20日(木)	7	19	2	0	28
7	岡山県	2月22日(土)	6	18	3	0	27
8	静岡県	3月17日(月)	8	5	0	0	13
合計			45	105	8	1	159
			28.5%	66.0%	5.0%		

今後取り上げてほしいテーマ

1	石川県	複合災害時の対応方法について(20代、地方公共団体職員)
2	石川県	現地本部、複合災害(20代、事務(道府県))
3	北海道	BC災害(生物剤、化学剤)時の対応について(20代、消防士)
4	北海道	放射線輸送車両事故(40代、消防士)
5	北海道	被ばくについて(30代、消防士)
6	北海道	除染後の後片付けなど(40代、救急救命士)
7	北海道	緊急時対応(消防職員等の活動)(30代、消防士)
8	佐賀県	放射線被ばく相談(40代、診療放射線技師)
9	佐賀県	N災害とゾーニング(30代、消防士)
10	大阪府	ホールボディカウンタ、創傷部がある時の除染等について(30代、診療放射線技師)
11	大阪府	資機材等の取扱説明研修会(40代、消防士)
12	大阪府	原子力災害発生時の情報共有(関係諸機関への情報伝達)(30代、自衛官)
13	大阪府	防災に関する事項(40代、技官)
14	富山県	スクリーニングの苦労話、実際に参加した方の話を聞きたい。上も良いが下の人の話(40代、消防士)
15	富山県	原発内、原子力災害での救助活動について(30代、警察官)
16	岡山県	専門研修(内部被ばく)(50代、診療放射線技師)
17	岡山県	搬送(30代、消防士職員)
18	岡山県	危険区域内での活動について(30代、消防士職員)
19	岡山県	空間線量計の測定と注意事項について(30代、消防士職員)
20	岡山県	関係機関の連携、岡山県内の原子力関連被害想定(現実に起こり得る内容)に対する対策と発生時の対応(30代、警察官)

今後取り上げてほしい講座

1	北海道	被ばく者の経過について(30代、消防士)
2	佐賀県	被ばく相談対応講座(40代、診療放射線技師)
3	佐賀県	N災害時の救出活動(消防士)
4	大阪府	救命措置が必要な方のサーベイ、除染等について(30代、診療放射線技師)

5	大阪府	福島作業従事者の現状、被ばく症状の例(30代、自衛官)
6	富山県	専門研修(搬送)(50代、救急救命士)
7	岡山県	内部被ばく線量の推定と測定法、その後の対応について(50代、診療放射線技師)
8	岡山県	WBC 内部被ばく(20代、診療放射線技師)
9	岡山県	福島原発被ばく者への対応についての問題点等について(40代、消防士職員)
10	岡山県	関係機関がそれぞれ求めているもの(情報)(30代、警察官)

講義1:原子力災害時のスクリーニング

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	12	0	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	18	7	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	14	4	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	18	5	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	15	12	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	10	16	1	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	8	5	0	0	0	13
合 計		103	52	1	0	3	159
		66.0%	33.3%	0.6%	0.0%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	6	6	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	11	14	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	11	7	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	9	14	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	4	7	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	10	17	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	6	20	1	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	6	7	0	0	0	13
合 計		63	92	1	0	3	159
		40.4%	59.0%	0.6%	0.0%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	9	3	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	13	12	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	13	5	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	15	7	1	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	14	13	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	10	16	1	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	8	5	0	0	0	13
合 計		90	64	2	0	3	159
		57.7%	41.0%	1.3%	0.0%		

意見・要望

1	石川県	もっと長くても良い(40代、診療放射線技師)
2	岡山県	講義の進め方が早く、内容を少し詳しく教えてほしかったです。(40代、救急救命士)

実習1:スクリーニング実習

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	10	2	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	20	5	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	14	4	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	15	8	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	15	12	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	16	11	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	9	4	0	0	0	13
合 計		107	49	0	0	3	159
		68.6%	31.4%	0.0%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	11	1	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	17	8	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	14	4	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	17	6	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	14	13	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	15	12	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	9	4	0	0	0	13
合 計		105	51	0	0	3	159
		67.3%	32.7%	0.0%	0.0%		

③班の人数

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	11	1	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	18	6	1	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	15	3	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	16	7	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	15	12	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	20	7	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	9	4	0	0	0	13
合 計		112	43	1	0	3	159
		71.8%	27.6%	0.6%	0.0%		

④あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	9	3	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	14	11	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	11	7	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	9	13	1	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	6	5	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	10	15	2	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	15	12	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	8	5	0	0	0	13
合 計		82	71	3	0	3	159
		52.6%	45.5%	1.9%	0.0%		

⑤あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	9	3	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	19	6	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	14	4	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	13	9	1	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	7	4	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	15	11	1	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	19	8	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	7	5	0	0	1	13
合 計		103	50	2	0	4	159
		66.0%	32.1%	1.3%	0.0%		

意見・要望

1	茨城県	サーベイメータの目盛の読み方がしっかり理解できてない。明日病院でしっかり勉強します(40代、診療放射線技師)
2	茨城県	とても楽しくできました。職場に戻って、実際に訓練してみたい(40代、消防士)
3	茨城県	資機材の数に都合があると思うが、二人1組で実施できれば両方経験できるのでよりよいと思う(30代、地方公共団体職員)
4	茨城県	何度も繰り返していただき、わかりやすかった(40代、消防士)
5	静岡県	実際のスクリーニングの状況を再現してやってほしかった。エリアの調整、患者の動点等40,000cpm以上のトリアージの流れ(50代、地方公共団体職員)

講義・実習2:原子力災害時の簡易除染

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	10	2	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	20	5	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	14	4	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	15	8	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	15	12	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	16	11	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	9	4	0	0	0	13
合 計		107	49	0	0	3	159
		68.6%	31.4%	0.0%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	11	1	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	17	8	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	14	4	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	17	6	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	14	13	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	15	12	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	9	4	0	0	0	13
合 計		105	51	0	0	3	159
		67.3%	32.7%	0.0%	0.0%		

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	11	1	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	18	6	1	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	15	3	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	16	7	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	15	12	0	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	20	7	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	9	4	0	0	0	13
合 計		112	43	1	0	3	159
		71.8%	27.6%	0.6%	0.0%		

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	9	3	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	14	11	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	11	7	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	9	13	1	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	6	5	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	10	15	2	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	15	12	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	8	5	0	0	0	13
合 計		82	71	3	0	3	159
		52.6%	45.5%	1.9%	0.0%		

⑤スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	9	3	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	19	6	0	0	0	25
3	北海道 1月11日(土)	14	4	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	13	9	1	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	7	4	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	15	11	1	0	1	28
7	岡山県 2月22日(土)	19	8	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	7	5	0	0	1	13
合 計		103	50	2	0	4	159
		66.0%	32.1%	1.3%	0.0%		

意見・要望

1	石川県	今日からできるようになりました(40代、診療放射線技師)
2	茨城県	もう少し、段取りを説明していただけるとありがたい(40代、消防士)
3	茨城県	きれいにふきとるのが、非常に難しかった。どの程度できればOKなのかが分かると良かった(30代、地方公共団体職員)
4	富山県	初めての實習であり大変勉強になった。原子力災害だけでなく、他の現場でも活用できるものであった(30代、警察官)
5	富山県	汚染部位を探せず、ヒントをもらったので本番の時大丈夫かなあと感じました(40代、地方公共団体職員(市町村))
6	岡山県	スクリーニングの基準が何であるか判然としない。(50代、海上保安官)

講義3: 原子力災害時におけるスクリーニング活動

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	12	0	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	15	9	0	0	1	25
3	北海道 1月11日(土)	12	6	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	15	8	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	18	8	0	0	2	28
7	岡山県 2月22日(土)	14	13	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	7	6	0	0	0	13
合 計		101	53	0	0	5	159
		65.6%	34.4%	0.0%	0.0%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	12	0	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	16	8	0	0	1	25
3	北海道 1月11日(土)	14	4	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	17	6	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	9	2	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	18	8	0	0	2	28
7	岡山県 2月22日(土)	15	11	1	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	9	4	0	0	0	13
合 計		110	43	1	0	5	159
		71.4%	27.9%	0.6%	0.0%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	10	2	0	0	0	12
2	茨城県 1月10日(金)	14	9	1	0	1	25
3	北海道 1月11日(土)	13	5	0	0	1	19
4	佐賀県 2月1日(土)	13	10	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	5	6	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	13	12	1	0	2	28
7	岡山県 2月22日(土)	10	17	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	9	4	0	0	0	13
合 計		87	65	2	0	5	159
		56.5%	42.2%	1.3%	0.0%		

意見・要望

1	石川県	1番最初の講義の方が良いのでは、1日通して連続性のつながりが出る(40代、診療放射線技師)
2	石川県	災害支援チーム、すごいと思った(40代、診療放射線技師)
3	茨城県	写真があるとよりうれしいです(20代、診療放射線技師)
4	茨城県	実際の経験からの感想や困ったことなどももっと聞きたかった(30代、地方公共団体職員)
5	北海道	淡々と話しているように感じ、あまり頭に入ってこなかった(20代、消防士)

講義4: 被験者への対応

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	10	1	0	0	1	12
2	茨城県 1月10日(金)	15	8	0	0	2	25
3	北海道 1月11日(土)	14	3	0	0	2	19
4	佐賀県 2月1日(土)	15	8	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	8	3	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	15	11	0	0	2	28
7	岡山県 2月22日(土)	14	12	1	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	7	5	0	0	1	13
合 計		98	51	1	0	9	159
		65.3%	34.0%	0.7%	0.0%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	8	3	0	0	1	12
2	茨城県 1月10日(金)	13	10	0	0	2	25
3	北海道 1月11日(土)	10	7	0	0	2	19
4	佐賀県 2月1日(土)	10	13	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	5	6	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	13	13	0	0	2	28
7	岡山県 2月22日(土)	10	16	1	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	7	5	0	0	1	13
合 計		76	73	1	0	9	159
		50.7%	48.7%	0.7%	0.0%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	石川県 12月25日(水)	9	2	0	0	1	12
2	茨城県 1月10日(金)	10	13	0	0	2	25
3	北海道 1月11日(土)	13	4	0	0	2	19
4	佐賀県 2月1日(土)	12	11	0	0	0	23
5	大阪府 2月9日(日)	7	4	0	0	1	12
6	富山県 2月20日(木)	14	12	0	0	2	28
7	岡山県 2月22日(土)	11	16	0	0	0	27
8	静岡県 3月17日(月)	5	7	0	0	1	13
合 計		81	69	0	0	9	159
		54.0%	46.0%	0.0%	0.0%		

意見・要望

1	石川県	ロールプレイングはやはり難しかったです(40代、診療放射線技師)
2	石川県	いい経験ができた(40代、診療放射線技師)
3	茨城県	救護所での問診の雰囲気分かってよかった(30代、地方公共団体職員)
4	北海道	ロールプレイのケースについてまとめたものを配布して頂けるとさらに良い(40代、地方公共団体職員)
5	岡山県	対応のシミュレーション用の事前説明がもう少し詳しくしてほしいです。(40代、救急救命士)
6	岡山県	カウンセリングまたはアドミニストレーターのような技法を取り入れられているように感じます。(50代、海上保安官)
7	静岡県	看護師/保健師の方を対象に、別に研修を設けてもよいのでは？(50代、地方公共団体職員)

本日の研修について

①参加して有益であったと思いますか。

			とても有益	有益	あまり有益で なかった	全く有益で なかった	無記入	合計
1	石川県	12月25日(水)	10	2	0	0	0	12
2	茨城県	1月10日(金)	13	11	0	0	1	25
3	北海道	1月11日(土)	12	6	0	0	1	19
4	佐賀県	2月1日(土)	13	10	0	0	0	23
5	大阪府	2月9日(日)	6	4	0	0	2	12
6	富山県	2月20日(木)	16	11	0	0	1	28
7	岡山県	2月22日(土)	14	13	0	0	0	27
8	静岡県	3月17日(月)	6	7	0	0	0	13
合 計			90	64	0	0	5	159
			58.4%	41.6%	0.0%	0.0%		

②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。

			参加させたい	どちらとも 言えない	参加させ たくない	自分が参 加したい	無記入	合計
1	石川県	12月25日(水)	10	2	0	0	0	12
2	茨城県	1月10日(金)	23	1	0	0	1	25
3	北海道	1月11日(土)	14	2	0	2	1	19
4	佐賀県	2月1日(土)	19	3	0	1	0	23
5	大阪府	2月9日(日)	9	1	0	0	2	12
6	富山県	2月20日(木)	23	4	0	0	1	28
7	岡山県	2月22日(土)	22	5	0	0	0	27
8	静岡県	3月17日(月)	11	1	0	1	0	13
合 計			131	19	0	4	5	159
			85.1%	12.3%	0.0%	2.6%		

③他の研修(専門研修)にも参加したいと思いますか。

			是非 参加したい	参加したい	どちらとも 言えない	参加 したくない	無記入	合計
1	石川県	12月25日(水)	6	5	1	0	0	12
2	茨城県	1月10日(金)	12	11	1	0	1	25
3	北海道	1月11日(土)	12	6	0	0	1	19
4	佐賀県	2月1日(土)	8	10	4	0	1	23
5	大阪府	2月9日(日)	7	3	0	0	2	12
6	富山県	2月20日(木)	11	14	1	0	2	28
7	岡山県	2月22日(土)	12	10	5	0	0	27
8	静岡県	3月17日(月)	6	7	0	0	0	13
合 計			74	66	12	0	7	159
			48.1%	42.9%	7.8%	0.0%		

意見・要望

1	石川県	テキスト内に対応事例もあれば良かったです(40代、診療放射線技師)
2	石川県	確認テストはない方がいいのでは?説明のロールプレイはよかったです(40代、診療放射線技師)
3	石川県	上にも記しましたが講義3を最初に行って、過去の事例検証→現在のスクリーニング→除染の方がシナリオだてて記憶に留めやすいと思います(40代、診療放射線技師)
4	石川県	今まで、自分は無知で無関心であったが、今後はより情報通になり不測の事態で動ける人間になりたい(40代、診療放射線技師)
5	石川県	あまり知識がありませんでしたが、実習もあり分かり易く大変参考になりました。万が一に備えて今日学んだ事を忘れないようにしたいです。ありがとうございました(30代、救急救命士)
6	茨城県	福島災害時に自分は学生だったので、実際の現場の話が聞けたので良かった(20代、診療放射線技師)
7	茨城県	実習を多く取り入れて頂いたため、最後まで積極的に今回の研修に取り組みました。長時間の研修だったため講義ばかりで集中が切れてしまったかもしれませんが、実習が多かったため集中力もきれずとてもためになった研修でした(20代、消防士)
8	茨城県	本日は研修の開催、誠にありがとうございました。本日学んだ知識を所属に戻っても発揮できるよう、日々努力したいと思います。また実習が楽しかったので再び参加したいです(20代、消防士)
9	茨城県	日常生活のなかであまり経験できないことが経験することができて、とても有意義な時間となりました。実習が自分的にすごく理解でき良かったです(20代、消防士)
10	茨城県	高田講師がとても良かったです。男性ではなく、女性講師の研修で今までにない研修でした。他の講師の方も親切に指導していただきありがとうございました(40代、消防士)
11	茨城県	ありがとうございました。また受講したいです(40代、消防士)
12	茨城県	原発立地県でない埼玉県職員に貴重な機会を提供くださり、ありがとうございました。理解しやすいテキスト、指導でした。スタッフの対応も丁寧で大変助かりました(40代、地方公共団体職員)
13	茨城県	簡易除染を初めて習ったが、良い勉強になった(20代、事務(日本赤十字社))
14	北海道	数回にわたり、このような研修を受けたため、今回もすんなり情報が入ってきました。単回であるとなかなか身につかないので、担当とし、深く理解し職場に広めたいと思いました。 知識がない住民に対する機会が多いので、ウソや過剰な安心感を与えないように常に想定したい(40代、救急救命士)
15	佐賀県	スクリーニングのイメージが出来て良かった。講義はわかりやすかった(50代、診療放射線技師)
16	佐賀県	日曜日の開催を検討して頂きたいと思います(30代、診療放射線技師)
17	佐賀県	福岡県でも開催してください(30代、診療放射線技師)
18	佐賀県	相談への対応の難しさを感じました(40代、診療放射線技師)
19	佐賀県	消防として原発事故が起こった際の指針があれば教えていただきたい(20代、消防)
20	佐賀県	消防に求められる活動はどこまでになるのか…(30代、消防)

21	佐賀県	原子力災害時にはスクリーニング・除染も大事であることを再認識できました。救護所での活動についてイメージできました(30代、救急救命士)
22	佐賀県	全ての講義が分かり易く勉強になりました。可能であれば平日に講義をお願いしたいです(30代、警察官)
23	佐賀県	健康相談の住民対応には、相当の知識が必要であると思われるので最低必要と思われるレベルのデータなどが文書であれば相談にこたえられるのではないかと思います(40代、警察)
24	佐賀県	行動調査票の様式等、示してもらうことで実際にどのようなことにポイントを置いて問診を行えばいいのかが参考になったのではないかと思います(40代、地方公共団体職員)
25	大阪府	内容が、以前の基礎講座の内容に近いと思います。専門研修なのでもう少し濃い内容でも良いと思います。講師の先生方や資料はとてもわかりやすくよかったです(30代、診療放射線技師)
26	大阪府	東日本大震災後、総務省より緊急消防援助隊用の放射線測定器等の配布が大阪府各消防本部にあったのですが、取扱いに習熟した職員がなく、倉庫に放置しているのが現状です。有料で納品商社の説明会はあるようですが、財政上、参加が困難なのが実情です。今回はそちらの測定器を用いたものでしたが今後、各所属の保有している測定器を使用した研修会を希望します(40代、消防士)
27	大阪府	大変分かりやすい資料、美しくまとめていただきありがとうございます。部隊に戻りましたら、参考資料として保存いたします(30代、自衛官)
28	富山県	原子力災害医療対応のマニュアル作りをしたいと思っていますが、今回の資料以外で参考になる資料があれば教えていただきたい(40代、診療放射線技師)
29	富山県	実際の災害時状況をふまえた講義であったため、とても参考になりました。実習で得た知識は今後とても参考になります(20代、診療放射線技師)
30	富山県	本日は大変勉強になりました。たくさんの方が正しい知識を身につければいいと思いました(40代、消防士)
31	富山県	所属で訓練を行いたいが、機材の貸出は行っているのでしょうか？(40代、消防士)
32	富山県	研修ではより深く理解したいので、事前学習プリントがあれば、より理解度が高まると思います。ありがとうございました(30代、消防士)
33	富山県	線量計のメンテナンスの代金が高い。メーカーによって高低がある。もっと安くしてほしい(50代、救急救命士)
34	富山県	今回、原子力災害についての研修は2回目であった。回数を重ねるたびにしっかりと知識や測定器の使い方が分かるようになり。とても勉強になった(30代、警察官)
35	富山県	とても勉強になりました。講師の方の教え方も非常に分かり易くてよかったです。ありがとうございました(30代、地方公共団体職員(道府県))
36	岡山県	色々勉強になりました。ありがとうございました。(40代、診療放射線技師)
37	岡山県	今回「被験者への対応」が初の講義であった様に思います。今後も取り入れていていただきたい内容でした。ありがとうございました。今後ともよろしく願います。(50代、診療放射線技師)
38	岡山県	DMATでは薬剤師、事務、検査技師他、全職種がスクリーニングに関わる可能性があるため受講対象に含めて記載しておいた方が良いと思う。(30代、薬剤師)
39	岡山県	実習時に一度展示して頂けるとスムーズに実技ができるのではないかと感じました。(30代、消防士職員)
40	岡山県	実際に機器を使用しての講義は良かったと思います。事故事例、活動事例のようなものがあれば良かったと思います。(40代、消防士職員)

41	岡山県	表面汚染系を用いたスクリーニングについては大変理解を深めることができたのですが、空間線量計の使用方法や注意事項について今後教えていただければありがたいと思います。(30代、消防士職員)
42	岡山県	スクリーニングと除染の実際が理解できて大変有益な講習でした。ありがとうございました。(40代、救急救命士)
43	岡山県	本日はわかりやすい講義をありがとうございました。大変勉強になりました。今後の活動に活かしたいと思います。(20代、救急救命士)
44	岡山県	アンケート5にも記載しましたが、岡山県内における原子力災害の想定を具体的に関係機関が集まって教養を受けたい⇒必然的に各々の所属がどのような対策をし、活動するか足りない知識、技術は何か把握できる。(30代、警察官)
45	岡山県	とても勉強になりました。医療機関の除染設置等の勉強会もお願いします。(40代、自衛官)
46	岡山県	段階的な受講が必要であると理解していますが、本研修内容であれば分科研修という位置づけでも良いように感じます。(50代、海上保安官)
47	静岡県	実際に除染の処理を体験でき勉強になりました。自分で行うのと、人に説明してやっていただくことのむずかしさを体験でき良かったです(30代、診療放射線技師)
48	静岡県	開催日のお知らせをもっと早くお願いしたい。開催場所の検討(飲食物の制限や他の部屋からの音の影響)(50代、地方公共団体職員)
49	静岡県	講義4について、文字のみのスライドでしたので、フローチャートで説明していただいた方がわかりやすいと思いました(50代、救急救命士)
50	静岡県	除染作業、特に拭き取りの実技はよい経験となりました(30代、救急救命士)
51	静岡県	スクリーニング、除染は医療行為ではないので、切り離して考えた方が良いのではないかと思います(40代、事務(道府県))

平成25年度原子力災害医療対応/専門研修(スクリーニング・除染)
理解度確認テスト取り纏め

① 個人線量計は、男女ともに腹部に装着する。

正解：×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	0	12	0	12	0	11	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	2	21	2	25	0	24	1	25
3	北海道	1月11日(土)	1	19	0	20	0	20	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	3	21	0	24	0	24	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	2	10	0	12	0	12	0	12
6	富山県	2月20日(木)	2	27	0	29	0	29	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	2	27	0	29	0	28	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	1	12	0	13	0	13	0	13
合計			13	149	2	164	0	161	3	164
			8.0%	92.0%			0.0%	100.0%		

② 放射線測定器を用いて測定した値には、その場の自然放射線が含まれる。

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	12	0	0	12	11	0	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	23	0	2	25	23	1	1	25
3	北海道	1月11日(土)	19	1	0	20	20	0	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	22	2	0	24	24	0	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	10	2	0	12	12	0	0	12
6	富山県	2月20日(木)	27	2	0	29	29	0	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	25	4	0	29	28	0	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	12	1	0	13	13	0	0	13
合計			150	12	2	164	160	1	3	164
			92.6%	7.4%			99.4%	0.6%		

③ スクリーニング会場での混乱を防ぐために、スクリーニングは受付順を厳密に守って行う。

正解：×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	5	7	0	12	0	11	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	14	9	2	25	11	13	1	25
3	北海道	1月11日(土)	10	10	0	20	9	11	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	13	11	0	24	13	11	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	8	4	0	12	11	1	0	12
6	富山県	2月20日(木)	13	16	0	29	2	27	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	19	10	0	29	10	18	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	11	2	0	13	10	3	0	13
合計			93	69	2	164	66	95	3	164
			57.4%	42.6%			41.0%	59.0%		

- ④ 原子力災害時に住民スクリーニングを行う場合、特に頭部、顔面、手、肩、靴底などは汚染の可能性が高いので注意が必要である。

正解: ○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	12	0	0	12	11	0	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	23	0	2	25	23	1	1	25
3	北海道	1月11日(土)	19	1	0	20	20	0	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	22	2	0	24	24	0	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	11	1	0	12	12	0	0	12
6	富山県	2月20日(木)	27	2	0	29	28	1	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	29	0	0	29	27	1	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	13	0	0	13	13	0	0	13
合計			156	6	2	164	158	3	3	164
			96.3%	3.7%			98.1%	1.9%		

- ⑤ 原子力災害に住民のスクリーニングを行う場合は、見落としを防ぐため、サーベイメータのスピーカスイッチを入れて検査を行う。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	6	6	0	12	0	11	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	9	14	2	25	0	24	1	25
3	北海道	1月11日(土)	7	13	0	20	0	20	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	11	13	0	24	0	24	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	3	9	0	12	0	12	0	12
6	富山県	2月20日(木)	10	19	0	29	0	29	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	17	12	0	29	0	28	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	2	11	0	13	0	13	0	13
合計			65	97	2	164	0	161	3	164
			40.1%	59.9%			0.0%	100.0%		

- ⑥ 原子力災害時の住民のスクリーニングにおいて、緊急事態の当初除染を行う基準値はOIL4に示されている「皮膚から数cmでの計数率で、 β 線40,000cpm」を用いる。

正解: ○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	7	5	0	12	11	0	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	13	10	2	25	24	0	1	25
3	北海道	1月11日(土)	9	11	0	20	20	0	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	12	12	0	24	24	0	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	6	6	0	12	12	0	0	12
6	富山県	2月20日(木)	14	15	0	29	29	0	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	16	13	0	29	27	1	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	7	6	0	13	13	0	0	13
合計			84	78	2	164	160	1	3	164
			51.9%	48.1%			99.4%	0.6%		

- ⑦ スクリーニングの結果等から放射性ヨウ素による内部汚染が疑われる場合、詳細な内部被ばくの推定ができる施設で甲状腺モニタやホールボディカウンタ検査を行う。

正解: ○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	11	1	0	12	11	0	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	22	1	2	25	24	0	1	25
3	北海道	1月11日(土)	18	2	0	20	20	0	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	24	0	0	24	24	0	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	12	0	0	12	12	0	0	12
6	富山県	2月20日(木)	28	1	0	29	29	0	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	26	3	0	29	27	1	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	12	1	0	13	13	0	0	13
合計			153	9	2	164	160	1	3	164
			94.4%	5.6%			99.4%	0.6%		

- ⑧ 救護所においては、手袋やガウン、マスクなど装備したスタッフが除染の必要な住民に対する脱衣、拭き取りを行う。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	10	2	0	12	7	4	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	14	9	2	25	13	11	1	25
3	北海道	1月11日(土)	15	5	0	20	15	5	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	16	8	0	24	11	13	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	9	3	0	12	7	5	0	12
6	富山県	2月20日(木)	21	8	0	29	19	10	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	24	5	0	29	8	20	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	10	3	0	13	8	5	0	13
合計			119	43	2	164	88	73	3	164
			73.5%	26.5%			54.7%	45.3%		

- ⑨ 拭き取りによる除染は、濡れたガーゼやスポンジなどで強くこすり取るように行う。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	8	4	0	12	2	9	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	4	19	2	25	1	23	1	25
3	北海道	1月11日(土)	5	15	0	20	1	19	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	3	21	0	24	0	24	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	3	9	0	12	2	10	0	12
6	富山県	2月20日(木)	5	24	0	29	6	23	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	4	25	0	29	0	28	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	0	13	0	13	0	13	0	13
合計			32	130	2	164	12	149	3	164
			19.8%	80.2%			7.5%	92.5%		

- ⑩ 拭き取りに用いた道具や水などは、汚染拡大の原因とならないようにビニール袋やタンクに集める。

正解: ○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	石川県	12月25日(水)	12	0	0	12	11	0	1	12
2	茨城県	1月10日(金)	22	1	2	25	24	0	1	25
3	北海道	1月11日(土)	20	0	0	20	20	0	0	20
4	佐賀県	2月1日(土)	24	0	0	24	24	0	0	24
5	大阪府	2月9日(日)	12	0	0	12	12	0	0	12
6	富山県	2月20日(木)	29	0	0	29	29	0	0	29
7	岡山県	2月22日(土)	28	1	0	29	28	0	1	29
8	静岡県	3月17日(月)	13	0	0	13	13	0	0	13
合計			160	2	2	164	161	0	3	164
			98.8%	1.2%			100.0%	0.0%		

平成25年度原子力災害医療対応/専門研修(搬送)アンケート取り纏め

	開催日	地域	開催場所	受講者数	アンケート 回収数
1	12月18日(水)	新潟県	柏崎消防本部	18	18
2	12月20日(金)	福井県	敦賀美方消防組合	25	19
3	1月8日(水)	宮城県	宮城県消防学校	34	34
4	1月16日(木)	山口県	柳井地区広域消防組合消防本部	17	17
5	1月17日(金)	福岡県	福岡市消防学校	18	18
6	1月23日(木)	島根県	松江市消防本部	11	11
7	1月29日(水)	青森県	下北地区広域行政事務組合消防本部	17	17
8	2月26日(水)	鹿児島県	鹿児島市消防総合訓練研修センター	16	16
			合計	156	150

96.2%

1.所属

		消防	警察	自衛隊	海上保安 庁	国	道府県	市町村	大学	その他	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	26	0	1	3	0	3	0	0	0	1	34
4	山口県 1月16日(木)	16	0	0	0	0	0	0	0	1	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	11	7	0	0	0	0	0	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	0	0	0	0	0	0	0	2	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	合計	132	7	1	3	0	3	0	0	3	1	150
		88.6%	4.7%	0.7%	2.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%		

2.職種

		地方公共 団体職員	海上保安 庁	自衛官	警察署	消防職員	救急救命 士	事務職員	その他	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	0	0	0	0	5	13	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	0	0	0	0	8	11	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	0	3	1	0	12	16	0	1	1	34
4	山口県 1月16日(木)	0	0	0	0	11	5	0	1	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	0	0	0	7	5	6	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	0	0	0	0	5	6	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	0	0	0	0	11	4	0	2	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	0	0	0	0	4	12	0	0	0	16
	合計	0	3	1	7	61	73	0	4	1	150
		0.0%	2.0%	0.7%	4.7%	40.9%	49.0%	0.0%	2.7%		

3.年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	0	5	6	6	1	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	0	5	7	7	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	0	4	18	9	2	0	1	34
4	山口県 1月16日(木)	0	6	6	5	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	0	8	5	4	1	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	0	3	3	3	2	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	0	3	8	6	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	0	1	9	6	0	0	0	16
	合計	0	35	62	46	6	0	1	150
		0.0%	23.5%	41.6%	30.9%	4.0%	0.0%		

4.参加有無

①当協会主催「旧緊急被ばく医療研修」への参加

		あり	なし	その他	無記入	合計	
1	新潟県	12月18日(水)	2	15	1	0	18
2	福井県	12月20日(金)	7	9	3	0	19
3	宮城県	1月8日(水)	6	23	4	1	34
4	山口県	1月16日(木)	0	16	1	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	3	11	4	0	18
6	島根県	1月23日(木)	2	9	0	0	11
7	青森県	1月29日(水)	5	11	1	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	1	14	1	0	16
合 計			26	108	15	1	150
			17.4%	72.0%	10.0%		

今後取り上げてほしいテーマ

1	福井県	現場活動時の連携(30代、消防職員)
2	福井県	PAZにおける消防職員の安定ヨウ素剤の服用について(40代、救急救命士)
3	宮城県	今回と同様の研修を希望(40代、救急救命士)
4	宮城県	除染(40代、自衛官(救急救命士))
5	山口県	被ばく後の人々の社会復帰について(20代、消防職員)
6	福岡県	大規模災害時の各機関の連携について(50代、消防職員)
7	福岡県	汚染地域調査等(20代、消防職員)
8	福岡県	除染、現場広報(40代、救急救命士)
9	青森県	青森県にてN災害が発災した場合を想定する(30代、消防職員)
10	鹿児島県	基礎的な原子力知識(30代、救急救命士)
11	鹿児島県	原子力発電所内の見学(40代、救急救命士)

今後取り上げてほしい講座

1	宮城県	医療機関との連携(50代、海上保安官)
---	-----	---------------------

講義1:原子力災害時の搬送

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	7	11	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	15	4	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	16	17	1	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	14	3	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	15	3	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	9	2	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	14	2	0	0	0	16
合 計		105	44	1	0	0	150
		70.0%	29.3%	0.7%	0.0%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	5	11	2	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	11	8	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	13	19	2	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	4	13	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	11	6	1	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	2	9	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	7	10	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	8	8	0	0	0	16
合 計		61	84	5	0	0	150
		40.7%	56.0%	3.3%	0.0%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	6	11	1	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	6	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	15	17	2	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	11	6	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	13	5	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	6	5	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	14	3	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	10	6	0	0	0	16
合 計		88	59	3	0	0	150
		58.7%	39.3%	2.0%	0.0%		

意見・要望

1	新潟県	もやもやする見にくい添付は不要。必要であればもっと明瞭に添付いただきたい。次開く時には忘れている(40代、救急救命士)、
2	新潟県	基本的な数値、単位、災害対応の知識がないため、理解できない(40代、救急救命士)
3	新潟県	一方的な講義で、質問等ができない(40代、救急救命士)
4	宮城県	実際の災害の映像、画像があれば見せて頂きたかったです(40代、救急救命士)
5	宮城県	時間が不足(30代、消防士)

講義2:原子力災害時(汚染・被ばく者)における搬送事例

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	7	10	1	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	5	1	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	19	13	2	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	13	4	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	13	5	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	8	3	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	10	6	0	0	0	16
合計		98	48	4	0	0	150
		65.3%	32.0%	2.7%	0.0%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	5	12	1	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	9	9	1	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	12	22	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	4	12	1	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	9	9	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	3	8	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	9	7	1	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	4	12	0	0	0	16
合計		55	91	4	0	0	150
		36.7%	60.7%	2.7%	0.0%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	6	11	1	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	11	6	2	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	17	16	1	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	11	6	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	13	5	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	5	6	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	14	3	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	7	9	0	0	0	16
合計		84	62	4	0	0	150
		56.0%	41.3%	2.7%	0.0%		

意見・要望

1	新潟県	新潟県としての対応、考え方は？(40代、救急救命士)
2	新潟県	問題点のみで、改善点がスライドにあれば良かった(40代、救急救命士)
3	福井県	配布資料が白黒で図や写真が見にくい(40代、救急救命士)
4	福井県	スライドの文字が多くイメージしづらい。イラストや文字を多用してほしい(30代、救急救命士)

実習1放射線測定実習

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	12	6	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	6	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	22	11	1	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	14	3	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	15	3	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	8	3	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	11	5	0	0	0	16
合 計		110	39	1	0	0	150
		73.3%	26.0%	0.7%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	12	6	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	6	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	24	10	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	12	5	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	15	3	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	9	2	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	16	1	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	12	4	0	0	0	16
合 計		113	37	0	0	0	150
		75.3%	24.7%	0.0%	0.0%		

③班の人数

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	13	5	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	12	6	1	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	21	13	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	13	4	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	16	2	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	8	3	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	14	2	0	0	0	16
合 計		112	37	1	0	0	150
		74.7%	24.7%	0.7%	0.0%		

④あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	10	8	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	11	8	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	18	16	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	8	9	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	13	5	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	4	7	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	10	6	1	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	8	8	0	0	0	16
合 計		82	67	1	0	0	150
		54.7%	44.7%	0.7%	0.0%		

⑤あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	11	7	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	12	6	1	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	20	13	1	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	9	8	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	13	5	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	6	5	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	12	4	0	0	0	16
合 計		98	50	2	0	0	150
		65.3%	33.3%	1.3%	0.0%		

意見・要望

1	福井県	搬送実習の人数を3名に(救急隊は3名の為)(40代、救急救命士)
2	宮城県	応用的な訓練をしたかったです(30代、消防士)
3	宮城県	時間不足(30代、消防士)

搬送実習ガイダンス

①ガイダンスの進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	7	11	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	5	0	0	1	19
3	宮城県 1月8日(水)	20	14	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	13	4	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	14	4	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	7	4	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	12	4	0	0	0	16
合 計		101	48	0	0	1	150
		67.8%	32.2%	0.0%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	9	9	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	5	0	0	1	19
3	宮城県 1月8日(水)	20	14	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	12	5	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	14	4	0	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	9	2	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	12	4	0	0	0	16
合 計		104	45	0	0	1	150
		69.8%	30.2%	0.0%	0.0%		

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	9	9	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	11	7	0	0	1	19
3	宮城県 1月8日(水)	16	18	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	6	11	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	9	8	1	0	0	18
6	島根県 1月23日(木)	4	7	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	7	10	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	7	9	0	0	0	16
合 計		69	79	1	0	1	150
		46.3%	53.0%	0.7%	0.0%		

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	10	8	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	5	0	0	1	19
3	宮城県 1月8日(水)	16	18	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	9	8	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	12	4	0	0	2	18
6	島根県 1月23日(木)	7	4	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	13	4	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	12	4	0	0	0	16
合 計		92	55	0	0	3	150
		61.7%	36.9%	0.0%	0.0%		

意見・要望

なし

実習2: 搬送実習

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	11	6	1	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	14	5	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	25	9	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	13	4	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	12	4	0	0	2	18
6	島根県 1月23日(木)	8	2	1	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	13	4	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	15	1	0	0	0	16
合 計		111	35	2	0	2	150
		75.0%	23.6%	1.4%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	11	5	2	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	6	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	27	7	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	15	2	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	14	2	0	0	2	18
6	島根県 1月23日(木)	9	2	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	14	2	0	0	0	16
合 計		118	28	2	0	2	150
		79.7%	18.9%	1.4%	0.0%		

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	11	7	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	12	7	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	22	12	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	8	9	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	9	7	0	0	2	18
6	島根県 1月23日(木)	7	4	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	9	8	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	11	5	0	0	0	16
合 計		89	59	0	0	2	150
		60.1%	39.9%	0.0%	0.0%		

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	新潟県 12月18日(水)	13	5	0	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	16	3	0	0	0	19
3	宮城県 1月8日(水)	22	12	0	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	9	8	0	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	12	4	0	0	2	18
6	島根県 1月23日(木)	9	2	0	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	13	4	0	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	14	2	0	0	0	16
合 計		108	40	0	0	2	150
		73.0%	27.0%	0.0%	0.0%		

意見・要望

1	新潟県	ポイントを絞っていただきたい。「ねらい」がぼやけている(40代、救急救命士)
2	新潟県	まとまりがなく講師それぞれバラバラなところでインストールしている(40代、救急救命士)
3	愛媛県	もう少し厳しくしてもよいのかと思いました(30代、医師)
4	愛媛県	記録係がどなたなのかもよく分からないまま始めてしまった。受け入れ準備も不十分であったため、事前の打ち合わせと準備が必要であったと感じた(30代、診療放射線技師)
5	島根県	流れを重視しても良いのでは?(30代、救急救命士)
6	青森県	基礎からの勉強をしっかりする必要があると認識した(40代、消防士)
7	青森県	実習は各班で全員が参加できれば良い。救急隊、消防隊、救助隊と個別の専門訓練もあれば良い(30代、消防士)
8	青森県	ありがとうございました。実際関わることのないところで体験することができました。今後の参考にさせていただきます(40代、看護師)

本日の研修について

①参加して有益であったと思いますか。

			とても有益	有益	あまり有益で なかった	全く有益で なかった	無記入	合計
1	新潟県	12月18日(水)	11	7	0	0	0	18
2	福井県	12月20日(金)	11	8	0	0	0	19
3	宮城県	1月8日(水)	17	17	0	0	0	34
4	山口県	1月16日(木)	7	9	1	0	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	14	4	0	0	0	18
6	島根県	1月23日(木)	9	2	0	0	0	11
7	青森県	1月29日(水)	12	5	0	0	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	10	6	0	0	0	16
合 計			91	58	1	0	0	150
			60.7%	38.7%	0.7%	0.0%		

②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。

			参加させ たい	どちらとも 言えない	参加させ たくない	自分が参 加したい	無記入	合計
1	新潟県	12月18日(水)	17	1	0	0	0	18
2	福井県	12月20日(金)	18	0	0	1	0	19
3	宮城県	1月8日(水)	32	2	0	0	0	34
4	山口県	1月16日(木)	15	2	0	0	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	16	2	0	0	0	18
6	島根県	1月23日(木)	11	0	0	0	0	11
7	青森県	1月29日(水)	15	2	0	0	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	15	1	0	0	0	16
合 計			139	10	0	1	0	150
			92.7%	6.7%	0.0%	0.7%		

②他の研修(専門研修)にも参加したいと思いますか。

			是非 参加したい	参加したい	どちらとも 言えない	参加 したくない	無記入	合計
1	新潟県	12月18日(水)	7	10	1	0	0	18
2	福井県	12月20日(金)	7	12	0	0	0	19
3	宮城県	1月8日(水)	15	16	3	0	0	34
4	山口県	1月16日(木)	3	8	5	0	1	17
5	福岡県	1月17日(金)	10	8	0	0	0	18
6	島根県	1月23日(木)	8	3	0	0	0	11
7	青森県	1月29日(水)	12	5	0	0	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	6	9	1	0	0	16
合 計			68	71	10	0	1	150
			45.3%	47.3%	6.7%	0.0%		

意見・要望

1	新潟県	実技が多いといいと思いました。とくに測定(30代、消防士)
2	新潟県	原子力災害について、法律や活動の基本的なことについて詳しく教えて頂ければ理解しやすかったです(40代、救急救命士)
3	新潟県	寒い中ありがとうございました(40代、救急救命士)
4	新潟県	放射線事故は自分の中でまだ他人事のような感じがありましたが、今回の研修で、こんな自分を見つめ返すことが出来ました。発生の可能性が「0」でない限り有事に備え知識、技術を身に着けたいと思います(30代、救急救命士)
5	新潟県	参加する際の服装を指定してもらえるとありがたいです(40代、救急救命士)
6	福井県	放管員との連携訓練が必要だと思う(30代、消防士)
7	福井県	原子力災害医療について、分かり易く話をしていただき勉強になりました(30代、消防士)
8	福井県	今回の人数だともう一台救急車があった方が効率よく全員ができたのではないかと思います(30代、消防士)
9	福井県	他の原子力災害医療対応の研修会にも参加したいとともに、もう少し深い研修会の開催にも参加募集をかけてほしい(40代、救急救命士)
10	宮城県	テキストをカラーで印刷してほしい(30代、救急救命士)
11	宮城県	これからさらに必要となる時期がくると思いますので、ほかの職員へも参加を促していきたいです。どうもありがとうございました(30代、救急救命士)
12	宮城県	受講後も確認テストの回答が不明だった(講義で触れない問いが多いため)(30代、救急救命士)
13	宮城県	今後も機会があれば研修に参加したい(40代、自衛官(救急救命士))
14	山口県	数日間実施すればさらに理解できる(20代、消防士)
15	山口県	このような講義を消防本部単位で実施してもらえれば共通認識がもてる(30代、消防士)
16	山口県	原子力災害について初めて知ったことが多く、とても有益な研修でした(20代、消防士)
17	山口県	講義が駆け足すぎです(30代、消防士)
18	山口県	ありがとうございました。また参加したいと思います(40代、救急救命士)
19	山口県	管内(県内)に原子力施設が存在せず、全く実感がわかなかった(現実性がない)RI施設や放射性物質搬送中事故に対する対応についても学びたかった(30代、救急救命士)
20	福岡県	多くの職員が意識を持って、受講してほしい(40代、消防士)
21	福岡県	有意義な研修ありがとうございました(50代、消防士)
22	福岡県	スライドと実物を使った、とてもわかりやすい講義であった(20代、消防士)
23	福岡県	大変ためになる教養でした。ありがとうございました。基礎講座に続き2回目の受講ですが、いつも勉強になります。所属へのフィードバックに努めます(40代、救急救命士)
24	福岡県	事前の準備、確認が大切で普段から考えておく必要がある。マニュアルの確認、定期的訓練の継続が重要。久しぶりの養生でした。材料の長さ等目測を誤ってしまい、仕上がりがイマイチでした。まずは材料と空間のサイジングを見極め計画を立てることが重要(40代、救急救命士)
25	福岡県	何度か放射線の講座を受講しましたが、今一つ分からない部分がありました。今回大部分のところでクリアになりました(40代、救急救命士)

26	福岡県	大変わかりやすく、理解が深まりました。ありがとうございました(30代、救急救命士)
27	福岡県	大変参考になる事が多くありました。ありがとうございました(20代、警察官)
28	福岡県	放射線事故発生時の現場での対応について、この講習を受けてどのような作業を行えばよいか知識がついたので良かったです(20代、警察官)
29	福岡県	消防の活動が分かり大変参考になったものの、想定等が消防に偏っており、警察として分からないことが多数あった(30代、警察官)
30	福岡県	過去の事例を踏まえ、今後事案が起こった際の連携方法等を各機関全て交えて検討を行えば、各機関の連携がより緊密となり、今後の活動もより良いものとなると思う(20代、警察官)
31	島根県	私は消防に入ってまだ2年目で、専門研修は初めてでしたがとてもわかりやすくとても勉強になりました(20代、消防士)
32	島根県	放射線は難しいと思い込み、なかなか学習することはありませんでした。今回の研修でもっと勉強してみたいと思いました(40代、救急救命士)
33	鹿児島県	原子力災害に対して無知だったので、非常に満足できる内容だった。所属に帰りフィードバックする(30代、消防士)
34	鹿児島県	ご教示いただきありがとうございました(30代、救急救命士)
35	鹿児島県	とてもよい研修であった。自分の消防本部は30km圏内に入っているので職員にフィードバックしていきたいと思います(40代、救急救命士)
36	鹿児島県	体験しながら気づかされることが多く、注意しなければいけないことを教えていただき、シミュレーションのイメージをつけることができました(30代、救急救命士)
37	鹿児島県	原子力発電所内で実習等してみたいと思います。放管員と話してみたいです(40代、救急救命士)
38	鹿児島県	原子力について、少しでも理解できたように思います。これからは少しずつでも知識を深めていきたいと思いました(40代、救急救命士)

平成25年度原子力災害医療対応/専門研修(搬送)
理解度確認テスト取り纏め

- ① 防災業務関係者の線量限度は、実効線量で100mSvである。

正解：×

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	新潟県 12月18日(水)	10	8	0	18	12	6	0	18
2	福井県 12月20日(金)	11	2	7	20	13	0	7	20
3	宮城県 1月8日(水)	19	15	0	34	22	12	0	34
4	山口県 1月16日(木)	10	7	0	17	0	17	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	14	4	0	18	2	15	1	18
6	島根県 1月23日(木)	7	4	0	11	11	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	7	10	0	17	0	17	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	8	6	2	16	9	7	0	16
合計		86	56	9	151	69	74	8	151
		60.6%	39.4%			48.3%	51.7%		

- ② 原子力災害時に傷病者搬送業務に携わる時は、通常救急搬送時に必要な情報に加えて、傷病者の放射性物質による汚染の有無、活動現場における放射線被ばくや汚染の可能性等を得る。

正解：○

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	新潟県 12月18日(水)	18	0	0	18	18	0	0	18
2	福井県 12月20日(金)	13	0	7	20	13	0	7	20
3	宮城県 1月8日(水)	34	0	0	34	34	0	0	34
4	山口県 1月16日(木)	15	2	0	17	17	0	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	18	0	0	18	17	0	1	18
6	島根県 1月23日(木)	11	0	0	11	11	0	0	11
7	青森県 1月29日(水)	17	0	0	17	17	0	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	14	0	2	16	16	0	0	16
合計		140	2	9	151	143	0	8	151
		98.6%	1.4%			100.0%	0.0%		

- ③ 原子力災害時に出場する場合には、現場で測定した空間線量率の数値に基づいて活動を行う。

正解：×

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	新潟県 12月18日(水)	14	4	0	18	17	1	0	18
2	福井県 12月20日(金)	11	2	7	20	12	1	7	20
3	宮城県 1月8日(水)	23	11	0	34	26	8	0	34
4	山口県 1月16日(木)	13	4	0	17	11	6	0	17
5	福岡県 1月17日(金)	13	5	0	18	14	3	1	18
6	島根県 1月23日(木)	9	2	0	11	10	1	0	11
7	青森県 1月29日(水)	14	3	0	17	12	5	0	17
8	鹿児島県 2月26日(水)	11	3	2	16	15	1	0	16
合計		108	34	9	151	117	26	8	151
		76.1%	23.9%			81.8%	18.2%		

- ④ 傷病者に接触する際に初めに行うことは、全身の汚染検査である。

正解：×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	新潟県	12月18日(水)	8	10	0	18	3	15	0	18
2	福井県	12月20日(金)	7	6	7	20	0	13	7	20
3	宮城県	1月8日(水)	14	20	0	34	12	22	0	34
4	山口県	1月16日(木)	6	11	0	17	4	13	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	7	11	0	18	16	1	1	18
6	島根県	1月23日(木)	1	10	0	11	3	8	0	11
7	青森県	1月29日(水)	7	10	0	17	12	5	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	4	10	2	16	1	15	0	16
合計			54	88	9	151	51	92	8	151
			38.0%	62.0%			35.7%	64.3%		

- ⑤ 傷病者の全身状態が良く、搬送に時間的猶予がある場合には、脱衣が極めて有効な除染手段となる。

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	新潟県	12月18日(水)	17	1	0	18	18	0	0	18
2	福井県	12月20日(金)	10	3	7	20	13	0	7	20
3	宮城県	1月8日(水)	30	4	0	34	33	1	0	34
4	山口県	1月16日(木)	13	4	0	17	17	0	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	13	5	0	18	17	0	1	18
6	島根県	1月23日(木)	9	2	0	11	11	0	0	11
7	青森県	1月29日(水)	13	4	0	17	17	0	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	9	5	2	16	16	0	0	16
合計			114	28	9	151	142	1	8	151
			80.3%	19.7%			99.3%	0.7%		

- ⑥ 患者の状態が悪く早急に搬送が必要な場合には、汚染部位をラップフィルム等で覆っただけで搬送することもある。

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	新潟県	12月18日(水)	10	8	0	18	18	0	0	18
2	福井県	12月20日(金)	11	2	7	20	13	0	7	20
3	宮城県	1月8日(水)	23	11	0	34	32	2	0	34
4	山口県	1月16日(木)	8	9	0	17	17	0	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	15	3	0	18	17	0	1	18
6	島根県	1月23日(木)	8	3	0	11	11	0	0	11
7	青森県	1月29日(水)	14	3	0	17	14	3	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	9	5	2	16	16	0	0	16
合計			98	44	9	151	138	5	8	151
			69.0%	31.0%			96.5%	3.5%		

- ⑦ 搬送中に傷病者が嘔吐した場合、氏名や採取日時を記入したビニール袋に入れて、医療機関に提出する。

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	新潟県	12月18日(水)	16	2	0	18	18	0	0	18
2	福井県	12月20日(金)	11	2	7	20	13	0	7	20
3	宮城県	1月8日(水)	30	4	0	34	33	1	0	34
4	山口県	1月16日(木)	12	5	0	17	6	11	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	16	2	0	18	17	0	1	18
6	島根県	1月23日(木)	11	0	0	11	11	0	0	11
7	青森県	1月29日(水)	14	3	0	17	10	7	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	12	2	2	16	16	0	0	16
合計			122	20	9	151	124	19	8	151
			85.9%	14.1%			86.7%	13.3%		

- ⑧ 放射性物資による汚染を伴う恐れのある傷病者を医療機関等に搬送した後は、次の業務に備えてすぐに水分補給等を行っても良い。

正解：×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	新潟県	12月18日(水)	3	15	0	18	0	18	0	18
2	福井県	12月20日(金)	2	11	7	20	0	13	7	20
3	宮城県	1月8日(水)	0	34	0	34	0	34	0	34
4	山口県	1月16日(木)	1	16	0	17	0	17	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	2	16	0	18	0	17	1	18
6	島根県	1月23日(木)	0	11	0	11	0	11	0	11
7	青森県	1月29日(水)	1	16	0	17	0	17	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	0	14	2	16	0	16	0	16
合計			9	133	9	151	0	143	8	151
			6.3%	93.7%			0.0%	100.0%		

- ⑨ 作業終了後、個人線量計の数値を確認して、必ずその数値を記録しておく。

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	新潟県	12月18日(水)	18	0	0	18	18	0	0	18
2	福井県	12月20日(金)	13	0	7	20	13	0	7	20
3	宮城県	1月8日(水)	33	1	0	34	34	0	0	34
4	山口県	1月16日(木)	17	0	0	17	17	0	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	18	0	0	18	17	0	1	18
6	島根県	1月23日(木)	11	0	0	11	11	0	0	11
7	青森県	1月29日(水)	17	0	0	17	16	1	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	14	0	2	16	16	0	0	16
合計			141	1	9	151	142	1	8	151
			99.3%	0.7%			99.3%	0.7%		

- ⑩ 救急車の養生を撤去する際は、まず初めに汚染の可能性の最も高い床面から赤面等の順番で撤去を行う。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	新潟県	12月18日(水)	2	16	0	18	3	15	0	18
2	福井県	12月20日(金)	2	11	7	20	3	10	7	20
3	宮城県	1月8日(水)	3	31	0	34	5	29	0	34
4	山口県	1月16日(木)	6	11	0	17	3	14	0	17
5	福岡県	1月17日(金)	5	13	0	18	0	17	1	18
6	島根県	1月23日(木)	2	9	0	11	0	11	0	11
7	青森県	1月29日(水)	3	13	1	17	2	15	0	17
8	鹿児島県	2月26日(水)	2	12	2	16	1	15	0	16
合計			25	116	10	151	17	126	8	151
			17.7%	82.3%			11.9%	88.1%		

平成25年度原子力災害医療対応/専門研修(原子力災害時医療)

アンケート取り纏め

	開催日	地域	開催場所	受講者数	アンケート 回収数
1	1月13日(月)	長崎県	長崎大学	23	22
2	1月18日(土)	福島県	南相馬市立総合病院	23	23
3	1月19日(日)	愛媛県	県立中央病院	26	26
4	1月25日(土)	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院	32	30
5	1月26日(日)	鳥取県	県立厚生病院	20	19
6	2月9日(日)	石川県	県立中央病院	21	20
7	2月15日(土)	滋賀県	長浜赤十字病院	16	16
8	2月22日(土)	北海道	札幌医科大学	19	14
			合計	180	170

94.4%

1.所属

		病院	保健所	医師会	放射線 技師会	消防	その他	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	19	0	0	0	3	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	11	0	1	1	10	0	0	23
3	愛媛県 1月19日(日)	18	1	1	1	5	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	13	0	0	4	11	2	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	12	1	1	0	5	0	0	19
6	石川県 2月9日(日)	16	0	0	0	4	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	16	0	0	0	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	9	0	2	0	3	0	0	14
	合 計	114	2	5	6	41	2	0	170
		67.1%	1.2%	2.9%	3.5%	24.1%	1.2%		

2.職種

		医師	看護師 (保健師)	薬剤師	診療放射 線技師	臨床検査 技師	地方公共 団体職員	消防職員	救急救命 士	事務職員	その他	無記入	合計
1	長崎県	4	9	1	5	0	0	2	1	0	0	0	22
2	福島県	3	6	0	4	0	0	3	7	0	0	0	23
3	愛媛県	8	8	0	5	0	0	2	3	0	0	0	26
4	神奈川県	2	6	0	8	0	0	5	6	3	0	0	30
5	鳥取県	6	4	0	4	0	0	2	3	0	0	0	19
6	石川県	4	6	0	6	0	0	3	1	0	0	0	20
7	滋賀県	3	6	0	7	0	0	0	0	0	0	0	16
8	北海道	1	5	0	3	0	0	1	2	2	0	0	14
	合 計	31	50	1	42	0	0	18	23	5	0	0	170
		18.2%	29.4%	0.6%	24.7%	0.0%	0.0%	10.6%	13.5%	2.9%	0.0%	0.0%	

3.年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	0	6	10	3	3	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	0	5	10	5	2	1	0	23
3	愛媛県 1月19日(日)	0	1	9	9	6	1	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	0	4	9	11	4	2	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	0	4	4	3	6	2	0	19
6	石川県 2月9日(日)	1	3	6	5	4	1	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	0	1	4	6	5	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	0	4	5	4	1	0	0	14
	合計	0.6%	16.5%	33.5%	27.1%	18.2%	4.1%	0	170

4.参加回数

①当協会主催「旧緊急被ばく医療研修」への参加

		あり	なし	その他	無記入	合計	
1	長崎県	1月13日(月)	8	14	0	0	22
2	福島県	1月18日(土)	12	9	1	1	23
3	愛媛県	1月19日(日)	12	11	3	0	26
4	神奈川県	1月25日(土)	14	16	0	0	30
5	鳥取県	1月26日(日)	8	10	0	1	19
6	石川県	2月9日(日)	8	9	3	0	20
7	滋賀県	2月15日(土)	6	5	5	0	16
8	北海道	2月22日(土)	8	5	1	1	15
合 計			76	79	13	3	171
			45.2%	46.2%	7.6%		

今後取り上げてほしいテーマ

1	福島県	災害医療、被ばく医療のフォローアップ(50代 看護師)
2	福島県	同じでも良い(40代 医師)
3	福島県	子供たちへの放射線教育について・現場研修(30代 診療放射線技師)
4	福島県	慢性的低線量被ばくによる影響(20代 消防士職員)
5	福島県	環境中に汚染がある場合の傷病者の扱い方(30代 救急救命士)
6	福島県	住民の生活と被ばくの影響(30代 救急救命士)
7	愛媛県	小児、若年女性、妊婦への対応について(40代、医師)
8	愛媛県	フォロー(1年後等)研修があればいいと思います(30代、看護師)
9	愛媛県	傷病者搬送をする救急隊、防災ヘリを対象とした搬送法講座(30代、消防士)
10	神奈川県	シナリオベースの机上演習「〇〇のケースなら現場でどこまで除染する」etc 「状態が〇〇なので初療後放医研へ」(40代、医師)
11	神奈川県	被ばく実習で多数傷病者の受け入れ訓練(20代、看護師)
12	神奈川県	原子力災害時の救急・救助(20代、消防士)
13	神奈川県	発災現場での除染要領(40代、消防士)
14	神奈川県	スクリーニング方法(50代、救急救命士)
15	鳥取県	緊急被ばくにおける推定被ばく線量(60歳以上、診療放射線技師)
16	鳥取県	住民への啓発や健康教育の展開・実際(50代、医師)
17	鳥取県	救急隊(原子力災害医療)(40代、救急救命士)
18	滋賀県	シミュレーション中心の研修(40代、看護師)
19	北海道	メンタルケア、核種とキレート剤についてアクションカード(40代、看護師)

今後取り上げてほしい講座

1	長崎県	内部被ばくの際の対応(20代、薬剤師)
2	長崎県	看護師もドクターヘリからの搬送・搬入もありドクターヘリ搬入の場合、院内を搬入移動もある救命を優先する場合はパッケージを開放するため、搬送も少しは理解できたらと思っていました(30代、看護師)
3	福島県	子供たちへの放射線教育について・現場研修(30代 診療放射線技師)
4	福島県	住民の生活と被ばくの影響(30代 救急救命士)
5	愛媛県	救護所設置、運営(40代、医師)
6	神奈川県	除染方法(50代、救急救命士)
7	鳥取県	推定被ばく線量シミュレーション(60歳以上、診療放射線技師)
8	石川県	様々なケースでの対応、除染方法(40代、医師)
9	石川県	搬送等(20代、消防士職員)

講義1:被ばく医療対応

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	18	4	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	13	18	1	0	0	32
3	愛媛県 1月19日(日)	12	14	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	21	9	0	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	12	7	0	0	0	19
6	石川県 2月9日(日)	8	12	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	10	6	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	9	4	0	0	1	14
合 計		103	74	1	0	1	179
		57.9%	41.6%	0.6%	0.0%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	12	10	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	2	18	2	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	6	20	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	10	20	0	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	5	14	0	0	0	19
6	石川県 2月9日(日)	3	16	1	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	7	9	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	7	6	0	0	1	14
合 計		52	113	3	0	2	170
		31.0%	67.3%	1.8%	0.0%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	15	7	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	13	6	2	0	2	23
3	愛媛県 1月19日(日)	11	15	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	14	14	2	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	10	9	0	0	0	19
6	石川県 2月9日(日)	5	14	1	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	11	5	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	11	2	0	0	1	14
合 計		90	72	5	0	3	170
		53.9%	43.1%	3.0%	0.0%		

意見・要望

1	福島県	理解度が低いのが最大の問題。総論のためか項目が多く新しい言葉の理解(養生等)をもう少し分かり易くしてほしい。 図々しく失礼なお願いなのは十分わかっています。講師の方の真面目な教え方も好感がもてるのですが。 ACLSでもビデオを使っているから総論はビデオを使うのも良いのかと思う。(40代 医師)
2	福島県	文字が多い(30代 救急救命士)
3	神奈川県	資料はカラーがいい(500円程度でも)(40代、医師)
4	神奈川県	聞きなれない言葉を理解しながら、講義についていくのが大変です(50代、看護師)
5	石川県	不満とかではなく、予備知識が乏しいため、難しい(自分の問題です)(30代、看護師)
6	石川県	どちらにも共通することですが、自分が被ばくに関する研修の参加が初めてだったので、講義のスピードが速くついていくのが大変でしたが、面白かったです。(40代、看護師)
7	滋賀県	もう少し時間をかけてほしかった(40代、看護師)
8	滋賀県	非常にわかりやすく感じました(30代、看護師)
9	北海道	オリエンテーションと講義1は一緒でも良いと思いました(30代、診療放射線技師)

講義2:原子力災害時(汚染・被ばく者)の対応事例

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	13	9	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	19	3	0	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	14	12	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	20	9	1	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	13	5	0	0	1	19
6	石川県 2月9日(日)	10	10	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	9	7	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	10	3	0	0	1	14
合計		108	58	1	0	3	170
		64.7%	34.7%	0.6%	0.0%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	9	13	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	7	14	1	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	6	20	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	11	18	1	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	6	12	0	0	1	19
6	石川県 2月9日(日)	4	16	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	6	10	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	8	5	0	0	1	14
合計		57	108	2	0	3	170
		34.1%	64.7%	1.2%	0.0%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	11	11	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	16	5	1	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	10	16	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	15	14	1	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	9	9	0	0	1	19
6	石川県 2月9日(日)	5	14	1	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	8	8	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	11	2	0	0	1	14
合計		85	79	3	0	3	170
		50.9%	47.3%	1.8%	0.0%		

意見・要望

1	福島県	新しい事実がわかりやすく説明されている。この講義は参加して良かった。講義を受けた後に資料をみるとわかりやすくなる。(40代 医師)
2	福島県	文字が多い(30代 救急救命士)
3	神奈川県	スライドを見ればわかるので、それ以外の内容を話してほしい。資料はカラーがいい(500円程度でも)(40代、医師)
4	神奈川県	資料内容を読むのに時間がかかってしまい、もう一度資料を見直さないと理解できないと思いました(50代、看護師)
5	石川県	不満とかではなく、予備知識が乏しいため、難しい(自分の問題です)(30代、看護師)
6	石川県	どちらにも共通することですが、自分が被ばくに関する研修の参加が初めてだったので、講義のスピードが速くついていくのが大変でしたが、面白かったです。(40代、看護師)
7	滋賀県	災害時はもとより、普段の救急医療でも事前情報と実際はかなり異なっていることが多いです。そのため汚染していないと言われても確認できるまで院内には入れられないと思います。そのためABCの再確認と汚染検査は受け入れ前に必要と思いました。(例:車内、院外、テント)(30代、医師)
8	滋賀県	もう少し時間をかけてほしかった(40代、看護師)
9	滋賀県	現場での話は臨場感があり非常に参考になりました(30代、看護師)

被ばく医療実習ガイダンス

①ガイダンスの進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	16	6	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	13	8	1	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	9	16	0	0	1	26
4	神奈川県 1月25日(土)	16	14	0	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	10	6	0	0	3	19
6	石川県 2月9日(日)	5	15	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	8	8	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	6	5	0	0	3	14
合 計		83	78	1	0	8	170
		51.2%	48.1%	0.6%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	16	6	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	14	7	1	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	8	17	0	0	1	26
4	神奈川県 1月25日(土)	13	16	0	0	1	30
5	鳥取県 1月26日(日)	10	6	0	0	3	19
6	石川県 2月9日(日)	6	14	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	8	8	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	9	2	0	0	3	14
合 計		84	76	1	0	9	170
		52.2%	47.2%	0.6%	0.0%		

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	12	10	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	6	14	2	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	6	19	0	0	1	26
4	神奈川県 1月25日(土)	10	20	0	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	5	10	1	0	3	19
6	石川県 2月9日(日)	3	17	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	6	10	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	8	3	0	0	3	14
合 計		56	103	3	0	8	170
		34.6%	63.6%	1.9%	0.0%		

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	15	6	1	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	13	8	1	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	6	91	0	0	1	98
4	神奈川県 1月25日(土)	14	16	0	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	9	7	0	0	3	19
6	石川県 2月9日(日)	6	14	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	7	8	0	0	1	16
8	北海道 2月22日(土)	9	2	0	0	3	14
合 計		79	152	2	0	9	242
		48.8%	93.8%	1.2%	0.0%		

意見・要望

1	福島県	おもしろかったです。分かり易かったです。(40代 医師)
2	福島県	自分の準備に追われてしまった。(30代 救急救命士)

実習:被ばく医療実習

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	15	7	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	12	9	1	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	9	16	0	0	1	26
4	神奈川県 1月25日(土)	14	14	2	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	11	6	0	0	2	19
6	石川県 2月9日(日)	7	11	2	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	12	4	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	7	4	0	0	3	14
合 計		87	71	5	0	7	170
		53.4%	43.6%	3.1%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	17	5	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	15	6	1	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	9	16	0	0	1	26
4	神奈川県 1月25日(土)	16	13	1	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	12	5	0	0	2	19
6	石川県 2月9日(日)	10	10	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	12	4	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	8	3	0	0	3	14
合 計		99	62	2	0	7	170
		60.7%	38.0%	1.2%	0.0%		

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	12	10	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	8	11	3	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	6	19	0	0	1	26
4	神奈川県 1月25日(土)	9	19	2	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	3	12	2	0	2	19
6	石川県 2月9日(日)	6	13	1	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	6	10	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	5	6	0	0	3	14
合 計		55	100	8	0	7	170
		33.7%	61.3%	4.9%	0.0%		

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	15	6	1	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	14	6	2	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	8	16	1	0	1	26
4	神奈川県 1月25日(土)	15	11	4	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	10	6	1	0	2	19
6	石川県 2月9日(日)	9	9	2	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	12	4	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	7	4	0	0	3	14
合 計		90	62	11	0	7	170
		55.2%	38.0%	6.7%	0.0%		

意見・要望

1	長崎県	この実習に消防は必要ないのでは？(40代、救急救命士)
2	福島県	実習時間をもう少し長くしても良かったのではないかと思います。(30代 看護師)
3	福島県	まだまだ不満足な、手際の悪い処置だが何回か参加してもっと良くしていきたい。(40代 医師)
4	福島県	もっと多くの人の音声が聞こえると良かったと思う。(30代 救急救命士)
5	愛媛県	もう少し厳しくしてもよいのかと思いました(30代、医師)
6	愛媛県	記録係がどなたなのかもよく分からないまま始めてしまった。受け入れ準備も不十分であったため、事前の打ち合わせと準備が必要であったと感じた(30代、診療放射線技師)
7	神奈川県	情報が錯綜するところがあった(40代、医師)
8	神奈川県	記録を担当しましたが、実際は声が聞き取りにくかったり、状況が見えない場合があると思われる為、声掛け、協力体制が重要であると思います(50代、看護師)
9	神奈川県	ビデオがあったので分かり易かった(20代、看護師)
10	神奈川県	消防側と病院側の連携の部分をもっと少し実習として学びたかったです(20代、消防士)
11	神奈川県	病院内でのことばかりだったので、現場活動のこともやりたかったです(20代、消防士)
12	鳥取県	自分が出来なかったことに対して不満あり(40代、看護師)
13	鳥取県	時間的制約があるが、原発が近くにあるのだから、時間をかけてすべきである。リーダーの役目が大きいので、リーダー作りをするべきである(30代、救急救命士)
14	石川県	時間の問題はあるが、レイアウトのシミュレーションをしたかった。(実習の中でも気づくのですが、あらかじめ考えてみたかった。)(30代、看護師)
15	滋賀県	色々考えることができる時間を持つことができ、良かったです(40代、看護師)
16	滋賀県	臨機応変に対応してくださり、その都度Q&Aが行われわかりやすかった(30代、看護師)

本日の研修について

①参加して有益であったと思いますか。

		とても有益	有益	あまり有益で なかった	全く有益で なかった	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	13	9	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	11	11	0	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	11	15	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	17	13	0	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	13	6	0	0	0	19
6	石川県 2月9日(日)	8	12	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	10	6	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	8	4	0	0	2	14
合 計		91	76	0	0	3	170
		54.5%	45.5%	0.0%	0.0%		

②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。

		参加させ たい	どちらとも 言えない	参加させ たくない	自分が参 加したい	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	20	2	0	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	19	2	0	1	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	24	2	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	26	3	1	0	0	30
5	鳥取県 1月26日(日)	17	1	0	1	0	19
6	石川県 2月9日(日)	16	4	0	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	15	1	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	11	0	0	1	2	14
合 計		148	15	1	3	3	170
		88.6%	9.0%	0.6%	1.8%		

②他の研修(専門研修)にも参加したいと思いますか。

		是非 参加したい	参加したい	どちらとも 言えない	参加 したくない	無記入	合計
1	長崎県 1月13日(月)	7	14	1	0	0	22
2	福島県 1月18日(土)	9	12	1	0	1	23
3	愛媛県 1月19日(日)	13	13	0	0	0	26
4	神奈川県 1月25日(土)	16	11	2	0	1	30
5	鳥取県 1月26日(日)	6	9	4	0	0	19
6	石川県 2月9日(日)	6	10	4	0	0	20
7	滋賀県 2月15日(土)	6	10	0	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	5	4	2	0	3	14
合 計		68	83	14	0	5	170
		40.7%	49.7%	8.4%	0.0%		

意見・要望

1	長崎県	実習を通じて気付かされる事が多く、大変勉強になりました(30代、医師)
2	長崎県	実習のとき、協力者の方が中に入ったので見えにくい事がありました(30代、看護師)
3	長崎県	今後も定期的にこのような形で研修を受講できる環境があるとありがたいです(20代、医師)
4	長崎県	福岡県でも開催して欲しい・・・(30代、診療放射線技師)
5	長崎県	講義は良かったが、実習は消防としてはあまり関係ないのでは(消防として病院前の詳しい内容を実習したい)(40代、救急救命士)
6	福島県	原発事故での初期対応のスライドを見て、当院では全く準備がなされていなかったことに気づきました。今後の院内での対応を検討しなければ思いました。(30代 診療放射線技師)
7	福島県	①コアカリキュラムの考えで全国統一のプログラムは良い(ACLS等でもそうなので) ②オレンジオイルは本物(実物)を会場で見せてほしい。(色々な事情でHPには載せられないのでしょうか) ③予習してきて良かったが参加登録票に書いてある「ホームページにて事前にご覧いただけます」では分かりづらい、バックナンバーの「緊急う被ばく医療の実際を学ぶ」のボタンを押してフォーラムテキストやビデオを見てください。まで書いてください。(40代 医師)
8	福島県	災害医療に限らず、チームで活動するにあたって全体の意識の統一及び活動の統一をはかるために、各チーム、チーム内での各自の知識の統一が必要である。(40代 救急救命士)
9	福島県	原子力災害医療については、各組織が共通認識のもと対応が有効と感じた。(40代 救急救命士)
10	愛媛県	事務の参加が必要ではないかと思った。チームとしての研修も必要かと思う(30代、医師)
11	愛媛県	スタッフの方を含めて、とても素晴らしい研修の進め方だと思います。ありがとうございました(30代、看護師)
12	愛媛県	以前参加させてもらった時よりも、講義内容が充実していてよかったです(30代、看護師)
13	愛媛県	連絡、養生、物品調達等 医療者でなくても受け持てる部分について事務職向けの研修を行ってほしい(40代、看護師)
14	愛媛県	ぜひ、また参加させていただきます。ブラッシュアップをしないとすぐにリセットされてしまいますので・・・(30代、診療放射線技師)
15	愛媛県	汚染拡大防止の為、抜けのない確認、引き継ぎが必要である事を理解しました(40代、救急救命士)
16	神奈川県	「講義①」スライドが切替る毎にポーズは不要。説明中に読める。スライドは事前配布とし「もっと実技を増やす」「講義で是非を話す内容のみスライド講義」とすればもっと内容が濃くなる。スライドの文字を読むだけはもったいない(40代、医師)
17	神奈川県	実習後、各職種毎に情報交換会はとても良かったです(30代、看護師)
18	神奈川県	改めて実習することにより、不安だったところが解決しとてもためになった。また、ディスカッションをすることにより同じ職種の皆さんとわかりあえたので良かったです。機会があればまた参加したいと思います。ありがとうございました(40代、診療放射線技師)
19	神奈川県	自施設でもこのような研修会を開催したい(40代、診療放射線技師)
20	神奈川県	災害時の訓練を受けたのが初めてだったので、何をしたらよいのかなか難しかった。おなじような訓練が自施設でできたらとても良い事だと思った。技師としての役割についても更に理解が深められた(30代、診療放射線技師)
21	神奈川県	他の職種と合同訓練を行うことで、色々学ぶことができました。他職種とのディスカッションをやりたいと思います(30代、診療放射線技師)

22	神奈川県	専門研修を終えた人を対象に、講義よりも実習に重きを置いた研修を毎年やってほしい(40代、診療放射線技師)
23	神奈川県	資機材の充実、汚染傷病者の想定等大変勉強になりました(40代、診療放射線技師)
24	神奈川県	消防側からの参加は総合研修でよい。専門研修であれば4搬送、3スクリーニング・除染がよい。 平成25年に磐田市立総合病院が初期被ばく医療機関に指定されました。同市の消防機関として災害時医療の研修等の講師としてお招きできますか？講義でも実習でもよいです(50代、救急救命士)
25	鳥取県	今回の講義、実習では現実に対応できるか不安。病院としての対応の体制づくりだけはきちんとしておく必要があると感じた(30代、医師)
26	鳥取県	1回の研修だけでは、なかなか理解や実践につながらないため、何かの形で知識を得る努力が必要だと感じました(40代、看護師)
27	鳥取県	研修内容はとてもわかりやすく理解できたと思うが、すべてを習得した自信はない。実習等、今後の研修にひきつづき取り入れてほしい。また参加したい(40代、看護師)
28	鳥取県	汚染区域とビニールシートで養生した区域、その他の区域と3つの区域があり、内・外回りの行動範囲を徹底させるのが大切と感じた(30代、看護師)
29	鳥取県	実習・講習は大変参考になりました。ありがとうございました(60歳以上、診療放射線技師)
30	鳥取県	実際やってみるのは良い。より実践に近い、定期的に行う必要がある→単発事例、大量事例(50代、診療放射線技師)
31	鳥取県	前半しか都合で参加できず、申し訳ありません。(東部は原子力防災講演会です)(50代、医師)
32	鳥取県	一度は実習に参加し体験すべきと思っていたが実現できた(60歳以上、医師)
33	鳥取県	とても良い研修であり、理解を深めれた。また現場から(災害現場)病院内までの流れが確認することが出来た。(注意点含め) 機器取扱い、汚染等の理解を今後深めたい。実習DVD配布あれば、復習等活用できる(30代、消防士)
34	鳥取県	定期的な訓練、シュミレーションが必ず必要です。専門指揮隊が必要である(30代、救急救命士)
35	鳥取県	原子力事故に対応する力をさらに高めたいと思いました。今後も機会があればこういった研修に参加したいです(20代、救急救命士)
36	石川県	チーム医療、救急医療が普段から大切であることが理解できた。(60代以上、医師)
37	石川県	統括チームとして参加させて頂きました。資料に具体的に出ていないので困った。統括チームとして役割を果たすには知識と経験が必要と痛感した。(40代、看護師)
38	石川県	今後もこのような研修会に積極的に参加したいと思っていますので継続のほどよろしく願いいたします。(30代、診療放射線技師)
39	石川県	今回このような機会に参加でき、とても自分自身に有意義なものになりました。ありがとうございました。(30代、診療放射線技師)
40	石川県	今後バージョンアップしてってください。(50代、消防士職員)
41	石川県	様々な職種が混ざって研修を受けることは多くの発見があり、とても良い勉強になりました。(20代、消防士職員)
42	滋賀県	現行講座の対象職種を広げてほしいです。医師ですが、ドクターヘリ業務では搬送が大いに関わってきます(30代、医師)
43	滋賀県	講師の先生方のわかりやすく的確なアドバイスにはとても勉強になりました。ありがとうございました(40代、看護師)

44	滋賀県	人(スタッフ)が少ない状況の訓練も行いたかった。 単体での開催は必要ないのかもしれませんが、自施設での訓練の企画の方法を教えていただけるとありがたいです(30代、診療放射線技師)
45	滋賀県	実習にて、丁寧なご指導ありがとうございました(50代、診療放射線技師)
46	滋賀県	病院内で意識が低い、同職種内でも…市、病院の問題として全体で取り組む必要があると思います(30代、診療放射線技師)
47	北海道	午後の実習の準備へ進行が良かったです。今後、科で学習会等をするときの参考になりました(20代、看護師)
48	北海道	HPでの告知、募集案内を早めをお願いしたい。院内での文書回覧では遅くなるため(40代、看護師)
49	北海道	同じ研修でも理解を深めるために再度参加したいので研修の回数を増やしてほしいです(30代、診療放射線技師)

平成25年度原子力災害医療対応/専門研修(原子力災害時医療)
理解度確認テスト取り纏め

- ① 除染の洗浄に用いた水の跳ね返りや漏れへの対応として、汚染区域の床には表面が吸水性、裏面が撥水性のろ紙を敷く。

正解:○

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	長崎県	21	2	0	23	22	1	0	23
2	福島県	18	5	0	23	20	3	0	23
3	愛媛県	24	2	0	26	24	0	2	26
4	神奈川県	27	4	1	32	29	1	2	32
5	鳥取県	17	3	0	20	17	1	2	20
6	石川県	19	2	0	21	21	0	0	21
7	滋賀県	14	2	0	16	16	0	0	16
8	北海道	16	0	2	18	15	1	2	18
合計		156	20	3	179	164	7	8	179
		88.6%	11.4%			95.9%	4.1%		

- ② 傷病者の処置を行う区域には、緊急事態に備えて、使用する可能性のある資機材を初めから入れておく。

正解:×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	長崎県	1月13日(月)	8	15	0	23	12	11	0	23
2	福島県	1月18日(土)	9	14	0	23	11	12	0	23
3	愛媛県	1月19日(日)	17	9	0	26	15	9	2	26
4	神奈川県	1月25日(土)	23	8	1	32	23	7	2	32
5	鳥取県	1月26日(日)	11	9	0	20	9	9	2	20
6	石川県	2月9日(日)	17	4	0	21	20	1	0	21
7	滋賀県	2月15日(土)	9	7	0	16	7	9	0	16
8	北海道	2月22日(土)	8	8	2	18	3	13	2	18
合計			102	74	3	179	100	71	8	179
			58.0%	42.0%			58.5%	41.5%		

- ③ 原子力災害時の医療対応においても、診断用X線防護用具の鉛エプロンを装着することは外部被ばくの低減に有効である。

正解：×

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	長崎県 1月13日(月)	5	18	0	23	3	20	0	23
2	福島県 1月18日(土)	9	14	0	23	5	18	0	23
3	愛媛県 1月19日(日)	7	19	0	26	4	20	2	26
4	神奈川県 1月25日(土)	13	17	2	32	6	24	2	32
5	鳥取県 1月26日(日)	7	13	0	20	3	15	2	20
6	石川県 2月9日(日)	9	12	0	21	7	14	0	21
7	滋賀県 2月15日(土)	3	13	0	16	2	14	0	16
8	北海道 2月22日(土)	8	8	2	18	3	13	2	18
合計		61	114	4	179	33	138	8	179
		34.9%	65.1%			19.3%	80.7%		

- ④ 医療チームに参加する診療放射線技師の役割として、汚染拡大防止のために汚染区域内の物や人の動きの監視や対応を指示することが重要である。

正解：○

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	長崎県 1月13日(月)	18	5	0	23	23	0	0	23
2	福島県 1月18日(土)	23	0	0	23	21	2	0	23
3	愛媛県 1月19日(日)	19	7	0	26	16	8	2	26
4	神奈川県 1月25日(土)	27	3	2	32	30	0	2	32
5	鳥取県 1月26日(日)	16	4	0	20	18	0	2	20
6	石川県 2月9日(日)	18	3	0	21	7	14	0	21
7	滋賀県 2月15日(土)	16	0	0	16	16	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	15	1	2	18	16	0	2	18
合計		152	23	4	179	147	24	8	179
		86.9%	13.1%			86.0%	14.0%		

- ⑤ 放射線物質による汚染を伴う傷病者を受け入れた場合、最初に行うのは全身の汚染検査である。

正解：×

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	長崎県 1月13日(月)	10	13	0	23	5	18	0	23
2	福島県 1月18日(土)	15	8	0	23	2	21	0	23
3	愛媛県 1月19日(日)	9	17	0	26	3	21	2	26
4	神奈川県 1月25日(土)	15	15	2	32	5	25	2	32
5	鳥取県 1月26日(日)	12	8	0	20	4	14	2	20
6	石川県 2月9日(日)	15	6	0	21	4	17	0	21
7	滋賀県 2月15日(土)	6	10	0	16	3	13	0	16
8	北海道 2月22日(土)	8	8	2	18	1	15	2	18
合計		90	85	4	179	27	144	8	179
		51.4%	48.6%			15.8%	84.2%		

- ⑥ 数回洗浄拭き取りを繰り返しても除染出来ない場合、同部をドレッシングで覆って次の処置等に進んでもよい。

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	長崎県	1月0日(土)	19	4	0	23	20	3	0	23
2	福島県	1月0日(土)	16	7	0	23	22	1	0	23
3	愛媛県	1月0日(土)	20	6	0	26	23	1	2	26
4	神奈川県	1月0日(土)	26	4	2	32	29	1	2	32
5	鳥取県	1月0日(土)	13	7	0	20	18	0	2	20
6	石川県	1月0日(土)	18	3	0	21	21	0	0	21
7	滋賀県	1月0日(土)	13	3	0	16	15	1	0	16
8	北海道	1月0日(土)	14	2	2	18	15	1	2	18
合計			139	36	4	179	163	8	8	179
			79.4%	20.6%			95.3%	4.7%		

- ⑦ 医療スタッフは、処置終了後に装備を脱ぎ次第、速やかに処置室を離れる。

正解：×

			受講前				受講後			
			○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	長崎県	1月13日(月)	6	17	0	23	2	21	0	23
2	福島県	1月18日(土)	15	7	1	23	3	20	0	23
3	愛媛県	1月19日(日)	13	13	0	26	4	20	2	26
4	神奈川県	1月25日(土)	14	17	1	32	7	23	2	32
5	鳥取県	1月26日(日)	6	14	0	20	6	12	2	20
6	石川県	2月9日(日)	12	9	0	21	11	10	0	21
7	滋賀県	2月15日(土)	5	11	0	16	4	12	0	16
8	北海道	2月22日(土)	7	9	2	18	3	13	2	18
合計			78	97	4	179	40	131	8	179
			44.6%	55.4%			23.4%	76.6%		

- ⑧ 除染処置後の患者や内部汚染のある患者の入院治療は、RI治療室などのように放射線を遮蔽する特別な設備がないとできない。

正解：×

			受講前				受講後			
			○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	長崎県	1月13日(月)	6	17	0	23	4	19	0	23
2	福島県	1月18日(土)	7	15	1	23	5	18	0	23
3	愛媛県	1月19日(日)	4	22	0	26	5	19	2	26
4	神奈川県	1月25日(土)	11	20	1	32	6	24	2	32
5	鳥取県	1月26日(日)	5	15	0	20	0	18	2	20
6	石川県	2月9日(日)	6	15	0	21	7	14	0	21
7	滋賀県	2月15日(土)	1	15	0	16	1	15	0	16
8	北海道	2月22日(土)	4	12	2	18	2	14	2	18
合計			44	131	4	179	30	141	8	179
			25.1%	74.9%			17.5%	82.5%		

- ⑨ 放射線被ばくや汚染を伴う患者は、強い不安を抱えている場合が多く、十分なメンタルケアが必要である。

正解：○

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	長崎県 1月13日(月)	23	0	0	23	23	0	0	23
2	福島県 1月18日(土)	22	0	1	23	23	0	0	23
3	愛媛県 1月19日(日)	26	0	0	26	24	0	2	26
4	神奈川県 1月25日(土)	31	0	1	32	30	0	2	32
5	鳥取県 1月26日(日)	20	0	0	20	18	0	2	20
6	石川県 2月9日(日)	21	0	0	21	20	1	0	21
7	滋賀県 2月15日(土)	16	0	0	16	16	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	16	0	2	18	16	0	2	18
合計		175	0	4	179	170	1	8	179
		100.0%	0.0%			99.4%	0.6%		

- ⑩ 急性放射線症候群の前駆症状は、被ばく線量が高いほど早期に出現する。

正解：○

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	長崎県 1月13日(月)	16	7	0	23	22	1	0	23
2	福島県 1月18日(土)	19	3	1	23	23	0	0	23
3	愛媛県 1月19日(日)	17	9	0	26	23	1	2	26
4	神奈川県 1月25日(土)	29	2	1	32	28	2	2	32
5	鳥取県 1月26日(日)	14	6	0	20	14	4	2	20
6	石川県 2月9日(日)	18	3	0	21	20	1	0	21
7	滋賀県 2月15日(土)	11	5	0	16	16	0	0	16
8	北海道 2月22日(土)	14	2	2	18	16	0	2	18
合計		138	37	4	179	162	9	8	179
		78.9%	21.1%			94.7%	5.3%		

平成25年度原子力災害医療対応/専門研修(救護所設置・運営)

アンケート取り纏め

	開催日	地域	開催場所	受講者数	アンケート 回収数
1	3月9日(日)	青森県	労働福祉会館	12	12
2	3月10日(月)	愛媛県	中予地方局	11	11
3	3月16日(日)	宮城県	石巻赤十字病院	17	16
4	3月17日(月)	島根県	島根県原子力防災センター	10	8
5	3月21日(金)	静岡県	掛川グランドホテル	7	7
6	3月22日(土)	鹿児島県	宝山ホール	13	13
7	3月23日(日)	石川県	石川県地場産業振興センター	9	9
8	3月25日(火)	京都府	ホテルアマービレ	8	8
			合計	87	84

96.6%

1.所属

		病院	保健所	放射線 技師会	消防	警察	自衛隊	海上 保安庁	国	道府県	市町村	大学	事業所	その他	無記入	合計
1	青森県	2	3	1	0	0	1	0	0	0	0	3	0	2	0	12
2	愛媛県	2	1	0	1	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	11
3	宮城県	14	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	16
4	島根県	0	1	0	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	0	8
5	静岡県	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	7
6	鹿児島県	2	3	0	2	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	13
7	石川県	2	2	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	9
8	京都府	3	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	合計	26	12	1	7	0	2	0	0	12	18	3	0	3	0	84
		31.0%	14.3%	1.2%	8.3%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	14.3%	21.4%	3.6%	0.0%	3.6%	0	

2.職種

		地方公共 団体職員	海上 保安官	自衛官	警察官	診療放射 線技師	消防職員	救急救命 士	事務職員	その他	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	2	0	1	0	3	0	0	1	4	1	12
2	愛媛県 3月10日(月)	6	0	0	0	0	1	0	2	2	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	2	0	0	0	1	0	0	1	12	0	16
4	島根県 3月17日(月)	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	3	0	0	0	0	0	0	2	2	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	6	0	0	0	2	2	1	2	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	5	0	0	0	2	0	0	1	1	0	9
8	京都府 3月25日(火)	0	0	1	0	0	3	1	2	1	0	8
	合計	31	0	2	0	9	6	2	11	22	1	84
		37.3%	0.0%	2.4%	0.0%	10.8%	7.2%	2.4%	13.3%	26.5%		

3.年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	0	3	1	4	4	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	0	1	3	4	3	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	0	2	5	6	3	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	0	0	5	2	1	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	0	0	0	4	2	1	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	0	4	0	6	3	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	0	3	1	2	3	0	0	9
8	京都府 3月25日(火)	0	1	2	4	1	0	0	8
	合計	0	14	17	32	20	1	0	84
		0.0%	16.7%	20.2%	38.1%	23.8%	1.2%		

4.参加回数

①当協会主催「旧緊急被ばく医療研修」への参加

		あり	なし	その他	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	8	3	1	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	0	11	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	10	6	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	3	5	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	4	3	0	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	4	8	1	0	13
7	石川県 3月23日(日)	3	6	0	0	9
8	京都府 3月25日(火)	1	5	1	1	8
合 計		33	47	3	1	84
		39.8%	56.0%	3.6%		

4.原子力防災訓練への参加について

		あり	なし	その他	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	8	4	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	6	5	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	5	11	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	7	1	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	1	6	0	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	10	3	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	8	1	0	0	9
8	京都府 3月25日(火)	3	5	0	0	8
合 計		48	36	0	0	84
		57.1%	42.9%	0.0%		

		事故前	事故以降	両方	毎年	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	1	5	1	1	0	8
2	愛媛県 3月10日(月)	0	4	0	1	1	6
3	宮城県 3月16日(日)	3	0	1	0	1	5
4	島根県 3月17日(月)	0	5	2	0	0	7
5	静岡県 3月21日(金)	0	0	1	0	0	1
6	鹿児島県 3月22日(土)	1	5	4	0	0	10
7	石川県 3月23日(日)	0	6	1	0	1	8
8	京都府 3月25日(火)	2	1	0	0	0	3
合 計		7	26	10	2	3	48
		15.6%	57.8%	22.2%	4.4%		

今後取り上げてほしいテーマ

1	愛媛県	当該県内だけでなく、広域にある県等の課題について
2	宮城県	原子力災害の時の自分の防護、どのくらい外で活動できるか？等知りたいです(30代、地方公共団体職員)
3	静岡県	県の広域避難計画ができてからの現実的な市町の救護所での対応方法(40代、事務職員)
4	鹿児島県	避難住民を受け入れる避難所の設置・運営(40代、地方公共団体職員)
5	鹿児島県	ヨウ素剤配布の具体的な対応(40代、地方公共団体職員)
6	鹿児島県	搬送の方法(養生方法)(20代、消防士職員)
7	石川県	その県の防災計画、マニュアルの検討(20代、地方公共団体職員)
8	京都府	トラブル時の集団心理(50代、事務(病院))

今後取り上げてほしい講座

1	宮城県	汚染者へ対応する際の注意等、実際の実技等知りたいです。養生の仕方(30代、地方公共団体職員)
2	島根県	安定ヨウ素剤の配布訓練(30代、地方公共団体職員)
3	鹿児島県	原子力災害に特有な避難所設置・運営(40代、地方公共団体職員)

講義1:原子力災害時の救護所活動

①講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	1	7	4	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	6	5	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	12	4	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	3	5	0	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	2	2	1	1	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	6	7	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	7	1	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	8	0	0	0	0	8
合 計		45	31	5	1	2	84
		54.9%	37.8%	6.1%	1.2%		

②あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	1	9	2	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	2	9	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	9	6	1	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	2	6	0	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	3	2	1	0	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	4	8	1	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	5	3	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	4	4	0	0	0	8
合 計		30	47	5	0	2	84
		36.6%	57.3%	6.1%	0.0%		

③スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	2	9	0	1	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	7	4	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	10	6	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	4	0	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	2	3	0	1	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	6	7	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	5	3	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	7	1	0	0	0	8
合 計		43	37	0	2	2	84
		52.4%	45.1%	0.0%	2.4%		

意見・要望

1	青森県	もう少し易しく説明すべきでは？(50代、診療放射線技師)
2	青森県	専門用語がよくわからなかった(20代、無記入)
3	青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線 事業者の線量限度は？(P23) ・EALとは何の略か？ ・EAL、OILの根拠(国際基準？) ・P25DMATは指定公共機関ではない、DMATを派遣するわけではない(40代、地方公共団体職員)
4	静岡県	基本の基からの説明または用語解説などがあるとわかりやすいと思いました。(40代、保健師)
5	鹿児島県	JCOや1F時の茨城県の体験談が非常に参考になりました(40代、地方公共団体職員)

講義2: 救護所の設置・運営

① 講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	8	4	0	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	7	4	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	12	4	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	5	2	0	0	1	8
5	静岡県 3月21日(金)	4	3	0	0	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	8	5	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	7	1	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	8	0	0	0	0	8
合計		59	23	0	0	2	84
		72.0%	28.0%	0.0%	0.0%		

② あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	5	6	1	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	3	8	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	10	5	1	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	3	0	0	1	8
5	静岡県 3月21日(金)	4	3	0	0	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	4	7	2	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	5	3	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	4	4	0	0	0	8
合計		39	39	4	0	2	84
		47.6%	47.6%	4.9%	0.0%		

③ スライド・資料

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	6	4	2	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	6	5	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	10	5	1	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	3	0	0	1	8
5	静岡県 3月21日(金)	3	3	1	0	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	5	8	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	7	1	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	7	1	0	0	0	8
合計		48	30	4	0	2	84
		58.5%	36.6%	4.9%	0.0%		

意見・要望

1	青森県	救護所をスクリーニングより前のホットゾーンに置くのは非現実的なレイアウト例は救護所をコールドに(40代、地方公共団体職員)
2	宮城県	テンポよくききやすい、堅苦しい感じが無く、親しみやすい雰囲気(40代、看護師)
3	鹿児島県	1Fの具体例が示されていたので理解しやすかった(40代、地方公共団体職員)

実習: 救護所の設置

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	6	6	0	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	5	6	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	13	3	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	2	0	0	2	8
5	静岡県 3月21日(金)	5	0	0	0	2	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	7	6	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	7	0	0	0	2	9
8	京都府 3月25日(火)	8	0	0	0	0	8
合 計		55	23	0	0	6	84
		70.5%	29.5%	0.0%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	6	6	0	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	3	8	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	12	4	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	2	0	0	2	8
5	静岡県 3月21日(金)	6	0	0	0	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	8	5	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	6	1	0	0	2	9
8	京都府 3月25日(火)	8	0	0	0	0	8
合 計		53	26	0	0	5	84
		67.1%	32.9%	0.0%	0.0%		

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	4	8	0	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	5	6	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	10	6	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	2	0	0	2	8
5	静岡県 3月21日(金)	4	2	0	0	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	4	8	1	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	5	2	0	0	2	9
8	京都府 3月25日(火)	4	4	0	0	0	8
合 計		40	38	1	0	5	84
		50.6%	48.1%	1.3%	0.0%		

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	6	5	1	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	5	6	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	10	6	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	2	0	0	2	8
5	静岡県 3月21日(金)	5	1	0	0	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	9	4	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	6	1	0	0	2	9
8	京都府 3月25日(火)	6	2	0	0	0	8
合 計		51	27	1	0	5	84
		64.6%	34.2%	1.3%	0.0%		

意見・要望

1	青森県	時間が足りない。実際の実習を1～2日かけて行う研修が必要と思います。(50代、診療放射線技師)
2	青森県	思っているより救護所の組み立てがうまくいかなかった(20代、無記入)
3	青森県	多職種でグループを作りたいかった。(ほかの職種の視点なども学べるので)(30代、看護師)
4	愛媛県	部屋が暗く、静かにすすんだので部屋は明るくしてもらえる方がいいです(30代、看護師)
5	鹿児島県	救護所のレイアウトが各班や講師の方々から色々と示されて参考になった(40代、地方公共団体職員)

演習: 救護所の運営

①実習の進め方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	6	6	0	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	5	6	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	13	3	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	2	0	0	2	8
5	静岡県 3月21日(金)	5	0	0	0	2	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	7	6	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	7	0	0	0	2	9
8	京都府 3月25日(火)	8	0	0	0	0	8
合計		55	23	0	0	6	84
		70.5%	29.5%	0.0%	0.0%		

②講師の教え方

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	6	6	0	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	3	8	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	12	4	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	2	0	0	2	8
5	静岡県 3月21日(金)	6	0	0	0	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	8	5	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	6	1	0	0	2	9
8	京都府 3月25日(火)	8	0	0	0	0	8
合計		53	26	0	0	5	84
		67.1%	32.9%	0.0%	0.0%		

③あなたの理解度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	4	8	0	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	5	6	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	10	6	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	2	0	0	2	8
5	静岡県 3月21日(金)	4	2	0	0	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	4	8	1	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	5	2	0	0	2	9
8	京都府 3月25日(火)	4	4	0	0	0	8
合計		40	38	1	0	5	84
		50.6%	48.1%	1.3%	0.0%		

④あなたの満足度

		大変よい	よい	不満	とても不満	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	7	5	0	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	5	6	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	12	4	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	2	0	0	2	8
5	静岡県 3月21日(金)	5	1	0	0	1	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	8	5	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	7	1	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	6	2	0	0	0	8
合 計		54	26	0	0	4	84
		68.4%	32.9%	0.0%	0.0%		

意見・要望

1	青森県	時間が足りない。実際の実習を1～2日かけて行う研修が必要と思います。(50代、診療放射線技師)
2	青森県	実際に救護所設置も体験したかった。自分たちの作ったレイアウトだと実際にどうなるか(30代、看護師)
3	鹿児島県	1FやDMATとして体験をお聞きできて非常に参考になった(40代、地方公共団体職員)

本日の研修について

①参加して有益であったと思いますか。

		とても有益	有益	あまり有益で なかった	全く有益で なかった	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	4	7	0	0	1	12
2	愛媛県 3月10日(月)	6	5	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	13	3	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	4	4	0	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	3	4	0	0	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	11	2	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	6	2	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	4	4	0	0	0	8
合 計		51	31	0	0	2	84
		62.2%	37.8%	0.0%	0.0%		

②今後、自分の組織の人にも参加させたいですか。

		参加させ たい	どちらとも 言えない	参加させ たくない	自分が参 加したい	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	10	1	0	0	1	12
2	愛媛県 3月10日(月)	8	3	0	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	15	0	0	1	0	16
4	島根県 3月17日(月)	8	0	0	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	7	0	0	0	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	13	0	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	7	1	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	8	0	0	0	0	8
合 計		76	5	0	1	2	84
		92.7%	6.1%	0.0%	1.2%		

②他の研修(専門研修)にも参加したいと思いますか。

		是非 参加したい	参加したい	どちらとも 言えない	参加 したくない	無記入	合計
1	青森県 3月9日(日)	6	4	1	0	1	12
2	愛媛県 3月10日(月)	1	8	2	0	0	11
3	宮城県 3月16日(日)	11	5	0	0	0	16
4	島根県 3月17日(月)	1	6	1	0	0	8
5	静岡県 3月21日(金)	1	6	0	0	0	7
6	鹿児島県 3月22日(土)	8	5	0	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	4	4	0	0	1	9
8	京都府 3月25日(火)	1	7	0	0	0	8
合 計		33	45	4	0	2	84
		40.2%	54.9%	4.9%	0.0%		

意見・要望

1	青森県	現体制の上に総合的な研修も必要ではないでしょうか？(実習を中心に)講義2のレイアウトの問題を上げていたが、この講義では最善のレイアウトを教えるべきであり考えさせるべきではない。最小の資材、人材で有効に運用できることを講義すべきである(この内容の講師として不適)(50代、診療放射線技師)
2	青森県	住民の不安解消のお手伝い(傾聴カウンセリング)についても実施できませんか？ 養生の実習を行ってほしい(50代、診療放射線技師)
3	青森県	撤収の方法、養生の仕方についても講義の内容に盛り込んでおいてもらいたい(40代、自衛官)
5	青森県	・フランスの原子力訓練等の視察、アルベネヒの危機管理の視察 ・応急処置は原則、スクリーニング、除染後にしておかないと人が集まらない。 ・養生の仕方、撤去の仕方も入れてほしい(40代、団体職員)
6	愛媛県	全く分からないままの参加でしたが、すごく分かりやすくもう少し勉強してみたいと思います(30代、看護師)
7	愛媛県	実際のスタッフになった際の動き等について、非常にイメージしやすい研修であったので満足度は高かった(30代、地方公共団体職員)
8	宮城県	研修が少ない、拠点病院開催であるとともに助かります。地元であるとイメージも付きやすい(40代、看護師)
9	宮城県	情報提供を防災担当課以外の部署にも伝わるようなシステムでお願いします。今回のような医療関係の場合、市役所の健康、部署等にも情報お願いします(30代、地方公共団体職員)
10	島根県	救護所設置・運営のマニュアル作成に参考になった(50代、地方公共団体職員(保健師))
11	島根県	理解度テストと講義実習との関係が薄いと思った(40代、地方公共団体職員)
12	島根県	救護所の設置条件や活動内容について、分かり易く説明いただいた今後の活動の参考にしたい(30代、地方公共団体職員)
13	島根県	自治体のマニュアルがない分野であるため、それらのマニュアルが揃ってからマニュアルに基づいて講習すると有意義ではないか(30代、地方公共団体職員)
14	島根県	専門的な内容で心配していましたが、とても勉強になりました(40代、地方公共団体職員)
15	静岡県	開催日について、年度末に集中している。年間計画を早く教えていただき、計画的に参加したい。(50代、地方公共団体職員)
16	静岡県	救護者の定義とスクリーニングポイントの定義が災害医療と違うと思う。整理が必要だと思う。(40代、事務職員)
17	静岡県	スタッフ数やヨウ素剤配布方法など、現実的な対応を具体的にどうしたらよいか、県内で統一的な見解を早く出していただけるとありがたいです。個々の市町だけで用品を購入したり、スタッフ配置の確保は限界があります。(40代、事務職員)
18	静岡県	県・協会と連携して頂き、実際に則した形でもう少し各市町でより研修後応用できる研修をしてもらえるとありがたいです。 市町でどこまで用意し、県はどこまでやるのか役割が不明で持ち帰りすぐとりかかることのイメージがつかない気がしてもったいないです。(40代、保健師)
19	鹿児島県	全体の質疑応答は一番最後に行う旨を、講義の冒頭で明確にできれば良いと感じました(40代、地方公共団体職員)
20	鹿児島県	今回の研修は現場の話を交えての講義であり、とても関心を持った。来年度もぜひ研修に参加させていただきたいと思います(40代、消防士職員)
22	鹿児島県	福島の写真を入れながら、現場をよりイメージできる内容にしてほしいです(40代、地方公共団体職員)
24	京都府	福島での実際のお話もきけて、すごく興味深かったです。ありがとうございました。舞鶴も宮津も30km圏内に入っているの、実際を想定して日々過ごしていきたいと思います(40代、看護師)

**平成25年度原子力災害医療対応/専門研修(救護所設置・運営)
理解度確認テスト取り纏め**

- ① 緊急事態は、原子力施設内の状態に応じて警戒事態、施設敷地緊急事態、全面緊急事態の3つに分けられる。

正解：○

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	青森県 3月9日(日)	10	2	0	12	12	0	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	9	1	1	11	10	0	0	10
3	宮城県 3月16日(日)	15	2	0	17	16	1	0	17
4	島根県 3月17日(月)	9	0	0	9	7	0	2	9
5	静岡県 3月21日(金)	8	0	0	8	8	0	0	8
6	鹿児島県 3月22日(土)	12	1	0	13	13	0	0	13
7	石川県 3月23日(日)	8	1	0	9	9	0	0	9
8	京都府 3月25日(火)	7	1	0	8	8	0	0	8
合計		78	8	1	87	83	1	2	86
		90.7%	9.3%			98.8%	1.2%		

- ② 放射性物質が放出された後には、放射性物質の放出量や風向き・風速・地形等を基にして算出される拡散予測にのみ基づいて防護対策を行ってゆく。

正解：×

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	青森県 3月9日(日)	2	10	0	12	1	11	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	2	8	1	11	1	9	1	11
3	宮城県 3月16日(日)	5	12	0	17	3	14	0	17
4	島根県 3月17日(月)	1	8	0	9	1	6	2	9
5	静岡県 3月21日(金)	2	6	0	8	2	6	0	8
6	鹿児島県 3月22日(土)	1	12	0	13	0	13	0	13
7	石川県 3月23日(日)	1	8	0	9	0	9	0	9
8	京都府 3月25日(火)	1	7	0	8	2	6	0	8
合計		15	71	1	87	10	74	3	87
		17.4%	82.6%			11.9%	88.1%		

- ③ UPZにおいては、迅速に緊急時モニタリングを行い、OIL1(500 μ Sv/h)を超える区域を特定して避難等を実施しないといけない。

正解：○

		受講前				受講後			
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計
1	青森県 3月9日(日)	10	2	0	12	11	1	0	12
2	愛媛県 3月10日(月)	4	6	1	11	6	4	1	11
3	宮城県 3月16日(日)	12	5	0	17	13	4	0	17
4	島根県 3月17日(月)	3	6	0	9	7	0	2	9
5	静岡県 3月21日(金)	4	4	0	8	6	2	0	8
6	鹿児島県 3月22日(土)	8	5	0	13	10	2	1	13
7	石川県 3月23日(日)	8	1	0	9	8	1	0	9
8	京都府 3月25日(火)	4	4	0	8	4	4	0	8
合計		53	33	1	87	65	18	4	87
		61.6%	38.4%			78.3%	21.7%		

- ④ 病院、介護施設等に在所している等の理由で早期の避難が困難である住民については、避難よりも屋内退避が優先される場合がある。

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	青森県	3月9日(日)	11	1	0	12	10	2	0	12
2	愛媛県	3月10日(月)	10	0	1	11	10	0	1	11
3	宮城県	3月16日(日)	16	1	0	17	15	2	0	17
4	島根県	3月17日(月)	9	0	0	9	7	0	2	9
5	静岡県	3月21日(金)	7	1	0	8	8	0	0	8
6	鹿児島県	3月22日(土)	12	1	0	13	13	0	0	13
7	石川県	3月23日(日)	9	0	0	9	9	0	0	9
8	京都府	3月25日(火)	8	0	0	8	6	2	0	8
合計			82	4	1	87	78	6	3	87
			95.3%	4.7%			92.9%	7.1%		

- ⑤ 我が国では、運用の介入レベル(OIL)は1から6の6種類で決められている。

正解：×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	青森県	3月9日(日)	10	2	0	12	7	5	0	12
2	愛媛県	3月10日(月)	9	1	1	11	1	9	1	11
3	宮城県	3月16日(日)	14	3	0	17	7	10	0	17
4	島根県	3月17日(月)	4	5	0	9	1	6	2	9
5	静岡県	3月21日(金)	6	2	0	8	5	3	0	8
6	鹿児島県	3月22日(土)	7	6	0	13	0	13	0	13
7	石川県	3月23日(日)	2	7	0	9	1	8	0	9
8	京都府	3月25日(火)	3	4	1	8	0	7	1	8
合計			55	30	2	87	22	61	4	87
			64.7%	35.3%			26.5%	73.5%		

- ⑥ 救護所内に応急処置を行うエリアを設定する場合、原則として汚染エリア内に設置す

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	青森県	3月9日(日)	2	10	0	12	9	3	0	12
2	愛媛県	3月10日(月)	4	6	1	11	9	1	1	11
3	宮城県	3月16日(日)	7	10	0	17	12	5	0	17
4	島根県	3月17日(月)	6	3	0	9	7	0	2	9
5	静岡県	3月21日(金)	5	3	0	8	5	3	0	8
6	鹿児島県	3月22日(土)	2	11	0	13	10	3	0	13
7	石川県	3月23日(日)	3	6	0	9	6	3	0	9
8	京都府	3月25日(火)	3	5	0	8	7	1	0	8
合計			32	54	1	87	65	19	3	87
			37.2%	62.8%			77.4%	22.6%		

- ⑦ 除染エリアは、汚染のある住民が入ってくる汚染エリア側の入り口と、除染後の住民が出てゆく非汚染エリアへの出口の二つの連絡口を設けることが合理的である。

正解：×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	青森県	3月9日(日)	10	2	0	12	12	0	0	12
2	愛媛県	3月10日(月)	10	0	1	11	7	3	1	11
3	宮城県	3月16日(日)	17	0	0	17	12	5	0	17
4	島根県	3月17日(月)	9	0	0	9	6	1	2	9
5	静岡県	3月21日(金)	8	0	0	8	8	0	0	8
6	鹿児島県	3月22日(土)	12	1	0	13	12	1	0	13
7	石川県	3月23日(日)	9	0	0	9	0	9	0	9
8	京都府	3月25日(火)	8	0	0	8	1	7	0	8
合計			83	3	1	87	58	26	3	87
			96.5%	3.5%			69.0%	31.0%		

- ⑧ 救護所入口の待機場所は住民登録を待つ住民が待機するための場所であり、十分なスペースを設けておけば、特に人員の配置は必要としない。

正解：×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	青森県	3月9日(日)	1	11	0	12	1	11	0	12
2	愛媛県	3月10日(月)	0	10	1	11	0	10	1	11
3	宮城県	3月16日(日)	0	17	0	17	0	17	0	17
4	島根県	3月17日(月)	0	9	0	9	0	7	2	9
5	静岡県	3月21日(金)	1	7	0	8	0	8	0	8
6	鹿児島県	3月22日(土)	0	13	0	13	0	13	0	13
7	石川県	3月23日(日)	0	9	0	9	0	9	0	9
8	京都府	3月25日(火)	0	8	0	8	0	8	0	8
合計			2	84	1	87	1	83	3	87
			2.3%	97.7%			1.2%	98.8%		

- ⑨ 放射性ヨウ素の吸入による被ばくが懸念される場合には、甲状腺モニタ等による甲状腺被ばく線量の正確な評価が必要となる。

正解：○

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	青森県	3月9日(日)	10	2	0	12	11	1	0	12
2	愛媛県	3月10日(月)	8	2	1	11	9	1	1	11
3	宮城県	3月16日(日)	13	4	0	17	11	6	0	17
4	島根県	3月17日(月)	8	1	0	9	7	0	2	9
5	静岡県	3月21日(金)	6	2	0	8	6	2	0	8
6	鹿児島県	3月22日(土)	11	2	0	13	12	0	1	13
7	石川県	3月23日(日)	6	3	0	9	8	1	0	9
8	京都府	3月25日(火)	5	3	0	8	6	2	0	8
合計			67	19	1	87	70	13	4	87
			77.9%	22.1%			84.3%	15.7%		

- ⑩ 救護所の活動は住民の登録、医療救護、汚染検査(スクリーニング)、診断除染、健康相談、ヨウ素剤配布等であるので、それぞれの担当要員だけそろえば活動は可能である。

正解: ×

		受講前				受講後				
		○	×	無回答	合計	○	×	無回答	合計	
1	青森県	3月9日(日)	2	10	0	12	1	11	0	12
2	愛媛県	3月10日(月)	1	9	1	11	0	10	1	11
3	宮城県	3月16日(日)	2	15	0	17	0	17	0	17
4	島根県	3月17日(月)	0	9	0	9	0	7	2	9
5	静岡県	3月21日(金)	2	6	0	8	2	6	0	8
6	鹿児島県	3月22日(土)	1	12	0	13	0	13	0	13
7	石川県	3月23日(日)	1	8	0	9	0	9	0	9
8	京都府	3月25日(火)	2	6	0	8	2	6	0	8
合計			11	75	1	87	5	79	3	87
			12.8%	87.2%			6.0%	94.0%		

放射線基礎知識に関する既存 e-ラーニングの概要

①診療に役立つ放射線の基礎知識 被ばく医療に関する e-learning

表 1 診療に役立つ放射線の基礎知識 被ばく医療に関する e-learning 目次構成

はじめに	4b. 放射線治療の原理・実際と有害事象
1. 総論	4b.1.1. 放射線治療とは
2. 放射線などの基礎	4b.1.2. 放射線治療効果に影響する因子
2.1. 放射線・放射性物質とは何か	4b.1.3. 放射線治療の線量
2.1.1. 放射線と放射能	4b.1.4. 各種照射法の特徴
2.1.2. 放射性同位元素から放出される放射線	4b.1.5. 放射線治療による被ばくとその影響
2.1.3. 放射性同位元素の壊変	5. 放射線のリスクと防護
2.1.4. 核分裂と壊変により放出される放射線	5.1. 放射線のリスク管理
2.1.5. 放射線と物質の相互作用	5.1.1. 放射線防護の目的
2.1.6. 放射線の性質	5.1.2. 放射線防護の基本原則
2.2. 放射線測定・線量と単位	5.1.3. 被ばくのカテゴリー
2.2.1. 基本的な線量（放射線測定量）と単位	5.1.4. 関係法令
2.2.2. 人体への影響に着目した線量（放射線防護量）と単位	5.2. 公衆被ばく
2.2.3. 放射線管理のための線量（実容量）と単位	5.2.1. 公衆被ばく
2.2.4. 放射線の測定原理と測定装置	5.2.2. 公衆被ばくの管理の考え方
3. 放射線の人体影響	5.2.3. 被ばく限度
3.1. 放射線の生物作用	5.3. 職業被ばく
3.1.1. 放射線生物作用の発言プロセス（概略）	5.3.1. 職業人の線量限度
3.1.2. 放射線の物理化学的作用	5.3.2. 管理の要件
3.1.3. 放射線による突然変異と細胞死	5.4. 医療被ばくと病院での被ばく
3.1.4. 放射線による確率論的影響と確定的影響	5.4.1. 医療被ばくの定義と防護体系
3.1.5. 放射線による発がん	5.4.2. 医療被ばくの線量
3.2. 放射線の健康影響	5.4.3. 医療被ばくの現状
3.2.1. 被ばくの形態	5.4.4. 医療施設内外における被ばく
3.2.2. 急性影響	6. 被ばく医療
3.2.3. 晩発影響	6.1. 被ばく医療
3.2.4. 胎児被ばく	6.1.1. 被ばく医療とは
4. 放射線の医学利用	6.1.2. 被ばくの線量評価
4a.1. 放射線診断の原理・実際と有害事象※	6.1.3. 緊急被ばく医療活動に必要な資機材
4a.1.1. 画像診断とは	6.1.4. 汚染とその種類
4a.1.2. CT検査法の原理	6.2. 緊急被ばく医療体制／6.3. チーム医療
4a.1.4. CTにおける被ばくの低減	6.2.1. 原子力災害対策の法令等
4a.1.6. IVRとは	6.2.2. 緊急被ばく医療体制
4a.2. 核医学診断の原理・実際と有害事象	6.2.3. 救急・災害医療と被ばく医療体制
4a.2.1. 核医学の原理と特長	6.3.1. 被ばく医療における連携・協働
4a.2.2. 核医学検査の種類	6.3.2. 被ばく医療対応のスタッフと役割
4a.2.3. 核医学診断に使われる放射性核種	6.3.3. 被ばく医療要員の役割
4a.2.4. 放射性医薬品	※4a.1.3および4a.1.5はない。
4a.2.5. 核医学診断における被ばく	
4a.2. 参考資料（外部）	

概要

- ・各章は、20 枚程度のスライドとその解説文が掲載された学習画面と参考資料 (PDF)、問題練習で構成
- ・学習画面は、ブラウザ内で、各項目に関するスライドの解説文等が読めるようになっており、表示ページの位置表示、参考資料や他の項目へ移動できるリンク、

前／後への移動、停止／再開等の操作が可能

- ・参考資料および問題へは、各テーマの学習画面の節レベル (X.X.X) のタイトルページ等からアクセス可能
- ・参考資料は、学習素材の元となった「医学教育における被ばく医療関係の教育・学習のための参考資料」(テキストとスライドが載った PDF ファイル) の該当部分を閲覧したり、ダウンロードすることが可能
- ・問題練習は 2～6 章に各 5 問あり、合計 25 問ある。問題は 5 つの選択肢から正解を答え、回答する度に○×による結果と解説が表示され、終了後、次の設問に進む形となっている
- ・各問に回答せずに次の質問に進むこともできるため、再学習時に効率的に進めることが可能
- ・ページめくりや回答時の正解、不正解においては音が出るが、スライドの読み上げ機能はない
- ・ログイン等の機能はなく、学習者について継続的な評価等を行えない

学習者の評価・意見

- ・テスト問題があり、インタラクティブに学習できる
- ・絵などが多用してあり入りやすいが、アニメーション等がなく全体にインパクトが少ない
- ・各項目が独立して作られており、通読すると重複が多い

②長崎大学放射線医療科学 e-learning

表2 長崎大学放射線医療科学e-learning目次構成

[1] 放射線基礎 1) 放射線物理学 1. 放射線・放射能 2. 原子の構造と壊変 3. 放射線の性質 4. 放射線測定(1) 5. 放射線測定(2) 2) 放射線基礎生物学 1. 生物の老化と死に対する放射線の影響 2. 放射線によるDNA損傷とその修復機構 3. 放射線と活性酸素	[3] 放射線被ばくの生体への影響 1) 放射線被ばくと発ガン；白血病 2) 放射線被ばくと発ガン；甲状腺癌 3) 放射線被ばくと発ガン；消化器癌 [4] 放射線と臨床医学 1) 放射線の医療への応用 2) 医療被ばくについて [5] 緊急被ばく医療と高度医療 1) 緊急被ばく医療について 2) 3次医療・高度医療 1. 造血幹細胞移植 2. サイトカイン（造血因子）について 3. 再生医療
[2] 原子爆弾被爆と世界の放射線事故 1) 長崎原爆について 2) チェルノブイリ原発事故と甲状腺がん 3) セミパラチンスク核実験施設	

概要

- ・画面は、写真付き講師紹介、講座項目（リンクあり）、講座スライド、ナレーション原稿、再生中の講座名ならびにスライドの印刷や停止／再生、音量調節等の操作ボタンで構成
- ・学習コンテンツとしては、学習画面（スライドと解説文）とそのPDF版で構成
- ・解説は講師による音声化もされており、音声に合わせて自動的に進んでゆくが、任意の学習したいところに移動することも可能

学習者の評価・意見

- ・読み上げ式で実際に講義を聴いている感覚で学べる
- ・絵などが多用してあるが、アニメーション等がなく全体にインパクトは少ない
- ・各項目が独立して作られており、通読すると重複が多い
- ・テスト等がなくインタラクティブな要素がない

③放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料

表3 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料目次構成

第1章 放射線の基礎知識と健康影響（153頁）	第4章 食品中の放射性物質（64頁）
第2章 事故の状況（15頁）	第5章 除染（9頁）
第3章 環境モニタリング（60頁）	第6章 健康管理（19頁）

概要

- ・本資料は、国等から発信される情報が膨大かつ複雑であり、誤解や国への不信感にも繋がっている状況に対処するため、環境省の委託事業として、放医研が、放射線の基礎知識、放射線による健康影響に関する科学的な知見および関係省庁等が発信している情報等について収集・整理し、とりまとめた統一的な基礎資料である
- ・平成25年8月29日に<http://www.env.go.jp/chemi/rhm/kisoshiryo-01.html>で、ノート付きスライド版、スライドのみ版、各章のQ&A版が、それぞれPDFファイル形式で公開されている
- ・資料は6つの章「第1章 放射線の基礎知識と健康影響」、「第2章 事故の状況」、「第3章 環境モニタリング」、「第4章 食品中の放射性物質」、「第5章 除染」、「第6章 健康管理」からなり、320頁のスライドと510頁のQ&Aからなる

- ・ボリュームが多く、百科事典のように網羅性は高いが、「総合研修（放射線の基礎知識）」のeラーニング教材として使用するには、編集整理が必要と考えられる
- ・なお、現在掲載されている資料は、平成24年度末までの情報を元に作成したものであり、平成25年度末に改訂版を公開することとなっている

学習者の評価・意見

- ・百科事典的で研修のテキストにするには相当な再編成が必要である
- ・本年度末の見直しを見てからの方が良い

また、eラーニング全般に関する学習者の評価・意見については、次の通りである。

- ・一人では集中力が続かないようになりがち
- ・eラーニングには講義ビデオを単に流しているものもあれば、インタラクティブにQ&Aなどに参加しながら学ぶものがあると思われるが、インタラクティブに行われる方が効果はあると思われる
- ・10～20分1コマでモジュール構成されることが望ましいと思う
- ・自分のペースで学ぶことができるので良いと思う
- ・教材であるPC画面でテキストの拡大が出来ず、読むのが少し面倒だったので、PC画面上での取り扱いが容易になると良いと思いました
- ・被ばくという性質上、可能なら無料で一般公開が望ましい
- ・動画を入れると効果的。イメージがつく印象あり
- ・解答から、該当テキストに移動できると良い

学習プロセスを具体化するためのeラーニング概念設計

項目		内容	
名称		原子力災害時における医療対応に関するWeb研修（仮称）	
目的	教材の目的	原子力災害時の医療対応を行うために必要な放射線の基礎知識に関する知識の習得。	
	教材の位置付け	原子力規制庁委託事業「原子力災害時における医療対応に関する研修（仮称）」における「総合研修（放射線の基礎知識）」であり、同事業におけるその他の総合研修、専門研修の受講条件。	
	学習目標	80%以上の理解度。	
対象者	対象者	医療関係者、搬送関係者、地方公共団体職員等の原子力災害時の医療対応要員。	
	対象者のITスキルレベル等	・幅が広い。20歳代～60歳代。	
	受講者数	・1440名程度。	
	受講環境	環境 ・全国。 ・主として職場での受講が考えられるが、自宅、モバイルもあり得る（自習室等）。 ・パソコンの共有使用あり。 ブラウザ ・IE10、Firefox、Chrome、Safari	
教材・機能	希望機能	画面構成、基本機能等	・基本画面：スライド、解説文（表示／非表示切替型でも良い）、教材内位置情報（目次等）、操作ボタン等（図3.①-1参照）。 ・アニメーション：あり。 ・音声あり：スライドの読み上げ。音声に合わせたスピードで自動的に次のスライドへ進むが、ユーザが好みに操作もできる。 ・講師映像：なし。 ・操作ボタン：再生／一時停止、終了、進む／戻る、速度調整（1/2倍速／ノーマル／倍速）、音量調整（大／小、ON／OFF、インジケータ）等。 ・PDF版：あり（スライドおよびその解説）。
		テスト	・あり。 ・形式：正誤問題、単一選択問題、複数選択問題、記入問題、組み合わせ問題、正序問題、穴埋め問題、クリックマップ問題、小論文、その他（ ） ・正誤形式10問10点満点×4講義（内、イントロダクションでは受講前テスト）。 ・音声・効果音、時間制限あり（ 分）。 ・合格点の設定。 ・不合格点の対応（修了書の発行：可／不可）。 ・判定画面：点数、実際の回答と正解、解説、該当スライドへのリンク。 ・再受講：可／不可
		実習体験	・あり。 ・サーベイ体験（振れ、速度、音、汚染部位探し）、研修の様子ビデオへのリンク等。
		修了証	・あり。 ・氏名を入力し※、日付等から重複なし番号を自動取得し、これらを定型文に差し込みPDF等で保存。キャンセルも可。 ・点数表示：表示／合格点以上のため非表示。 ・事務局による閲覧機能やcsvダウンロード機能をつける（→「履歴管理」参照）。 ※「上位研修の受講に使用する場合は、正式な名前を入力のこと」と明記する。
		履歴管理	・受講履歴管理：あり／なし／期限付き（ 年）／その他（ ） ・修了書管理：あり（記載内容：定型文＋氏名、番号、（得点））。
		指導管理	・掲示板 ・ 問合せ ・ FAQ ・ チャット ・ その他（ ）
		言語	・日本語のみ。
		その他機能	・使い方説明ページ、学習環境が合わない場合のメッセージ表示。
		画面推移	全体 基本画面 練習問題
		教材のボリューム	実研修：イントロダクション20分＋講義50分×3＋90分実習×1＝260分 スライド枚数： 1. イントロダクション10枚 2. 放射線の基礎知識15枚（表紙を除く） 3. 人体への影響と放射線防護18枚 4. 原子力災害時の医療対応29枚 →eラーニング：イントロダクション 分＋（講義 分＋問題練習○×形式10問）×3＋実習 分
既存資料の有無とファイル形式	・あり。PDFおよびその元素材（PowerPoint、Word等）。		

項目		内容								
システム管理機能	アクセス制限管理	・あり（一般／事務局（担当者。問題作成、掲示板管理、修了書管理者）／システム管理者）。								
	コンテンツ管理	・コンテンツの作成・修正・削除等。								
開発	開発環境	形態	ASP・自社・開発元・その他（ ）							
		サーバ	OS		ソフトウェア		言語		ツール	
	実行環境	サーバ	OS		Webサーバ		APPサーバ		DBサーバ	
			設置場所	ASP・自社・ホスティング・その他（原子力規制庁等）						
		クライアント端末	・パソコン（ノート型を含む）、タブレット（、スマートフォン）。							
		プラグイン	・不要が望ましい。							
		ドメイン	・www.remnet.jp内が望ましい。							
		セキュリティ対策	・セキュリティ対策ソフト（ ） ・「〇〇〇〇」への対応							
		その他制約事項等	・実施主体が年度毎に決まるため、運用母体の変更がありうる。 ・年度事業。4月1日～3月31日ではない可能性があり、サービス停止期間が生じる場合がある。 →バックアップ、復元、再構築等マニュアルの整備。ASP利用の場合は停止、利用課金制等を検討する等。							
	運用	運用方法	責任者	・年度毎に入札で決まる。						
アナウンス方法			・開催案内に記載する。							
進捗管理担当／方法／問合せ先			・受託者あるいは、管理運営者 ×××@〇△.jp							
改定実施の有無・頻度		・可能性あり。 －原子力災害時の体制や、新薬、機器等の開発等による改定。3～4年に1回程度か。 －他の研修の追加。								

平成 25 年度

原子力災害時における医療対応に関する研修
委員名簿

「原子力災害時における医療対応に関する研修」
専門家会合
委員名簿

平成 26 年 3 月現在
(敬称略・順不同)

- | | | |
|------|-------|---|
| 委員長 | 山口 芳裕 | 杏林大学医学部救急医学教授 |
| 副委員長 | 浅利 靖 | 北里大学病院救命救急・災害医療センター長 |
| 副委員長 | 森村 尚登 | 横浜市立大学大学院医学系研究科救急医学主任教授 |
| 委員 | 金 吉晴 | 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所成人精神保健研究部長、
災害時こころの情報支援センター長 |
| 〃 | 鈴木 元 | 国際医療福祉大学クリニック院長 |
| 〃 | 立崎 英夫 | 放射線医学総合研究所 REMAT 医療室室長 |
| 〃 | 谷川 攻一 | 広島大学大学院医歯薬保健学研究科救急医学教授 |
| 〃 | 細井 義夫 | 東北大学大学院医学系研究科放射線生物学分野教授 |
| 〃 | 横山 邦彦 | 公立松任石川中央病院副院長、PET センター長 |

教材検討ワーキンググループ
(被ばく医療関係者の連携)
委員名簿

平成 26 年 3 月現在
(敬称略・順不同)

主 査	森村 尚登	横浜市立大学大学院医学系研究科救急医学主任教授
委 員	大西 光雄	大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座救急医療学講師
〃	高山 隼人	国立病院機構長崎医療センター救命救急センター長
〃	長谷川有史	福島県立医科大学医学部救急医療学講座助教
〃	前田 重信	福井県立病院救命救急センター医長

教材検討ワーキンググループ
(スクリーニング・除染、搬送、原子力災害時医療)
委員名簿

平成 26 年 3 月現在
(敬称略・順不同)

- | | | |
|-----|-------|---|
| 主 査 | 浅利 靖 | 北里大学病院救命救急・災害医療センター長 |
| 委 員 | 小林 義美 | ひたちなか・東海広域事務組合消防本部防災指導課長 |
| 〃 | 小淵 岳恒 | 福井大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター
特命講師 |
| 〃 | 高橋 洋子 | 石巻赤十字病院医療社会事業部副部長 |
| 〃 | 西山 隆 | 神戸大学大学院医学研究科外科系講座災害・救急医学分野
特命教授、救急部長 |
| 〃 | 百瀬 琢磨 | 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部次長 |
| 〃 | 山田 顕儀 | 弘前地区消防事務組合弘前消防署西分署予防救急第二係主任 |
| 〃 | 横山 邦彦 | 公立松任石川中央病院副院長、PET センター長 |
| 〃 | 吉田 浩二 | 福島県立医科大学災害医療総合学習センター |
| 〃 | 吉野 篤人 | 浜松医科大学医学部救急災害医学講座教授 |

講師連絡会 I (放射線基礎知識)

委員名簿

平成 26 年 3 月現在
(敬称略・順不同)

委員	浅沼 治	札幌医科大学附属病院放射線部主査
〃	有賀 久哲	岩手医科大学放射線医学講座教授
〃	伊東 康久	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課主査
〃	宇佐 俊郎	長崎大学病院永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター副センター長
〃	占部 逸正	福山大学工学部情報工学科教授
〃	太田 勝正	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻教授
〃	大瀧 憲夫	穂仁会大滝病院院長
〃	大津留 晶	福島県立医科大学放射線健康管理学講座主任教授
〃	大西 光雄	大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座救急医療学講師
〃	岡本 賢一	京都大学原子炉実験所技術室・放射線管理部技術職員
〃	小野 高行	日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター 安全管理課課長
〃	片桐 裕実	日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター
〃	北川 智彦	国立病院機構大阪医療センター放射線科
〃	北野 史浩	福井大学医学部医学科地域医療推進講座助教
〃	熊谷 敦史	福島県立医科大学災害医療総合学習センター副センター長
〃	小池 薫	京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野教授
〃	小西英一郎	国立病院機構災害医療センター中央放射線部主任
〃	小林 道生	石巻赤十字病院救命救急センター副センター長
〃	小林 義美	ひたちなか・東海広域事務組合消防本部防災指導課長
〃	小淵 岳恒	福井大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター 特命講師
〃	近藤 久禎	国立病院機構災害医療センター教育研修室長
〃	定光 大海	国立病院機構大阪医療センター救命救急センター診療部長
〃	佐藤 信宏	新潟市民病院救命救急センター医長
〃	宍戸 文男	福島県立医科大学医学部放射線医学講座教授
〃	嶋津 岳士	大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座救急医療学教授
〃	杉浦 良啓	市立敦賀病院副院長
〃	高田 千恵	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課技術副主幹
〃	高橋 洋子	石巻赤十字病院医療社会事業部副部長
〃	高山 隼人	国立病院機構長崎医療センター救命救急センター長
〃	武田 聡司	国立病院機構災害医療センター中央放射線部主任

- // 武田 浩光 札幌医科大学附属病院放射線部主任技師
- // 竹中 能文 水戸赤十字病院第一外科部長
- // 徳永日呂伸 福井大学医学部救急医学講座助教
- // 中川 貴博 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課主査
- // 中島香菜美 長崎大学病院看護部
- // 西山 隆 神戸大学大学院医学研究科外科系講座災害・救急医学分野
特命教授、救急部長
- // 橋口 尚幸 順天堂大学医学部救急災害医学教授
- // 長谷川有史 福島県立医科大学医学部救急医療学講座助教
- // 原田 潤 国立病院機構災害医療センター中央放射線部
- // 平原 健司 唐津赤十字病院救急科部長
- // 福田 直子 長崎大学原爆後障害医療研究所
アイソトープ診断治療学研究分野技術職員
- // 藤田 正人 日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター安全管理課
- // 古田 昭彦 石巻赤十字病院乳腺外科部長
- // 本多 武夫 国立病院機構長崎医療センター診療放射線部主任診療放射線技師
- // 本間 正人 鳥取大学医学部附属病院救命救急センターセンター長
- // 前田 重信 福井県立病院救命救急センター医長
- // 増井 伸高 札幌東徳洲会病院救急科
- // 又野 秀行 福井県立病院救命救急センター医長
- // 宮谷 理恵 市立八幡浜総合病院看護部救急看護認定看護師
- // 森實 岳史 愛媛県立中央病院救急科部長
- // 百瀬 琢磨 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部次長
- // 矢口 慎也 弘前大学大学院医学研究科救急・災害医学講座助教
- // 山岡 泰治 浜松医科大学医学部地域医療学講座特任教授
- // 山崎 巧 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課
- // 吉田 浩二 福島県立医科大学災害医療総合学習センター
- // 吉田 光明 弘前大学被ばく医療総合研究所放射線生物学部門教授
- // 吉田 るみ 石巻赤十字病院看護師長
- // 吉野 篤人 浜松医科大学医学部救急災害医学講座教授

講師連絡会Ⅱ（スクリーニング・除染、搬送、原子力災害時医療）

委員名簿

平成 26 年 3 月現在
（敬称略・順不同）

委員	浅沼 治	札幌医科大学附属病院放射線部主査
〃	有賀 久哲	岩手医科大学放射線医学講座教授
〃	伊東 康久	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課主査
〃	宇佐 俊郎	長崎大学病院永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター副センター長
〃	占部 逸正	福山大学工学部情報工学科教授
〃	太田 勝正	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻教授
〃	大瀧 憲夫	穂仁会大滝病院院長
〃	大津留 晶	福島県立医科大学放射線健康管理学講座主任教授
〃	大西 光雄	大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座救急医療学講師
〃	岡本 賢一	京都大学原子炉実験所技術室・放射線管理部技術職員
〃	小野 高行	日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター 安全管理課課長
〃	片桐 裕実	日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター
〃	北川 智彦	国立病院機構大阪医療センター放射線科
〃	北野 史浩	福井大学医学部医学科地域医療推進講座助教
〃	熊谷 敦史	福島県立医科大学災害医療総合学習センター副センター長
〃	小池 薫	京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野教授
〃	小西英一郎	国立病院機構災害医療センター中央放射線部主任
〃	小林 道生	石巻赤十字病院救命救急センター副センター長
〃	小林 義美	ひたちなか・東海広域事務組合消防本部防災指導課長
〃	小淵 岳恒	福井大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター 特命講師
〃	近藤 久禎	国立病院機構災害医療センター教育研修室長
〃	定光 大海	国立病院機構大阪医療センター救命救急センター診療部長
〃	佐藤 信宏	新潟市民病院救命救急センター医長
〃	宍戸 文男	福島県立医科大学医学部放射線医学講座教授
〃	嶋津 岳士	大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座救急医療学教授
〃	杉浦 良啓	市立敦賀病院副院長
〃	高田 千恵	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課技術副主幹
〃	高橋 洋子	石巻赤十字病院医療社会事業部副部長
〃	高山 隼人	国立病院機構長崎医療センター救命救急センター長
〃	武田 聡司	国立病院機構災害医療センター中央放射線部主任

- 〃 武田 浩光 札幌医科大学附属病院放射線部主任技師
- 〃 竹中 能文 水戸赤十字病院第一外科部長
- 〃 徳永日呂伸 福井大学医学部救急医学講座助教
- 〃 中川 貴博 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課主査
- 〃 中島香菜美 長崎大学病院看護部
- 〃 西山 隆 神戸大学大学院医学研究科外科系講座災害・救急医学分野
特命教授、救急部長
- 〃 橋口 尚幸 順天堂大学医学部救急災害医学教授
- 〃 長谷川有史 福島県立医科大学医学部救急医療学講座助教
- 〃 原田 潤 国立病院機構災害医療センター中央放射線部
- 〃 平原 健司 唐津赤十字病院救急科部長
- 〃 福田 直子 長崎大学原爆後障害医療研究所
アイソトープ診断治療学研究分野技術職員
- 〃 藤田 正人 日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター安全管理課
- 〃 古田 昭彦 石巻赤十字病院乳腺外科部長
- 〃 本多 武夫 国立病院機構長崎医療センター診療放射線部主任診療放射線技師
- 〃 本間 正人 鳥取大学医学部附属病院救命救急センターセンター長
- 〃 前田 重信 福井県立病院救命救急センター医長
- 〃 増井 伸高 札幌東徳洲会病院救急科
- 〃 又野 秀行 福井県立病院救命救急センター医長
- 〃 宮谷 理恵 市立八幡浜総合病院看護部救急看護認定看護師
- 〃 森實 岳史 愛媛県立中央病院救急科部長
- 〃 百瀬 琢磨 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部次長
- 〃 矢口 慎也 弘前大学大学院医学研究科救急・災害医学講座助教
- 〃 山岡 泰治 浜松医科大学医学部地域医療学講座特任教授
- 〃 山崎 巧 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課
- 〃 吉田 浩二 福島県立医科大学災害医療総合学習センター助手
- 〃 吉田 光明 弘前大学被ばく医療総合研究所放射線生物学部門教授
- 〃 吉田 るみ 石巻赤十字病院看護師長
- 〃 吉野 篤人 浜松医科大学医学部救急災害医学講座教授

講師連絡会Ⅲ（救護所設置・運営）

委員名簿

平成 26 年 3 月現在
(敬称略・順不同)

委員	浅沼 治	札幌医科大学附属病院放射線部主査
〃	荒木 均	茨城県日立保健所長
〃	大瀧 憲夫	穂仁会大滝病院院長
〃	小野 高行	日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター 安全管理課課長
〃	片桐 裕実	日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター上席嘱託
〃	北川 智彦	国立病院機構大阪医療センター放射線科
〃	小西英一郎	国立病院機構災害医療センター中央放射線部主任
〃	小淵 岳恒	福井大学医学部附属病院総合診療部診療講師
〃	佐藤 信宏	新潟市民病院救命救急センター医長
〃	高田 千恵	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課技術副主幹
〃	武田 聡司	国立病院機構災害医療センター中央放射線部主任
〃	武田 浩光	札幌医科大学附属病院放射線部主任技師
〃	中島香菜美	長崎大学病院看護部
〃	原田 潤	国立病院機構災害医療センター中央放射線部
〃	福田 直子	長崎大学原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野技術職員
〃	藤田 正人	日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター安全管理課
〃	本多 武夫	国立病院機構長崎医療センター診療放射線部主任診療放射線技師
〃	増井 伸高	札幌東徳洲会病院救急科
〃	又野 秀行	福井県立病院救命救急センター医長
〃	宮谷 理恵	市立八幡浜総合病院看護部救急看護認定看護師
〃	百瀬 琢磨	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部次長
〃	山下 雅広	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部放射線管理第 2 課主査
〃	吉田 浩二	福島県立医科大学災害医療総合学習センター助手

講師連絡会（合同）

委員名簿

平成26年3月現在
(敬称略・順不同)

委員	浅沼 治	札幌医科大学附属病院放射線部主査
〃	荒木 均	茨城県日立保健所長
〃	有賀 久哲	岩手医科大学放射線医学講座教授
〃	伊東 康久	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課主査
〃	宇佐 俊郎	長崎大学病院永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター副センター長
〃	占部 逸正	福山大学工学部情報工学科教授
〃	太田 勝正	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻教授
〃	大瀧 憲夫	穂仁会大滝病院院長
〃	大津留 晶	福島県立医科大学放射線健康管理学講座主任教授
〃	大西 光雄	大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座救急医療学講師
〃	岡本 賢一	京都大学原子炉実験所技術室・放射線管理部技術職員
〃	小野 高行	日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター 安全管理課課長
〃	片桐 裕実	日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター
〃	北川 智彦	国立病院機構大阪医療センター放射線科
〃	北野 史浩	福井大学医学部医学科地域医療推進講座助教
〃	熊谷 敦史	福島県立医科大学災害医療総合学習センター副センター長
〃	小池 薫	京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野教授
〃	小西英一郎	国立病院機構災害医療センター中央放射線部主任
〃	小林 道生	石巻赤十字病院救命救急センター副センター長
〃	小林 義美	ひたちなか・東海広域事務組合消防本部防災指導課長
〃	小淵 岳恒	福井大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター 特命講師
〃	近藤 久禎	国立病院機構災害医療センター教育研修室長
〃	定光 大海	国立病院機構大阪医療センター救命救急センター診療部長
〃	佐藤 信宏	新潟市民病院救命救急センター医長
〃	宍戸 文男	福島県立医科大学医学部放射線医学講座教授
〃	嶋津 岳士	大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座救急医療学教授
〃	杉浦 良啓	市立敦賀病院副院長
〃	高田 千恵	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課技術副主幹
〃	高橋 洋子	石巻赤十字病院医療社会事業部副部長

- // 高山 隼人 国立病院機構長崎医療センター救命救急センター長
- // 武田 聡司 国立病院機構災害医療センター中央放射線部主任
- // 武田 浩光 札幌医科大学附属病院放射線部主任技師
- // 竹中 能文 水戸赤十字病院第一外科部長
- // 徳永日呂伸 福井大学医学部救急医学講座助教
- // 中川 貴博 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課主査
- // 中島香菜美 長崎大学病院看護部
- // 西山 隆 神戸大学大学院医学研究科外科系講座災害・救急医学分野
特命教授、救急部長
- // 橋口 尚幸 順天堂大学医学部救急災害医学教授
- // 長谷川有史 福島県立医科大学医学部救急医療学講座助教
- // 原田 潤 国立病院機構災害医療センター中央放射線部
- // 平原 健司 唐津赤十字病院救急科部長
- // 福田 直子 長崎大学原爆後障害医療研究所
アイソトープ診断治療学研究分野技術職員
- // 藤田 正人 日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター安全管理課
- // 古田 昭彦 石巻赤十字病院乳腺外科部長
- // 本多 武夫 国立病院機構長崎医療センター診療放射線部主任診療放射線技師
- // 本間 正人 鳥取大学医学部附属病院救命救急センターセンター長
- // 前田 重信 福井県立病院救命救急センター医長
- // 増井 伸高 札幌東徳洲会病院救急科
- // 又野 秀行 福井県立病院救命救急センター医長
- // 宮谷 理恵 市立八幡浜総合病院看護部救急看護認定看護師
- // 森實 岳史 愛媛県立中央病院救急科部長
- // 百瀬 琢麿 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部次長
- // 矢口 慎也 弘前大学大学院医学研究科救急・災害医学講座助教
- // 山岡 泰治 浜松医科大学医学部地域医療学講座特任教授
- // 山崎 巧 日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課
- // 吉田 浩二 福島県立医科大学災害医療総合学習センター助手
- // 吉田 光明 弘前大学被ばく医療総合研究所放射線生物学部門教授
- // 吉田 るみ 石巻赤十字病院看護師長
- // 吉野 篤人 浜松医科大学医学部救急災害医学講座教授

「原子力災害時における医療対応に関する研修」
ホールボディカウンタ調査検討会
委員名簿

平成 26 年 3 月現在
(敬称略・五十音順)

委員長	占部 逸正	福山大学工学部情報工学科教授
委員	高田 千恵	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部線量計測課技術副主幹
〃	細井 義夫	東北大学大学院医学系研究科放射線生物学分野教授
〃	百瀬 琢磨	日本原子力研究開発機構東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所放射線管理部次長

